

徳島の剣道

特集

1. 全国郵政武道大会
2. 高齢者武道大会優勝
3. お通杯優勝

第28号



徳島県剣道連盟

思い出の一枚



恩師・（故）堀江幸夫先生と私（坂下）の日本剣道形

旧 徳島武道館にて

巻頭言

「絆」を大切に

徳島県剣道連盟 会長 坂下彦之



本県剣道連盟は、昭和二十四年初代会長尾形郷一先生のご労力により設立され年を重ねて六十三年という還暦も過ぎたわけです。その間、先輩先生方並びに剣友各位の弛まぬご精進ご協力によるものであり心より感謝の意を表すものであります。

折しも昨年は、東日本大震災、紀伊半島台風と真に天災の年でありました。自然力の恐ろしさと化学（原子力）の恐ろしさを思い知らされた年でもありました。犠牲になられた方々のご冥福を心からお祈りすると共に被災地の速やかな復旧、復興を願っております。

昨年の代表する文字は、「絆」でありました。「絆」とは、糸と半と書いて絆と言ひ、糸をお互い半分の力で引き合う事で、一方が全力で引くと糸は切れてしまいます。バランスを考へる事が大切でお互いを気遣う感情が大切である。また「きづな」は、「継」とも書くそうです。「世」とは、辞書で世を人の生きていく年月、

人間が生きていく中での様々なる、苦難、悲しみ、喜び、希望を言うのであります。今年も、「絆」の漢字が意味する事を大切にしていききたいと思っております。

後になりましたが、会員各位の益々のご活動と、ご健康を祈念申し上げます。

『徳島の剣道 第二十八号』 目次

巻頭言…………… 坂下 彦之…………… 1

《特集Ⅰ 全国郵政武道大会》

全国郵政武道大会徳島うずしお大会回顧録…………… 原嶋 茂樹…………… 4
 第五十三回全国郵政武道大会徳島渦潮大会…………… 久保 隆司…………… 8
 第五十三回全国郵政剣道大会に出場して…………… 切中 克樹…………… 10
 第五十三回全国郵政武道大会に参加して…………… 山室 文江…………… 11

《特集Ⅱ 高齢者武道大会優勝》

第三十三回全日本高齢者武道大会

個人戦剣道B組に出場して…………… 美馬 勝行…………… 12

美馬勝行先生の優勝に思う…………… 高島 稔之…………… 14

快挙に万感を込めて拍手…………… 三木 毅…………… 16

《特集Ⅲ お通杯優勝》

第十回宮本武蔵顕彰女子剣道大会

(お通杯)で優勝して…………… 竹内佳代子…………… 18

おめでとうございます…………… 山下 純子…………… 20

佳代子さん、お通杯優勝おめでとう!!…………… 下坂 美和…………… 21

顕彰一覧

剣道有功賞…………… 松村 克隆…………… 24

少年剣道教育奨励賞…………… 米田 利彦…………… 27

平成二十三年度『少年剣道教育奨励賞』を受賞して…………… 柳谷 照男…………… 29

少年剣道教育奨励賞を受賞して…………… 磯部 洋一…………… 31

体育功労賞…………… 磯部 洋一…………… 31

平成二十三年度徳島県中学校剣道優秀選手…………… 磯部 洋一…………… 31

平成二十三年度徳島県高等学校剣道優秀選手…………… 磯部 洋一…………… 31

平成二十三年度徳島県高等学校剣道優秀選手…………… 磯部 洋一…………… 31

先生を偲ぶ

岡島茂雄先生の思い出…………… 森本 年彦…………… 35

全国講習会報告

第一回全国剣道指導者研修会…………… 白木 洋一…………… 38

剣道中央講習会…………… 佐賀 博史…………… 44

第三十八回居合道中央講習会…………… 岸田 光博…………… 48

第四十九回剣道中堅剣士講習会…………… 前田 秀一…………… 50

徳島県剣道連盟秋季講習会…………… 手塚十三子…………… 54

日本剣道形(初心者)講習会の報告…………… 兵頭 新平…………… 58

第十四回全剣連社会体育指導員…………… 久保 隆司…………… 59

徳島の剣道史

阿波刀の歴史(古刀編)…………… 坂本 憲一…………… 61

大会所感

第五十回全日本女子剣道選手権大会の…………… 竹内佳代子…………… 77

審判をさせていた…………… 一村 昌和…………… 78

八幡神社奉納剣道大会…………… 河田 清実…………… 81

各種大会に参加して…………… 河田 清実…………… 81

第九回全日本選抜剣道八段優勝大会に…………… 河田 清実…………… 81

第三十九回全日本都道府県対抗…………… 久保 公緒…………… 84

剣道優勝大会に参加して…………… 久保 公緒…………… 84

第三回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会…………… 福多 雅英…………… 85

管内矯正職員武道大会…………… 高橋 伊織…………… 88

インタハイに出場して…………… 小西 美穂…………… 93

インタハイに出場して…………… 工藤 麻美…………… 91

第三十一回全国中学校剣道大会に参加して…………… 小西 美穂…………… 93

全三中学校剣道大会に出場して…………… 小西 美穂…………… 93

第五十三回全国教職員剣道大会に参加して…………… 西山 伸二…………… 96

徳島大学中学校…………… 川原 眞実…………… 95

徳島大学中学校…………… 川原 眞実…………… 95

あと十秒……………	湯城	豊勝	98
第六回全日本都道府県対抗 少年剣道優勝大会に参加して……………	生田	浩章	99
全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に出場して……………	谷本	晃佑	101
第五十回全日本女子剣道選手権大会に出場して……………	湊	友里	102
第五十七回全日本東西対抗 剣道大会で優秀選手に選ばれて……………	河田	清実	104
全日本東西対抗剣道大会に出場して……………	山室	雅幹	106
国民体育大会山口大会に出場して……………	福川	敬太	108
全日本居合道大会に参加して……………	水野	大	109
全日本剣道選手権大会に出場して……………	近藤	正章	111
第五十四回全日本実業団大会結果報告……………	中尾	幸雄	112
第十五回全日本実業団女子 高壮年剣道大会結果報告……………	中尾	幸雄	114
四国管区警察剣道大会……………	平野	誠司	119
平成二十三年度徳島県高齢剣友会活動状況……………	笠井	勝	121
高知生涯剣友交流会に参加して……………	兵頭	新平	125
ねんりんびっく熊本大会に参加して……………	三木	毅	126
随 想 徳島での思いで……………	高田	亮	129
師を語る、父を語る……………	米倉	滋	131
齢六五にして思うこと……………	出葉	成一	134
朝 稽 古……………	中尾	正輝	136
私の剣道人生を振り返って……………	湯浅	豊勝	137
現在の私があるのは……………	加藤	哲裕	140
称号・段位合格者 剣道七段審査に合格して……………	山室	雅幹	142
剣道七段に合格して……………	二反田	和則	143
剣道七段に昇段して思うこと……………	富田	圭介	144
七段に合格して……………	山本	泰史	146

剣道七段に合格して……………	平野	悦子	147
剣道六段に合格して……………	岩木	淳子	149
感 謝……………	拙友	敏明	151
私の南国パラダイス六段昇段物語……………	中尾	幸雄	152
剣道六段に合格して……………	近藤	正章	155
剣道六段に合格して……………	金野	卓司	156
剣道六段に昇段して……………	井村	行宏	157
剣道六段に昇段して……………	堀川	修	158
「錬士」としての決意……………	谷本	晃成	160
がんばろう徳島 部活だより……………	中尾	幸雄	161
日亜化学工業剣道部……………	中尾	幸雄	161
支部だより……………	中尾	幸雄	161
警察支部……………	乾	清孝	164
称号・段位合格者一覧……………	乾	清孝	166
平成二十三年度 大会記録……………	乾	清孝	166
平成二十三年度 大会記録……………	乾	清孝	166
徳島新聞に見る戦いの跡……………	乾	清孝	166
平成二十四年度 昇段審査学科試験問題・解答例……………	乾	清孝	195
平成二十四年度 徳島県剣道連盟行事予定表……………	乾	清孝	225
平成二十四年度 審査実施計画表……………	乾	清孝	233
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等……………	乾	清孝	235
居合道 道場案内……………	乾	清孝	236
編集後記……………	乾	清孝	237

特集Ⅰ 全国郵政武道大会

全国郵政武道大会 徳島うずしお大会回顧録

日本郵政本社剣道部 原 嶋 茂 樹



一、はじめに（御礼）

このたび、全国郵政武道大会（剣道の部）を徳島市で開催するにあたり、多くの徳島県剣道連盟の先生方、ご父母の皆様にご協力、ご支援いただきましたことを御礼申し上げます。

二、大会の沿革

私たちが開催している全国郵政武道大会について、概要を述べます。昭和三十四年、当時通信省（東京）、郵便局に勤務する剣道愛好職員が発起し、仙台市にて開催されました。

郵政の組織は十一か所の郵政局（四国では四国郵政局）に分かれており、その郵政局所在地にて持ち廻り開催が開始されました。仙台、長野、名古屋、広島、松山、熊本、京都（近畿だけは違

ますが）、東京、千葉、本社、札幌と順次、開催をしています。

全国郵政武道大会は柔道、剣道、弓道と三道一緒に開催を行っています。三道合わせて約一、〇〇〇人が集う大会で、白い柔道着を先頭に郵政局ごとに入場行進する大会を続けてきました。そのため、開催地事務局の事務負担は相当なものでした。

また、大会会長は郵政事務次官にお願いし、郵政大臣に大会への参加をお願いしてきたため、大臣がレセプション、開会式参加となった際には、各郵政局の局長等幹部も交えて大掛かりになり、郵政局人事部のご協力なしではできなく、ある意味格調高い大会として、私たちは自負していました。

また、当時からサークル活動ですので、全て負担は個人持ち、共済組合から少し助成金がありますが、交通費、宿泊費は自己負担です。しかし、毎年、この大会を楽しみにして参加する郵政関係社員が集う大会で、郵政のサークルの中でも最も伝統のある大会として開催を続けております。

今年の参加者は剣道だけで〇Bを含め、一三〇名程度でしたが、最盛期には剣道だけで二五〇人の選手が参加し、職域内の全国の頂点を競い合う大会が繰り広げられていました。

三、徳島大会への誘致、企画

四国もこれまでの歴史の中で、三回ほど郵政大臣を東京からお迎えしての大会を松山市で開催してきました。四国管内の職員徳島では青木、久保、藤田（敬称略）も参加していました。

しかしながら、四国の地理的な事情、剣道人口、郵政職員数もあり、四国郵政武道会を形成する人数としては東京、関東等と比べ、決して多いと言えるものではありません。

他の地域での参加も四国郵政としてチームを作れないときもあり、藤田、青木さんへ参加しようと声をかけて、平成十三年（阿南局勤務時代）には北海道大会へ私も四国郵政チームとして参加しました。さて、昨年、平成二十二年は名古屋での開催、次は「四国」という番になっており、そのあたりは徳島転勤前からわかっていたことでした。松山市に転動していた時期に、ぼっちゃんスタジアムに愛媛県立武道館が建築中なのを見て、ここで開催したいが、経費は相当、負担があるなとも思っていました。そんな中、二回目の転勤先が徳島市となり、鳴門の武道館や徳島市立体育館の存在を改めて認識し、「徳島の先生方と交友もあるし徳島で全国郵政武道大会を開催できたらいいな」と秘かに思い始めました。また、何とか体育館と審判の先生を確保できれば、後は何とかという思いがあり、久保さんに「来年は四国が主催地だけど、どうするか？私も来年の人事でどうなるかわからないけど、四国の中で一番、私も動きやすいのは徳島だし、徳島の剣道の先生方に審判をお願いし易い環境だけど？」「民営化後、ますます、剣道関係者で事務方をしていかなければならず、松山の四国支社等の協力はないけど、郵政大臣等、東京からのお偉いさんは参加しないので、また、近年、剣道競技だけでの開催だから、その当りの負担はなくなっている」ことを話しました。

久保さん自身も迷うと正直感じていました。が、四国管内で郵政社員の中で一番剣道にかかわっているのは彼なので、彼が開催誘致に気持ちが動かない限り、「本社剣道部」で開催を引き受け、東京・国立（郵政研修所）での開催をすることになりました。

久保さんを始め、四国郵政武道会メンバーが「徳島大会開催」決断を決定付けていただいたのが、米倉先生、松村先生からのお話でした。以前、全国郵政武道大会が四国で行う順番が来ていること等、先生方にお話しをしたことがあり、支援できる日程を十月九日（日）、徳島市立体育館も全国大会優先で考えてくれることとお話いただきました。また、日程を決めて、早めにホテル予約したほうがよいというアドバイスがあり、平成二十二年九月、大会一年以上前に、ホテル徳島グランドパレスを仮予約（これが幸い、数日後には別の団体から予約の問い合わせがあったことを後で聞きました）。

次回開催が①徳島であること、②体育館が駅近く、③宿泊場所が体育館までは歩いて二分。このような開催立地条件は全国大会の歴史の中ではなく、ましてや、この三つの開催連絡情報を平成二十二年の名古屋大会の代表者会議で全国の代表者の前で「誇らしげに」発表することが、米倉先生、松村先生のおかげでできたことでした。

四、大会準備

名古屋で次回開催宣言をし、お昼休みを利用し（仕事かが正し

い表現かも) 職場のパソコンで「大会準備品一覧等のたたき台」を作成。第一回目の立ち上げを兼ねた打ち合わせを紺屋町で、久保、青木、藤田氏と私、四人で開催。たたき台の資料を片手に「飲み会がメイン」の立ち上げ式となりました。

スタッフ陣が手薄と思ひ、我が職場の優秀な社員二名をお食事 に誘ひ、大会事務局に引き込み、会計と開会式のアナウンス役を お願ひしました。彼女達も当初は大した事務ではないと思ひ違ひ、 了解をもらいましたが、蓋を開けて両名びっくり。ですが、相当 の頑張りをしていただきました。平成二十三年三月十一日、東北 地方を襲った大震災。今年の大会開催の中止等、全国の動きを視 野に入れての準備ともなりました。

同三月二十二日、私に人事異動の内命。予想していた人事とは 違ひ、東京へ戻るはめになってしまいました。徳島へ転勤し二年 のため、異動は覚悟していたのですが、震災もあり、人事凍結か、 もしくは名古屋あたりを想定し、徳島大会準備への支援が可能と 考えていましたが、さすが、東京の地ですと、準備会合には簡単 に参加できない環境になりました。これで、徳島県剣友、三名の 双肩に大会成功に向けた準備がかかっていきました。情報伝達方 法にインターネットが加わり、私も随分と久保、青木さんと自宅、 職場へのメールをし、情報交換を行ったり、遠方から支援に徹し ました。

五、大会前日・当日

いろいろな準備段階での懸案事項はありましたが、大会来賓と して遠藤一美先生、坂下彦之先生、三木毅先生、河田清実先生、 近藤巨先生をお迎えし、審判長に米倉滋先生がお願いでき、徳島 県剣道連盟の審判員の先生が見守る中、開会式から試合、閉会へ の大会運営を進んでいきました。パンフレットはできたものの、 体育館壁に掲示する組み合わせ表(大型拡大版)を調達したにも かかわらず、印刷業者から納入がなく、気付いたのは当日、個人 戦開始時。そのような準備ミスもありましたが、この徳島大会は 五十三回の歴史の中で、称賛される大会となりました。

①弱小(構成人員の少ない)の郵政武道会が開催に名乗りを上げ、 開催できたこと。

②徳島県剣道連盟の来賓の先生が開会式から閉会式までお帰りに なることもなく、壇上より選手へ声援をいただいた事。(これ までは開会式参加でお帰りになる先生がほとんど)

③審判長を始め、徳島県下の八段の先生四名全員が大会にご参加 していただいたこと。

④審判の先生の審判技術、姿勢態度がすばらしく、判定が適格で あったこと。

⑤弱小郵政の四国チームA・Bが団体戦の決勝を争ったこと。大 会事務局をして両チームが決勝進出は大会史上ありません。

私は本社勤務となって以来、七段までは本社チームとしての大

会参加、また、四国転勤時は四国チームとして参加してきたので、全国の郵政の実力、四国郵政の実力を知っておりますが、私が誘致できた徳島大会で、四国チームが団体優勝旗を取ることができ、小躍りする気分で、徳島の皆様へ感謝、感謝一杯で、平成二十三年、忘れられない年となりました。

六、おわりに

冒頭、記載させていただいたとおり、徳島の皆様のご協力なしにはできない大会で、久保大会委員長をはじめとして四国郵政剣道部の頑張りがありました。

郵政は分社化され、民営化されましたが、過去の歴史を通じ、国民のためのサービスを行っていく姿勢は不変です。そのような職場で勤務している社員の活動として大会が開催されていることを徳島の皆様にご披露できたのは大会主催事務局としては一つの成果でありました。改めまして感謝申し上げます。



第五十三回全国郵政武道大会 徳島渦潮大会

四国郵政武道会 久保隆司

平成二十三年十月九日、徳島市立体育館において第五十三回全国郵政武道大会が開催でき、盛会の内に無事終了出来ました。これも徳島剣道連盟の皆様のおかげであります。誠にありがとうございました。

中でも審判長の労をお執り頂きました、米倉滋先生（教士八段）におかれましては一年前から準備ならびに、ご相談にのって頂き、さらに、前日の会場設営、代表者会議、当日閉会式まで、大変お世話になりました。

また、審判の先生方、徳島大学医学部剣道部、城北高校剣道部、徳島清風館道場有志、JP社員、四国郵政武道会会員の皆様、暖かいご支援・ご協力を頂き、誠にありがとうございました。

歴史ある本大会が、JPグループ本社（旧日本郵政公社）と十二支社（地方郵政局）の所在地で毎年開催されていましたが、初めてしかも四国支社松山市から二〇〇キロメートルも離れた徳島市で開催されることとなりました。

全国の郵政武道会の中でも、会員数も少なく地理的にも不便な四国の現状であるにもかかわらず、前徳島貯金事務センター所長原嶋茂樹教士八段の熱い思いとリーダーシップのもと、徳島県剣道連盟の執行部役員はじめ剣友の皆様の御陰をもちまして、大

第53回全国郵政武道大会



きな事故やミスもなく大会は来年の九州支社に、バトンを渡す事が出来ました。

そして四国郵政チームA・B・C三チームが出場いたしました。A・Bチームが決勝戦を戦うこととなり、初の全国優勝、準優勝を受賞することが出来ました。

今回関わった皆様に感謝を申し上げます。誠にありがとうございます。J Pグループ各社は約五年前民営化されましたが、これからも地域に密着したより良いサービスができるように、努力いたしますのでこれからもご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

合掌

第53回全国郵政武道大会記録

団体戦 優勝＝四国A（井口、瀧山、喜安、切中、浦田）
2位＝四国B（松岡、山室、繁宗、河野、久保）
3位＝関東A（千葉、中村、佐藤、浦本(熱)、浦本(大)）
3位＝九州A（外池、柳井、下田、中田、小木戸）

個人戦 優勝＝下田 耕輝（九州・郵便事業(株)）
(一部・四段以上) 2位＝藤田 智広（中国・郵便事業(株)）
3位＝菅谷 滋（中国・郵便局(株)）
3位＝小林 卓也（東京・郵便事業(株)）

個人戦 優勝＝浦田 悠哉（四国・郵便事業(株)）
(二部・三段以下) 2位＝浦本 熱志（関東・(株)ゆうちょ銀行）
3位＝荒井慎一郎（東京・郵便事業(株)）
3位＝木山 陽介（東海・郵便局(株)）

個人戦（女子） 優勝＝門原 久美（中国・郵便事業(株)）
2位＝山室 文江（四国・OB）
3位＝野口 郁子（東京・郵便局(株)）
3位＝松岡 美希（四国・郵便局(株)）

個人戦 優勝＝高橋 守（信越）
(OB・大坂栄一杯) 2位＝千田 重光（北海道）
3位＝平 勝典（本社）
3位＝小出 敏郎（本社）

第五十三回郵政剣道大会に出場して

切 中 克 樹

平成二十三年十月九日、徳島市立体育館にて開催された全国郵政剣道大会に出場させて頂きました。当日は爽やかな秋晴れのもと、日本郵政グループ社員、OBの選手が全国から集まり盛大に開催されました。

現在、日本郵政グループは郵便局(株)、郵便事業(株)、(株)ゆうちょ銀行、かんぽ生命(株)と分社化されておりますが、全国を十二ブロックでわけ、会社の壁を越えてチーム編成が行われました。私達は地元開催ということもあり何カ月も前から準備に忙しい日々が続き、四国チームでの全体の稽古も行う事が出来ず、とても心配な状態で試合に臨むことになりました。

しかし団体戦においては予想に反し、四国チームは順調に勝ち進み、決勝戦では四国Aチームと四国Bチームが決勝戦で対戦できるといふ素晴らしい結果となりました。私が出場させて頂いた四国Aチームは、高校、大学時代と全国大会にも出場された方々と同じチームで戦え、優勝する事が出来ました。

個人戦においても、四国チームから優秀な成績をおさめられた選手もおり、大会を通じて四国チームの活躍がとても際立つ大会となり、大成功のうちに幕を閉じました。

この大会をきっかけに、再度四国郵政の結束が強くなり、現在

では稽古会や四国大会の開催など色々と予定されるようになり、一段と盛りあがりを見せて参りました。来年は、九州熊本での開催ということで、連覇を目指して頑張りたいと思います。

最後のこの大会を開催するのにあたり郵政グループ社員、OBの方々にたくさんお手伝いを頂いた事を感謝すると共に、徳島県剣道連盟の先生方には多大なご尽力を賜り誠にありがとうございます。この誌面をおかりして御礼申し上げます。



第五十三回全国郵政武道大会に参加して

山 室 文 江

平成二十三年十月九日、徳島市立体育館で、第五十三回全国郵政武道大会が開催された。

この大会に参加するのは、何年ぶりだろう。すでに思い出すこともできず、私なんかが出場しているのか…と思いつながら会場に向かった。

会場に入ると、なつかしい面々に再会し歓喜で一気に不安が吹き飛んだ。十五年近く会っていないはずだが、顔を見ればあの頃と同じように話が弾んだ。しかし、みんな年をとったものだ。お互い様ではあるが。

さて、試合は、各郵政局毎に分かれてチーム編成をし、私は四国郵政Bチームで出場した。試合は、とりあえず楽しんでやろう！と決めていたので、力まずに臨めた。

団体戦は、昔からのメンバーに、元気な若手女性社員を先鋒に加え、勢いの良いスタートをきった。後に続く良い試合をしてきてくれるので、私は、とにかく楽しく試合ができた。全員がそれぞれの役割を果たしながら、いつのまにか決勝まで進んだ。

決勝は、対、四国郵政Aチーム。初の四国郵政対決である。というより、四国郵政チームは、初の決勝進出なのだ。地元開催での決勝対決。もり上がらないはずがない。結果はAチームの優勝

に終わり、私達は敗退したが、楽しく試合ができたことが本当にうれしかった。個人戦も決勝まで進んだが、上段の相手に手も足も出ず、敗退。来年に向けての大きな課題ができた。

本大会は、職務を同じくする者同士が参加する大会であり、よく似た環境の下、剣道が好きな者達が集まり、修練している。仕事に関しても、情報交換の場となり、お互い刺激になっているのだ。

そんな中、剣道を通じて、同士たちが共に楽しさを感じ、そこからさらに上を目指して道ができていく。今大会に参加したことにより、さらに自分の世界が広がり、新しい道を作ることができた。来年の熊本大会に向けて、すでに目標もでき道もできた。

「継続は力なり」を座右の銘に、今後も精進あるのみである。今後ともご指導ご鞭撻、よろしくお願ひ致します。



特集Ⅱ 高齢者武道大会優勝

第三十三回全日本高齢者武道大会 個人戦剣道B組に出場して

美馬 勝行

山川の瀬々を流るゝ栃がらも

身を捨てゝこそ浮ぶ瀬もあれ

平成二十三年六月六日、日本武道館において開催された全日本高齢者武道大会、剣道個人戦B組の試合に初めて参加しました。

「剣道の神様」っているんですよ!!

予想もしなかった「優勝」という褒美を授かりましたので、その試合結果について、独り言をいってみたいと思います。

この大会での個人戦は

○ 寿A組（八五歳以上）

出場者 二三名

○ 寿B組（八〇歳〜八四歳）

出場者 四六名

○ 特組（七五歳〜七九歳）

出場者 六三名

○ A組（七〇歳〜七四歳）

出場者 九四名

○ B組（六五歳〜六九歳）

出場者 一二九名

○ C組（五五歳〜六四歳）

出場者 九六名

以上、六組の総勢四五一名の参加でした。

徳島県からは、優勝経験があり今回も寿Aで三位入賞されました、遠藤一美先生以下九名が参加しました。

個人戦の試合方法は、各組とも四名によるリンク方式の予選リーグを経て決勝トーナメントへと進むのですが、試合前に出場経験のある先生から

「予選リーグはリンク方式だから、二本勝ちしない、あかんでよーとアドバイスがありました。

リンク方式は、試合数を少なくする方式であり、四人の選手で三





試合するところ二試合して勝敗を決めるもので、勝数はもちろんのこと特に取得本数が予選通過を左右し、一本勝があれば予選落ちになりかねないと教えてくれまして「あかんでよ」の意味がわかりました。

しかし、短い三分の試合時間で二本勝ちで二勝は非常に厳しい条件であり、到底無理だと半ば諦めムードになりました。かと言って「今更次郎」。逃げて帰る訳にはいかず「開き直る以外に道はない」と「無欲の捨て身」で試合に臨みました。

この捨身の構えが「吉」と出て、最初の避の予選リーグをどうにか突破することが出来たのです。もし、試合前の「あかんでよ」のアドバイスがなかったなら、おそらく今回の結果はなかったであろう。

その後の決勝トーナメントリーグは、

決勝戦まで通じて五戦、この戦は、一予

選さえ通過すれば一

「決勝トーナメント

リーグで一回勝てば、

二つ勝ったらまあな

んとか東京まで来た

言い逃れは出きるだ

ろう」と、勝ちを意

識せず気楽に試合に臨みました。小手を得意とする私に「メン」が多く決まったのもその結果だと思えます。

しかし、予選を通じて七戦は、剣道人生で初めての体験で正直なところ限界ギリギリでしたが、試合後は年甲斐もなく「嬉しさ」の余り疲れが吹き飛んだのも事実でした。

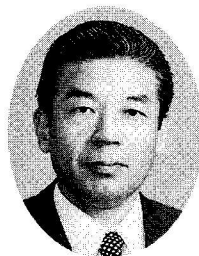
以上で独り言を終わりますが、こんなうまい話は二度とない。次回の大会には、怪我でもしないかぎり逃避することはできないだろうし、予選落ちの臭いがブンブンする、これが本来の姿だろう。

最後に、試合に臨みアドバイスや、付きっきりの応援を頂いた先生方、また、日頃から稽古をいただいた先生方に心からのお礼と感謝を申し上げます。ありがとうございました。



美馬勝行先生の優勝に思う

徳島県剣道連盟審議員
徳島県高齢剣友会理事 高 島 稔 之



本県高齢剣友会の美馬勝行先生が、平成二十三年六月六日、日本武道館で開催された第三十三回全日本高齢者武道大会（剣道参加者四五一名）において、剣道個人戦B組（六十五歳〜六十九歳、一二九名参加）の部で優勝されました。その快挙に盛大な拍手を贈り、心よりお喜びを申し上げる次第です。

この大会は、大勢の参加者が、少なくとも二回以上の試合ができるように、個人戦の予選は、原則四人一組のリンク方式の予選リーグを行い、その勝者が決勝トーナメントに進むというやり方で試合が進められています。四人一組の内の二人と対戦する方法のために、各選手にとって自分が対戦しない相手が一人生じるようになります。従って、自分が二人に勝っていても、一本勝ちなどが含まれていて、自分が対戦しない相手が他の二人に全て二本勝ちしていると、その人が決勝トーナメントに進むことになりません。私も、これまでに、そのような苦い経験をしたことがあり、予選リーグを突破することの大切さを、今回初出場の美馬先生に話しました。また、決勝戦は別として、決勝トーナメントに入ってから、試合時間が3分と短いために、これまでに判定で負け

たことがあることなども伝えました。泊先生と私は、自分たちが他の選手に敗退した後、美馬先生の試合に付き添って応援をさせていただきました。そして、私は、どの試合においてもそうですが、特に、この大会においては、これまで述べたような試合ルール上の特性を十分わきまえての試合運びをすることの大切さと、限られた時間の中で、鋭く有効打を決めることのできる技術力の必要性を改めて感じました。

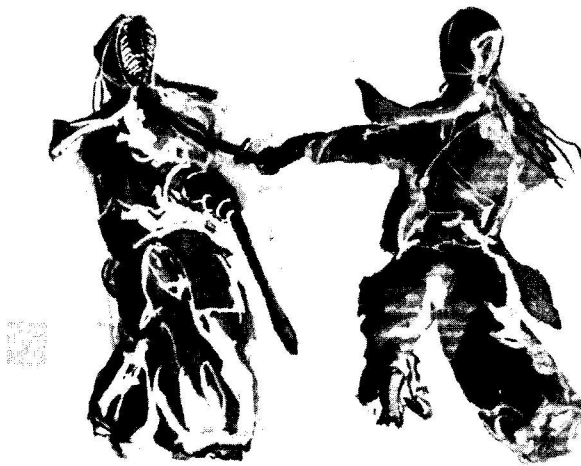
第三十一回大会で、遠藤会長が優勝された時の既得本数の九割以上が小手でした。また、今回優勝された美馬先生の既得本数は、小手七本、面五本でした。

遠藤先生ほど、ご自分の「稽古の剣風」を、「試合の剣風」に直結できる方も少ないのではないかと考えています。素早く「自分の間合い」に持ち込み、上手く「打突のタイミング」を捕らえ、「手数を駆使」して繰り出す技は、決して八十六歳とは思えません。

美馬先生の場合は、相手を攻めて、その起こりを捕らえる鋭い小手、相手がその小手を警戒する機会を捕らえての面、いずれにしても、その根底には、あの鋭い小手があつての今回の優勝であつたと痛感致しました。

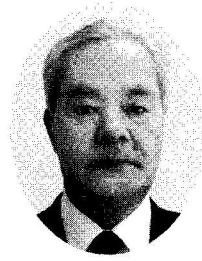
お二人の先生ともに、小手という強力な得意技をもたれていますが。しかし、間合いの詰め方、打ち方及びそのタイミングは大きく異なります。技の個性、技に対する創意工夫の大切さ及び剣道の奥深さを感じさせられました。

私は、本県高齢剣友会で、現在ご活躍中の先生方の実績（遠藤一美会長のこれまでの通算成績は、優勝四回・準優勝二回・第三位三回、有賀秀敏先生はA組で第三位一回、東徳美先生はC組で準優勝一回、そして今回の美馬先生の優勝など）から、本県剣友会のレベルの高さと、その組織の素晴らしさを大変誇らしく思っています。生涯剣道を目指す者の一人として、自分の剣風を基盤にしながら、いろんな先生方の剣道に取り組む姿勢と、その素晴らしい技を参考に、今後の自分を高めて行きたいと思っています。



快拳に万感を込めて拍手

副会長 三木 毅



第三十三回「全日本高齢者武道大会」
が平成二十三年六月六日、日本武道館で
開催された。

美馬勝行先生が個人戦で全国優勝とい
う快拳をなしとげた。この大会は都道府

県別の団体試合と個人試合がおこなわれ、武道の試合種別は「剣
道」「銃剣道」「なぎなた」の三種目で三道の選手総計は約八〇〇
名であるが、選手層は剣道選手が大半を占め、誠に盛大な大会で
ある。

個人戦は男女混成で年齢別に編成されている。美馬先生は六十五
歳から六十九歳区分に位置され、「剣道B組」と称され、選手層
の一番大勢のグループとなり選手数は一二九名であった。試合形
式は先ず四人がグループとなりリーグ戦形式をとるため、内二名
と対戦し、勝ち上がった者が決勝トーナメント試合に進出するの
である。この勝ち上がりの条件は、対戦相手二名にそれぞれ「二
本勝ち」をしなければトーナメント進出は難しくなるという誠に
厳しいものである。その上トーナメント戦は五試合を制しなければ
頂点に立てないということである。

集う選手は、若き時から剣道修練を重ねられた文字どおり猛者

ばかりである。本大会は三十三回を迎え本県の先輩諸先生は、当
初大会から試合に挑んできたものと思われるが、この年代グルー
プでの全国優勝は県史上初めてでないかと思われる。小生もここ
数回出場して対戦したが、他県選手の勝敗にかける熱い気持ちは
「勝つことへの貪欲さ」を体験したことが脳裏に焼き付いており、
それはそれは強い精神力をもたなければ勝ち得ないと感じている。
美馬先生が猛者集団の頂点に立ったことは、「単なる強い精神
力」というものでないことを、多くの剣士に範を示したというこ
となのである。顧みると美馬先生は若きころ、徳島県警の剣道特
練生として徳島県警察の剣道の顔として活躍され、全日本選手権
大会に出場し、徳島県剣道界の顔として、さらには、平成五年十
月、東四国第四十八回国体では副将に位置してこれまた徳島県剣
道界の顔として活躍された経歴があり、剣道への執念、勝負への
執念を燃やされたという実力を秘めた県内きっての剣士である。
全剣連では、剣道を「生涯剣道」と位置づけ、世代を超えて学
び合う道とし、共に生涯に亘り剣の道を歩むことを求めている。
この大会に参加すれば、生涯剣道に情熱を燃やしている多くの諸
先生に出会うことができる。しかもこの大会で強烈に感じること
は、「上には上がある」ということである。すなわち、試合区分
で「寿B組」は八十歳から八十四歳の先生方、また「寿A組」で
は八十五歳以上の先生方の試合である。

「寿A組」「寿B組」に出場している先生方の凛とした姿は剣
歴の深さや上品さ、さらには剣道というものの良さを見せつけら

第33回 全日本高齢者武道大会（剣道）

個人「B組」65歳～69歳 対戦結果

予選リーグ

美馬 ココ - コ 大麻孝彦（三重）

美馬 コメ - 伊藤重宣（福島）

決勝トーナメント

1回戦 美馬 ココ - 櫻井正志（埼玉）

2回戦 美馬 メコ - 石井輝夫（愛知）

3回戦 美馬 メメ - 福島博文（広島）

準決勝 美馬 メ - 原田勝美（愛知）

決勝 美馬 コメ 延長 コ 渡辺秀男（埼玉）

れ、充実感に浸る瞬間でもある。その一方で、六十歳台の我ら世代は、子供同然の差を感じるばかりなのである。美馬先生はじめ我ら世代は、まだまだ二十年の先への挑戦が始まったという密かな気持ちをもって剣の修練を重ねて行きたいものである。

この度の美馬先生の快挙は我ら世代の佳き範なり、共に生涯剣道を目指す同志として、万感を込めて大きな拍手を送っているとこである。

特集Ⅲ お通杯優勝

第十回宮本武蔵顕彰女子剣道大会 (お通杯)で優勝して

竹内 佳代子

毎年、仲間を集い参加している本大会。今年は、今までで一番多い十五名の方たちと一緒に参加することができました。このように一緒に参加できる仲間のおかげで、岡山まで行くことができました。本当にありがたいことです。

今年で十年の節目を迎えるこの大会は、年々参加者が増えていくそうです。個人戦と団体戦の両方に参加できること、個人戦も年齢別で、同年代の方々の頑張る姿に刺激をいただけること、全国大会に優勝するような有名選手と剣を交えられること、八段先生に審判をしていただけ、さらに前日は稽古もお願いできることなどが魅力だからだと思います。

私は、大会の五日前に誕生日を迎え、ちょうど五十歳になりました。それで、七十名の方が参加する五十歳代の部に、一番若い選手として出場しました。この部門には、大学時代の先輩が二人、同級生が一人、また大学は違うけれど全日本学生個人優勝経験を

持つ同級生が一人いて、その人たちの試合ぶりを見られたことも、貴重な機会になりました。

準決勝の相手は、高知県の恒石選手。国体の四国ブロック予選で何度か対戦している方です。久しぶりに対戦できたことがうれしかったです。コテすりあげメンが決まり、一本勝ちで決勝に進むことができました。決勝の相手は、大学の一つ上の先輩です。インターハイも全日本学生も優勝経験がある先輩は、私にとって尊敬する、あこがれの先輩です。試合は延長戦(一分ずつ区切る)に入りました。四回目の延長の「はじめ」の合図とともに、先輩がメンを出てくるところ、私のコテが決まり優勝することができました。とてもうれしかったし、あこがれの先輩と再び試合ができたことが結果以上にうれしかったです。

この大会は、試合時間は三分、二回戦までは延長なしの判定、三回戦より準決勝までは二分の延長戦を一回だけ行い判定、決勝は判定なしで勝負がつくまで二分刻みの延長を行うという試合方法をとっています。だから、試合者は短い時間の中で、自分のもっている力を出し切ろうと、積極的に技をしかけてきます。それで思いきりのいい試合ができるので、それもこの大会の魅力だと思います。

私が中学時代から対戦している、高知県の大学の同級生は、準決勝で先輩に敗れ三位でした。でも、こうやって彼女が試合に出場していることが、私の頑張りの源になっています。

「また来年も出ようね」と約束をすることができると友達に巡り

合えたことも、剣道をしたおかげだと感謝しています。

六十歳代の部では、有松さんがベスト八になっています。準々決勝は、一本先取したあと二本取られてしまいました。立ち姿も気品があり、とても素晴らしい試合内容でした。その頑張る姿に、私もまだまだ頑張れるという元気をいただきました。参加されている女性の皆さんは、本当にパワフルで、剣道を楽しんでいます。だから、この大会に参加すると、勝敗に関係なく「参加してよかった」という思いを抱くことができます。

私の母は、五十歳から剣道を始めました。今も、光武館で少年剣道の指導に携わっています。私も負けていません。

試合に出場することだけが剣道の目的ではありませんが、何か具体的な目標を持って取り組んだ方がやりがいも感じられます。



だから、これからも積極的に試合に出場しようと思います。また、

稽古の機会も増やし、剣道を楽しみたいと思っています。さらに、私は指導者としての立場での目標を持つことができます。かわい
い剣道部員に恵まれたおかげで、生徒たちと同じ目標に向かって頑張ることが出来ます。そのことに感謝し、生徒たちと過ごす時間をこれからも大切にしていきたいと思っています。

今年も、一人でも多くの女性の皆さん方と楽しく、お通杯に参加できることを楽しみにしています。今後ともよろしく願います。



剣道形
写真：木洋子 敬告
先生：藤野良正 敬告

「おめでとうございます！」

鳴門支部 山下純子



初めて参加したお通杯で、竹内先生の優勝に立ち会うことができました。行き道の道中も、みんなでわいわいと「目指せ、お米！」などと言いながら、岡山へ入りました。団体戦、個人戦ともに、全員が両方とも参加し、充実した大会となりました。その中でも、竹内先生の個人決勝戦は全員でドキドキしながら、応援しました。

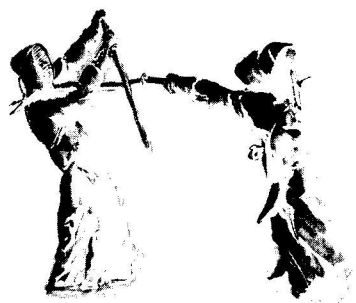
「竹内先生、きっと今日は……」と心の中で思いながら応援していました。決勝戦の相手は竹内先生の大学時代の先輩である、宮崎選手でした。延長の末の優勝でした。タテ続きの試合で疲れと以前から痛めている足の痛みでいっぱいの様子でした。しかし、ここから竹内先生。「私の試合は十分経ってからよ！」と日頃からおっしゃっているように、見ている者をも圧巻させるほどの精神的な粘り強さや気迫に溢れた試合でした。

小さい頃から、お世話になっていた先生とこうして、今でも、一緒にチームを組み、たくさんのご指導を頂いています。そんな竹内先生の優勝だけあって、非常に嬉しく感じました。一戦一戦、気を抜くことなく、さすが、竹内先生！勝負強い！と思いました。大学を卒業し、帰ってきてきて教員をするようになってから、竹内先

生とたくさん試合に出場しました。大将で控えてくれている竹内先生は、「思いつきり、試合をしておいで。」と後押ししてくれ、「最後の勝負は、私がしたる！」と言ってくれているかのような安心することが出来る存在です。もちろん、お通杯当日の竹内先生は、よし来い！と言うような充実感と果敢な攻めをされており、私もこのような選手になりたいと思いました。

この度、文部科学大臣優秀教員賞を部活動の部門で受賞されました。日頃から忙しい合間を縫って、部活指導に行かれたり、自分の稽古も怠ることなくされたりしている竹内先生のパワーや、甘えない強さが今回の優秀教員受賞やお通杯での優勝につながったのだと思います。

最後になりましたが、竹内先生の益々のご活躍とご発展をお祈りいたします。優勝のお祝いとさせていただきます。



佳代子さん、お通杯優勝おめでとう!!

高知県 下坂 美和

「竹内佳代子さん」という人物を思い浮かべた時、粘り強い、剣道大好き、向上心が高い、プラス思考、マリア様……などさまざまな言葉が浮かんできます。佳代子さんにとって、剣道人生は平穩なものでなかった時もあるはずですが、そんなことを感じさせないパワーを秘めているのが、「竹内佳代子さん」だと私は思っています。

佳代子さんと知り合ったのは、中学二年生の木頭村大会の時でした。その時から、頭角を現し、堂々とした剣裁き、勝負感の強さは光っていました。高校三年生、四国大会で決勝戦を行いました。佳代子さんは四国大会優勝、私は公式戦で佳代子さんに勝ったことがあります。筑波大学に入学し、思わぬ再会に人生の不思議さを感じました。佳代子さんは、体育学群ではなく、自然学群でしたが、私たちと同じように剣道部に入部し、稽古を行いました。一、二年生の時には鍛えられ、四年間、専門家として修練を積み重ねてきました。大学時代は、お互い切磋琢磨し、同じ四国人として支え合いながら過ごしてきました。剣道に頑張り、二人だけでお酒を飲んだこともありました。楽しいことも苦しいことも一緒になって乗り越えてきました。そんな佳代子さんは、筑波大学剣道部ではアイドル的な存在で、体育学群の私はいつもう

らやましく思っていました。というのもその頃は、とてもかわいくて、おちゃめで、痩せていて、愛らしい女性でした。首をかしげながら微笑む姿は、女の私から見てもかわいいと思ったことでした。

そんな彼女も、家庭を持ち、学校現場では、学年主任や指導教員、部活動の顧問として成果を収めていました。子育てをしながら、学年の仕事、さらには顧問として剣道部を全中に導いたり、四国大会で優勝したり、その実績はすばらしいものの一言に尽きます。

佳代子さんが発する言葉は、いつもとても謙虚なのですが、お通杯やこれまでの教職員大会などの実績から、彼女の勝負にかける人並みはずれた執着心や「剣道を知っている」ことがそれらの実績を収めていると考えます。気合いの入った掛け声、中心をとる剣先の強さ、相手を威圧しながら打ち出す小手や面、手の内が柔らかく、一本に決めきるところ、さらには打つべき機会を捉え有効打突にし切る丁寧さなど、試合でrippな姿を表現できるのが「竹内佳代子さん」です。

剣道家としての技術面はもちろんのこと精神的にも充実しています。そして、全国大会でも審判をされるなど、審判力・剣道力・仕事力・人間力とも優れた女性に進化されています。私は、そんな彼女と同級生です。彼女を誇りに思うと同時に、私も頑張りねばというエネルギーをいただいています。佳代子さんの想いは、大学の同級生でチームを組み、試合に出場して剣道を楽しむこと

です。彼女の想いを叶えるためにも、健康に留意し、お通杯百歳以上の部で、今度は団体戦で優勝できるように精進していきたいと考えています。

最後になりましたが、こういった機会をいただき、無二の親友「竹内佳代子さん」について書かせていただいたことに感謝します。徳島県剣道界さらには女子剣道界の発展を祈っております。ありがとうございました。



平成二十三年 顕彰一覧

剣道有功賞 (全日本剣道連盟)

○ 松村 克隆 (昭和十二年十二月生れ)

昭和六十三年より九年間にわたり、徳島県警察剣道師範として、情熱をもって剣道指導にあたり、実力ある警察官育成に務め、剣道の威信を高めた。また、平成元年より二十二年間、徳島県剣道連盟審議員として、本年(平成二十三年)度よりは副会長に就任しており、長年にわたり剣道連盟発展と剣道普及に多大な貢献をなしている。

少年剣道教育奨励賞 (全日本剣道連盟)

○ 松茂少年剣道教室

昭和四十二年に松茂小学校の体育館を道場として設立された。現在は松茂町第二体育館で、剣道を愛好する地域の先輩方が指導者となり、青少年の健全育成を目的とした創設以来の精神を受け継ぎ、稽古に励み、地域の剣道発展に寄与している。

○ 山川スポーツ少年団修錬館

昭和四十一年に設立され、現在まで四十五年間の永きわたり、活動を継続している。剣道人口が減少していく中、卒業生が指導者として、参画し、生涯剣道の実践がなされており、剣道の普及発展に力を注いでいる。

体育功労者表彰 (徳島県体育協会)

○ 磯部 洋一 (昭和二十六年八月生れ)

徳島県剣道連盟の常任理事として、平成三年より二十年にわたり、審査担当および財務担当として、連盟運営に尽力している。また、その間、徳島少年剣道教室の指導者として、少年剣士の指導に努めており、剣道発展に多大の貢献をなしている。

剣道有功賞

剣道有功賞を受賞して

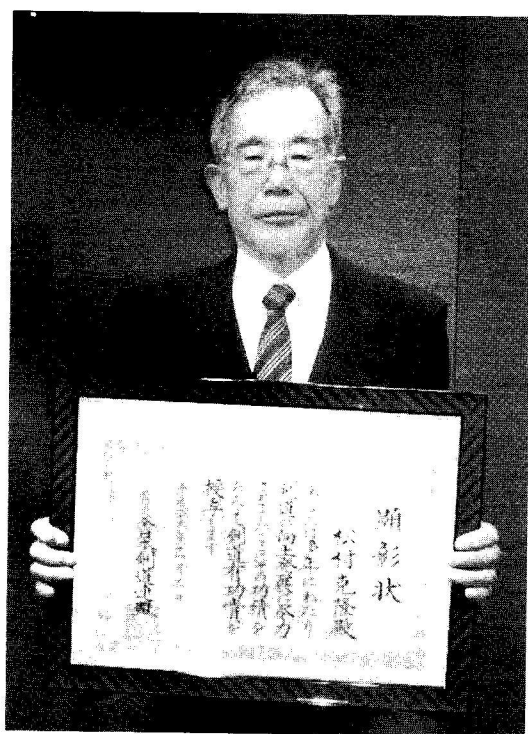
松村克隆

この度、全日本剣道連盟より剣道有効賞という立派な賞をいただき身に余る光栄であります。これもひとえに剣道連盟会長、剣道連盟の先生方ならびに会員の皆様方、徳島県警察在職時代の剣道師範、上司、先輩、同僚、後輩のご理解、ご支援の賜物であるかと、心から御礼申し上げます。

私の剣道の来し方を思い返して見ますと、漠然として記憶にありません。しいて記憶を呼び覚ませますと幼児期に父が刀を手に相手と切り結んでいたのを記憶しています。これは日本剣道形であったのではないかと思います。敗戦後、父が復員しまして村の青年と庭で剣道の稽古をするところではなかったのではないかと思います。私も小学生、中学生時代に剣道をしたことはありません。高校では、二級先輩の清原栄先生の息子さんと私の兄等が剣道部をつくっておりました。剣道部は同級生の神原常経君、松村和喜君の計三人でありました。稽古は校庭の片隅でたまにしました。高校総体にも一回出場した経験があります。結果は申しあげられるまでもありません。

昭和三十一年度徳島県警察の採用試験に合格し採用通知が来ましたので、警察では剣道の授業があると聞いて降りましたので、剣道審査を受け二級をいただき、同年四月徳島県警察学校に入校しました。同期生は十五人、剣道経験者は私一人、柔道有段者は五人ほどいました。柔道有段者の中に東京オリンピック柔道選手候補となりました、村田利行さんがいました。

剣道師範は魚沢清太郎先生、柔道師範は山下末勝先生、剣道柔道とも授業がありました。剣道では苦しいことはありませんでしたが、柔道の稽古では山下先生との寝技の稽古で逃げもせず寝ていますと、首を絞めるぞ、首を絞めるぞ（首を絞めて失神させ



る」と、首を途中まで絞められた時の苦しかった事を思い出します。剣道、柔道とも初段を頂き無事卒業し牟岐警察署に配置になりました。

牟岐警察署には武道場は設置されていませんでしたので内心剣道逮捕術をしなくてよいと喜んでおりました。海部郡は気候温暖で平和な地域で人情味もよく、上司先輩にも恵まれ平穩に勤務しておりました。

昭和三十三年、魚沢先生より電話連絡があり剣道特練に呼ぶから素振りをしておけとの指示でありました。夢にも剣道特練に行くとは思いませんし剣道特練があるのもしりませんでした。将来苦しいこと悔しいことの多いことを知らずに徳島市へ行ける合宿に行けると喜んで竹刀に窓のレールを入れ素振りをしたものです。剣道合宿には吉野国光先生、堀金実先生、同期の斉木雍二君、前期生など特練員は十人位、吉野・堀金先生以外は素人集団でありました。何故大幅な入れ替えをしたのか私にはわかりません。同年度の四国管区大会は完敗でありました。観戦していた上司から「松村」「お前は小手だけしか知らないのか！面も胴もあるぞ！」と注意されました。

昭和三十五年四月警備部機動隊に配置換えになり、徳島県庁独身寮水寮に入寮させていただきました。この寮には県庁職員の前輩方が入寮しており色々と激励を受けよい影響をうけました。近くには村田利行さんの実家があり、県外の柔道合宿から帰りますと二人で早朝眉山天神社から神武天皇像を経て眉山入り口生

長の家の往復の走り込みをしたことを懐かしく思い出します。機動隊では柔道の先生であり全日本柔道選手権に出場したことのあつる上司から「アホ」になれ「アホ」になって稽古せよと、よく言われました。若い私には深い意味が理解できず反抗心を燃やしていました。他の幹部からは私が出て同じではないか、と激励か叱責かはわかりませんが言われ悔しい思いをいたしました。

剣道師範の魚沢先生からは剣道指導のほか本を読め、本を読めとよく言われました。このことが私の本に親しむ癖をつけていたのだと感謝しております。そのほか「上はだませるが、下はだませないぞ」とよく言われました。

昭和三十六年四月より堀江幸夫先生、昭和三十七年ごろからなからうかと思いますが、高島永吉先生に親子二代に渡り稽古をつけていただきました。

過去を回想するのは止めよう。ヒルティ著「幸福論」によりまずと、過去を色々回想することは、老衰のきざしである。絶えず前方を見るように心掛け、後をふり返ることは、自分にとって悲しみのたねとなるだけである。目を将来に向けることが老年において以前より必要である。木は丈夫であるあいだ、その年の実りを終えると、直ちに新しい芽をつけ始めると。

ブッダの真理のことは 第十九章 道を実践する人

二六〇 頭髮が白くなったとて〈長老〉なのではない。ただ年をとっただけならば「空しく老いばれた人」と言われる。

ブツダ感興のことば 第十一章 道の人

十一 頭髪が白くなったからとて「長老」なのではない、

ただ年をとっただけなら「ばかになって老いぼれた人」と言われる。

私が、今日まで剣道に親しむことができたのは、時期的に恵まれていたのではないかと思います。私の警察官採用が三、四年後であれば、私が出る幕ではなく別な人生を送っていたのではないかと思います。この度の受賞に際し、これという何の功労もなく剣道有効賞を頂けることができたのは、前にも申しあげましたが、剣道連盟会長、剣道連盟の先生方、会員の皆様方、徳島県警察在職時代の上司のご理解、剣道師範、先輩、同僚、後輩のご支援、ご激励の結果と感謝しております。「むなしく老いぼれた人」「ばかになっておいぼれた人」と言われたいよう、体力は衰えるが、精神力は向上するといわれております。今後は精神力向上のため精進したいと考えておりますので、ご指導、ご支援のほどよろしくお願いいたしましてお礼の言葉といたします。



少年剣道教育奨励賞

平成二十三年度

『少年剣道教育奨励賞』を受賞して

松茂少年剣道教室代表指導者 米 田 利 彦

全日本剣道連盟より、平成二十三年度の『少年剣道教育奨励賞』を松茂少年剣道教室が受賞しました。

全日本剣道連盟の表彰事業では、剣道の普及と将来の発展を図るために、各都道府県の剣道連盟に対象候補としての推薦を求め、個人に対しては、剣道特別功労賞、剣道功労賞、有功賞を選考して表彰し、団体に対しては、少年剣道の指導面で、『地道な活動』を続けて、剣道の底辺を支えている団体・組織等』を選考して、少年剣道教育奨励賞の表彰をすると聞いております。

このような大きな賞を受賞できたのは、創立以来四十五年間、松茂少年剣道教室で、真面目に稽古をしてきた子どもたちや教室の運営に、ご協力を頂いた保護者の方々、並びに先生方の暖かいご指導とご支援があったことだと思います。

今後、松茂少年剣道教室に関わってきたすべての人に対して、感謝の気持ちを忘れず、今回の受賞を励みとして、剣道の底辺を支えているだけでなく、たまには頂点を口指した剣道の指導にも

心がけて、精進して行きたいと思えます。

【教室の紹介】

当教室は、昭和四十二年に松茂小学校の体育館を道場として、青少年の健全育成を目指し、町内の小学生を対象に創設しました。稽古の場所は、松茂小学校から松茂町福祉センター、松茂町総合体育館、そして松茂町第二体育館へと移しましたが、剣道を愛好する地域の先輩方が指導者となり、創設以来の精神は受け継がれて参りました。

私たち指導者は、剣道の上達だけで子どもたちを評価せず、日ごろの稽古で、習ったことが家庭での話題となり、剣道を通して生まれてくる「家族の会話」が、子どもにも元気を与え、新たな「やる気」が生まれるのなら、技術の上達だけではなく、日常生活においても剣道が、大きく役立つと信じて指導しています。

剣道をはじめの目的は、子どもによってそれぞれに異なりますが、基本的な指導は、防具や竹刀の名称からはじまり、取り扱いの注意、手入れの方法、試合の所作、安全に稽古をするために必要な知識などを学ばせます。

そこで、子どもたちが思いやりの心や旺盛なる気力を養い、自分で考えて行動することを学び、心に余裕をもって、剣道の稽古ができるような環境の確保に努めたいと思えます。



少年剣道教育奨励賞
松茂少年剣道教室殿

少年少女の剣道指導に永年に亘り
尽力され家庭及び学校教育並かに
地域社会の向上に資する活動を継続
してこられたことに敬意を表します
今後とも剣道を通しての人造りのため
一層の精進と努力を期待しここに
少年剣道教育奨励賞を贈ります

平成二十三年十一月三日
財団法人日本剣道連盟
会長 武安義光



少年剣道教育奨励賞を受賞して

山川スポーツ少年団修錬館 柳 谷 照 男

この度、山川スポーツ少年団修錬館が、全日本剣道連盟より、「少年剣道教育奨励賞」を頂きましたことは、身に余る光栄で、これまでの、山川スポーツ少年団修錬館の活動を全国的に評価して頂いたことに対しまして、心よりお礼申し上げます。また、受賞に際しまして、ご支援頂いた関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

今回の栄えある賞の受賞に当たりまして、徳島県剣道連盟会長を初め、関係者各位のおかげと心より感謝申し上げますと共に、山川スポーツ少年団修錬館をここまで、お導き下さったのは、昭和五十年から子供達の指導を続けておられる、植田一夫先生に他なりません。これからも、いつまでもお元気で、少年剣士の健全育成に携わって頂きますよう紙面をお借りしてお願ひ致します。

山川スポーツ少年団修錬館は、昭和三十五年西川田消防詰所を道場として、少年指導をしたのが始まりで、この道場での稽古が土台となり発展し、昭和四十一年「スポーツ少年団剣道部」の名称で発足しました。その後、現在の「山川スポーツ少年団修錬館」の名称となり、平成二十四年で四十四年を迎えます。スポーツ少年団に加入したのも、県下で、早くに加入した団体とも聞いております。

山川スポーツ少年団修錬館は、徳島県剣道連盟麻植支部（以下「麻植支部」という）に所属しているのですが、この麻植支部の歴史について、少し紹介致します。この麻植支部の歴史の内容は、徳島県剣道連盟が発行を予定しております「徳島の剣道史」の原稿の一部です。

麻植支部は、昭和二十七年九月、名西郡浦庄村出身の宮本仁平氏が川島町に住居を構え、川島警察署の道場で指導を受けることになり、昭和二十八年二月、会長に川島町長、各町村長を顧問に、宮本教士を支部長に選出し、徳島県剣道連盟麻植支部が発足しました。学校剣道も占領軍によって禁止されていましたが、昭和二十七年四月から学校体育のスポーツとして解禁され、県内高等学校にもクラブ活動に取り入れる学校が出てきました。

それを受けて、麻植支部では、剣道振興策として、昭和三十一年十月に県立川島高校体育館で、第一回県下高等学校対抗剣道大会を開催し、剣道の普及に大きく貢献したそうです。その後、体育館などの建設が進み、練習場の確保が容易になり、各町に剣道教室が普及していきました。

支部名については、鴨島町、川島町、山川町、美郷村が町村合併し、麻植郡から吉野川市に変更されたときに、吉野川支部に変更することも検討されましたが、あえて「麻植」の歴史ある名称を残すこととし、現在も麻植支部として、活動しています。

山川スポーツ少年団修錬館の稽古日は、水曜日と土曜日の週二回ですが、「我らスポーツ少年団剣道部員は、体と心を鍛え、世

のため人のために尽くすことを誓います。一と稽古を始める前に必ずこの言葉を唱和するところから始まります。剣道をやっているから、人に会えば、挨拶ができるのではなく、あの子は、いつも挨拶や、礼儀正しいが、何かやっているのかなと言われるような人になることを目標としています。

部員数については、どこの剣道教室でも抱えておられる問題と思いますが、団体戦に参加できる人数が集まらない等の問題を抱えており、部員数の確保に四苦八苦しているのが、現状です。今後とも、歴史ある剣道教室が継続できるように、一人でも多く、生涯剣道を目指してくれる人材が育ってくれることを目標として取り組み、頑張っていきたいと思います。



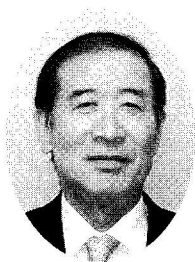
最後になりましたが、今回の受賞に当たりまして、ご推薦頂いたいただきました徳島県剣道連盟会長を初め、関係者各位のおかげと心より感謝申し上げます、受賞に際してのあいさつと致します。



体育功労賞

体育功労賞を受賞して

磯部 洋一



このたび、徳島県剣道連盟のご推薦により、徳島県体育協会から、荣誉ある体育功労賞を受賞いたしました。受賞に際しましては、諸先生方はじめ周りの皆様方のご指導、ご支援があったればこそと、

改めて深く感謝いたしております。思い起こしますと、社会人になってからも、ずっと剣道を続けてきた以外に、これといった実績もない私ですが、平成三年に当時の審査部長をされていた故柏原先生から、「県剣道連盟の審査部を手伝ってくれんか」と言われましてのが、県剣道連盟役員としての始まりです。それ以来、平成二十二年度末までの二十年間、務めさせていただきました。その間、平成十五年には故森川先生が病気で亡くなられたため、急遽会計理事を打診されまして、平成十八年度末まで担当させていただきますました。

ところで、審査に関しましては、いろいろな思い出があります。最も印象に残っておりますのは、ある時期に五級から初段まで受

審者の全員について、実技の後、審査部員が解説をしていたことです。一会場に二名の審査部員が配置されますが、ある級が終わりますと、その級受審者全員に、直ちに解説をしておりました。実技審査はずっと継続されているため、一人の審査部員が交替で、実技を見ることと、解説を行なっておりますので、一日の審査会が終わりますと、大変ではありましたが、今日も無事終わったという、達成感と安堵感に包まれたものです。

その後は、初段につながる一級が大切であることから、一級だけを解説する現状となっております。

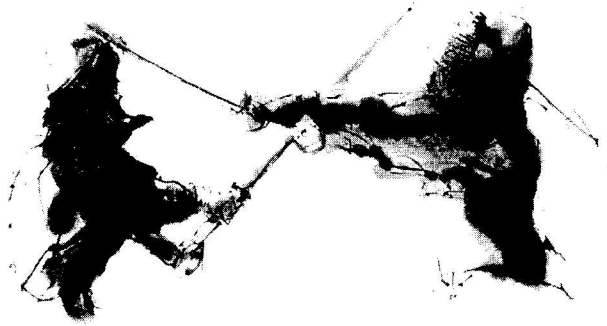
また、以前より審査部では、初心者を対象にした剣道形講習会を、夏休み中に二日間をかけて実施しております。これは、審査会における、剣道形の出来上がり状況が思わしくないとのことから、その改善策として始めたものです。毎年、中学生を主体とした多数の受講者があり、剣道形の普及に役立っているものと思われまます。しかしながら、受講者の中には、事前予習のできていない生徒も見受けられ、講師先生はご苦労なさっているようでした。また、助手を務める審査部員も、受講生の手取り足取りの組もあり、何かと大変ではございましたが、受講生に少しは役立ったのかなと思っております。

なお、二十三年度より「木刀による剣道基本技」の審査も始まり、たまたま私は審査員として二十三年四月の審査会に参加しております。始まるまでは受審者の習得状況について、心配しておりますが、事前の周知徹底が図られたことと、各教室の指導

者のご尽力もあり、予想以上の出来上がりで、良いスタートができたのではないかと思っております。

さて、少年指導につきましては、平成十二年夏より生田先生の依頼で、徳島少年剣道教室の指導にも関わるようになりました。早いもので十二年目となります。週二回の稽古指導（少年稽古は週三回）と、日曜日に行われる少年剣道大会での審判員といった状況です。

最後になりましたが、今回の受賞は、これらのことに長年携わってきたことから、県剣道連盟からご推薦いただいたのかと想像しております。これからも「老いて学べば死して朽ちず」の気持ちを忘れず、日々精進していきたいと考えております。本当にありがとうございます。



平成23年度 徳島県中学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	藤 坂 直 道	那 賀 川
2	助 田 悠	那 賀 川
3	野 村 翔 輝	阿 南 一
4	田 邊 翔 磨	阿 南 一
5	田 上 修 平	阿 南 一
6	金 澤 恭 助	阿 南 一
7	谷 本 晃 佑	徳島文理
8	喜 多 大 樹	徳島文理
9	岩 佐 岳 大	徳島文理
10	西 條 翔 太	鳴 門 一
11	井 形 優	鳴 門 一
12	川 邊 智 樹	鳴 門 一
13	平 尾 秀 典	徳 島
14	古 屋 海 歩	徳 島
15	後藤田 廉	市立川島
16	庄 村 莉 緒	市立川島
17	大 城 和 哉	木 頭
18	楠 和 馬	八 万
19	鎌 田 幹 大	石 井
20	朝 田 大 樹	羽ノ浦

No.	女 子	学 校 名
1	川 原 眞 実	徳島文理
2	佐々木 南 波	徳島文理
3	大 嶺 茉 利 子	徳島文理
4	佐 藤 み な み	阿 波
5	尾 関 友 衣	阿 波
6	竹 内 朱 里	阿 波
7	秋 山 澄 香	阿 波
8	中 井 優 里 花	鳴 門 一
9	岩 木 里 穂	鳴 門 一
10	藤 田 侑 伽	鳴 門 一
11	馬 見 範 子	新 野
12	江 川 美 郷	新 野
13	奥 田 紋 子	鷲 敷
14	蛇 目 朋 佳	鷲 敷
15	藤 田 美 生	那 賀 川
16	小 川 桐 花	木 頭
17	鳴 川 ち ひ ろ	徳 島
18	美 馬 あ かり	北 井 上
19	稲 生 美 穂	加 茂 名
20	藤 井 光 莉	加 茂 名

平成23年度 徳島県高等学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	小 野 竜 弥	城 北
2	岡 田 宣 孝	城 北
3	南 谷 和 希	城 北
4	森 康 二	城 北
5	斎 田 悟 志	城 北
6	宮 浦 慎 治	鳴 門
7	矢 野 一 輝	鳴 門
8	谷 史 上	鳴 門
9	神 元 真 樹	阿 南 工
10	小 藪 京 蔵	阿 南 工
11	住 友 勇 輝	阿 南 工
12	谷 口 奨 真	阿 南 工
13	松 村 拓 矢	阿 南 工
14	中 田 雄 斗	阿 南 工
15	藤 坂 拓 道	阿 南 工
16	川 野 賢 太	阿 南 工
17	朝 井 智 泰	徳 島 北
18	岡 佳 聡	徳 島 北
19	生 田 真 大	城ノ内
20	小 谷 直 也	城ノ内
21	米 田 紘 夢	城ノ内
22	三 木 夕 路	城ノ内
23	井 上 幹 大	富 岡 西
24	井 上 稔 大	富 岡 西
25	廣 井 大 晃	富 岡 西
26	山 西 浩 平	富 岡 西
27	谷 優 佑	徳 島 科 技

No.	女 子	学 校 名
1	山 本 千 尋	富 岡 東
2	工 藤 麻 美	富 岡 東
3	松 浦 名 穂	富 岡 東
4	青 木 万 里 子	富 岡 東
5	岡 内 拓 未	富 岡 西
6	長 谷 川 愛 実	富 岡 西
7	那 佐 萌	富 岡 西
8	佐 藤 綾 佳	富 岡 西
9	井 上 亜 美	城 北
10	三 島 菜 摘	城 北
11	播 田 茜	城 北
12	中 西 綾 華	川 島
13	河 野 結 花	川 島
14	丸 岡 悦 子	城ノ内

先生を偲ぶ

岡島茂雄先生の思い出

森 本年 彦

私が剣道を始めたのは、小学校三年生の時です。落ち着きもなく、泣き虫だった私に、何かさせた方がいいのではと母は思い、

それが剣道だったそうです。入部したのは（故）三木高雄先生が教室長の吉野少年剣道教室でした。当時（板野郡吉野町）現在（阿波市吉野町）柿原小学校校体育館で週二回、稽古をしていました。それが、私の剣道人生の始まりです。何もわからないまま、週二回遊び気分で吉野少年剣道教室に行って竹刀を振り回していた中、数人の指導者の先生がいた中に、岡島茂雄先生がいました。

それが私と岡島先生との初めての出会いです。岡島先生は、警察官を退職され地元の吉野町の子供達に剣道を教えてくれていました。まだ、小さかった私は、岡島先生の剣道をしている姿を見て、よく動く元気なおじいちゃんだなあと思いながら稽古をしたように、記憶しています。

吉野少剣は、稽古場所が柿原小学校から吉野中学校校体育館に変わり子供達も多い時には二十人位いた時もあったと記憶します。岡島先生は、いつも元気に休む事なく週二回、稽古に来てくださ

り子供達と一緒に汗を流し稽古を付けてくれました。私は、中学生になり吉野中剣道部に入部したのですが、男子は私一人、女子は五人（初心者）ばかりで自分の稽古ができない中、時間がある時に岡島先生が来てくださり稽古を付けてくださいました。

私が、中学二年の時に、当時、板野郡総体予選で個人優勝して県大会に出場した時、岡島先生は、すごく喜んでくれました。そして、阿波高校に入学し阿波高剣道部に入部し剣道を続け、吉野少剣の稽古にも時間がある時は、道場に行き先生に稽古を付けていただき、また子供達と一緒に稽古をしました。

高校卒業後、私は大阪の専門学校に行き、そのまま大阪で就職をしました。この大阪での七年間は、竹刀を握る事も無く剣道の手をすっかり忘れていました。私は長男であったので、二十五歳の時に徳島に戻って、（榎寺内製作所に就職しましたが、徳島に帰って来てもまだ竹刀を握る事もなく、杯ばかり握っていたように思っています。

私が三十歳の時、吉野少年剣道教室長の三木高雄先生が、お亡くなりになり、当時の吉野少剣の保護者の方が、指導者の先生が少ないのでOBでもある私に来てもらえないかと話があり、吉野少剣に十二年振りに顔をだしました。稽古場所は、吉野町町民体育館二階でしていて、行ってびっくりしたのは、岡島先生が元気に指導に来られていて、私の事を覚えていてくれた事です。最初は見に行くだけと言う気持ちでしたが、先生と再びお会いし、何か自分にお手伝いできることは無いかと思ひ、私も十二年振りに



平成17年 吉野少年剣道教室（後列右）

竹刀を握り剣道の指導者としての始まりでした。三木先生の後、高木先生、そして、森本敦子先生が教室長になり、私が副教室長、岡島先生が顧問で、吉野少年剣道教室が活動し始めました。数年後、警察官を退職され、地元が吉野町である、笠井勝先生も指導に来てくださり子供達も二十二名となり大変賑やかで楽しく剣道をしたように記憶しています。

吉野少剣では、毎年恒例のクリスマス会があり、子供達、保護



平成17年 クリスマス会（前列中央）

者、指導者の全員で楽しく食事をして親睦を深めていました。先生は、普段口数は少ないのですが、お酒が入ると明るく陽気になりカラオケが好きで、いつもトップバッターで歌ってくれて場を盛り上げてくださり楽しい時間をみんなで過ごしたものです。

数年後、森本敦子先生がお仕事の都合で、教室長を降りる事になり、私が教室長をする事になりましたが、実力・実績・指導力も無く、ただ剣道経験者と言うだけで私にできるのかと不安で自

信もなく最初は断ったのですが、岡島先生、笠井先生がお力になっていただけると言ってもらい、私が教室長になり、先生方には、色々アドバイスをお願いしました。私には本当に心強い先生方がいてくれて良かったと思えました。私の息子二人も吉野少剣に入部し親子で竹刀を握り、岡島先生に稽古を付けてもらっている息子達を見た時に、自分が小学生の時に先生に稽古を付けてもらっていた時の事を思い出して、何か懐かしいような嬉しいような気持ちになり、親子二代で先生に稽古して頂いた事に感謝しています。平成二十一年三月、少子化の影響もあり入部希望者もなく、とうとう息子二人になってしまい少剣での活動ができなくなり休部する事になりました。岡島先生も、本当に残念に思っていました。現在、私と息子は、藍住剣道スポーツ少年団に所属し剣道を続けています。

昨年、岡島先生の体調が良くないと聞き心配していた時に先生の訃報を知り驚きと悲しみ、本当に残念な気持ちで、ご自宅にお悔やみに行きご家族の方とお話をしました。自宅では普段あまり動かない先生ですが、稽古日には元気に出て行っていたそうです。九十歳を過ぎても竹刀を握り生涯剣道を続けられた岡島先生を、私も見習い生涯剣道が出来るように、先生がよく言っていた、勝負事、強さだけでなく「剣道は、剣の理法の修練による人間形成の道である」を心に刻み頑張っていきたいと思えます。三十歳の時、岡島先生と再会していなければ、私も息子も剣道をしていなかったかも知れません。岡島先生、本当にお世話になりました、

これからも見守って下さい。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。合掌



平成十二年 板野西支部稽古会 (前列中央)

- | | | | | | | | | | |
|------|------|--------|------|-------|-------|------|------|------|------|
| 高松先生 | 金西先生 | 板東先生 | 出口先生 | 高田豊先生 | 森本先生 | 市橋先生 | 安丸先生 | 月岡先生 | (後列) |
| | 岡田先生 | 森本敦子先生 | 福永先生 | 岡島先生 | 高田亮先生 | 糸谷先生 | 兵頭先生 | (前列) | |

全国講習会報告

第一回全国剣道指導者研修会

— 中学校武道必修化に伴う指導法 —
(四国) ブロック研修会実施報告

徳島県学校剣道連盟事務局長 白 木 洋 一

この研修会は平成二十四年度中学校の武道必修化に向けて、(財)日本武道館、(財)全日本剣道連盟、(財)全日本学校剣道連盟が共催で開催されることになりました。平成二十二年度二十三年度の二カ年で全国の九ブロックの研修会を実施する計画で、二十三年度は、北信越、近畿、中国、四国の四ブロックで実施されました。

研修会は十月十五日(土)・十六(日)の日程(別紙日程表参照)で徳島中学校体育館にて行われました。以下各講義での様子を報告致します。

講義一 講師(軽米満世)

中学校保健体育における武道の必修化について

軽米講師からは中学校の武道が何故今必修化になってきたのかをパワーポイントを使って講義をしていただいた。「この必修化



は日本の伝統文化である武道を正しく継承し、更には「人間形成」を醸成するという教育的な期待が込められています。」と資料にもあるが、次に、学校教育現場の現状と課題から、武道必修化の意義について述べられた。

今、多忙で多様化した教育現場と関わり感じることは、他人との積極的な関わりを敬遠する傾向や希薄な人間関係等、看過できない問題が多々あり、地域社会や家庭の教育力の低下により、学校が賤等の教育を担う役割が大きくなっている。人生の基礎・基本を身につける義務教育において、日本の心に内在する「強さと優しさ」をもつ武道教育に視点が当てられていると考えられる。武道の学習を通して歴史や伝統文化を体験し、旺盛な気力と体力を養うとともに、礼法の実践を通して「他人を思いやる心」や

「感謝の心」、そして日本の伝統的な行動規範を身に付けることが大いに望めるという視点で説明していただいた。

講義二 講師（佐藤義則）

中学校における学習内容の取扱い

中学校における剣道授業の実際

佐藤講師からは中学校の学習内容の取扱いについて講義がされた。武道を学習内容の中でどのように位置づけ、取り扱っていかばよいのかを、武道に関するアンケート調査を元に、中学生が武道（剣道）に対しどのようなイメージを持っているかを含めわかりやすく説明していただいた。また、剣道がどのあたりで苦手なものとして捉えられやすいのか、それを克服するにはどのような



手立てが必要なのかを講義していただいた。実際の調査に基づく講義であり、今回受講生に配布していただいた「剣道授業の展開」がどのように生かせるかもアドバイスしていただき受講生の多くが、日頃抱えていた悩みなどの解決策ができたと感じる講義であった。

実技一 講師（佐藤義則・軽米満世・有田祐二）

剣道授業における楽しい動機付け 新聞刀のつくり方を含む

佐藤講師からは剣道授業における楽しい動機付けということで軽米講師・有田講師とも実技指導をしていた。剣道への導入として、ペットボトルや新聞刀など身近にあるものを使って、剣道の要素を含み、授業へと導入していく。受講生も実際に新聞竹



刀を作成するところを興味深く見学していた。また、新聞切りでは受講生全員が子どものように熱中して取り組んだ。軽米講師によるゲーム的要素を取り入れた体ほぐしの運動など、現場ですぐにでも使える内容であった。

実技二 講師（佐藤義則・軽米満世・吉田泰将）

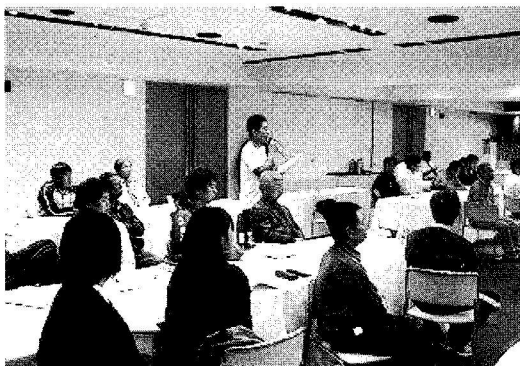
剣道具の無い場合の授業例 新聞刀、竹刀又は木刀の活用

佐藤講師からは剣道具の無い場合の授業例として竹刀を使った展開を指導していただいた。剣道具が無くても、竹刀打ちを通して打突の感覚を体感したりすることができる。また、簡易な試合への発展と、剣道具が無くても十分に剣道の授業が成り立つことを実践していただいた。



研究協議 全講師・役員

研究協議では、全講師・役員による班別によって実施された。各班では講義一・二を含む内容と、現在抱えている課題について、それぞれの立場で意見を出し合い熱心な研究協議が行われた。最後には、各班で協議した内容を発表し、それについて講師の先生方から指導・助言をいただいた。時間が足りなくなるほど熱を帯びた競技であり、自分の熱い思いを述べられる受講生もおり非常に実りのある研究協議であった。



研究協議・発表の様子

実技三 講師（末平佑二・神崎 浩）

木刀の活用による授業例 — 木刀による剣道基本技稽古法 —

実技三では、末平講師・神崎講師による木刀の活用による授業例で、主に木刀による基本稽古法の説明と実技となった。末平講

師による木刀による基本稽古法の説明が掲示資料をもとに行われ、それを一本目から順々に受講生が実技として行うものであった。グループごとに講師の先生方が中に入り、細かく指導をしていた。剣道具のない学校で剣道の授業を行うときには、効果的な方法であると感した。

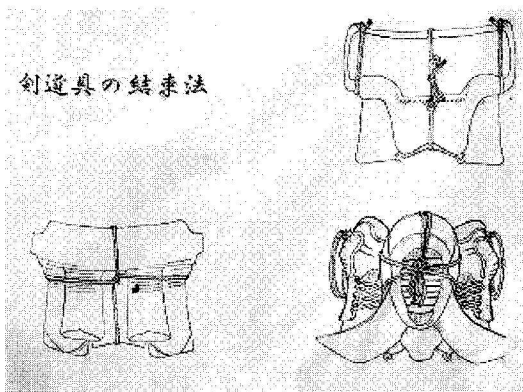


講義 3 の様子

**実技四 講師（佐藤哲通・有田祐二・末平佑二）
剣道具のある場合の授業例**

実技四では、佐藤哲通講師・有田講師・末平講師による剣道具のある場合の授業例ということで実技が行われた。剣道の授業で一番時間がかかってしまうのが剣道具の着脱である。この点に関して、佐藤哲通講師より、受講生にもわかりやすく間近で説明を加えながら実際に剣道具を着装していただいた。ごく簡単な方法や

生徒がつまずきやすい点をわかりやすく説明していただき、剣道未経験者の受講生も剣道具を速く着装することができた。剣道具を着装してからは、実際に打突部位を打つ練習に入ったが、正確に打突部位を捉えるポイントを整理して指導していただき、内容の濃い実技となった。



**実技五 講師（小久保昇治・佐藤義則・有田祐二）
攻防の展開（試合）・評価 リズム剣道を含む**

実技五では、小久保講師・佐藤義則講師・有田講師による攻防の展開（試合）・評価・リズム剣道を指導していただいた。剣道具を付けて実際の試合となり、受講生もついつい本気になって取り組んでいた。ポイントを取り合うことも大切だが、審判の役割や試合における礼法など細かな点までわかりやすく指導していた

だった。リズム剣道では、「ネリーブライ」の曲にあわせて軽快なリズムで素振りや竹刀打ちを行うことができた。堅苦しいイメージではなく、音楽に合わせて体を動かすという大変参考になる実技であった。



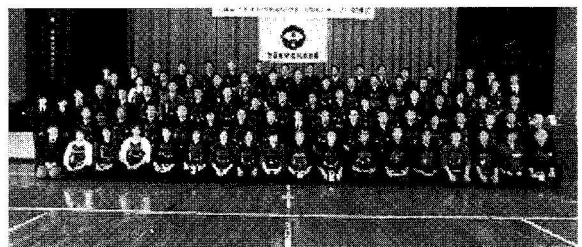
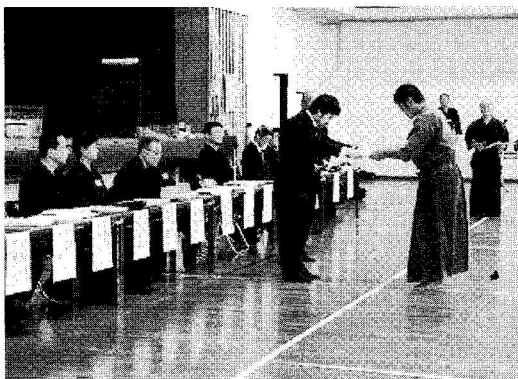
閉講式

二日間の研修会も終わり閉講式をむかえた。実に内容のある研修会であり受講生の表情にも充実感が見られた。受講生の代表に修了証が、(財)日本武道館 振興課主任 長澤様より授与された。また、佐藤義則講師手作りの巻物が、研修会の免許皆伝として女性の受講生に授与された。

後記

研修会四国ブロック開催の決定を受け、小さい具ながら誠心誠

意準備をさせていただきました。参加した受講生からは研修会終了後の感想文にもありましたが、「大変参考になり、早速授業で使っている」という声を聞かせてもらっています。これもひとえに講師・役員の先生方、日本武道館のご援助があつての賜だと感謝いたしております。徳島県は学校数も少ない県ではありますが、八六校中五〇校近くが剣道を選択しております。今回の研修会が徳島県の武道(剣道)の推進に大きな力を与えてくれたことは間違いないと思います。剣道未経験者の指導者にとつ



ではこれからが本番であり、私たち学校剣道連盟もバックアップできる体制づくりをしていきたいと思えます。今後の実践の決意を新たにするとともに改めて関係各位に感謝申し上げます。

第1回全国剣道指導者研修会 —中学校武道必修化に伴う指導法—

(四 国) ブロック研修会 日 程 表

第1日目 (10 / 15)		第2日目 (10 / 16)	
9:30	受 付		朝 食
10:00	開 講 式	8:40	(開始式)
10:30	講義 1 中学校保健体育における武道の必修化について 講師 (軽 米)	10:30	実技 3 木刀の活用による授業例 —木刀による剣道基本技稽古法— 講師 (末平・神崎)
11:00	休 憩	10:40	休 憩
11:10	講義 2 中学校における学習内容の取扱い 中学校における剣道授業の実際 講師 (佐藤義則)	10:40	実技 4 剣道具のある場合の授業例 講師 (佐藤哲・有田・末平)
12:00	昼 食・休 憩 12:45に集合写真撮影	12:00	昼 食・休 憩
13:00	実技 1 剣道授業における楽しい動機付け * 新聞刀のつくり方を含む 講師 (佐藤義・軽米・有田)	12:45	実技 5 攻防の展開 (試合) ・ 評 価 * リズム剣道を含む 講師 (小久保・佐藤義・有田)
15:00	休 憩	14:30	休 憩
15:10	実技 2 剣道具の無い場合の授業例 *新聞刀、竹刀又は木刀の活用 講師 (佐藤義・軽米・吉田)	14:40	質 疑 応 答 司 会 (笹月)
17:00	入 浴 夕 食	15:30	閉 講 式 (感想文提出後に解散)
19:00	研 究 協 議 *安全指導を含む (全講師及び役員)		[役員等]・・・(3名) 小久保昇治 (財) 全剣連学校教育部長 笹月 繁 (財) 全学校剣連常務理事 吉田 泰将 (財) 全学校剣連常務理事
20:30			[全剣連講師] 佐藤 義則 (財) 全剣連常務理事 軽米 満世 袖ヶ浦市立総合教育センター教育相談員 佐藤 哲通 栃木県小山市第三中学校長 有田 祐二 筑波大学講師

*日程・時間等が変更する場合があります。

[学剣連講師]
末平 佑二 石川県立武道館館長
神崎 浩 大阪体育大学教授

剣道中央講習会を受講して

警察支部 佐賀博史

平成二十三年四月二日から三日までの二日間、神戸市立体育館において、平成二十三年度（第四十六回）剣道中央講習会（西日本）があり、本県からは、平野誠司先生と私の二名が参加してまいりました。

この講習会は、「剣道の普及・発展のため、全剣連と徳島県剣道連盟など傘下団体との意思の疎通を図り、日程に基づき講習の実をあげる」ことを目的として開催されました。

つまり、全剣連において「剣道研究会」や「審議会・理事会」で確認された重点事項や変更事項を我々受講生に講習し、受講生が各県において伝達講習会を開き、各都道府県において剣道を修行する全ての方の現在の正しい剣道・剣道界の方向性を示し、将来にわたり我が国の剣道が望ましい普及発展を期するという目的の講習会であります。

ただ、今回の講習会については、開催日のわずか二十日余り前に東日本大震災が発生し、甚大なる被害が起っていましたので、開催するかどうか危ぶまれたものの何とか開催されたそうです。

今回の講習会では、全剣連から役員会として、松永政美副会長・

福本修二専務理事、講師として田口榮治範士（指導法）、村上済範士（審判法）、松井明範士（日本剣道形）という蒼々たる先生

方から、熱心なるご指導を頂いてまいりました。

まず、開校式では、東日本大震災で被災された方々への哀悼の辞が述べられた後、松永副会長の挨拶があり、一日目の午前・午後が指導法及び合同稽古、二日目の午前が審判法、午後が日本剣道形という日程で、受講生五十六名により二日間にわたる講習が行われました。

一 指導法（田口講師）

（一）講義

① 指導目的

我が国の伝統と文化に培われた剣道を正しく伝承して、その発展を図り「剣道の理念」に基づき高い水準の剣道をめざす。

剣道を正しく習得することにより、強く正しく逞しい剣道人をめざすことが目的である。

② 剣道理念

「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。」

ア、剣………日本刀の観念、竹刀を厳正に扱う。

イ、理法………かたちあるもの、かたちないものを含めて、その正しい法則

刀法（刃筋、物打、鎗、手の内、強度と刃え等の合理的作用）

身法（適正な姿勢と体の運用、構えと体勢、上虚下実）

心法（充実した氣勢、意思決定の心の働き、呼吸法、気合）

ウ、人間形成……自己形成、社会形成（社会貢献）

③ 高い水準の剣道

ア、理事一致、三無の剣

理合と動作、心と技の一致した剣道。

または、無理・無駄・無法のない理にかなった正しい心

技一体の剣道

イ、心気力一致

心は打ちに向かう作用、気は内から外へ向かう作用、力は五体、全力。

心気と力の調和のとれた剣道、その一打をめざす。

ウ、攻防一致（懸待一致）

気剣体の一致した「しかけ技」と「応じ技」の完成をめ

ざす。

④ 剣道指導者のあり方

ア、剣道の指導者である前に、立派な社会人であること。

イ、愛情と信念の持ち主である。

ウ、能率的、合理的な指導ができる。

エ、剣道技術に精通し、審判技術に熟達している。

オ、師弟同行の修行である。

⑤ 剣道指導のあり方

ア、発達段階に応じた指導計画と指導法

イ、意欲と興味を持たせる指導……褒め上手

やってみせ、言ってみせ、聞かせて、させてみて、褒めてやら

ねば人は動かじ（山本五十六元師）

ウ、明確な言語説明と的確な示範……聴覚と視覚から学ばせる。

エ、基本や礼儀を重視

オ、安全管理……剣道用具、健康の点検

⑥ 剣道指導の心構え

ア、竹刀の本意

剣道の正しい伝承と発展のために、剣の理法に基づく竹

刀の扱い方の指導に努める。

イ、礼法

相手の人格を尊重し、心豊かな人間育成のために礼法を

重んずる指導に努める。

ウ、生涯剣道

ともに剣道を学び、安全・健康に留意しつつ、生涯にわ

たる人間形成の道を見いだす指導に努める。

(二) 実技

① 基本

ア、基本的な動作や所作・作法を正しく身につける。

着装、面ひもなどの結び方・礼法（三節の礼）の乱れが

目につくので、正しく指導する。

イ、対人的技能を身につけさせ、気剣体一致したしかけ技を

中心に指導する。

一本打ちの技、連続技、払い技、出ばな技、切り返しなどの稽古を通じて、すり足、踏み込み足の使い分けや近間から一足二刀、遠間へと自己の打ち間を理解させる。

②応用

攻め合いの中で機会を捉えた高度な「しかけ技」と「応じ技」を指導する。

二 審判法（村上講師）

審判法においては、村上講師からの講話の後、地元の大学生に試合をしてもらい、実際に受講生が審判をし、試合中ても試合を止めて、その都度、講師から細かな点まで指摘がありました。

(一) 審判の任務

適正な試合運営に努め、試合の活性化を図ること

○客観性に基づき公平な審判を行う。

○審判が良くなれば、試合も良くなってくる。

(二) 審判姿勢、所作

○立ち姿がよい……審判旗は体側につけ、床を突き刺すような気持ち

○目付……全体を視野に入れる（遠山の目付）

○旗の取り扱い……聖なるもので指示棒ではない

(三) 有効打突の判定

○グレイゾンの見極め……「勇気ある決断」と「協調性」

の調和

○審判員が試合を良くする……大会のレベルに合った審判をする。「打突部位を刃筋正しく打突する」ということに關しては、大会のレベルで変えてはいけませんが、「充実した氣勢、適正な姿勢」については大会のレベルに合わせる。

○一本旗や二本旗など、判定が割れることが多いと不信感が出る。

(四) 主審と副審の關係

有効打突と反則の判定については同等の権限があるが、運営面を主審がつかさどる。

(五) 位置取り

あくまでもよく見える位置……基本は主審を頂点とした二等辺三角形であるが、そうでない場合もある。

立つ位置は、十一メートルの試合場を基準としてラインから一メートル入った位置であり、試合場の広さにより多少の前後はあるが、両副審の立つ位置をそろえる。

三 日本剣道形（松井講師）

日本剣道形においては松井講師からの講話の後、受講生が二人一組で形を打ち、その都度、講師からの指導を受けました。まず、講話においては、

(一) 立ち会い前後の所作及び刀の取扱いを適切にする。

(二) 五つの構え方及び小太刀の形における半身の構え・

入り身の所作を自得する。

(三) 横手交差と一足一刃の間合について混同しない。

(四) 打太刀と仕太刀の関係を理解し呼吸を合わせる。

(五) 間合いに接したとき、太刀の形は気を見て打つ、小

太刀の形は入身になるうとするところを打つという理
合を理解する。

(六) 足さばきはすり足で行い、音を立てない。

(七) 打突の緩急強弱を心得て、一拍子で打つ。

といった剣道形を行う際の基本的な心得についてのお話がありました。

続いて、受講生が形を打ち、太刀七本・小太刀三本について、
松井講師から細やかな点にわたっての指導を頂きました。

以上が中央講習会で受講した内容であり、この講習を受けて平
成二十三年五月十五日に鳴門ソイジョイ武道館で伝達講習会が行
われました。

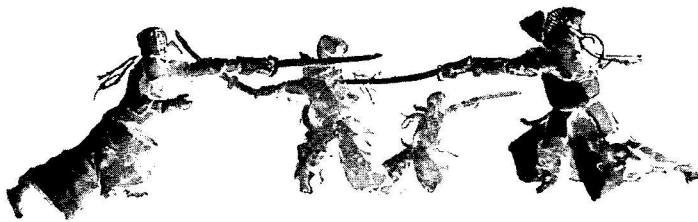
不肖私も講師の一人として参加致しましたが、勉強不足から平
野先生に講師の役目を全てお任せしたような形となり、また、参
加された他の先生方のご協力を頂きながら何とか伝達講習会を終
えることができました。

剣道だけに限らず、何かを人様に正しく伝えるためには、その
何倍もの研究や勉強が必要だと痛感致しました。

今回の中央講習会に参加させて頂きまして、私も剣道人の一人
として、知識のなさを思い知らされた思いであり、今後、精進・

努力を重ねていきたいと思えます。

今回の講習会でお世話になりました全剣連の先生方、また、ご
協力をいただきました徳島県剣道連盟の先生方に感謝申し上げます。
そして、中央講習会の報告とさせて頂きます。



第三十八回居合道中央講習会に参加して

居合道部部长 岸 田 光 博

日 時 平成二十三年九月十日～十一日

(二日間)

場 所 京都府 京都武道センター

講 師 全日本剣道連盟

居合道講師 七名



受講生 全国各都道府県より 一〇二名

(一) 居合道中央講習会の目的は、全日本剣道連盟居合(昭和四十四年五月制定)を全国統一、居合道の作法、術技、及び居合道試合、審判規則、細則を統一する事を目的とし、又全国各指導者の技術の向上、適正な審判を講習する事を目的として、毎年行われます。

徳島県は原田勝(範士)先生と私が参加しました。

(二) 第一日目は、安武会長の挨拶(居合道のより一層発展願います)。

居合道委員長の交代、岸本範士より武田範士の各挨拶がありました。

講師の紹介(岸本、武田、山崎、河口、安永、山崎鸞、小倉、村主、各範士)後、武田委員長の連盟居合解説により小倉範士の実技を(全剣連居合道講習会「指導要点」配布済み)連盟居

合解説指導を受けました。

実技練習の為の班別けが有り、八段の参加者はサブ道場へ、私達七段以下は四班に別れて講習を受けました。私の二班は安永範士が細部丁寧に説明して実技指導して頂き、大変良い講習で有りました。

(三) 第二日目は、審判講習での八段の(全国大会の審判予定)先生が、私達七段の受講生を判定する実技講習で山崎正博範士の指導説明で、河口安永範士が補助指導する方式で講習が始まりました。

掲示板に七段講習生の対戦相手が表示され、指定技は、作法と三本日(時間の都合上)で、その他は見学審判の判定後、「勝負有り」後判定の理由を審判(三名)に、山崎先生がマイクを渡し、それぞれ発表する方式で、講習が有り、審判も主、副審毎交代する為、会場内は非常に緊迫した講習で、大変勉強になりました。

昼食事前、講師、受講生全員の記念撮影が有りました。

午後は各流派に別れ、古流研究で私は無双直伝英信流で、サブ道場に移動して、武田範士の指導で山崎範士の号令で、八段の先生と七段以下の向かい合う方式の交互抜きで行われました。

同じ流派なのに、先輩指導者から受け継ぐ間に変化して、理合いは個性が出てきて居るが、それもみな正しい。武田講師の説明で、(諸先輩先生の、理合い等を正確に引継ぐ様にして下さい)



平成23年度（第38回）居合道中央講習会
主催(財)全日本剣道連盟 平成23年9月10日 於：京都市武道センター

最後に全員集合して、閉講式後解散となりました。

(四) 私は徳島県剣道連盟居合道の代表の一人として全国講習会に参加させて頂き感謝と、伝達する義務に緊張し、非常な責任を感じました。

毎年参加した先輩方の伝達が正確に伝わっている事も感じ、大変ありがたく感謝します。

全国都道府県の先生の交流も出来大変意義が有ったことを、報告申し上げます。



第四十九回剣道中堅剣士 講習会に参加して

刑務所支部 前田 秀一

平成二十三年五月十八日から二十二日まで、全国から五十九名の剣士が奈良市中央武道場に集まり、五日間の講習会が行われました。本講習会は、通常七段の先生方が参加される講習会ですが、今年度、徳島県は七段の先生方が参加できなかったため、徳島県剣道連盟の先生方のご尽力により、特例での参加を認めていただくことができました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

奈良県に出発する前に、この講習会に参加されたことのある先生方から、

「講習会という名の合宿だ。」

「最終日は、みんなぐったりしている。」

など、色々なことをお聞きしていただきましたので、覚悟して参加させていただきました。

役員、講師の先生方は、

役員 会長 武安 義光 先生

副会長 松永 政美 先生

専務理事 福本 修二 先生

常任理事 長尾 英宏 先生

浅野 修 先生

講師 剣道範士 田口 榮治 先生

島野 泰山 先生

網代 忠宏 先生

中田 琇士 先生

高橋 俊昭 先生

石塚 美文 先生

小坂 達明 先生

剣道教士 香田 郡秀 先生

地元講師 上垣 功 先生

千葉 十一 先生

スポーツ医学講師

佐本 憲宏 先生

講習会日程については次のとおりです。

今回の講習会では、参加前にお聞きしていたとおり、素振り、基本技、連続技、区分稽古など、大変ハードな稽古内容であり、時には講師先生から厳しい叱咤激励が飛ぶなど、緊張感あふれる講習会でした。また、多くの講習生の皆さんと交流することができ、自分自身の剣道を見直し、今後について考える良い機会となりました。講習会で学んだことを活かし、徳島の剣道発展のために少しでも貢献できるように、取り組んで行きたいと思えます。これから、ご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願いたします。最後になりますが、お声を掛けてくださった先生方、資料などの準備にご協力くださった剣道連盟の先生方に心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

第49回剣道中堅剣士講習会資料

日時 平成23年5月20日(金)

* 目的～「剣道理念」を深く理解し高い水準の剣道を目指す。

重点事項～正しい攻防の中から懸待一致の理合を理解する～

習技者の留意点

- : 所作、礼法、着装
- : 竹刀の操作（鎧を意識した使い方）刃筋・手の内・冴え等
- : 「懸待一致」の理合を理解し、（足を懸かり、手を持ち）一足一刀の間合から一拍子で正しく打ち切る。
- : 気構えを強くして中心を外さず、攻め合いから積極的な先の気持ちで崩し打突する。或いは相手に技を出させる。（攻めと先・攻めと機会）
- : 受けるだけではなく、相手の打突を無効にし、力を利用し応じて打突する。
- : 足捌き・体捌き・剣捌き

元立ちの留意点

- : ただ単に打たせるのではなく、氣勢を充実させて間合の攻防の中から、一拍子で正しく打ち切らせる。
- : 打突の好機を見て技を出させる。

技の習得（応用動作）

- しかけていく技 ～ 攻め・崩し（触れる、押さえる、払う、捲く）心の収まりと左手の収まり、気剣体一致、手の内
 - * 一本打ちの技、払い技、2・3段の技、出ばな技、引き技、かつぎ技、巻き技、片手技
- 応じていく技 ～ 誘い、予知、間合と拍子の調和、手の内
 - * 面に対して 抜き技～抜き胴・抜き小手・抜き面
すり上げ技～すり上げ面・すり上げ小手
返し技～返し胴・返し面
打ち落とし技～打ち落とし面
 - * 小手に対して 抜き技～抜き小手・抜き面
すり上げ技～すり上げ面・すり上げ小手
返し技～返し小手・返し面
打ち落とし技～打ち落とし面

稽古上の留意点

* 溜める・矯める

： 気合、気力の充実が溜めの根本であり、気力が剣先に集まり気が宿る。すると竹刀が腕の一部となり最後は体の一部になる。

* 剣先が利くように剣先を柔らかくする

： 浮木の扱いで剣先が正中線からはずれないようにし中心を取り合う。攻めるべき正中線と守るべき正中線

* 竹刀を刀の観念で把持し鎧を意識し攻め合う

： 竹刀と捌きを同調させて剣捌き・足捌き・体捌きで鎧を点で使ったり、線で使ったりして攻防の中から、仕掛け技・応じ技に転じる。刀法は表裏の鎧にある。

* 身体の全ての間接を曲げず伸ばさず柔軟に保つ

： 心・身の構えを調える。努力呼吸で息を整え肚まで下げる。

* 機先を制し遠間から理合によって気・剣・体で攻め一足一足の有利な間・間合を作る

： 一拍子で打ち切れる自己の打ち間を作る。打ち切る即ち捨てきる。

* 技の体現・最高の状態をイメージする

放心： 観見の目付・有声で気力の充実・機先を取る

↓

姿勢： 調身・調心・調息（相を正す～後ろ姿）、懸待一致（上虚下実）

↓

体制： 打突の瞬間の身体の勢い・心気力の一致

↓

余勢： 衰えない勢い・残気

↓

残心： 縁を切らない

平成23年度（第49回）剣道中堅剣士講習会日程表

平成23年5月18日（水）～22日（日）於：奈良市中央武道場

財団法人 全日本剣道連盟

	5月18日（水）	5月19日（木）	5月20日（金）	5月21日（土）	5月25日（日）
起床 6:00					
6:30					
7:00		稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師
8:00		朝食	朝食	朝食	朝食
9:00					
9:30		審判法実技	指導法	指導法	スポーツ医学 佐本講師
10:30		網代講師 香田講師 全講師	石塚講師 全講師	中田講師 全講師	質疑応答
10:45					閉講式
11:00					
12:00		昼食	昼食	昼食	
14:00		指導法講話 田口講師	木刀による 剣道基本技稽古法 上垣講師 千葉講師 全講師	日本剣道形 田口講師 中田講師 全講師	
14:30	集合（事務連絡）				
15:00	—開校式— 趣旨説明 浅野常任理事	指導法 島野講師 全講師	指導法 小坂講師 全講師		
15:30	講話 松永副会長				
16:30		稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師
17:30					
18:30	入浴 夕食	入浴 夕食	入浴 夕食	入浴 懇親会	
19:30					
消灯 22:00					

◎講師の都合により変更の場合もあります。

平成二十三年度全日本剣道連盟後援 徳島県剣道連盟秋季講習会記録

事務局次長 手塚 十三子

期 日 十月二十三日(日)

場 所 鳴門ソイジョイ武道館

講 師 鈴木康生 教士八段(和歌山)

受講生 六十名

わが国の伝統文化である剣道の正しい普及発展と競技力の向上を目指して、本県では今年も「日本剣道形」と「指導法」についてご指導をいただきました。

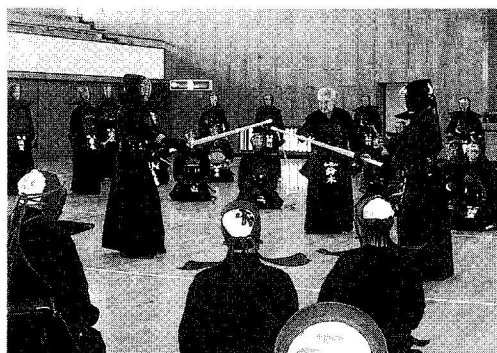
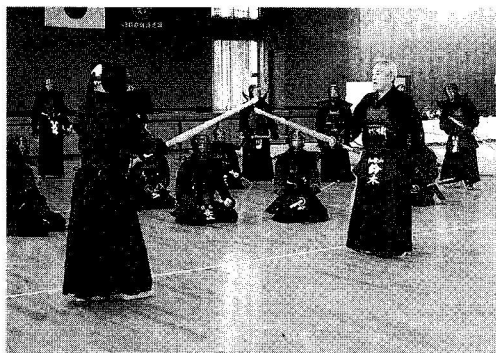
「日本剣道形」では形の制定の経緯、所作など、解説書にはない事柄まで詳しくまた興味深くお話いただき、日本剣道形に対する認識を新にいたしました。また、形の実技においては、その要点を、実技と伴いながらわかりやすく繰り返し丁寧に指導いただきました。

「指導法」では、「木刀による剣道基本技稽古法」を防具を着けて、竹刀で実際に打突する稽古法を行いながら、しかけ技、応じ技をより実践的にご指導いただきました。随所で「引きつけ」の重要性を強調され、ともすれば習慣、また、おざなりになりがちな点を細かくご指摘いただきました。

また、合同稽古においては、

「先生方が何のために打ち込み稽古をさせてくれるのか？」―「常に気持ち小さい身体の動きの攻めで相手をとらえに行くように(先の気)」「こちらが先をかけたつもりでもすでに先生方のほうが予め、身体も気も先をかけている」「上位の先生方は、そこ」というところを絶対に許さない」と、先生は額から流れ落ちる汗を拭うこともなさらず、熱い眼差しで指導くださいました。昇段審査の要領や心構えについてもお話いただき、稽古に一層熱が入りました。

講評では、「徳島の皆さんが剣道を求めている姿に感動しました。剣道は礼に始まり礼に終わります。剣道は技の修練も大切ですが、心の修練により、礼節や品性を身につけることができます。今後ますますの修練を期待します。」とのお言葉が頂戴しました。丹生谷支部長富田 正先生の謝辞により、講習会は無事終了しました。



日本剣道形

1、日本剣道形の制定

日本剣道形は、明治44（1911）年7月の改正中学校令施工規則において、正課として剣道・柔道が採用されるに及び、大日本武徳会・文部省高等師範学校が協議し、指導上の統一を図ることを目的に、根岸新五郎（東京）、辻真平（佐賀）、内藤高治（武徳会本部）、門名正（武徳会本部）、高野佐三郎（東京高師）、の五氏を主査に各都道府県から著名な先生を招聘して、鋭意調査協議の結果、大正元（1912）年10月にいずれの流派にも属さない各流派統合の象徴として制定されたものである。大正6年加注、さらに昭和8年に増補加注したものを原本とする。

昭和27年全日本剣道連盟結成以後「日本剣道形」と改称し実施した。昭和56年に全日本剣道連盟の統一見解として日本剣道形解説書を制定した。

2、日本剣道形の意義・目的

日本剣道形は、長い歴史を持ち、理合い精神面に深い内容を持つまでに発達した文化遺産である。この伝統文化剣道形を正しく継承し、次代に伝えることは我々の使命であり、大きな意義がある。

剣道形修練の目的は、技術力の向上を大きな狙いとして実施するのであるが剣道形を繰り返し修練することによって、剣道の基本的な礼儀作法や技術剣道法上の理合いなどを修得できる。さらに内容的な気の働きや、気位、風格といった剣道の原理、原則を会得でき、剣道の規範となるものである。

幕末の剣客、窪田清音は「形を本とし、仕合をむねとし、その心の如くになり得ることこそ形の本用なればなり」と説き形は試合の手本であることを教えている。「形」の重要性を認識し、平素から剣道形の修練に努めることが大切である。

3、日本剣道形の効果

高野佐三郎著「剣道」では「斯道の練習法三様あり、第一形の練習、第二仕合、第三打ち込み稽古、是なり」と形修練の重要性を説いている。剣道形の修練により以下の効果が得られる。

- ① 礼儀作法や落ち着いた態度が身につく。
- ② 姿勢が正しく、動作も機敏になる。
- ③ 相手の気持ちや動作を観察する観の目が養われる。
- ④ 技術上の悪癖をなおすことができる。
- ⑤ 呼吸や正しい太刀筋を会得できる。
- ⑥ 間合や打突の機会を修得できる。
- ⑦ 打突が正確になり残心が会得できる。
- ⑧ 気が練れて、気迫・気合いや発声が充実してくる。
- ⑨ 心と技の理合いが会得できる。
- ⑩ 気位が高まり、気品や風格が備わる。

4、日本剣道形指導の留意点

- 1) 立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱い。
- 2) 正しい刀（木刀）の操作（刀筋、手の内、鎧の使い方、一拍子の打突など）や体さばき。
- 3) 打太刀、仕太刀の関係を理解し、呼吸を合わせ、原則として仕太刀が打太刀より先に動作を起さないこと。
- 4) 打太刀は間合いに接したとき、機を捉えて打突部を正しく打突し、仕太刀は勝機を逃がすことなく打突部で打突部位を正確に打突すること。
- 5) 形の実施中は、目付け、呼吸法、残心などを心得て、気分を緩めることなく終始充実した気迫で行なうこと。

5、所作などの共通理解

- 1) 中段の構えの延長とは棟の鑿元と切先で直線を結んだ延長をいう。
※一足一刀の間合いから、両眼の中央または左眼とする。小太刀もこれに準ずる。
- 2) 太刀一本目、打太刀が正面を打ち、抜かれた剣先の高さは下段程度。
- 3) 四本目、双方切り結ぶ位置はおおよそ太刀の中央部で剣先は正面の高さ。
- 4) 五本目、中段の構えの刃先はやや斜め下。
- 5) 六本目、仕太刀がすり上げ小手を打つとき、右足を踏み出し左足を引きつけることを原則とするが、間合いによって引きつけなくても踏みだしたと解釈する。
- 6) 七本目、仕太刀がすれ違いながら胴を打つ方法
イ. 右足を右前にひらいたとき刀を左肩上方に振り上げ左足を踏み出すと同時に振り下ろす。
ロ. 右足を開いたとき、刀は振り上げず、左足を踏み出すと同時に振り上げ振り下ろす一拍子のうちで行う。
- 7) 小太刀半身の構えの刃先の方法
イ. 中段半身の構えとは、刃をやや斜め下に向ける。
ロ. 下段半身の構えは、刃を真下とする。

資料：高野佐三朗「剣道」・社会体育教本・日本剣道形解説書・剣道講習会資料

剣道基本技術実習及び指導法

1. 礼法（礼の仕方）・・・①正座 ②座礼 ③立礼
2. 基本動作・・・指導者は基本動作の重要性を認識し、正しく指導することが剣道場達の最も近道である。
 - ①姿勢と構え…基本的な構えには、「中段・上段・下段・八相・脇構え」の五つの構えがある。
 - ◎中段の構え
 - 1) 竹刀の持ち方
 - 2) 足の位置
 - 3) 目付〔遠山の目付・二つの目付・脇目付・観見の目付〕
〈紅葉の目付〉 〈帯の矩〉
 - ②構え方と納め方
 - 1) 堤刀姿勢
 - 2) 帯刀姿勢
 - 3) 蹲踞姿勢
 - ③足捌きの種類と方法
 - 1) 歩み足
 - 2) 開き足
 - 3) 継ぎ足
 - 4) 送り足
 - ④素振り
 - 1) 上下振り
 - 2) 斜め振り
 - 3) 空間打突

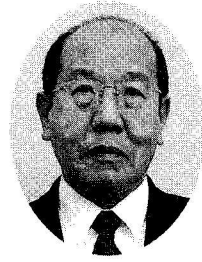
}	正面打ち・左右面打ち
	胴打ち・右小手打ち・突き
	跳躍素振り（早素振り）
 - ⑤基本打突…（打ち方・打たせ方・突き方・突かせ方）
一般的には「気剣体一致の打突」ともいわれている。
 - ⑥切り替えし…打ち方・受け方
基本動作の総合的な稽古法である。
◎掛け声 ◎間合 ◎体当たり ◎鑢ぜり合い（引き技） ◎残心
3. 応用動作（对人的技能）

剣道の对人的技能は「攻めて打つ」ことによって成り立っている。相手を制するための重要な教えとして「三殺法」がよく知られている。

 - ①しかけ技…攻めに対する相手の剣先の変化をとらえた打突
 - 1) 一本打ちの技
 - 2) 連続技〔二・三段の技、体当たり引き技〕
 - 3) 払い技
 - 4) 引き技
 - 5) 出ばな技
 - ◎捲き技 ◎かつぎ技 ◎片手技 ◎上段技
 - ②応じ技…「応じ技の応じる」ということは単に「受ける」ということではなく、相手の力を利用して打突することを目的とする。
 - 1) 抜き技…相手が打ち込んでくるのに対してあましたり、体をかわして相手に空を打たせ、技や体の尽きたところを打つ技である。
 - 2) すり上げ技…相手が攻めて打ち込んできた竹刀を「左側・右側」ですり上げ、体勢の崩れた所を打ち込む。
 - 3) 返し技…相手の竹刀を迎えるようにして応じて、応じた反対の部位を手を返して打つ。
 - 4) 打ち落とし技…左斜めに体をさばきながら物打ち（刃部）のあたりで打ち落とす。
〈切り落とし技〉 （相手の竹刀よりもさらに大きく竹刀を振り上げる）
4. 稽古法
 - ①基本稽古…1) 切り返し 2) 約束稽古 3) 打ち込み稽古 4) 掛かり稽古
 - ②互格稽古 ③引き立て稽古 ④試合稽古 ⑤様々な稽古の仕方や形態
5. 試合

日本剣道形（初心者）講習会の報告

審査部長 兵 藤 新 平



平成二十三年度の日本剣道形講習会を八月六日、七日の両日、ソイジョイ武道館にて実施しました。受講者は四十名余で（中には数名の有段者も受講されていきました。）ほとんどが中学生であります。

その中で中学校に剣道部がないとか、剣道部があっても指導者がいないとか、いろいろな現状を耳にします。そういうことからこの講習会は非常に有意義であり、今回の講師、近藤巨先生が日本剣道形指導の重点事項にもなっております次の事項を初心者非常に解りやすく指導、説明して頂きました。

一、立会前後の作法、立会いの所作、刀の取り扱い方
二、正しい刀（木刀）の操作（刃筋、鎧の使い方、一拍子の打突）や体さばき

三、打太刀、仕太刀の関係

四、打突部で打突部位を正確に打突すること

五、形の実施中の目付け、呼吸法、残心……など。

それから、初心者に正しい日本剣道形をしっかり覚えてもらうために、前回から講師のほか指導者を四名ほど動員して実施しております。

日本剣道形は、昇段審査に於いても、実技審査、学科審査と並列した重要な審査科目であります。審査のためには、剣道の基本、質の向上を図るためのものであることを認識して、初心者はもちろんのこと、上級者も正しい剣道を習得するためにも、平素から日本剣道形の修練に努めてほしいと思います。最後になりましたが、受講生の皆様、真夏の暑い中ご苦労様でした。また、終始熱心にご指導して頂きました近藤先生、ほか指導者に厚くお礼申しあげます。



第十四回全剣連社会体育指導員 上級コース養成講習会

名西支部 久保隆司

この度、滋賀県立武道館で平成二十三年三月十一日（金）～十三日（日）にわたって行われました社会体育指導員養成講習会上級コース（講習&試験）に全国から受講生三十一名（教士八段三名・教士七段十九名・錬士七段九名）の参加がありました。徳島県からは海部支部の美馬和義先生と私が参加し、後日、試験の採点結果及び合格証書が送られてきました。その結果、美馬先生と共に徳島県で初めて上級指導員の資格を取得することが出来ました。また、十月一日付で日本体育協会公認スポーツ指導員公認剣道指導者の資格、登録証、認定証も合わせて取得することが出来ました。

平成十四年九月徳島県那賀郡鷲敷町で初級コースを、平成十八年十月愛媛県伊予市で中級コースと足かけ九年（年度で八年）自分の剣道を錬磨しながら、社会体育指導員養成講習を受講して参りました。その間、指導者としての役割を果たせるように地域に貢献する活動、幼少年から青壮年の正しい剣道を通じて、礼節から健全な体力、精神力、氣力、技術力、伝統文化の継承を心がけてきました。

特に、上級指導員は初級中級指導員他一般指導者を指導する立

場であり、更に自己の錬磨研鑽に努力し、高い指導力、技術力を持ち、全剣連による剣道指導要領及び社会体育教本改訂版、各年度重要項目、講習会指導方針に従い正確に伝承指導をして行くこととされています。とても重い責務を与えられ、心して対処しなければならぬと思います。

「社会体育指導員の資格を取って、何のメリットがある？何が出来るん？何の得があるでえ？資格取っても得なこと無いでえ！資格を持っていない講師（全剣連範士）が指導員の講習、審査するっておかしいでえ？」って私に問いかけられた剣道指導者が、多数いらっしました。指導者とは、どう取り組まなければならぬかを、もう一度よく考え、自己研鑽しながら、全剣連の流れ方向性、各年度重点項目を把握して活動して欲しいものです。

全剣連の動きを理解するには月刊誌剣窓（年間購読料 三、一五〇円）を購読するのが一番経費も少なく早く方向性を見つけ理解出来ると思います。また、社会体育指導員養成講習会各コースに参加（一期一会）することで、講習会で学び会得した技術、理論、研究分析そして、自分の力量を把握することで身も心も引き締め、新鮮な気持ちになります。また、講師の先生方と受講生同士（交剣知愛）の友情が生まれ、将来の指導者同士の道友として、絆が深まることは間違いなしです。

これからは徳島県の先生方におかれましても、社会体育指導員講習会へ大いに参加していただき、社会体育指導員資格取得者、剣窓購読数、全国ワースト1の汚名を打破して頂きたいと思いま

第14回全剣連社会体育指導員養成講習会（上級）日程表

〔平成23年3月11日（金）～13日（日）於・滋賀県大津市 滋賀県立武道館〕

時 限	時 刻	第1日目（3/11 金）	第2日目（1/12 土）	第3日目（3/13 日）
1	06:30 ↓ 07:15		トレーニング実習 （山神講師）	実技実習3
	07:30 ↓ 08:00		朝 食	朝 食
2	08:30 ↓ 09:15	8:30 受付開始 9:20 ガイダンス	剣道安全管理 （山神講師）	剣道指導の心構え （作道講師）
	09:25 ↓ 10:10	9:50 開 講 式	審査員のあり方 （真砂講師）	剣道技術論 （網代講師）
4	10:20 ↓ 11:05	課題学習テスト① 論文審査②	木刀による剣道基本稽古法 （松井講師）	剣道現代史 （杉江講師）
	11:15 ↓ 12:00	剣道指導者のあり方 （剣道授業の展開） （目黒講師）	日本剣道形指導法 （松井講師）	これからの剣道 （武安会長）
	12:00 ↓ 13:00	昼 食・休 憩	昼 食・休 憩	昼 食・休 憩
6	13:00 ↓ 13:45	審判指導法 （網代講師）	日本剣道形実習および 指導演習テスト④⑤	理論テスト⑦
	13:55 ↓ 14:40	審判法実習および 指導演習テスト③	日本剣道形実習および 指導演習テスト④⑤	着替え・閉講式
8	14:50 ↓ 15:35	審判法実習および 指導演習テスト③	剣道技術および 指導法3 （鈴木・網代講師）	判定会議
	15:45 ↓ 16:30	審判法実習および 指導演習テスト③	剣道技術および 指導法4 （鈴木・網代講師）	
10	16:40 ↓ 17:25	剣道技術および 指導法1 （鈴木・目黒講師）	剣道技術テスト⑥	
	17:35 ↓ 18:20	剣道技術および 指導法2 （鈴木・目黒講師）	剣道技術テスト⑥	
12	18:30 ↓ 19:15	実技実習1	実技実習2	
	19:15 ↓ 22:00	入浴・夕食 自由時間 就 寝	入 浴 交 流 会 就 寝	

す。僭越ながら、数多くの先生方の前向きな取り組みと修練の向上に努めるよう参加をお願いいたします。

なお、平成二十五年東京都国体以後の剣道競技成年監督の条件

に、社会体育指導員と日体協公認剣道指導員の資格認定取得者であることとなっています。

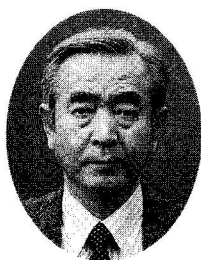
参考として日程表については下記の通りです。

徳島の剣道史

阿波刀の歴史（古刀編）

坂本憲一

はじめに



我が国の刀は、時代的にみて、上代刀・

古刀・新刀・新々刀・現代刀に区分し、

古墳時代から奈良時代までのものを上代

刀、平安時代から室町時代のを古刀、それ以降江戸末期までのものを新刀、幕末から明治初年の廃刀令までのものを新々刀、廃刀令以降、現代に至るものを現代刀という。

本県では、上代刀期のものは、出土品としてわずかにその遺品を見るが、隣県の高知県にあるような完全な伝世品（国宝、金銅荘環頭大刀、小村神社所蔵）は皆無である。県内にはっきりとした刀工群が現れるのは、鎌倉・南北朝期を下る室町初期で、その拠点地となったのが県南の海部川流域である。これを世に「海部刀」といい、その道統は盛衰こそあれ新刀・新々刀期まで連続として続いて行く。ここでは、古刀期の海部刀を中心に、歴史的背

景・刀工の概要と各刀工の作刀例について述べる。

海部刀の歴史的背景と海部刀工

阿波において刀工の存在を示す最古の記録は、延喜五年（九〇五）に撰進された『延喜式』の記録で、その巻二十八兵部省の部に諸国器杖として「阿波国、甲二領、横刀七口、弓廿張、征矢廿具、胡籐廿具」と記され、横刀（直刀）が七口、阿波の国司管理で貢納されていたことがわかる。しかし、横刀七口の製作地についてはさだかでない。

時代の下がる古文獻では、鎌倉時代の海部刀工として、嘉元（一二三〇）の頃に「氏吉」、徳治（一二三〇）の頃に「藤」、正中（一二三四）の頃に氏房が登場するが、今だそれを実証する在銘刀は見ない。

南北朝時代の阿波国守護は細川氏である。細川氏は備中から阿波に入国した。細川頼春の佩刀が備中青江の次吉の太刀であったことが、先祖を備中の刀工とする原土青江氏の系図に見えており、このことから備中青江派の刀工が頼春に従い阿波に駐槌したことは容易に推測できるが、青江派が刀工として阿波に根付いた形跡は見いだせない。南北朝時代、海部の地には、すでに房吉・氏吉・氏重・有吉等の刀工がいたとされるが、この時代をはっきり実証できる年紀刀は無い。

海部川流域に刀工集団が現れるのは、確認できる年紀銘からすると室町時代の応永年間（一三九四〜一四二七）からである。

室町幕府を支えた主力は管領細川氏で、この在京管領家の本拠は阿波の細川氏であった。細川氏が他の管領斯波・畠山氏を抑えて勢力を伸ばしていくためには常に強大な武力が必要であった。とくに応仁の乱から両細川の乱にかけて、阿波からの畿内への軍勢はさらに増大し、武器の需要は夥しく、海部刀の生産は大幅に拡大する。

海部刀の繁栄は、細川氏の被官となる海部氏が海部の地に台頭して海部川流域を中心に支配した時代、すなわち、海部吉辰から藤原持共・藤原持定、下野守之親・左近将監友光、左近将監吉清の吉野城・海部城時代、つまり応永から天正三年にかけての約一五〇年間である。

海部城主の海部吉辰は、藤原の姓を名乗り、藤原吉辰として、自ら海部刀を製作して「藤」と銘を刻むなど刀剣製作を富国強兵策の一環とした。このように海部刀は歴代の城主自らが刀工であるという特殊性をもち隆盛を極めていったところに大きな特徴がある。そして、一方では海部氏は同じ細川氏の被官三好氏と共に阿波細川方の有力な武将の一人として畿内に従軍して転戦する。

戦国時代はまさに下克上の時代である。室町末期になると三好氏が細川氏にとって変わり、権力を手中に納めた三好氏の勢力は近畿・中国・四国の八カ国に及び、その力は將軍足利氏をも圧するようになる。こうした戦国の世の度重なる戦乱は海部刀の生産をさらに拡大させることになる。

古刀期の海部刀工と作風

海部刀工の祖とされる刀工には、師久・藤・氏吉がいる。中でも氏吉は銘ぶりから数代あることが確認されるが、氏吉の代表作として岩切海部の号をもつ刀がある。岩切海部は、八代將軍吉宗の命によって編集された『享保名物帳』の所載刀で、相州伝を彷彿とさせ、「鞘書」には「三好長慶家代々此剣を以て高名数度の由申伝と有之」とあり、三好長慶の所持刀として江戸時代から広く世に知られていた名刀である。



海陽町笹無谷口にある刀匠海部氏吉の記念碑

応永初期の年紀「応永二年十一月（以下切れ）」が確認される短刀は師久の作で、師久は薩摩国波平より阿波に来て海部刀の祖の一人となる刀工である。この応永二年の年紀銘は現在発見されている海部刀の中では最古である。

この期の海部刀工は、大別して、刀工銘の頭に「師」・「氏」・「泰」・「房」を冠するものがある。師を冠するものには・師久・師次・師宗・師実等があるが、師久以外は実刀を見ない。氏を冠するものには氏吉・氏善・氏久・氏重・氏宗・氏実・氏房・氏儀・氏定・氏舎・氏真・氏宣・氏則・氏安・氏次等、泰を冠するものには泰氏・泰信・泰光・泰吉・泰長・泰国・泰久・泰重等があり、房を冠するものとして房吉が数代ある。

その他、文献上でしか確認できない刀鍛冶には政泰・吉久・輝氏・義安等数十人があり、これらを含めると室町期の海部刀工は凡そ七〇名を数える。

作風を大別してみると氏吉には相州伝風のものが多く見られ、氏善・泰光・泰長・泰信・房吉の刀は大和伝と波平伝の作風が色濃く見られる。特に藤の刀には九州の波平伝が顕著に現れている。

表 文献上にみられる古刀期の海部鍛冶

師久	藤	氏吉	氏久	氏重	氏房	氏善	氏儀
氏宗	氏次	房吉	泰吉	泰長	泰光	泰国	泰氏
泰久	泰信	有吉	在吉	氏舎	氏真	氏貞	氏宣
氏則	氏安	清春	清寿	清泰	助久	恒則	友久
具氏	久安	広貞	廣行	廣吉	房士	政泰	道正
宗吉	師次	師宗	師実	安吉	吉氏	吉久	吉房
吉宗	国吉	正永	国宗	正次	吉国	盛綱	義安
助久	氏實	義氏	ヤスヨシ	輝吉	輝氏	輝重	泰重

(参考 図録「阿波海部刀の世界」)

九州波平伝と海部刀

刀の作風は刀工の系統と技量、加えて素材となる砂鉄の産地に大きく左右されるが、海部の地には海部刀工群の需要に応えるだけの砂鉄は産しない。阿波国全域からしても同様である。それでは海部伝の技法と砂鉄はどこからもたらされたものなのか。作風としては、海部刀の始祖とも言われる師久が九州薩摩国の波平から阿波の海部に来て、その伝法「波平伝」を伝えたことは、今や通説となっている。従って、この期の海部刀が著しく波平伝という作風を持つことからして、当然ながら九州産の砂鉄（浜鉄）が移入されたと考えられる。それは、『兵庫北関入船納帳』に記載されている海部船の頻繁な出入りから推しても、九州産砂鉄の確保は関西経由での輸入が肯定されることである。

現海陽町の芝にある「北山薬師」は、その由来記の中に「薩摩の郷北山薬師」と記されており、芝の地が古くは薩摩郷と呼ばれていたことから薩摩と海部の密接な関係が裏付けされるところである。

古刀期の他国系刀工

古刀期の刀工は海部の鍛冶集団に集約される感があるが、室町末期になると他国より阿波にきて土音を響かせる駐槌刀工の存在がある。彦兵衛尉祐定、兼藤兼光、大月国久等である。

彦兵衛尉祐定は、備前国の長船鍛冶で、県西の池田で作刀した。天正一九年（一五九一）、岡山の吉井川は大洪水に見舞われ、長

船村の天王原の堤が三八〇間に渡り決壊し、長船鍛冶は大打撃を受け壊滅状態に陥るが、この時期、彦兵衛尉祐定は阿波国にいて難をのがれた。同工の作品には、「備前国住長船藤原彦兵衛尉祐定 阿〇〇三好郡作之 天正十八年二月吉日」・「彦兵衛尉於阿州作之 文禄三年八月日」・「備前国住長船彦兵衛尉祐定 阿州於三好郡池田作之」等と銘を切ったものが残されている。

彦兵衛尉祐定は、後の慶長三年（一五九八）に大西城番を努めた中村右近の庇護により、同武將の佩刀を造るなどして数ヶ年阿波に滞在、以後この子孫が代々「祐定」を名乗り、阿波祐定として、その末裔は幕末まで刀鍛冶を務める（徳島の剣道 阿波刀の歴史新刀編参照）。

室町末期の海部氏吉の刀には、この彦兵衛尉祐定の作風に酷似する「阿州海部住藤原氏吉」銘の刀があるが、これは中村右近が池田城城番以前、海部城の城番を努めたことから、同武將を介しての地場の氏吉と彦兵衛尉祐定の技術交流を窺わせる一振りである。本刀には、本間薫山博士の鞘書に「天狗退治用 倣彦兵衛祐定之阿州打坎」とある。

兼藤兼光は、元は今川義元の抱工である。永禄三年（一五八〇）、桶狭間の戦いで義元が敗死した後、阿波国の山城谷（現三好市山城町）の大野名に落ちのびてきたと伝えるが、今だ完全な銘の作品は見ない。現在、この刀工の作品と思われる刀が一振り現存する。「阿州兼（以下切れ）」と銘があり、刃文は、三本杉風の互の目乱れを焼くことから関鍛冶であることが窺われ、これがこの刀工の作と思われる。『山城谷村史』にはこの刀工に付いての記述

がある。

大月国久は、これも『山城谷村史』に記載のある刀工で、元龜年中（一五七〇）、大西頼武の招聘に応じ、備中水田から大月国重一派の国久が来国し、山城谷大月名の地で作刀、地名もこれによって呼ばれるようになったと同書に記載されている。大月の地名は、阿波市市場町大月にもあり、この地名も新刀期の大月国重が阿波に来国したことに由来する。

国吉は、刀剣関係の名鑑によると「阿州西宇住国吉作延徳頃」とあるが、西宇は現那賀郡木頭村と県西の山城町にあり、その何れとも判断しがたいが、他国からの駐槌ではなく海部より出た県内移住の刀工と思われ、茎が極端に短い末古刀を彷彿とさせる刀が二振り、脇差が二振り確認されており、何れも海部系の作品である。

古刀期の代表的作例

海部刀で年紀銘のある優品は、室町期のものに集中している。それ以前のものは後世に摺り上げられて無銘刀となっている。こうしたことが海部刀の優品は相州上工の江義弘等の作品に化けているといわれる所以である。

年紀銘のある刀を例に挙げれば、次のようになる。最も古い年紀を示すものは脇差で、前掲の阿州住師久作（年紀銘、応永二年十一月日）である。続いては短刀の阿州宮井住師久作（年紀銘、応永四年十月一日）、刀では阿州泰吉作（年紀銘大永五年二月日）等がある。ここでは海部刀を中心に代表的な作例を紹介する。

阿波刀紹介1

名称 脇差 銘 (表) 阿州住師久作

(裏) 応永二年十一月(以下切れ)

法量 刃長三〇・〇^弍、反り内反り、元幅一・六^弍、先幅二・〇^弍、元

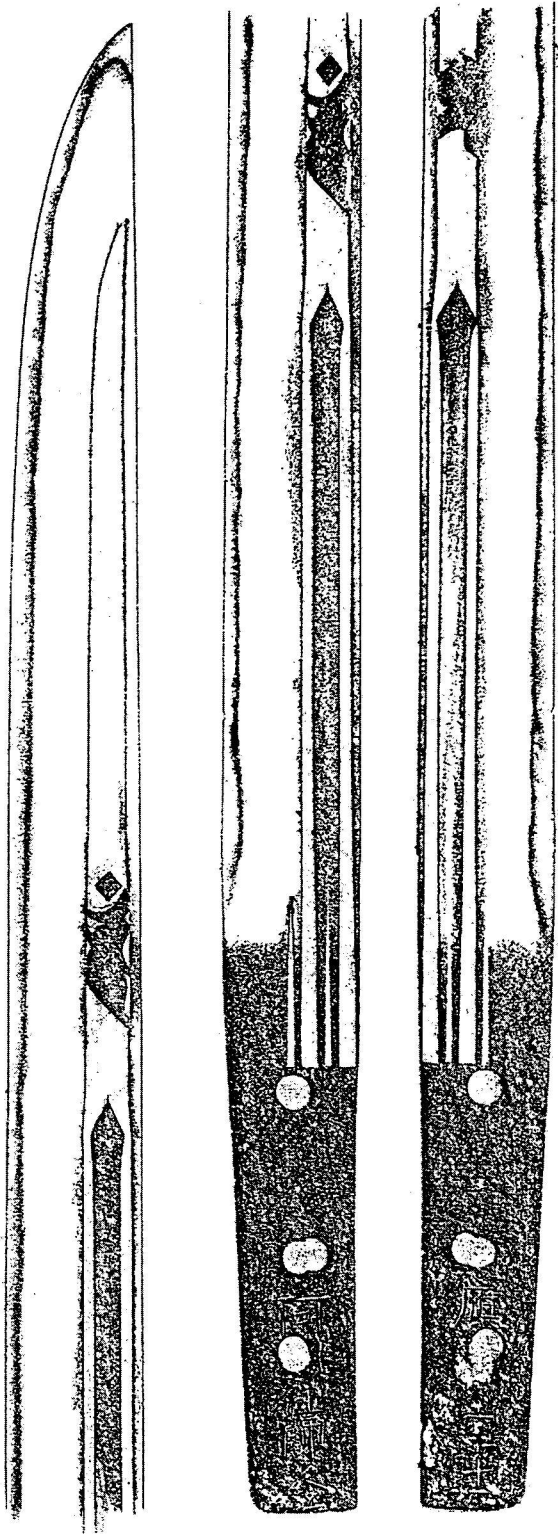
重〇・五^弍、先重〇・四^弍、茎長二一・二^弍。

解説 形状は、平造、丸棟。地鉄、板目よく詰み、地沸厚く付き匂い口締まって冴える。刃文は、直刃でわずかに湾れ刃交じる。帽子は、小丸に品よく返る。彫刻は、表裏に棒樋の中に素剣と梵字、わずかに添樋が残る。茎は、目釘孔三個、鍔目は勝手下がり少し摺り上げて先は切。茎の中央部に細タガネで表に「阿州住師久」、裏に「応永二年十一月(以下

切れ)」の銘がある。

作者師久は、阿波海部系の祖といわれ、薩摩国の波平から阿波に來国したとされる刀工である。波平ものには大和色が顕著に現れるものもあることから、古刀海部伝の伝搬経路は、五ヶ伝の一つ大和伝が奈良から九州の波平へ伝わり、そして阿波の海部へ伝わったとする説もある。応永初期の年代は、海部川のほとり芝の地に薩摩郷ができた頃であり、このことは海部の薩摩郷八幡宮奉納の大殿若経の奥書きの応永年号からも証される。本刀にみる応永二年の年紀銘は現在発見されている海部刀中、最古のものであり極めて貴重な一振りといえる。

押形



(整理番号109号)

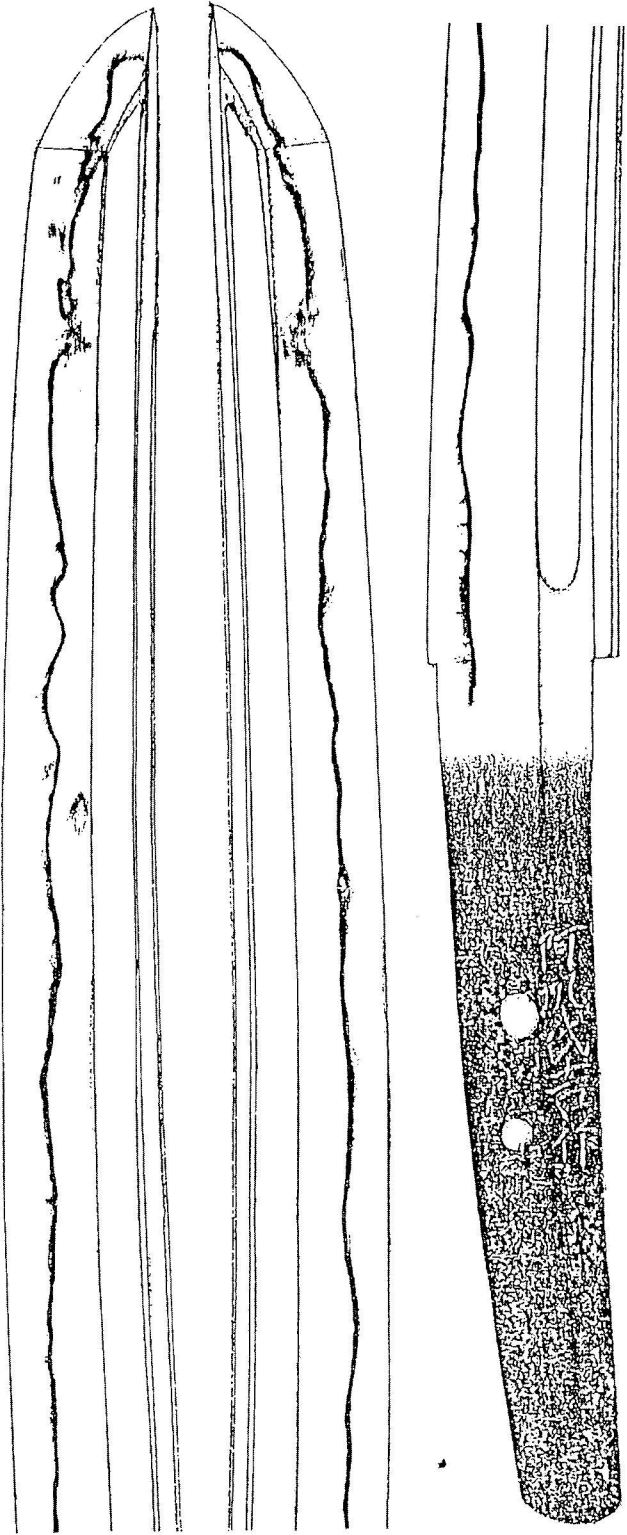
阿波刀紹介2

名称 刀 銘 阿州氏吉作 (名物岩切海部)

法量 刃長六三・一サ、反り二・三サ、元幅二・八サ、先幅一・八サ、切先長二・五サ、元重〇・九サ、先重〇・五サ、茎長二八・三サ。

解説 形状は、鑄造、三ッ棟。腰反り、踏張りつき、小切先。地鉄は、小板目に小柰目交じりよく詰み、地沸細かに厚くつき、地景入り、地斑交じる。刃文は、広直刃調に浅い小湾れと互の目交じり、小足、葉少し入り、匂い深く小沸つく。帽子は、のたれ込み先大丸ごころに焼き詰め。彫刻は、表裏に丸止めの棒樋。茎は、生ぶ。目釘孔一個、鐔目は勝

押形



手下がり、茎尻は刃上がり栗尻。目釘孔上から鑄地に「阿州氏吉作」の銘がある。物打ち辺から焼上がる刃紋は相州上工の江義弘を思わせ、三好長慶旧蔵、黒田家伝来、加えて江戸時代の『刀剣享保名物帳』所載という堂々たる来歴をもつ。

本刀の添状には「三好長慶家代々此剣を以て高名数度の由申伝と有之」とあり、名物帳には、「岩切海部」として記載されている。岩切の刀号は切れ味の鋭利さからといい、海部刀はよく切れるという評判はこの刀から発する。

(整理番号 680号)

阿波刀紹介3

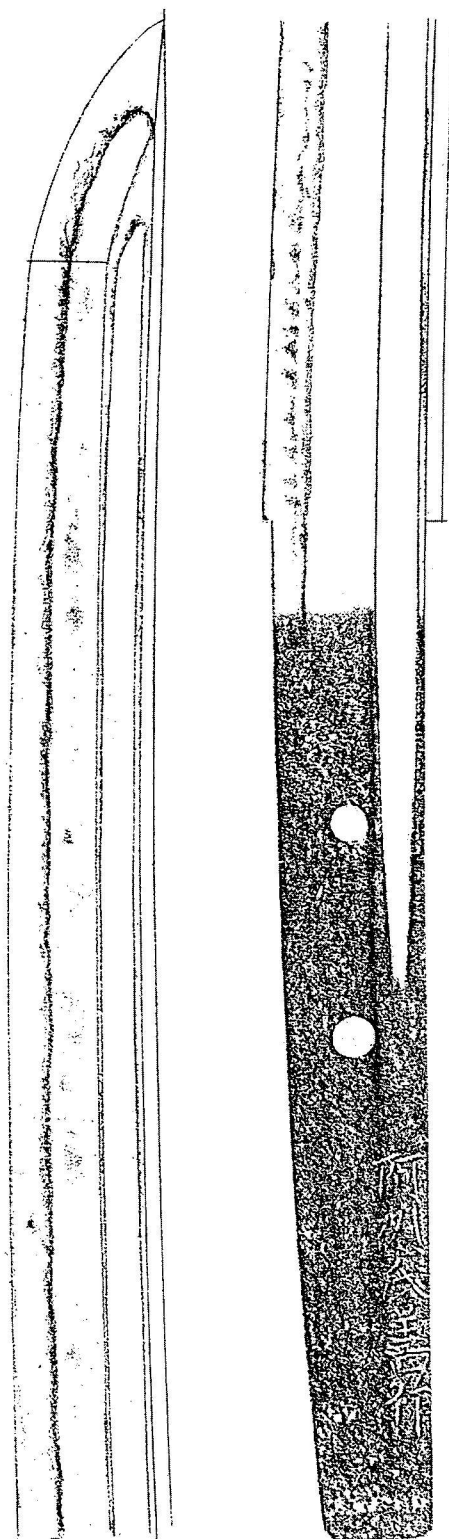
名称 刀銘 阿州氏善

法量 刃長六九・〇^セ、反り一・七^セ、元幅三・一^セ、先幅二・二^セ、

元重二・二^セ、先重〇・四^セ、茎長一九・七^セ。

解説 形状は、庵棟・鎬造、身幅広く、重ねは厚く、姿豪壮、中切先延びる。地鉄は、板目肌が流れごろによくねれ、地沸厚く付き、処々に澄肌入る。刃文は、わずかに湾たれたた広直刃で、刃縁には小沸つき、砂流しかかる。帽子は、わずかに湾たれて小丸に返り先掃掛ける。彫刻は、表裏に棒樋を掻き流す。茎は一寸程摺り上げて、茎尻は角を取った切。

押形



目釘孔下鎬地に「阿州氏善作」と細タガネによる銘がある。

本刀は、地鉄が詰み、澄肌が来地鉄を彷彿とさせ、直刃を焼いて山城伝の来派をねらったものか。常にみる海部物より一段と垢抜けしている。

この期の刀工には氏義・泰長・泰光などにも同様な作品がみられるがこれほど来派に近づいた作品は他に例を見ない。故に本間薫山博士の鞘書に曰く「大天狗小天狗鼻折刀」とある。これは、自信たっぷりな数寄者（大天狗・小天狗）たちが、本刀を地方鍛冶の作（海部刀）とは見ず、あっさり和本国物（山城伝上作）に見紛う刀という意味である。

(整理番号189号)

阿波刀紹介 4

名称 短刀 銘(表) 阿州氏吉

(裏) 文龜三年八月

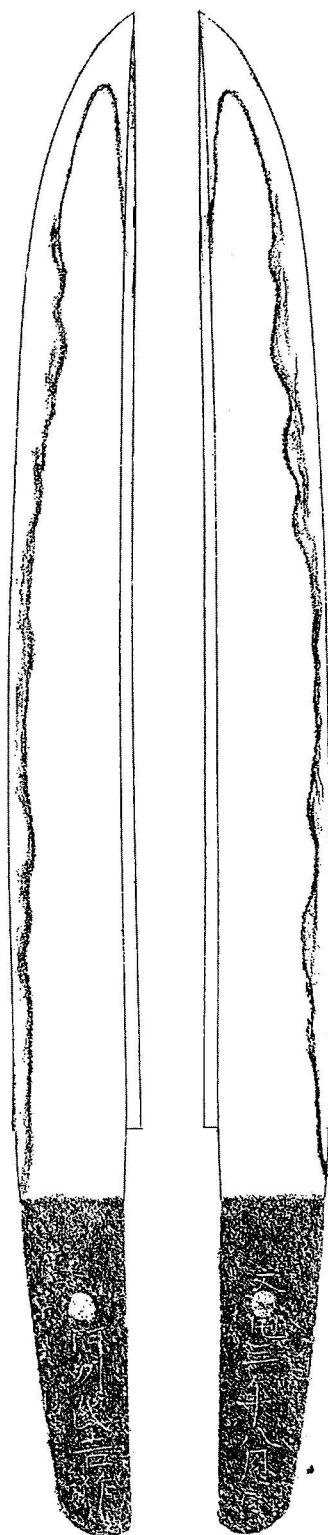
法量 刃長二七・三寸、反り〇・一寸、元幅二・八寸、元重〇・五寸、

茎長八・七寸。

解説 形状は、平造、三ッ棟、反り浅く、重ね身幅共に尋常。地鉄は、板目肌に木目交じって地沸つき、地景入る。刃文は、浅い湾たれに互の目が交じり、沸よくつき、砂流しかかる。帽子は、湾たれ込んで先掃き掛け、深く焼き下げる。茎は生ぶ。目釘孔一個、鑢目は勝手下がり、茎尻は刃上がり栗尻。

海部刀の祖とされる刀鍛冶には、師久・藤・氏吉がおり、それぞれの

押形



系図が古書に見られる。氏吉は藤と共に嘉元頃(一二三〇三)と伝えるがその時代のもは見ない。氏吉の最も古い年紀のものは明応年間のもので、光山押形に「明王(応)元年八月日」のものが見られる。これに続く年号のものでは、明応二、六年、永正元、四年などのものがある。これらは銘ぶりから大略一刀工の作と思われるが、本刀に見る文龜の年紀は今まで知られておらず、前記の年代における別人氏吉の存在を裏付ける資料となりうるか。相州伝を彷彿させる作風、製作年代を考えると、阿波の細川氏と関わりをもった播磨国守護赤松政則尉作、相州伝の短刀にも似ており、一方では銘ぶりから岩切海部の作者同人説も推察されるところである。

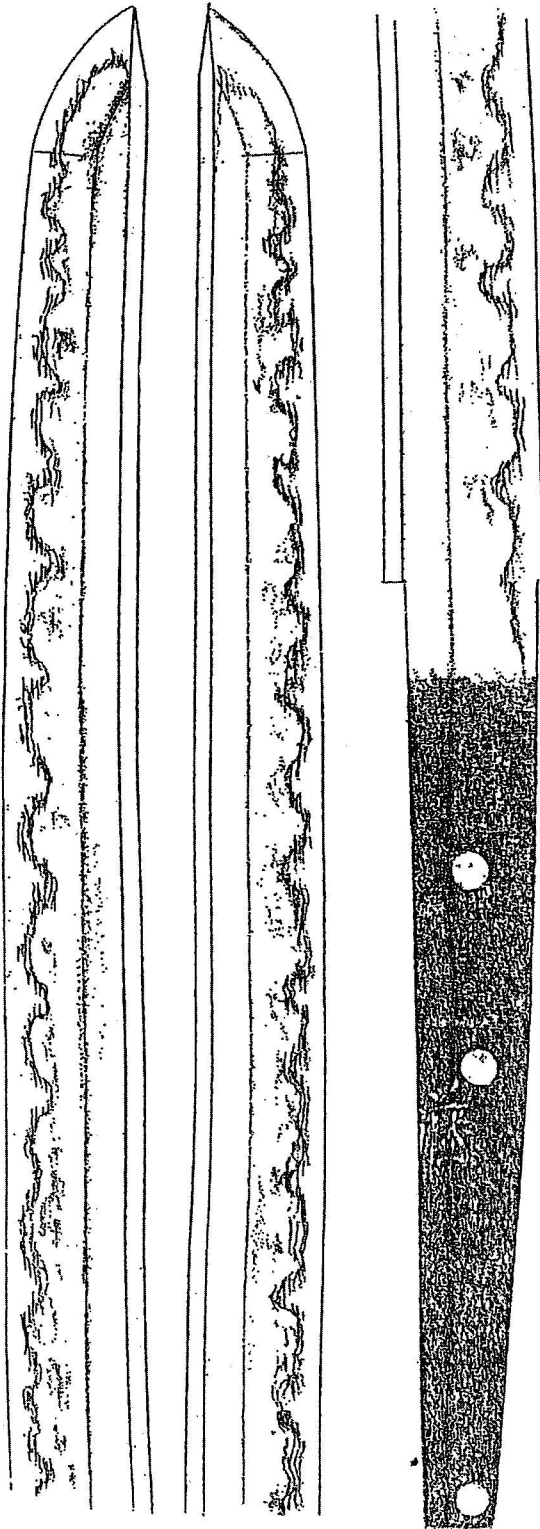
阿波刀紹介5

名称 刀銘 藤

法量 刃長六八・一弖、元幅二・九弖、先幅二・九弖、鋒長二・九弖、元重一・〇弖、先重〇・四弖、茎長一八・五弖。

解説 形状は、鎗造、庵棟、反り浅く身幅重ね共に尋常。踏ん張り付く、元は長寸で姿豪壮であったと思われるが、摺り上げて在銘。地鉄は、板目肌流れて地沸厚くつき、鎗地は柾目、処々に地斑・葉頻りに入る。刃文は、腰の開いた尖りごろの互の目、砂流しが全体に波状にかかる。帽子は、直ぐに小丸に返り先掃き掛ける。茎は、摺り上げ在銘。鏝目は切、目釘孔三個、銘は目釘孔下、鎗地に「藤」と切る。

押形



作者「藤」は海部殿の作と言われる。文献には、海部物の祖の一人とされ、嘉元・応安の頃とある。海部氏は藤原の姓を名乗り作刀には「藤」と切ったとされるが、鎌倉期の実刀は見ることがない。本刀は応永期は下らないとしながらも南北朝期まではあがらず、海部氏の初代「海部左近将監吉辰」当たりの作刀とされるものである。
藤の在銘は極めて少なく、作風に波平伝が顕著にあらわれた貴重な一振りである。本間薫山博士の鞘書きには、「阿州海部藤同作在銘希有也」とある。

(整理番号280号)

阿波刀紹介6

名称 刀 銘 (表) 阿州泰吉作

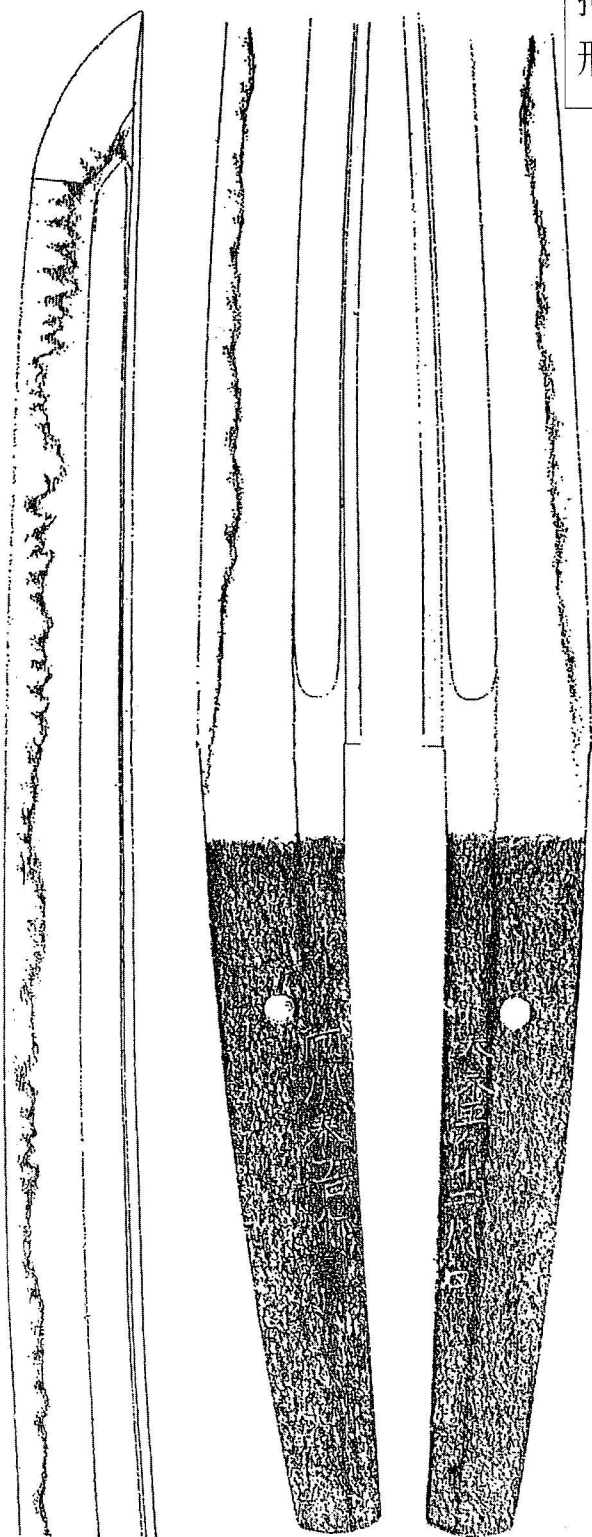
(裏) 大永五年二月日

法量 刃長六七・七^サ、反り二・三^サ、元幅三・〇^サ、先幅二・〇^サ、

元重〇・七^サ、先重〇・四^サ、茎長一五・四^サ。

解説 形状は、三ッ棟、鑄造、重ねやや厚く、元幅と先幅に差があり、腰反りながらやや先反りがつき、中切先延びる。地鉄は、板目に大柰目・小柰目が交じり、やや肌立ち、地沸つき、地景しきりに入る。刃文は、湾れに互の目が交じり、小足頻りに入り、葉入る。刃縁には小沸がみじんにつき、砂流しかり太い金筋入り、匂い口締まり、こころに冴える、帽子は、表裏共に一枚、先わずかに掃き掛ける。彫刻は、表裏に丸止めの棒樋。

押形



茎は、生ぶ。目釘孔一個。鐔目は勝手下がり。茎尻は、先浅い栗尻。表裏の目釘孔下鐔筋に「阿州泰吉作 大永五年二月日」の銘がある。

作者「泰吉」は、銘鑑では観応(一三五〇)とするが、その頃の作刀は見ない。最も古いものは永正十四年十一月三日年紀の松浦川と号する刀で、続いて同十五年、大永五、同六年、享禄三年紀の作が現存する。これらは銘ぶりに共通すところがあり、一刀工の作品と見れる。そのほか異なる銘ぶりが四種あり、これらは後代泰吉と見られる。

本刀は、沸出来の相州伝を見事に焼いており、一見江義弘を彷彿とさせ初代泰吉の代表作。元、土佐藩の山之内家に伝来した一振りである。

阿波刀紹介7

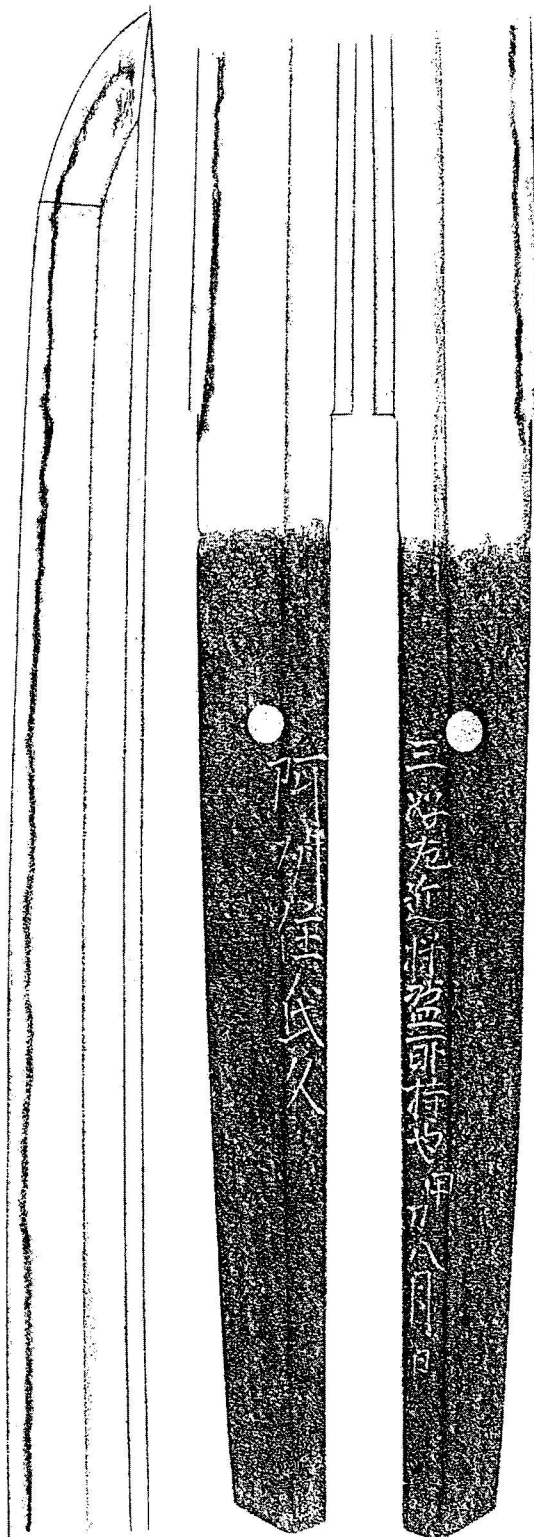
名称 刀 銘 (表) 阿州住氏久

(裏) 三好左近将監所持也甲子八月十日

法量 刃長七一・〇セ、反り一・三セ、元幅三・〇セ、先幅二・一セ、切先長三・九セ、元重〇・七セ、先重〇・五セ、茎長二二・八セ。

解説 形状は、鑄造、庵棟、鑄やや高く、反りやや浅い。中切先延びる。地鉄は、板目肌が流れて柃がかり、よく詰み、地沸細かに厚くつく。鑄寄りと刃寄りにかすかに白氣立つ。刃文は、直刃、わずかに互の目乱れごころとなり、ほつれあり、匂い口やや締まって冴え、微細な沸つき刃中は明るい。帽子は表裏ともに直ぐに小丸、先掃きかける。茎は、生ぶ。目釘孔一個、鑿目はやや深い筋違い、茎尻は入山形。目釘孔一個、目釘

押形



孔下鑄地、指表に「阿州住氏久」、指裏に「三好左近将監所持也甲子八月十日」の長銘がある。

(黄) 八月十日」の長銘がある。
本刀は、地刃共に冴えた優品。作風は、この期の海部刀工、泰長、泰光らに似るが、裏年紀の「甲子(黄)」からこの刀が天文二十三年(一五五四)に作られたことがわかる。所持者銘にみる三好左近将監を名乗る武将は不詳ながら、海部左近将監友光(海部宗寿)が三好長慶の妹婿であることから友光が家刀自方の姓、三好を名乗ったことは容易に想像がつく。この刀は数少ない後代氏久の代表作として、年紀、所持名共に貴重である。

(整理番号 401号)

阿波刀紹介 8

名称 刀 銘 (表) 泰国作

(裏) 天文一五年八月十日

法量 刃長八三・八寸、反り三・四寸、元幅三・四寸、先幅一・二寸、

切先長三・六寸、元重〇・七寸、先重〇・五寸、茎長二四・二寸。

解説 形状は、鑄造、庵棟、中切先、鳥居反りながらやや腰反りつく。

地鉄は、板目流れごころ肌立ち、地沸つく。刃文は、中直刃、砂流し頻

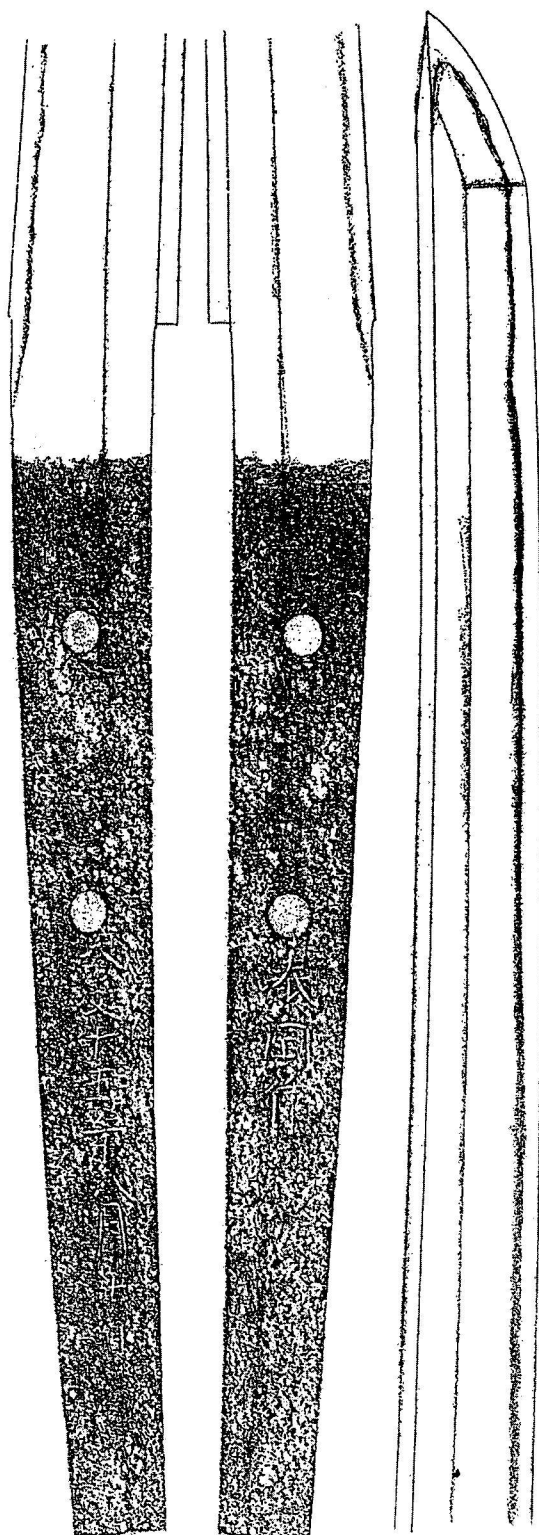
りにかかり、小沸つき、処々金筋入る。帽子は、表裏共わずかに湾たれ

て小丸に返り、柃がかり先掃き掛ける。茎は、摺り上げ。目釘孔は二個、

鑢目は筋違い、目釘孔下より鑄上、表に「泰国作」、裏に「天文十五年八

月十日」の銘がある。

押形



作者「泰国」は、泰長と共に、大永頃にいた海部刀工である。泰の字のつくところから泰吉に關係する刀工とおもわれる。作風は山城伝と波平伝の作が見られ、この一類は、銘に国名や地名を冠せず作者銘だけを入れ、三尺に近い長寸ものを作るところに特徴がある。同時代の泰長の作品には、重要刀剣に指定されているものもある。

本刀は、長大で地刃共に健全、波平伝に山城伝を加味した作風を示し、茎は長寸で特に造形には泰長との類似性がみられる。この泰国刀は、他に例を見ないもので、しかも天文の裏銘があり、資料的には極めて貴重な一振りである。

阿波刀紹介9

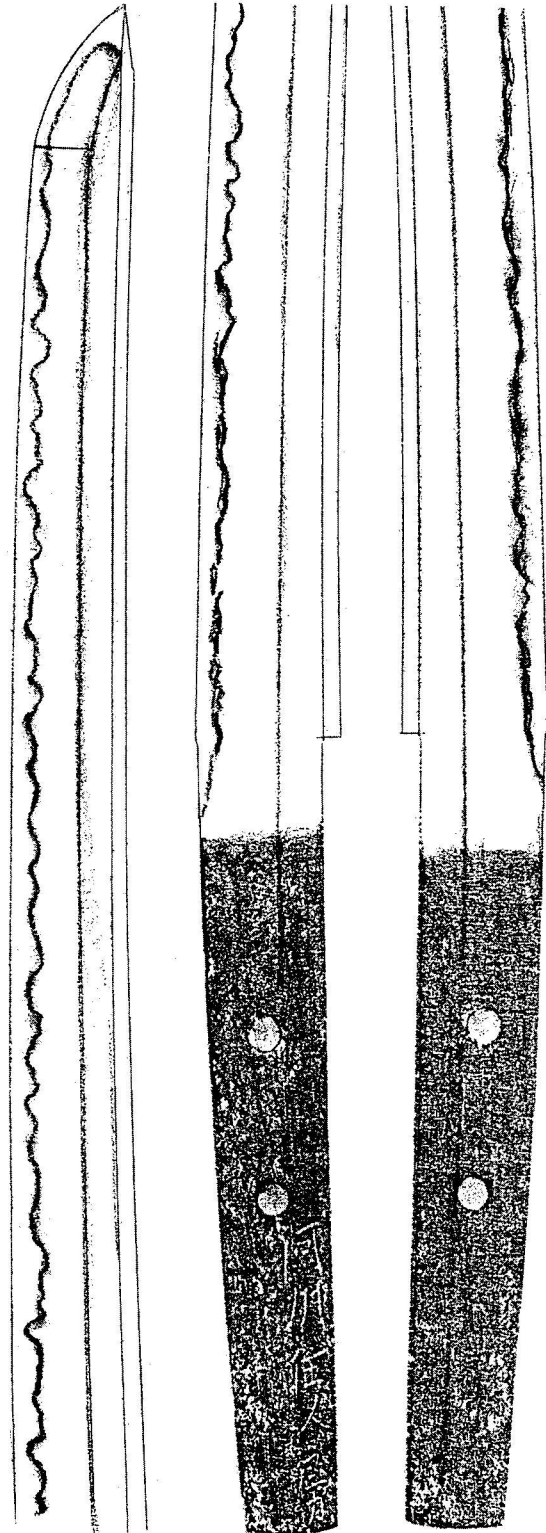
名称 脇差 銘 阿州住人房（以下切れ）

法量 刃長五一・二寸、反り一・一寸、元幅二・六寸、先幅一・九寸、切先長四・〇寸、元重〇・六寸、先重〇・四寸、茎長一四・二寸。

解説 形状は、庵棟、鑄造、身幅・重共に尋常。地鉄は、板目肌にわずかに柰目肌が交じり、全体にねっとりする。刃文は、互の目乱にわずかに湾たれ刃交じる。刃縁に小沸つき処々砂流しかかる。帽子は表裏共に乱れ込んで、先わずかに掃き掛ける。茎は、一寸程摺り上げて目釘孔は二個、鑄目は切、茎尻はわずかに丸みをつけた二文字。目釘孔した鑄地に「阿州住人房（以下切れ）」の銘がある。

作者は、摺り上げられ「房」の一字しか残っていないが、阿州住人と

押形



(整理番号913号)

あることから海部の房吉と鑑せられる一振である。房吉は江戸時代の刀剣書『本朝鍛冶考』の氏吉の系図には氏吉の子と記され、『古刀銘尽』の系図には、海部刀の祖とされる師久の下に、房吉（文明）・房吉氏（永正）・房吉（大永）と三人の房吉がおり、また、『古刀銘尽大全』には、波平の弟子也として房吉（応仁）が記されている。

いづれにしても数人同名の房吉がおり、古くから著名な海部鍛冶であったことは疑う余地はない。しかしながら、なぜか遺作は少ない。本刀は、摺り上げられて房の下の文字が失われているのが惜しまれるが、地金がねっとりとして全体にやや白けるなど波平伝が顕著に表れており、房吉刀の研究資料として貴重な一振りである。

阿波刀紹介10

名称 刀銘 (表) 長船彦兵衛尉 於阿州作之

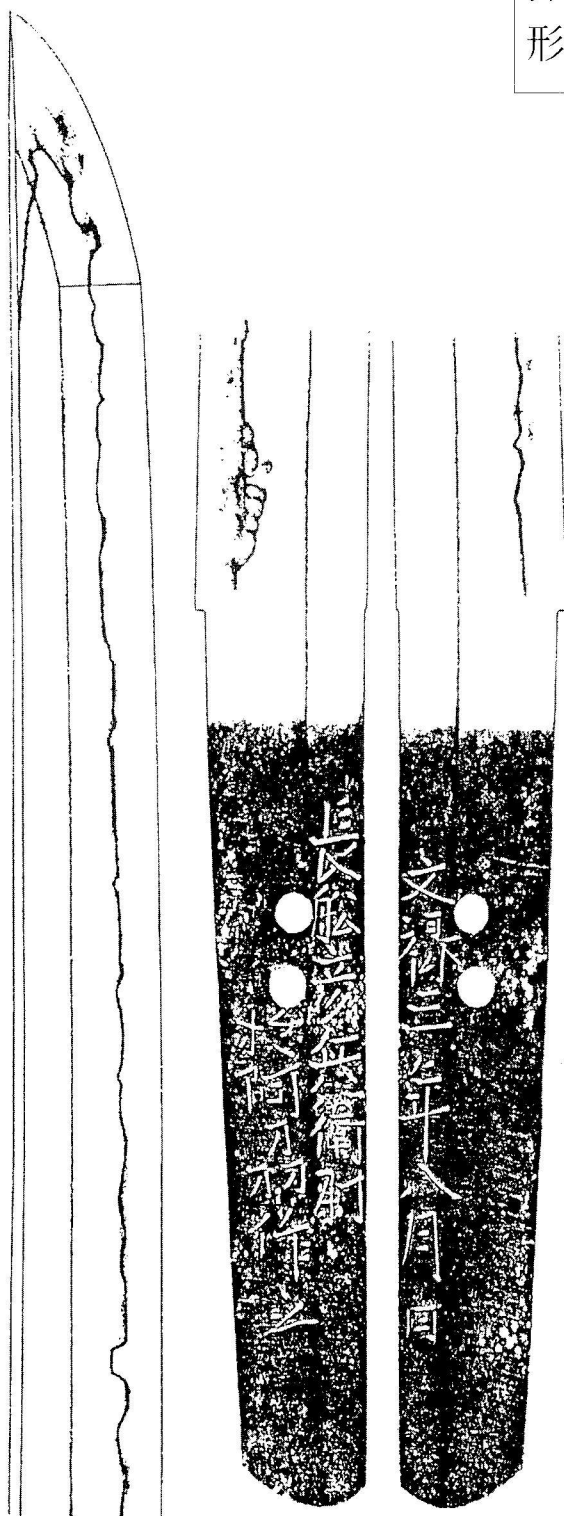
(裏) 文禄三年八月日

法量 刃長六五・八寸、反り一・〇寸、元幅二・九寸、先幅二・一寸、切先長四・一寸、元重〇・七寸、先重〇・六寸、茎長一二・二寸。

解説 形状は、鑄造、庵棟、鑄高く幅広く、反り浅く、中切先延びる。地鉄は、板目肌に柰目肌が交じりよく詰む。鑄寄りに乱れ映り立ち、地景頻りに入る。刃文は、小湾たれに互の目、角ばった刃、尖り刃を交える。足、葉頻りに入り、匂い口締まって小沸よくつく。帽子は、表湾た

れて小丸、先わずかには掃きかける。裏は、乱れ込んで小丸、先尖りごころに返りやや深く、葉入ってわずかに掃き掛ける。茎は、生ぶ、目釘孔は二個、鑄目は浅い勝手下がり、茎尻は栗尻、茎は短い片手打ちの典型的な備前茎。目釘孔上鑄地に、表「長船彦兵衛尉於阿州作之」、裏に

押形



「文禄三年八月日」の銘がある。

彦兵衛尉は、備前国の長船鍛冶の名門、横山家の三代目の刀匠で、初銘祐家のち祐定をなれる。本刀は、三代目の阿波打ちで、中切先が延び、帽子に互の目が入るなど彦兵衛祐定の特徴をよく示している。

茎の銘文は、阿波駐槌の時期を示す格好の資料である。その他、彦兵衛祐定の阿波打ちを示す刀の銘には、「備前国住長船藤原彦兵衛祐定阿波〇〇三好郡作之」、「備前国住長船彦兵衛祐定阿州於三好郡池田作之」などがある。

三代彦兵衛祐定は、大西城番中村右近の庇護を受け、その子の四代彦兵衛祐定は池田に定住、後代は数代続きその一門の道統は幕末まで続く。

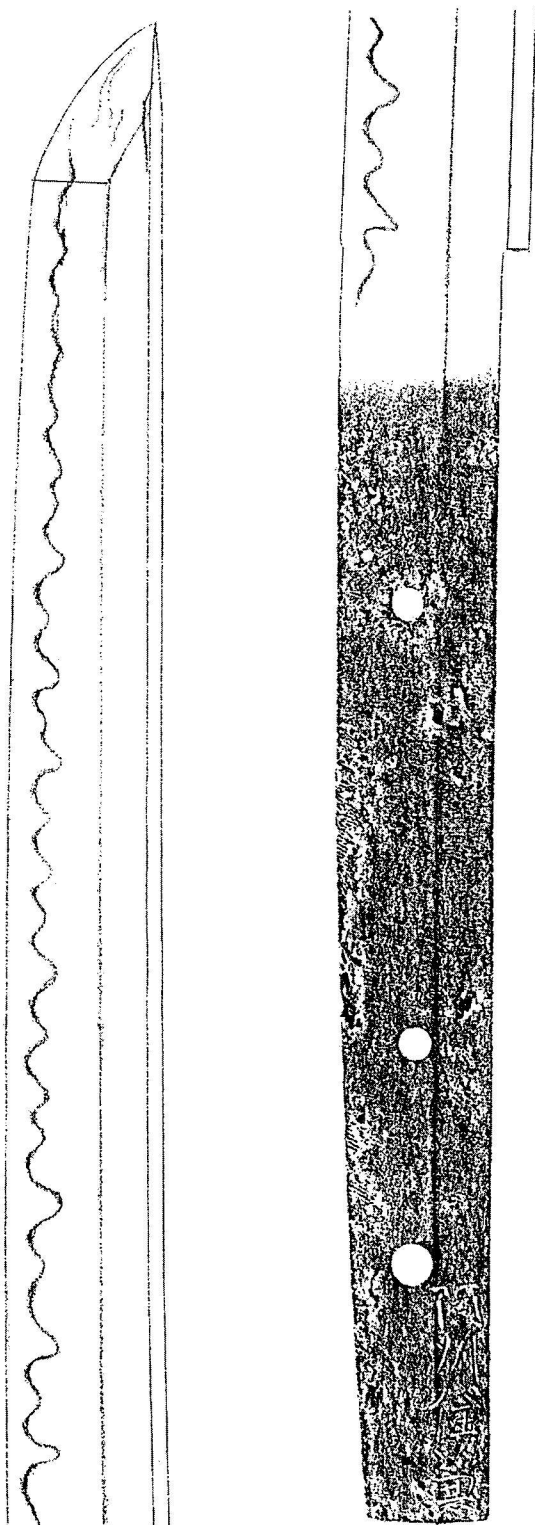
阿波刀紹介11

名称 刀銘 阿州住兼(以下切れ)

法量 刃長七〇・二寸、反り一・一寸、元幅三・〇寸、先幅二・一寸、切先長二・六寸、元重〇・五寸、先重〇・五寸、茎長二・九寸。

解説 形状は、鑄造、庵棟、重ねやや厚く、反り浅く先反りつく。鑄やや高め、中切先詰まる。地鉄は、小板目肌流れ肌よく詰み、細かな地沸つく。刃文は、互の目、尖り刃が交じり三本杉となる。刃縁にはわずかに小沸つき砂流しかかる。帽子は、先が欠損したため、表裏共に互の目のままかけ出す。茎は三寸ほど摺り上げ目釘孔三個、三つ目の目釘孔下鎚地に細整による「阿州住兼(以下切れ)」の銘がある。

押形



本刀の作者は、地刃共に純然たる美濃伝を示し、「兼」の字のつくところから美濃刀工の移住と考えられる。『山城谷村史』によると室町末期、阿波に今川義元の抱え工で「兼藤兼光」なる古刀鍛冶が存在していたことが分かるが、この刀は村史掲載の伝承に符号するところ多く、兼藤兼光の遺作と考えても極論でなからう。

幾たびかの研磨により真鉄の一部露出、帽子の欠落は多分に惜しまれるが、本刀は、室町末期の海部刀工以外の阿波刀工の存在を示す貴重な一振りといえる。

(整理番号 95号)

あとがき

海部刀の隆盛は、海部川流域を拠点にした豪族海部氏の盛衰そのものである。海部城主左近将監友光（海部宗寿）は、元龜二年（一五七二）、長曾我部元親の弟、島弥九郎を那佐湾で討ち、元親に阿波侵攻の最大の口実を与えてしまう。兼ねてより四国制覇をねらっていた元親は天正三年（一五七三）、宍喰の鈴が峰を越えて海部城に怒濤の如く侵攻する。この事変は、阿波三好氏の応援要請で友光・吉清親子が讃岐へ出陣中の出来事であった。このため友光・吉清は海部への帰参がかなわず。海部城の落城を見ることなく他国へ逃れ、友光は他家で客死。その子の吉清は生きのびた後、阿波藩主蜂須賀氏に使えた。この吉清については『阿州古城諸将記』に「左近将監吉辰、刀ヲ鍛フヲ好ミ代々家伝シテ八世ノ孫左近将監吉清、元和寛永ノ頃ノ名人也」とある。

長曾我部軍の侵攻による海部氏の滅亡は、隆盛を誇った海部の刀工群に大打撃を与え、名跡を誇った泰吉や師光の道統はこの時点で消滅の一步をたどってしまう。

その後の阿波国は天正一三年（一五八五）に蜂須賀氏の入国を経て、江戸時代を迎えることになる。海部鍛冶はこの動乱で壊滅的打撃を受けたといえ、わずかな残存刀工、吉清・氏吉・氏次等によって海部伝の鍛刀技術は、新刀鍛冶の氏吉・氏次・左近将監盛綱・国綱等へと継承されてゆく。



大会所感

第五十回全日本女子剣道選手権大会の審判をさせていただいて

竹内 佳代子



本大会の審判員

に選ばれて、今年で三回目となります。女性剣士にとってはあこがれの大会なので、その審判員に選んでいただいたことを、大変光栄に思っています。と同時に、自分の判定で勝敗が分かれる重責を改めて強く感じています。

全日本剣道連盟が「女子審判員の育成ならびに、審判技術の向上を図る」ことを重点目標に掲げ、平成十八年から、全国の女性七段の中から二十四名を選出し審判法研修会を行っています。この券種を受講した女性の中から、十二名の人が本大会の審判

員として選ばれます。審判は、八段の先生と女性二人で組をつくり行います。

私は、愛知県の山崎先生と東京都の牛木さんと同じ組になり審判をさせていただきました。大会前の審判研修で指導いただいた内容は、次の五点でした。

- 観衆からも見られている自覚をもつ。そして、勇気ある決断をする。
- 審判の動きは早く。選手の動きを先取りして、素早く移動する。
- 表示のときは、腕をしっかりと伸ばす。特に「やめ」は真上にて。
- 有効打突の判定の際、赤白の挙げ直しがないうよう、しっかりと見極めてから挙げる。
- 試合が長引いた時は「やめ」をかけ、活性化をはかる。

活性化をはかる。

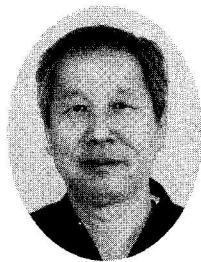
私は、合計十一試合審判をさせていただきました。でも、そのほとんどが長い延長戦になってしまいました。勇気ある決断をし、思い切った技はあげようと思いつながら、一生懸命戦っている双方が、本当に納得する技でなければと思うと、結果

的に時間がかかってしまいました。でも、三人の審判員の思いは同じで、一人だけ旗が挙がるということもなく、協調が出来たように思います。

全国の大舞台で、大勢の観衆や役員先生方の前で審判するのは、本当に緊張します。毎年全国の審判研修を受講していても、なかなか自信を持つまでには至らず、反省の日々です。でも、こういった機会をいただくことで、審判員としての責務の重さを実感することができました。また、全国大会の審判を経験することで度胸もつきました。「審判がよくなれば試合がよくなる。試合がよくなれば剣道がよくなる。」これは、審判研修の中で講師先生がよく言われている言葉です。これからの剣道活性化のためにも、この経験を活かし、選手も周りの人も、また自分自身も納得のいく審判を求め、これからも研鑽に努めたいと思っております。このような貴重な経験ができたことに、心から感謝しています。

八幡神社奉納剣道大会

阿波支部 一村 昌和



一 はじめに

八幡神社は、阿波市市場町八幡町屋敷四九の二番地に鎮座し、応神天皇・神功皇后・武内宿弥の武神を祀る旧村社である。白鳳時代（七世紀後半）に国家安全・五穀豊穡を祈って造営された一国の八幡宮であるといわれているが定かではない。

境内には、旗懸松の伝承の碑が建立されている。室町末期、三好氏に仕える屈指の武将で切幡城主の森飛騨守に、土佐の長宗我部元親の調略による岩倉城・脇城から偽りの救援依頼があった。出陣に際して領地の平安と武運長久祈願の参拝をし、神前を辞去しようとした時、疾風に煽られて旗が松の枝にもつれつき旗は破れてしまった。不吉の御神託にもかかわらず進軍した森飛

騨守は、脇城東の猪尻で討ち死にした。この霊験があったから神威のあらたかさを敬し、この松を旗懸松と呼んだ。

二 原土と剣道

阿波の北方、阿北の地に剣道が盛んな理由には、原土の存在が大であると思われる。原土は、慶安三年（一六五〇年）に定められた徳島藩独自の武士制度である。知行地や扶持米でなく未開拓地が拝領地として与えられ、入植時は原野の開墾に従事した。藩主お目見え格の武士であり、阿讃の国境警備、一揆鎮圧等の治安維持、参勤交代時の徳島城の警護等の任に就いた。現在の阿波市吉野町広永には広永組、市場町興崎には興崎組、各地に散在する方々組があり、剣術・馬術・砲術等の武芸の修練に励んだ。主な剣術の流派は、心形刀流・貫心流・関口流である。日々、文武の修練に励んだため、周辺へ波及していったものと思われる。その気風は、幕末・明治・大正・昭和と脈々と引き継がれてきた。

三 剣道の復興

太平洋戦争の終戦により、剣道は危機的状況に陥った。昭和二十一年、GHQ指令により大日本武徳会の解散、学校剣道の全面禁止、一般人の剣道の制限等がなされた。このような状況下の昭和二十二年、笠井求二（元徳島県剣道連盟阿波支部長）が中心となって八幡神社の拝殿において「八幡社道場」を開設し、いち早く剣道の復興に取り組んだ。終戦後、最も早く復活したため阿波郡内はもとより、麻植・名西郡等から多くの剣士が集い剣道復興の拠点となった。昭和三十五年より坂本裕二（元徳島県剣道連盟阿波支部長・八幡神社氏子総代・元市場町文化財保護審議会委員）が責任者となり、さらなる発展の基礎を築いた。昭和四十六年に八幡中学校が市場中学校に統合し、活動の場が移動した。さらに拝殿の床板の老朽化・破損が進み、昭和五十年に閉鎖した。昭和五十一年、市場剣道教室を発足させ、現在に至っている。

四 奉納剣道大会の開催

隆盛を誇っていた阿波郡内の中学校・少年剣道教室にも、少子化と剣道離れの洗礼を受ける事になった。剣道人口の激減により、団体戦のメンバーを組むにも困難をきたす事もあり、試合出場の機会も少なくなってきた。このような状況を憂慮し、戦後の剣道復興の原点であり、往事活発に行われていた八幡神社での剣道大会を復活すべく、坂本裕二、木村秀正（元市場町会議員・元徳島県剣道連盟阿波支部長）、森公男（八幡商工会長）を中心に「八幡神社剣道同志会」を結成し、開催に向けて計画を練った。

平成十五年五月に市場中学校剣道部、市場剣道教室の指導者及び保護者の協力を得て開催する運びとなった。

大会当日は、はじめに神社拝殿で祭主種盛聡宮司による奉納試合の式典（修祓・祝詞奉上・玉串奉奠）、主催者のあいさつと来賓祝辞が執り行われた。

その後には選手たちは再び社殿前に整列し、審判長の注意を受け奉納試合が開始された。参加選手は、近郷の阿波郡（現阿波市）・麻植郡（現吉野川市）の中学生と小学生たちで、試合は学年別の個人戦方式で行われた。



八幡の八幡神社

境内は二、二四四平方メートル（約六六〇坪）あり、社殿前の広場に石灰でラインを引いて二面の試合場を設けた。現代の剣道は、板張りの武道場や体育館で行うのが一般的であるが、露天地面で運動靴を履いての試合である。足捌きや踏み込みに戸惑い、熱戦が展開された。日頃は静寂な境内に、少年剣士たちの活気溢れる掛け声や竹刀の打ち合う弾けた音が響き渡った。屋外での試合は、子供たちにとっては新たな体験であり、感動の場面も多く見受けられた。また、選手・保護者・関係者以外に、道行く地域の人たちやお遍路さんが珍しうに足を止めて観いていた光景が目についた。

五 おわりに

かつて訪れたことのある古武道として有名な薩摩の示現流稽古場は、土間であり、素足で「立木打」や「型」稽古を行う。時代を遡れば、庭先等の土の上での稽古が常であり、野試合も盛んに行われていた。八幡神社奉納剣道大会は、土間での試合であ

り、まさに「稽古照今・古（いにしえ）を稽（かんがえ）今（いま）を照（てら）す」の教えの如く、これを機に地に着いた足捌きや間を詰めて打突する剣道の基礎・基本を体得する機会となれば開催の意義が深まる。

平成二十四年には、十周年を迎える。昨年からは八幡神社剣道同志会の運営を引き継いだ笠井利求二（戦後の剣道復活の立役者である笠井求二の孫・自衛官・銃剣道教士六段・剣道四段）会長は、記念大会として新たな活性化を模索し、境内への記念植樹や参加者による清掃活動等のボランティア活動等も計画しているようだ。

この剣道大会は、立ち上げ時に尽力された坂本裕二の力説された「文武両道・地域に根付いた歴史と文化の伝承」としての役割も担っていると思う。地域の信仰の対象である八幡神社における奉納剣道大会が、今後も末永く開催される事を願ってやまない。

参考「八幡町史」「市場町史」「あわの文

境内で野試合 少年剣士熱戦

阿波・市場の八幡神社

阿波市市場町八幡の八幡神社境内で8日、剣道の奉納演武大会があり、小中学生の剣士が野外の特設会場で熱戦を繰り広げた。

阿波、吉野川、美馬3市の小中学生98人が出場。運動靴に胴着姿の少年少女は、土ほこりを巻き上げながら「メーン」「ドー」と声を張り上げ、力いっぱい竹刀を打ち込んでいた。小学校5、6年生の部で優勝した阿波市の北村恰輝君（11）は久勝小6年



「は「屋外での試合はとても気持ちいいです」と話していた。

演武大会は、戦前に八幡神社にあった道場の練習生が奉納試合を行ったのが始まり。戦後は廃れていたが2003年、同神社剣道同志会（木村秀正会長）が中心となって復活させた。

各種大会に参加して

第九回全日本選抜剣道

八段優勝大会に

ベスト八に入賞して

教士八段 河田清実

平成二十三年の一月に全日本剣道連盟から、出場の決定通知をいただいたとき、本当に驚きました。八段を取得して六年余りになり出場資格の五年は経過していましたが、まさかこの大会に出場できると思っていなかったからです。

この大会は、「明治村剣道大会」として、昭和五十二年（一九七七）から平成十四年（二〇〇二）まで二十六年の長きにわたり、愛知県の明治村無声堂で行われていた剣道八段戦を全日本剣道連盟が継承し、平成十五年四月に第一回大会が開催されました。八段受有して五年以上・六十五歳以下の中から三十二名の選手によるトーナメント方

式の大会です。出場される方々はすばらしい戦歴を持たれ実力のある有名な方々ばかりで、四国からは世界大会個人優勝の実績を持つ愛媛県の大城戸選手が二年連続で出場されていました。出場するだけでもすばらしいことだと思っていました。

四月十七日、名古屋市中村スポーツセンターで大会が開始されました。今回の出場者三十二名の中で初出場は私一人だけでした。状況がよく分からなかったので、大城戸教士に尋ねたりして、少し不安な気持ちで新幹線で名古屋に入りました。前日の選手打ち合わせの後、合同稽古会があり、岡山県の松井明範士に稽古をお願いした際に、「河田君、面が良く伸びてきているよ、いいところまでいけるんじゃないか、頑張れよ」と励ましていただきました。

開会式が始まりましたが、この場に立っていることだけで感激をしていました。徳島から坪井さんや徳島大学の教え子達・家族が応援にきてくれて、面持ちをしてくれたり、ビデオを撮ってくれたり、大変心強かったです。試合の前から先をかけて前に

出て、自分の剣道を思い切っしてしようと決めています。

一回戦のお相手は九年連続出場の京都府の高橋範士でした。一步入って面を打ちましたが、範士の剣先が胸に付いていて打ち切れません。それでも受けていたら攻め込まれて打たれると思いましたが、先をかけた続けました。十分の終了時間前になり息も苦しくなりましたが、前に出ようとしたときに範士が胸にきたところを反射的に打



一回戦 高橋先生（京都）に胸打ち落とし面が決まる

ち落とした面が決まりました。終了後、息が上っていました。

二回戦の相手は、千葉県の蒔田教士です。攻め合いからの初太刀、先をかけて前へ出ようとしたでばなを面に合わされ、左側の耳をかすられ、旗が一本上がりました。有効打突にはとられませんでしたが、一歩入って打とうとしましたが上から押さえられて打突させてもらえませんが、どこから攻めればいいのか迷いました。そこで、面に



二回戦 蒔田先生（千葉）に相小手・面が決まる

見せて小手を打ちに行ったところへ、教士のでばな小手がきて、相小手となった後の面が決まりました。二本目は、開始直後に攻めて出ようとしたところに、教士が面にあわせてきたのを受けてから打った面が決まりました。

三回戦は二回戦で北海道の古川教士を逆転で降してきた、熊本県の亀井範士です。気持ちは充実していました。積極的に攻めて打って出ました。範士もやや低い構えか



三回戦 亀井先生（熊本）に面

ら、私の竹刀を裏から巻くように入ってきて面に来るので、返し胴をねらっても通じませんし、面から小手に変化してきました。手を打たれそうになりましたが、私のペースで試合が流れていたように思いました。終盤に入り攻め入ると、範士が跳び下がったので、面、さらに下がって避けたところへ面を打ち、手応えがありました。結果的に主審の旗一本で有効打突にはなりません



主審の旗一本のみで有効打突にならず

でした。そして、延長に入り数分過ぎたあたりで、面に出ようとしたところを下から入ってきた範士に小手を見事に打たれました。

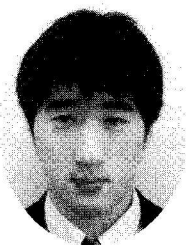
初出場でしたので、負けて元々と思い切っ
て前に出て先をかけ、自分の剣道をしたこ
とが良い結果に出たのだと思います。この
ようなすばらしい大会に出場させていただ
いたことに感謝を申し上げたいと思います。
今後、更に稽古に励み、多くの方々に稽古
をお願いし鍛えていただきたいと思います。
まず、ご指導のほどよろしく願います。



第三十九回全日本都道府県対抗 剣道優勝大会に参加して

徳島文理高等学校

久保 公緒



平成二十三年四月二十九日、大阪
市中央体育館にて

第三十九階全日本
都道府県対抗剣道

優勝大会が開催されました。この大会は職業、年齢別の七名の団体戦で、四十八チームのトーナメント方式で行われます。徳島県代表は、監督・近藤巨先生、先方・久保公緒、次鋒・福川敬太先輩、五将・住友直城先生、中堅・岩原靖人先生、三将・山名信行先生、副将・前田秀一先生、大将・福多雅英先生のメンバーで臨みました。

大会の約一ヶ月前に、京都で行われた近畿近県の練習試合に参加しました。私は、徳島県代表チームとして初めての遠征に最初は緊張していましたが、今までほとんど

お話もしたことのない近藤監督をはじめメンバーの先生方に、非常に優しく、明るく接していただき、すんなりとチームに溶け込むことができました。この練習試合を通して、剣道の技量は勿論ですが、それとは別に、年下の者に対する心遣いや、チームワークの作り方を勉強させていただきました。そして、このチームのために全力を尽くして頑張ろうと決意しました。

大会当日の開会式では、どこを見ても有名選手ばかりで、この大会に参加出来る喜びとともに、勝利に対する強い気持ちが沸き上がってきました。一回戦は岩手県との対戦でしたが、震災のため不参加ということでの不戦勝ちとなり、二回戦の和歌山県との対戦が私達の初戦ということになりました。私は、先鋒としてしっかりと足を動かして、チームを勢いづけるような試合をしようと思ってきました。しかし、いざ試合になると、思うように足が動かず、なかなか主導権を握りませんでした。一進一退の攻防から、相手の選手が引き技を打ったところをコーナーまで追い込み、思い切って面を

打ちましたが、相手の反応が速く小手を打たれてしまいました。その後、終了時間間に焦って小手を打ったところを返されて面を打たれてしまいました。チームは先鋒の悪い流れを断ち切ることができず、終わってみれば四対〇で和歌山県に敗れてしまいました。試合終了後、いつものような剣道ができなかったこと、任務を果たせなかったこと等、自分を不甲斐なく感じました。

試合の結果は非常に残念な結果に終わりましたが、この大舞台で試合ができたこと、また、様々な試合を拝見できたことは、これからの自信と誇りになることは間違いありません。このような経験ができたのも、一緒に戦った徳島県チームの先生方、また日頃指導して下さる先生方、いつも一緒に練習しているチームメイトのお陰であると思っております。この経験を糧にして、これからの剣道、勉強の更なる精進を目指して頑張ってください。そして、今度はインターハイに出場して、良い成績を残して徳島に帰りたいと、新たな夢を抱きました。今後ともご指導よろしく願います。

第三回全日本都道府県 対抗女子剣道優勝大会

監督 福 多 雅 英

日時 平成二十三年七月十六日

場所 日本武道館

この度、本県代表チームの監督として参加させていただきました。上位入賞を目指して、強化錬成会や、大阪府で開催された近県代表チームとの練習試合を通して各自の技能の向上に努めると共にチームワークを深めてきました。

本大会は、全日本選手権者をはじめ、高校・大学等各種大会で活躍している選手達が一同に会して行われる大会であり、女子剣道界最高峰の大会であると言っても過言ではありません。

本県チームは、一回戦で沖縄県と対戦し、先鋒の長谷川選手（富岡西高校）の出足素晴らしい面の一本勝ちで勢いに乗り、結果四対〇で快勝しました。二回戦では、湊選手（日本体育大学）の二本勝ちにより優位

に試合を進め、強豪の福岡県を本数差で破りました。三回戦は、長野県と対戦しました。各試合において、本県チームの方が優勢に試合を進めたのですが、残念ながら敗退しました。

ベスト十六という結果でしたが、大会全般を見ましても、本県選手レベルは、上位入賞したチームと比較しても遜色なく、近い将来この大会で優勝することができないのではないかと思います。また、本大会三戦全勝の湊選手が優秀選手に選出されました。

大会結果は次の通りです。

【1回戦】

	大	副	中	次	先	
	長門	島袋	山川	本部	伊波	沖縄
1						
2	メ		コ	メ	メ	徳島
	竹内	北村	山下	湊	長谷川	島

【2回戦】

	大	副	中	次	先	
	竹内	北村	山下	湊	長谷川	徳島
1				メメ		
1					メ	福島
	佐藤	根本	松永	鈴木	小野	島

【3回戦】

	大	副	中	次	先	
	臼井	須坂	中島	南島	倉田	長野
3	メメ	メ	メメ		メ	
1	メ			ド	メ	徳島
	竹内	北村	山下	湊	長谷川	島

優秀選手
ベスト16

湊
友里

以下、各選手の試合の感想です。

先鋒 長谷川愛美選手（富岡西高校）

日本武道館での大会の私の結果は、一勝一敗一分けでした。結果はベスト一六でしたが、試合内容からは絶対ベスト八だったと、全員が同じ気持ちで思っています。

先輩方には、温かくしていただき、本当に楽しい期間でした。とても感謝しています。大会に出場したすべての思い出が、高校卒業後も剣道を続けていこうという強い気持ちに繋がっています。応援していただいたたくさんの皆様、ありがとうございます。

次鋒 湊 友里選手（日本体育大学）

私は前回、この大会に先鋒として出場しましたが、チームに貢献できないまま敗退となってしまいました。今回は大学生となり、前回のリベンジという気持ちや、徳島県の代表であるという責任を強く感じています。しかし、久しぶりに地元の先生や先輩、後輩と一緒に戦うことができ、楽しく試合に臨むことができました。チームで入賞とはならず残念でしたが、私自身力を

出し切ることができ、賞を頂くことができました。この大会で学んだことを活かし、これからも活躍できるように、さらに努力していくつもりです。

中堅 山下純子選手（鳴門支部）

非常に心に残る大会となった。この大会が私にとって日本武道館でする初めての試合であり、開会式での大太鼓の響きに驚いたのを今でも覚えている。当日の朝、私は会場に入る前から、入口の前にいた選手たちを目にして非常に不安だった。試合前の大阪遠征では、一勝もすることができず、情けない気持ちで帰ってきた。その後、試合までの間調整を重ね、当日を迎えた。

一回戦は沖縄県。二年前に高校総体が開催され、強化されているという前評判であったが、先鋒、次鋒とよい流れで私まで繋いでくれ、私で勝負を決めることができた。二回戦は福島県。試合前に監督より、「一八〇センチぐらいの大きい選手やけど、いけるわ。」と言葉かけを頂いていた。無知だったのが功を奏し、私は引き分けに終わり、大将戦となり二回戦を突破することが

できた。その後監督より、「実は有名選手なんやぞ。」と……。『試合前に聞かなくてよかった……。』と本音がもれた。三回戦は長野県。ここは何としても突破したい。あと一つでベスト八。その思いを胸に試合に挑んだ。結果は突破することができなかった。この経験は私にとって貴重なものとなり、もう一回リベンジしたいという思いと自信につながった。そして、指導してくださる先生方、支えてくださった方々に本当に感謝している。

副将 北村 環選手（阿波支部）

一回戦は沖縄県とであり、一昨年も対戦した島袋選手とであった。対戦したことがあるだけに、思いきった技を出すことができず、引き分けとなった。二回戦は、福島県の根本選手との対戦で、次鋒・中堅と思いきりのよい試合展開でつないでくれたため、ここは一本でもと思い臨んだが、引き分けで大将へとつなぐことになった。三回戦は長野県。二回戦まで勝ち進むことが出来、大変うれしい気持ちと同時に「もう一つ頑張ろう」とチーム全員が強く気持ちを

固めて臨んだのだが、中堅戦まで二―一、若手の頑張りに副将で二―二に持ち込みた。いと試合場に入ったが一本とれず、また大将に負担をかけることになった。結局三回戦とも引き分けて、副将としての役目をはたせず、三回戦敗退となった。

選手決定後、一人ひとりが自覚をして、それぞれの場で稽古を積み試合の日を迎えた。お互いを信頼し、月一回の女子稽古会には必ず参加し、先生方に稽古をつけていただき、本当に感謝している。監督をしてくださった福多先生にも、ご多忙の中時間をつくって稽古や遠征と、本当にお世話になりました。多くの方に支えられて、都道府県大会に参加でき、また今年のメンバーと一緒に試合ができたことを嬉しく思っています。

大将 竹内佳代子選手（鳴門支部）

三回戦の長野戦。私が二本とれば代表にもっていきける状況。あせらず、だけど先をかけてという気持ちで試合に臨んだ。一分ほどたつて、相面のチャンス。やった！と思ったら旗は二―一に分かれ、相手の面に。

この瞬間チームの負けが決まってしまった。自分の面だと自信を持って、旗が挙がらなければ一本にならない。そのあと、小すりあげ面が決まったから、もし最初の一本で自分の方に旗が挙がっていたら、代表に持ち込めたのと思うと、非常にくやしい。

審判を味方につけるのも実力のうち。特に相面は、その技を出すまでの試合展開も勝運に関わってくる。そう常々生徒たちに指導している。自分の方に旗が挙がらない、その点を謙虚に受け止め反省し、自分の悪い癖を直し、正しい打突を求めていきたいと思う。そして、どんな状況であっても、

大将まで勝負がもつれ込んだ時に、確実にチームを勝ちに導けるような、頼りになる大将になりたいと思った。

チームの選手一人ひとりは、予選に勝ち選手に決まった時から、この大会に重きをおき、一生懸命練習に取り組んでくれた。だから、福多監督を中心にチームの気持ちの一つにまとまり、最高のチームワークで試合に臨むことができた。そしてそれがベスト十六という結果にもつながったと思う。私にとつてとても心に残る大会となった。監督の福多先生をはじめ、応援してくださった方々に、心から感謝しています。



管内矯正職員武道大会

高橋 伊織

平成二十三年四月二十二日、管内矯正職員武道大会が、香川県立武道館で開催されました。この大会は毎年六月に東京拘置所において行われる全国大会の予選会であり、我々矯正職員は、本大会出場を目指して日々、武道訓練に励んでおります。

第三試合

住友	×	峰本
高橋	×	吉田
金野	×	岡西
前田	×	小野
0 (0)		(0) 0

徳島刑 松山刑

玉井 白石

住友 白石

高橋	×	山崎
金野	―	片上
前田	―	川上
0 (0)		(4) 3

試合結果

第一試合

徳島刑 高知刑

玉井 メ 香川

住友 ド 野崎

高橋 コ 岡部

金野 ー 宮本

前田 ー 山岡

3 (3) (0) 0

第二試合

徳島刑 高松刑

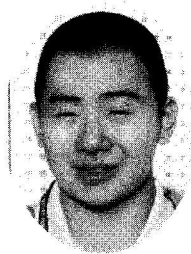
玉井 ー 松永



結果は一勝一敗一分で三位でした。ここ数年、あと一步というところで『優勝』には、手が届かず、悔しい思いをしています。今年度もまた、若手が数名加わり、全員が一つの目標に向けて一丸となって稽古や出稽古を重ね、力をつけていこうと努力しています。今後とも、先生方のご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。

インターハイに出場して

阿南工業高校 小 藪 京 蔵



私は昨年の徳島県総体で念願だった優勝を果たすことができませんでした。

しかも団体、個人とダブルで優勝することができませんでした。本当に嬉しく思っています。しかし、この結果に至るまでは決して平らな道のみではありませんでした。

中学生の時に阿南工業の先輩方の試合を見て、自分も工業で剣道がしたいと強く思い入学しました。高校での生活はほぼ毎日、剣道のことを考え、剣道尽くしの毎日だったように思います。休日になれば県外への遠征や練習試合を繰り返しました。私自身、器用な性格ではないので、先生に指導されたこともなかなか身に付けることができず、何度も何度も自分が情けないと思うことがありました。しかし、こんな私を試合で使っ

て下さる先生の期待に応えたいと思い、毎日必死になって頑張りました。

二年生の時には体調を崩してしまい、チームメイトにもたくさん迷惑をかけることもありましたが、先生方や剣道部のみんなが支えてくださり、体調もよくなりました。

三年生になり総体が近くなるにつれて、焦りと緊張感が高くなると共に練習にも熱が入りました。私が工業に入学してから一度も県大会で優勝をしたことがなかった中で、これが優勝のラストチャンスでした。

しかし、緊張しすぎたのか、大会直前に体調を崩し熱を出してしまいました。当日は万全とは言い難い体調でしたが、先鋒として試合に出場しました。これは何が何でも期待を裏切れないと思い、決勝まで二本勝ちで進み、チームの優勝に貢献することができました。二日目の個人戦でも、気持ち新たに作り直し、一試合一試合集中して望んだ結果、優勝することができました。インターハイは、青森県の弘前市で行われました。開会式の行進で初めて会場に足を踏み入れました。全国大会という独特の

雰囲気と緊張感、そして実感が一気に体の中に入ってくる感じでした。インターハイに出場が決定してからの二ヶ月間、今まで以上に厳しい稽古や練習試合・遠征を繰り返してきました。そのことが、より思いをより強くしたと思います。

一日目は個人戦でした。個人戦は各県で一位又は二位の選手が対戦相手なので、一試合一試合が本場に厳しいものになりました。初戦は多少緊張しましたが、それよりも全国の舞台で試合ができる喜びの方が大きく感じました。四回戦まで勝ち進み、延長戦の末負けてしまいました。一本を取られた瞬間はとても悔しかったです。その反面プレッシャーから開放された気分でした。結果は個人ベスト十六となりました。

二日目は団体戦でした。対戦校は大分県代表の大分舞鶴高校と新潟県代表の新潟商業高校でした。七月末に福岡県で行われた玉竜旗大会で両校の剣道を見ることができ、自分たちの力を出し切れれば勝負はできると思いました。しかし、結果は両校に敗れ、決勝トーナメントには進めませんでした。

残念でしたが全国のレベルの高さを身をもって感じる事ができ、とても貴重な体験ができたと思っています。

私がここまで剣道を続けてこられたのは、佐々木先生、谷先生、坂本先生の熱心なご指導とOBの方々や保護者の方々の協力があつたからだと思います。特に先生方には、剣道の技術だけではなく、生活面でもご指導いただき、『剣道即生活、生活即剣道』という剣道部の目標が、どれだけ大切か、また、いかに普段の生活が剣道に関係しているかということを教わることができました。また稽古の中では、真摯な態度で物事に取り組むことの大切さや仲間と協力し助け合う大切さも学ぶことができました。

私の高校での剣道生活は終わってしまいましたが、阿南工業にはまだまだ可能性を秘めている後輩たちがいます。これからは応援をする立場として陰ながら支えていきたいと思っています。また自分自身は、立派な社会人になれるように、毎日を常に勉強と思い、感謝を忘れずに過ごしていきたいと考えています。そして、これからも大好き

な剣道を続けていこうと思います。

団体戦

阿南工 1-4 大分舞鶴

阿南工 1-3 新潟商業

大分舞鶴 2勝(決勝トーナメント進出)

新潟商業 1勝1敗

阿南工業 2敗

個人戦

一回戦

小藪 メ(一本勝) | 普天間

二回戦 小藪 メ(一本勝) | 興南(沖縄)

三回戦

小藪 メ | 矢野

四回戦 小藪 メ(一本勝) | 村上

五回戦

小藪 メ(一本勝) | 村上

六回戦 小藪 メ(一本勝) | 八頭(鳥取)

七回戦 小藪 | 延コ坂口

八回戦 小藪 | 延コ坂口

鎮西(熊本)



岩木山にて(青森県)

インターハイに出場して

富岡東高校三年 工藤 麻美



平成二十三年八

月九日〜十二日、

青森県弘前市・青

森県武道館で、

「北の空君に無限

の可能性」のスローガンのもと、第五十八回全国高等学校剣道大会が開催されました。

インターハイに出場するまでには、様々な思いがありました。それは、もう一つの全国大会である選抜大会の予選で富岡西に敗れ、全国の切符を逃して悔しい思いをしたことです。そのため、六月のインターハイ予選では、「今度こそ、必ず全員で勝利を掴む」と仲間を信じ、チャレンジ精神で試合に挑みました。決勝戦は、接戦になりましたが、みんなで必死につなぎ最後まであきらめずに戦った結果、涙と笑顔で全国の切符を掴むことができました。それから気持ちを全国総体へと切り替え、「全国上

位入賞」という新たな目標を掲げ、チーム一丸となって稽古に励みました。また、私たち三年生にとっては、最後の夏の大会となるので、一日一日を大切に練習しました。

いよいよ試合当日。私たちは、いつもどおりにはアップを開始し、自分の調子を高め、試合会場へと足を踏み入れました。予選リーグ一回戦の相手は、秋田県代表の秋田北でした。実力は似ており、いつも通り自分の力の持っている力を出せば、勝てる相手のように思いました。しかし、先鋒・次鋒ともに一本勝ちしましたが、その後中堅、副将、大将と逆転負けをしてしまいました。力を発揮できず残りの一試合を前にして、涙をこらえることができませんでした。「あと一試合ある。絶対に勝とう」と団陣を組んで、気持ちを切り替え試合に臨みました。次の相手は、奈良県代表の郡山でした。先鋒が一本勝ちし、次鋒・中堅と引き分け、副将が二本負けするも大将が一本勝ちし、予選リーグの結果は一勝一敗となりました。二勝した秋田北が予選リーグ突破を決めました。

試合が終わって、会場を後にすると悔しさを溢れました。改めて全国という大舞台で力を発揮すること、勝負の厳しさを痛感しました。しかし、ここまでやってきたことに悔いはなく、何よりも一つの目標に向かってチーム一丸となって頑張ってきた日々は、私たちにあってかけがえのないものです。

今、高校三年間を振り返ってみると、とても充実していたと思います。そう思えるのも、今までご指導してくださった先生方や先輩方大会等で応援し支えてくださった保護者の方々のおかげです。また、仲間がいたから一人では乗り越えられないことも乗り越えることができました。本当に多くの人に感謝しています。ありがとうございました。この感謝の気持ちを忘れず、今まで経験してきたことを生かし、日々成長できるように新たな地で頑張っていきたいと思います。

予選リーグ 第1試合

富岡東 (徳島)	山本悠	田中	工藤	湯浅	山本千	2
	メメ	ド				3
秋田北 (秋田)	メ		メ	メ	ドメ	5
	渡辺	真壁	檜山	三浦	筒井	3

予選リーグ 第2試合

富岡東 (徳島)	山本悠	田中	工藤	湯浅	山本千	2
	メ	X			メ	2
郡山 (奈良)				コメ		2
	中井	竹中	下浦	岩城	田中	1

予選リーグ結果

秋田北	2勝
富岡東	1勝1敗
郡山	2敗



平成23年度全国高校総体剣道大会
平成23年8月9日～12日 会場：青森県武道館

第四十一回全国中学校 剣道大会に参加して

那賀川中学校

監督 小 西 美 穂



「絶対全中に行こう！」毎日のようにこの言葉を掛け合い、迎えた県総体。準決勝は、

よく対戦させてもらっている徳島中学校。やはり、競り合いの、息をのむ戦いでした。代表戦では竹刀を落としてしまい、反則を取られるが、焦らず、諦めず、ただ勝ちたいたいという強い思いが後ろ姿に現れていました。キャプテンを信じ、祈る仲間たちと、観覧席で見守る保護者の方の思いが通じたのか、出小手が決まり、決勝戦へ進むことができました。そして、決勝戦の相手は阿南第一中学校。市総体では決勝戦で敗れ、悔しい思いをしました。「今までやってきたことを出し切ろう。思い切っている。」

と気合いを入れ直し、キャプテンを中心に、自然と生徒たちが声を掛け合い、試合が始まりました。先鋒で先手を取られるも、次鋒、中堅、副将と勝利し、優勝することができました。県代表に出るまでの一戦一戦、その過程こそが貴重な経験でした。

対戦相手となった同郷の仲間たちの気持ちと感謝を胸に、平成二十三年八月二十三日～二十五日、兵庫県加古川市立総合体育館においての第四十一回全国中学校剣道大会に臨みました。

「君の夢 近畿の夏に 咲きほこれ」の大会スローガンのもと、全国各地から集まってきた剣士たちが、自分の持てる最大限の力を発揮し、白熱した戦いを繰り広げました。大きな拍手に包まれ、胸を張って歩いた入場行進、試合前最終のアップ、試合を目前に控えた緊張感漂う控え室、気持ちを一つにして声を掛け合ったミーティング、そして待ちに待った大きな舞台での試合、どの場面においても一瞬一瞬が貴重な時間であり、普段では味わえないような経験をさせていただきました。生徒たちは、一生



第41回全国中学校剣道大会

の想い出を得ることができました。

予選リーグ一回戦目は長崎県代表の東長崎中学校。先鋒、次鋒が勝ち、幸先良いスタートを切るが中堅以降取り返され、二・三の逆転負け。二試合目は福島県代表の平第一中学校。先鋒一本勝ち、中堅一本負け、その後取り切れず、一・一の引き分け。予選リーグ二位で、決勝トーナメントへは惜



しくも進出できませんでした。
 昨年三月に発生した、未曾有の東日本大震災からまだまだ復興まで遠い、厳しい生活が続く被災地からも、岩手・花巻中学校、滝沢第二中学校、宮城・若柳中学校、秀光中学校、福島・平第一中学校などが震災を乗り越え出場し、彼らへの応援の気持ちがあふれる大会でした。剣道ができることが当り前ではなく、厳しく、苦しい稽古もそれができる環境にあることに素直に感謝できる機会だったといえます。

全国の舞台での試合は残念ながら多く出場できませんでしたが、生徒たちは加古川の体育館で自分を輝かし、自分たちのもてる力を精一杯出してくれたと思います。そして、この夏の経験が一人ひとりの糧になってくれることと信じています。ご支援していただいた多くの方々に、心から感謝申し上げます。

予選リーグ 1回戦目

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	
那賀川 (徳島)	坪井	濱田	湯浅	庄野	藤坂	△ 3 2
	メ	ド				
東長崎 (長崎)			メ	コ	メ	○ 5 3
	藤川和	岡	牧島	藤川航	池田	

予選リーグ 2回戦目

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	
那賀川 (徳島)	坪井	濱田	湯浅	庄野	藤坂	□ 1 1
	メ					
平第一 (福島)			メ			□ 1 1
	鈴木光	鈴木友	吉田尚	吉田慧	菊谷	

男子団体予選リーグ

	平第一 (福島)	東長崎 (長崎)	那賀川 (徳島)	得点	勝者数	勝本数	順位
平第一 (福島)	△ 2 1	□ 1 1	0.5	2	3	3	
東長崎 (長崎)	○ 3 2	○ 5 3	2	5	8	1	
那賀川 (徳島)	□ 1 1	△ 3 2	0.5	3	4	2	

全国中学校剣道大会に

出場して

徳島文理中学校

川原 眞実



連覇をかけて一回戦から気を引き締めて挑んだ県総体。中学校最後の夏、「もう一度全

中に行く」とみんなで誓い、息をのむ代表決定戦の末、私たちは夢の切符を手に入れました。また、私自身の絶対目標でもあった個人優勝も何とか果たす事ができ、晴れて八月二十三日から二十五日まで、兵庫県加古川市で開催された第四十一回全国中学校剣道大会に仲間と共に出場することができました。

初日、午後からの開会式では、東日本大震災によって亡くなられた方々のご冥福と被災地の速い復興を願って出場者全員で黙祷を捧げました。私たちは、何の心配もな

く剣道ができる幸せに、感謝しなければいけないと強く感じました。

二日目、団体戦の三校予選リーグ。

錬成会などで何回も剣を交えている奈良県香芝中との対戦では二対〇で負け。しかし、香芝中がもう一校の岐阜県島中に敗れたため、「私たちが勝者三勝・

取得本数五本取れば予選リーグを突破できる」と簡単ではないけれど、仲間を信じて円陣を組み、気力を充実させて島中との戦いに挑みました。結果は残念ながら「二勝五本」と勝者数一人足らず無念のリーグ敗退となりました。先の香芝戦で、私が大將として勝つチャンスがありながら、勝利できなかった悔しさと一本の重みを痛感しました。また、同時にこの敗退を素直に受け止めたのも事実であり、再び新たな目標を持つことができました。そして、この仲間とだからこそ気持ちが一つになれることができたのだと皆には大変感謝しています。

続く個人戦では、一試合でも多く強



い人達と剣を交えたいと思って挑んだのですが、思うように自分の剣道が出来ず敗退しました。攻撃力の不足と精神面の弱さを反省することができました。強い選手は、精神面が強く人の何倍も努力する人ばかりです。

私も今回の経験を生かして、「揺るがない自分自身」を持てるよう、初心を忘れず努力し、目標とする先輩方に少しでも近づけるように精進していきたいと思っています。

最後になりましたが、ご指導頂いた全てに先生方、そして応援していただいた皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございます。

第五十三回全国教職員

剣道大会に参加して

小松島中学校

教諭 西山伸二



八月六日 福井

県立武道館。私にとっては、人生二度目の全国大会であつた。全国教職員大会は私にとって大きな目標であり「夢」でもあつた。若い頃からずっと予選には出場してきたのだが、ほとんど勝つたことがなく、どちらかというところ「試合稽古」の一日であつた。周りを見渡してみると、ほとんどの先生方が中学校や高校時代、名を馳せている方々で、お話を聞くとたびたび自分の未熟さを痛感した。ただ、私は何でもやってみたい性格なので、全国大会なるものには非出場してみたいとの思いをとずっと持ち続けていた。幸運にも、昨年の山口県で開催された全国教職員大会に、四十五歳にし

て初めて出場する機会を得た。今年は昨年に引き続き、二回目の出場となつた。

今回の出場者を見てみると、昨年同様、幼・義務教育の部では最年長であつた。相手は二十六歳。年の差は二十ほどであるから、スピードで勝負するのではなく「理合」で闘おうと思つた。しかし、いざ試合が始まってみると、普段の稽古通りひたすら前に向かって面を打つことのみを終始してしまつた……。

早々と試合を終えた私は、せっかくの機会なので、誰か一緒に稽古をしてくれる人はいないかと、サブ道場で素振りをしたりして声をかけられそうな人を待ち構えていた。しかし、だれも稽古をしようと思える人はいなかつたようで(当たり前のことであるが)空振りに終わった。今度機会があれば、先に知り合いになつておいて(いわゆる「技前」)、約束を取り付けた上で、稽古をお願いしようと考えている。ただ、一番大事なのは一つでも多く試合ができることなので、本末転倒にならないようにしようと思う。

徳島県の試合結果は次の通りである。

団体戦

先鋒 山本義裕(徳島北高校)

次鋒 元木 寛(相生中学校)

中堅 山田浩史(徳島北高校)

副将 柴田宗忠(県立川島中学校)

大将 福多雅英(城西高校)

一回戦 埼玉県に〇―三で惜敗

個人戦

高・大・教委の部

岩原靖人(徳島中央高校)

一回戦 岩原 ― メ 小川(京都)

幼・義務教育の部

西山伸二(小松島中学校)

一回戦 西山 ― メコ 安田(茨城)

女子の部

前田奈々枝(川田中小学校)

二回戦 前田 メメ― 渡邊(北海道)

三回戦 前田 ― コ 山田(福井)

*ベスト十六

私は、小学校四年生の時に剣道を始め、中学、高校は専門の先生がいなくて自分たちだけの稽古であった。そんな状態だから練習試合に行ったこともほとんどなく、「試合に勝つ」経験もほとんどなかった。大学に入り、剣道部の師範は堀江幸夫先生であった。先生に稽古をお願いするには、当時毎朝行われていた旧武道館での朝稽古しかなかったので、大学の授業よりもとに

かく朝稽古だけは自分なりに頑張ったように思う。お話をたくさんいただいた中で、心に深く刻まれた言葉がある。

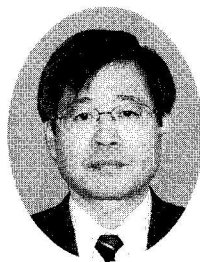
「『今が一番強い』ことが大切だ」

この言葉を胸に、これからもしっかりと稽古を続けていきたい。



あと十秒

阿南高専 湯城 豊勝



NHK大河ドラマ「天地人」で有名になった越後新潟県、私の母校長岡技術科学大学の

位置する長岡市で第十回全国高専女子剣道大会が開催された。試合前日には部員ともども技科大学長を訪問し、さらに体育館で練習させてもらって大会に備えた。

大会出場は全国から十一校、まず三つに分けてのリーグ戦。相変わらず頭を悩ませるリーグ戦である。その戦わない相手が、メンバー不足での出場となっているから大きなプレッシャーとなる。なぜならこのチームと戦う相手は勝者数一、取得本数二本が無条件にはいるからこのハンディは相当なものである。そうは言っても、ルールだから仕方がない。ともかく二勝すればいいだけの話である。とにかく、「頑張ろ

う」の合言葉のもとに試合に臨んだ。そして、ほぼ頭に描いたように進んでいた試合が最後にどんでん返しにあった。

試合の第一戦は茨城高専。本校の先鋒市瀬は、積極的に攻めてくる相手をさばくのは抜群である。技をしかけてくる相手に対してコテとドウで二本勝ちを収めた。中堅船越はメンで先取されるものあと十秒でメンを取り返して引き分け、この時点でほぼ勝負を決めた形になった。なぜなら大将久津間は、かなり強い相手にも引き分けに持ち込むパターンが多く、先行逃げ切りが本校の特徴であったから。さて、次の試合は熊本高専（八代キャンパス）である。二年前の準決勝に勝った相手であるがメンバーは若干変わっている。相手の先鋒があまり技を出さなかったのもそのまま引き分け、中堅は開始早々相手のコテを抜いてメンを決め、そのまま後半になったので勝利するかに思われた。ところが残り十秒前にメンを打ちにいったところをうまくメンに乗らせてしまい、結局引き分けとなった。そして、大将も予定通りの引き分けとなり、チー

ムも引き分けとなった。この結果、取得本数は同じになったものの、勝者数で一人足りなかった。やはり不戦勝分が大きなハンディになったものの、今大会では中堅戦でのあと十秒が明と暗になった。

試合が後半になった時の勝負は難しい。無理をして取りに行かねばならないとき、無理をせず粘るとき、あらゆることを想定してしっかり教えておく必要がある。いつも「しっかり攻めよ、先を取れ」とばかりしか言っていなかった監督の責任である。この結果、残念ながら五年連続のメダルを逃してしまった。偶然ながら、今から二十五年前新潟市で行われた男子の全国高専剣道大会でもあと十秒でメダルを逃した経験があり、私の成長の無さを感じてしまう。

大会においては、練習と試合の応援で長岡技術科学大学豊田准教授にお世話になったが、徳島中学校豊田先生のお兄さんであることを付記する。最近いろいろな縁を感じている。

第六回全日本都道府県対抗 少年剣道優勝大会に参加して

監督 生田 浩章

平成二十三年九月十八日(日)大阪府舞洲アリーナで、標記大会が開催され小学生の部の監督として参加させていただきました。

月一回少年部で少年強化練成会を行い、指導者の選考により四月から七月までに十人を選考し八月に兵庫県の印南剣道場で選考合宿を行い何度も試合を重ねた結果、最終的に五人を徳島県代表として選抜しチームを組みました。選抜された代表選手は以下の五人です。

先鋒 山室 和士 五年
次鋒 山崎 舞 六年
中堅 熊橋 凌司 六年
副将 西條 賢太 六年
大将 西名 晴輝 六年

その後、何度か特別強化を行い、最高の状態で本大会に挑みました。大会前日も他

府県チームに引けを取らないチームワークで練習も終え大会当日を迎えました。

私たちは、鳥取県と神奈川県で予選リーグを戦いました。さすがにそれぞれ県代表の選手たちで一勝一本の大切さを思い知らされました。詳細は以下の通りです。

結果的に残念な成績ではありませんが全国の代表選手と試合ができ、この経験を今後の剣道に生かしてもらいたいと思います。

また、少年部も今後結果を残せるよう努力するとともに、一人でも多くの子供たちが剣道を続けてもらえるように指導していきたいと思えます。大会出場にご協力いただいた徳島県剣道連盟の先生方また保護者の皆さまに御礼を申し上げるとともに今後ともご指導ご協力をよろしく願います。

以上をもって全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会のご報告とさせていただきます。



			鳥 取	徳 島	神奈川	得点	勝者数	勝本数	順位
N	1	鳥 取		$\textcircled{\frac{2}{1}}$	$\triangle \frac{2}{2}$	1	2	4	2
	2	徳 島	$\triangle \frac{1}{0}$		$\square \frac{1}{0}$	0.5	0	2	3
	3	神奈川	$\textcircled{\frac{3}{2}}$	$\square \frac{1}{0}$		1.5	2	4	1

団体名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗
鳥取	渡 邊	初鹿野	浅 井	初鹿野	山 本	$\textcircled{\frac{2}{1}}$
	×	×	⊗	⊗	×	
徳島	×	×		⊕	×	$\triangle \frac{1}{0}$
	山 室	山 崎	熊 橋	西 條	西 名	

団体名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗
徳島	山 室	山 崎	熊 橋	西 條	西 名	$\square \frac{1}{0}$
	⊖					
神奈川	×	×	×	×	×	$\square \frac{1}{0}$
	⊗					
	馬 場	重黒木	門 川	大 塚	貝 塚	

全日本都道府県対抗 少年剣道優勝大会に出場して

徳島文理中学校三年

谷本 晃 佑



平成二十三年九月十八日、大阪府舞洲アリーナにおいて、第六回全日本都道府県対抗少年

剣道大会が開催されました。僕は昨年が続いて二年連続の出場となり、小学六年生の時を含め三回目の出場となりました。

小学校の時は予選敗退、二回目となった昨年は、徳島県勢初の決勝トーナメントへ進出することができました。三回目の本年度は入賞する最後のチャンスであり何とかメダルを手にしたと強い決意を持って臨みました。

ここで徳島県チームを紹介します。選手は県総体個人戦の上位入賞者で構成されています。先鋒は同じ「文理中の川原」、次

鋒「鳴門一中の深見」、中堅「木頭中の大城」、副将「徳島中の古屋」、大将は僕です。中でも男子の選手は、普段ライバルとして戦ってきた強者で、このメンバーであれば僕の夢も実現できると確信していました。

試合の前日は、昨年が続いて監督していた中山先生のご指導のもと、大阪市立住吉第一中学校で、大阪府代表チームをはじめとする多数の強豪チームと練習試合をすることができました。ここでの経験を、翌日の本番に出すことができれば「絶対に勝てる」と思いました。

大会当日、みんなの気持ちが一つになり万全の態勢で試合に臨みましたが、山梨県との対戦では、次鋒が勝利したものの後に続くことができず、大将の僕も引き分けてしまい、二対一で敗れ初戦を飾れませんでした。続く三重県戦では、先鋒が勝利するも次鋒が引き分け、中堅・副将が負け、ここでも僕が引き分けてしまい二対一で負け。結



局、徳島県は二敗で決勝トーナメントに進むことができず、僕たちの目標は夢に終わってしまいました。振り返ってみると、二試合ともに大将の僕が勝利することで逆転が可能であったのに、勝つことができずに終わってしまい大将としての責任を感じました。全国の舞台で一本とることの難しさ、勝つことの厳しさを痛感しました。

「負けて悔いなし」と言いたいところではありませんが、やはり悔いは残ります。今回経験したことを糧として、これからの剣道に生かし、今まで以上に精進したいと思います。

最後になりましたが、監督の中山先生をはじめ、ご指導頂いた多くの先生方や応援いただいた保護者の皆様に心よりお礼を申し上げます。

第五十回全日本女子剣道

選手権大会に出場して

日本体育大学二年

湊 友里



第五十回全日本女子剣道選手権大会が、九月二十五日兵庫県立武道館で開催され、私は

徳島県の代表として、初出場しました。

七月に行われた県予選は、二回目の出場でした。昨年度の県予選ではとても悔しい思いをし、出るからには今年こそ優勝しようと思ひ挑みました。高校の同級生や後輩も多く出場する中、緊張が続く試合ばかりでしたが、何とか優勝することが出来、全日本出場を決めることが出来ました。全日本女子剣道選手権大会は、女子の最高峰の大会と言われており、そのような大会に出場できるというだけで、夢のようでした。

今回の大会は、大学生が十九名出場と、

教員や警察官を超える人数となっていました。そのうち私が現在所属している日本体育大学からも五名が出場しており、私にも少しはチャンスがあるような気がして、頑張ろうと思いました。

また、会場である兵庫県立武道館は中学校の時に練習試合で訪れていた場所でもあり、すぐに馴染むことが出来、このような様々な偶然が緊張を和らげてくれました。

しかし、今までとはレベルの違う大会のうえ、一般の方との試合は慣れていないため、不安も多くなりました。また、全日本を控えた一週間前、私は大学のインカレ予選である、関東女子学生剣道優勝大会に出場したのですが、予選敗退となってしまいました。そのショックが大きく落ち込んでいた時に、大学の監督であり、世界大会3位などといった様々な成績を持っておられる、新里知佳野先生が、「今は落ち込んでるだけではだめだ、切り替えて気持ちをぶつける」と言ってくださり、全日本にかける思いはさらに強まりました。

大会前日、大学の仲間達と一緒に兵庫に

向かい、会場入りしました。前日のアップをしていると、顔見知りの他大学の人たちのほかに、全国で活躍してきている有名な方々がたくさんいて、このような人たちと同じ試合場に立てるのだということに大変感動しました。

大会当日、今までに感じたことのない大会の雰囲気、少し緊張を感じながらも、自分の全力を出し切ってくるということに専念しました。この大会に出場し、同じ徳島県出身で先輩でもあり、活躍されてきた内田さくら先輩にもお言葉を頂き、とても自信になりました。

試合は、緊張から少し動きが鈍くなっ
てしまっているところもありましたが、自分なりに精いっぱい動くことが出来ました。また、徳島県の代表として恥ずかしくないように、堂々と自信をもって挑みました。やっとのことで一回戦、一本を取ることが出来、一勝することができました。たったの一本ですが私にとっては大変嬉しく、この舞台で自分に旗があがったこの一本は、とても心に残るものとなりました。それと

同時に全日本で勝つためには、今まで以上の集中力と気持ちが無くてはならないことの大変さを痛感しました。

試合の結果は二回戦敗退となりました。やはり、最後は学生と違うタイミングに対応することが出来ず、一瞬の隙を打たれてしまいました。結果は残せませんでした。この大会で二試合も試合をすることが出来、今までには経験することの出来なかったことを多く学びました。また、全国のトップである方々の試合を目の前で見ることが出来て、自分の剣道に足りないものを見つけることが出来ました。

この大会に出場し、様々な刺激を受けることが出来、自分の剣道にも影響を受けました。今まで、意識していなかったところも直すようにし、打突の機会も増やすよう、意識して稽古をしています。いつかこの大会で入賞し、さらに自信をつけられるよう、これからも稽古を積んでいきたいと思っています。来年度も全日本女子剣道選手権大会に出場し活躍できるように、努力していきたいです。



第五十七回全日本東西対抗

剣道大会で優秀選手に選ばれて

教士八段 河田清実

平成二十三年九月十八日、山形県上市市で行われた第五十七回東西対抗剣道大会に西軍の五将で出場させていただきました。

この大会は、東西に分かれ、女子は五人制で、男子は六段三組・七段十五組・教士八段十五組・範士八段二組（副将・大将）の計三十五組が対戦をします。試合時間は十分で、積極的に技を出し合い、二本取って勝負をつけさせるという方針です。二年続けての出場はできません。この大会には第五十回（平成十六年松山市・十七将）、第五十三回（平成十九年水戸市・八将）、に続いて三回目の出場でした。お相手は、前回と同じ強豪の古川選手です。前回は面を先取され、胴を取り返し、延長戦の末に胴を狙いすぎて担ぎ小手を見事に打たれて負けました。試合の結果は角範士と千葉範士の大將戦となり、千葉範士が逆転で勝ち一

七対一八で東軍に敗れていました。

今回は古川選手に雪辱をしたい気持ちはありましたが、五月の京都大会での古川選手と船津選手との立ち会いで、古川選手が船津選手の二度の打突を剣先で制し、終了間際に相手のそばなを面の一太刀で勝負を決めたのを見て、その強さと見事さに感動していたので、今回も一本負けでも何とか十分間戦えればいかなと思っていました。試合は十五将（八段の三組目）を終えた時点で八対一三と東軍に大きくリードされていたのですが、一四将から七将まで西軍が八連勝して、私の試合の前には一六対一四と西軍がリードしていました。

前回対戦したときに古川選手の激しく大胆な攻め込みに戸惑いましたが、今回はその攻めに負けないように先をかけようと思っ
て臨みました。立ち会いの攻防から激しい攻め込みがありました。それをしのぎ、先をかけて攻め込み面に出ましたが簡単に打たしてくれる相手ではありません。面にかけての小手も見切られ、返し胴を狙うと担ぎ小手を打ってこられ胴は全く通じませ

ん。しかし、攻防から面に出ようとしたりきに、一瞬相手が面すり上げ面を狙ったように感じたので、突きを攻めてから面から小手に変化したところ、面をすり上げようと手元が上がったところに小手が決まりました。二本目となり、古川選手の反撃が始まり激しい攻めがきましたが、私も負けじと前へ出ました。攻防が続き、かなり時間も経過し、あと一分ぐらいで一本勝ちになると思いましたが、実際には六分ぐらいの時間でした。古川選手の攻めに負けないようにと前に出ていたのですが、攻め入ろうとして少し手元が浮いたところを、小手をとられてしまいました。

このときには、古川選手からあと一本は取れないなと思いました。しかし、勝負となった後、会心の面が決まりました。自分でもどのように打突したのかわかりませんでした。まさに無心の面でした。試合を終えた後、充実感がこみ上げてくるのを感じていました。その後、四将戦で、島根県の下諸選手が、東京の西川選手を、面二本で決め西軍の勝利が決まりました。試合の結

果は高橋範士と浅野範士の大將戦も高橋選手が二本勝ちを収め一九対一六で西軍の勝利になりました。

閉会式が始まる前に西軍監督の大部分の後藤範士が私のところへ来てくださり、「あなたの勝ちで西軍の勝利を確信しました。よく頑張ってください。」とお声をかけていただきました。閉会式で優秀試合二組と女子を含めて五名の優秀選手が発表され、私の名前が呼ばれたときは驚き、感激しました。会長の坂下先生からも会場で祝辞をいただきました。

この大会は、東北の山形県というのに非常に暑くて、そのうえ会場の冷房がストップしたり、控え室や練習場にも冷房はなく、汗が噴き出して止まらず、のどはカラカラで自動販売機の飲み物も全て売り切れという最悪のコンディションでしたが、私にとっでは忘れられない最高の大会になりました。このような機会を与えてくださった方々に感謝したいと思います。ありがとうございました。そして、さらに稽古を積み、精進していきたいと思しますので、ご指導のほ

どよろしくお願いいたします。



全日本東西対抗

剣道大会に出場して

警察支部 山 室 雅 幹

七段に合格させて頂いてから数か月後の

九月十八日、山形県で開催される全日本東西対抗剣道大会に出場させて頂けるという連絡を受けました。本大会は全国を東西に二分し東軍、西軍を先鋒から大将まで女子の部は五名、男子の部は三十五名での対戦で試合時間は十分三本勝負で決しない場合は制限なしの一本勝負となります。光栄にも、東西対抗出場は六段に合格させて頂いたときに続いて二回目の出場となります。

このときは、鹿児島県での開催であり、対戦相手は全日本選手権三位の実績がある愛知県警察の外山選手でした。

また、偶然にも同じ日に長男の和士が出場する全日本都道府県少年剣道大会が大坂で開催されます。開催場所は違っても同じ日に全国大会に出場できるという喜びを噛みしめ、また「和士も頑張るんだ、おやし

も頑張らなくては…」と決意したのです。

試合に臨むにあたり、とにかく構えを崩さない状態でいかに自分の間合いで勝負できるかを考えながら稽古に取り組んでいました。出場が決定してから数日後、対戦相手の発表がありました。同級生であり全日本選手権二位の実績がある宮城県の教員、佐藤光伸選手となりました。佐藤選手は私達の年代では知らない者はいないくらい有名な選手であり小牛田農林高校二年生時に全国校高校総体で個人優勝し、剣風は変幻自在であり、剣道雑誌には「平成の牛若丸」というような見出しが付いていたように思えます。とにかく手首が柔らかく、手の内、足さばきも抜群といった試合巧者です。私

はこのような大舞台で佐藤選手と試合ができることを光栄に感じました。対戦相手が決まる前と同様、自分の構えは絶対崩さず、佐藤選手に正々堂々と勝負しよう決めていました。自分のような不器用な徳島の田舎剣士がどこまで、「平成の牛若丸」に挑むことができるか試合前日までワクワクしてまいりました。試合会場の山形県には坂下剣道

連盟会長とともに向かうことになりました。

道中、試合に際しての力強いお言葉を頂き、試合に向けての気持ちが上がってきました。山形県に到着し、試合前日の西軍は日大山形高校剣道場において合同稽古が行われました。他県の先生方に稽古をお願いすることができ本当に勉強になりました。

また、その後の懇親会でも様々な先生方からありがたいお話しを聞かせていただき、また大学時代の同級生と約十五年ぶりに再会することができ、学生時代の思い出やお互いの剣道感や現在の仕事について語り合うことができました。同級生からは「とにかくお前の剣道を目の前の相手にぶつけろ」と熱いエールを送ってくれました。同級生からの言葉を胸に刻み翌日の試合に臨むことにしました。

そして本番である試合の日を迎えることになりました。心地よい緊張感の中、開会式終了後、東西両軍整列した後、女子の部が始まりました。すばらしい試合が展開され特に大将戦は非常に印象に残る試合でした。続いて男子の先鋒戦が始まり、私の順

番は六番目の三十将であり、私の剣道を佐藤選手に表現する場面がやってきました。

佐藤選手は予想通り竹刀を小刻みに動かしまた、軽やかな足さばきで前に間合いを詰めてきました。私はその動きに翻弄されないよう、自分のペースを保ちながら試合を展開していきました。数分後、佐藤選手が一瞬足が止まったと思う場面があり、コテからメンに飛び込んだところ、コテとメンの間に竹刀を差し込まれ、見事にメンを決められてしました。しかし、心の中では「まだ時間がある。絶対に最後まで諦めない。」と冷静な状態ではありました。佐藤選手は相変わらず同じようなペースで、竹刀を担ぎ、また巻いたり「平成の牛若丸」は変幻自在の剣道で攻め立ててきました。私にも六分過ぎ、チャンスがやってきました。徐々に佐藤選手の動きに慣れてきたこともあり、竹刀を大きく担ぎ技をだして行くのでそこを狙えると思い、佐藤選手の竹刀を軽く抑え右足から少し前に攻めたとき、同じようなタイミングで竹刀を担ぎ打突してきたのでその瞬間、スローモーションの

ように動きが読め、コテを決めることができたのです。その後、試合を展開していく内に佐藤選手の動きが見えはじめました。

しばらく一進一退の攻防が続き制限時間の十分が経過し、延長戦に突入しました。佐藤選手も警戒しているのか担いでからの技が少なくなってきました。私は当初の目標であった、構えを崩さずいかに自分の間合いで勝負ができるかを考えながら、同級生の言葉通り、佐藤選手に思いっきりぶつかっていきました。そして、佐藤選手が再度同じように、担いで打突してくる場面があり一瞬、打突する機会が生まれたので、コテに変化したのですが、そのコテをすり上げ気味にメンを奪われ試合は終了したのです。

その後、試合が展開され、東西対抗試合の最終結果は西軍が十九勝を挙げ勝利しました。最後の大将戦ではお互いの剣先が柔らかに動くように見えながら相手の中心をしっかりと捉え圧迫を掛け、相手の気と技を読み合った、観るものを惹きつけるすばらしい好勝負になりました。勝負には

当然勝ち負けはありますが、大将戦で観させていただいた試合のように、周りで観られても、感動を与えられるような剣道を目指し、日々努力し稽古に精進していきたいと、私は考えております。そして今回、私の試合での反省点は、前半、佐藤選手の動きに多少なりとも惑わされ、思い切った技が出せなかったことです。日頃から諸先生方から主導権を握るということを最初からできていけば、もう少し違った展開で試合が進んでいったかもしれません。私は普段、長男の和士に「父ちゃんの剣道は四角い剣道」とよく言われます。一言で言いますと「剣道が固い」ということです。今回の試合を通して、少しでも柔らかく柔軟な剣道ができるよう努力していき、さらに私が目指す剣道により近づけていくためには、構えを崩さずさらに主導権をいかに先に握るかと考えております。

最後になりますが、二度もこのような大会に出場させていただき、坂下会長をはじめ徳島県剣道連盟の諸先生方には本当に心から深く感謝申し上げます。

国民体育大会

山口大会に出場して

大阪体育大学 福川 敬太



平成二十三年十月二日から三日間、山口県立下関武道館において第六十六回国民体育会

(おいでませ山口国体) 剣道競技が開催されました。

私は先鋒として出場させていただきましたが、成年の部での国体出場は初めてであったため、とても緊張していました。しかし、チーム内の雰囲気が大変よく、このチームで絶対勝ちたいという気持ちで大会に挑みました。

大会の第一回戦は大阪府でした。有名選手ばかりで構成された強豪チームであり、先鋒の私の相手は大阪府警の後藤選手です。試合が近づくとつれ、集中力と負けないという気持ちを高め、落ち着いて、いい緊張

感の中で試合が始まりました。

受けに回らず、積極的に仕掛けていき、自分の剣道をしようと思っかけていきました。調整の稽古では身体は良く動いて調子が良かったので気持ちも乗っていました。前半は、先がとれて自分の展開となり、何回か惜しい場面を作ることができましたが有効打突にはなりません。時間内には勝負が付かず延長戦となり、膠着した状態が続いた後、鏝迫り合いからの別れ際に引き面を打たれてしまいました。

私自身はとても悔しさが残る試合で、自分にも勝てるチャンスはあったと思います。そのチャンスを確実に一本にするという最後の詰めが甘いとつくづく実感しました。百戦錬磨の大阪府警の選手はそういう面でも一枚も二枚も力が上だったように思います。

その後、次鋒、中堅と負けてしまい一回千敗退となりましたが、副将と大将が勝って二対三と意地を見せることができた好試合だったと思います。

この大会で経験したことを残りの学生大

会に活かせるように、もっともっと頑張らなければいけないと思っています。

今回、国体に出場できたことも含め、徳島県国体チームの方々、徳島県剣道連盟の先生方、ご支援いただいている方々等のお陰で成長できていると感じています。本当に感謝の気持ちで一杯です。

これからの剣道人生で活躍ができることが、お世話になった方々への恩返しだと思いますので、これからもご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



全日本居合道大会に参加して

居合道部 水野 大



第四十六回全日

本居合道大会 都

道府県對抗優勝試

合が平成二十三年

十月二十二日(土)

愛媛県武道館にて行われました。五段、六段、七段の代表選手のトーナメント方式で、都道府県對抗優勝試合が行われました。試合は各段別に行われたトーナメントの成績に従った、各段代表選手のポイント合計が団体の総合成績となります。

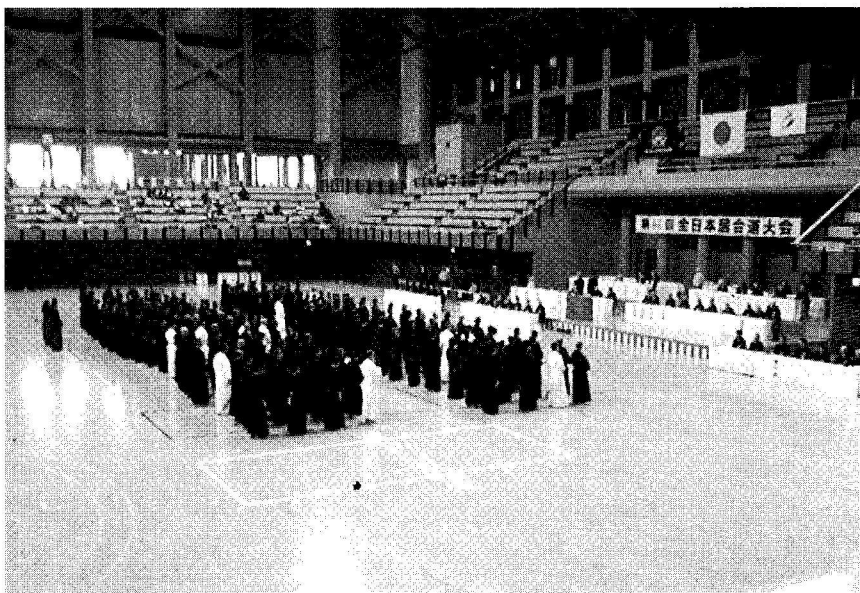
本県から監督・岸田光博、七段・坂本憲一、六段・一村昌和、五段・水野 大が参加しました。都道府県對抗優勝試合の結果は開催県である愛媛県が優勝、二位に神奈川県、三位に埼玉県でした。個人は五段、六段、七段ともに愛媛県の優勝でした。徳島県の成績は七段は沖縄県と対戦し二回戦で、六段は神奈川県と対戦し二回戦で、五

段は福岡県と対戦し一回戦で敗退しました。

全日本の選手選考が五月に行われました。それから大会直前の週まで毎月二回全日本の強化練習日を設定し、原田 勝範士八段を始め県下各道場の七段の先生方に指導をいただきながら稽古に励みました。また夏には阿波にて合宿を実施、また高知県にて四国四県合同の強化練習が二回行われました。

強化練習そして日々の稽古の中では課題も多く、己の技を向上させるためにはどうすればよいか思い迷うことも多々ありましたが、ご多忙の中強化練習に駆けつけていただきました高段の先生方に多くの貴重なご助言ご指導をいただきながら全日本居合道大会へ向けた準備を進めて参りました。

私は今回が初出場ということもあり、全日本大会の独特な空気に圧倒されたのか、今にして思えばかなりあがって肩の力が相当に入ってしまった。普段の稽古や試合では考えられないよ



うなミスをするなど、大会までの五ヶ月間の稽古の成果を十分には発揮できない結果となってしまいました。居合を始めた頃から一度は立ってみたいと願っておりました。しかしできることならば一試合でも多くここで試合を続けたかったという悔しい気持ちも残る、今回の全日本居合道大会出場でありました。

ただ試合の結果がどうあれ、全日本居合道大会に向けて取り組んできた稽古は決して無駄にはならないと思います。今回は結果を残すことが叶いませんでしたが、この経験を糧とし、再びこの舞台に選んで頂きますよう励んでいきたいと考えております。

最後になりましたが今回の全日本居合道大会出場に際して、ご多忙の中ご指導頂きました先生方、強化練習に参加頂き共に稽古頂きました県居合道部の皆様、応援頂きました友人、家族に心から感謝申し上げます。大変ありがとうございました。



全日本剣道選手権大会

に出場して

警察支部 近藤 正章



平成二十三年十一月三日、第五十九回全日本剣道選手権大会に出場して参りました。今

年は東日本大震災の発生に伴い、何度も東北へ出動し、現地では全国の剣友達と協力しながら被災者の救助活動にあたり、震災から必死で立ち上がろうとする人達と触れ合う事で私の方が生きるための新たな力を頂き、改めて剣道に打ち込める幸せを感じながら全日本の舞台へ立つことができました。

大会の数日前、試合のトーナメント表が発表され富山県警の井上選手と対戦する事となりました。井上選手は高校時代インターハイ二位、全日本選手権も五回目の出場という百戦錬磨の相手で、私もこのような素

晴らしい相手と試合をさせてもらえる喜びと、徳島県代表としての誇りを持って、試合までの期間全力で稽古に取り組みました。試合当日はコンディションもよく、体も動きましたが、開会式時には既にこの大会独得の緊張感が会場中に張詰め、息が詰まりそうになりました。

試合開始となり、互いに厳しい間合いの取り合いとなりました。私が打ち間に入ろうとすると、素早く足で間合いをとられ、更に詰めようとしても前に詰められ、相手を崩すことができません。それに対し、相手は私が足を止めた所、居着いた所を徹底して狙い、遠間から一足で得意の面に出てくるというパターンが何度もあり、私は「相手を引き出して、無理に打つてくるところに胴を返そう」と考えました。試合は延長戦に入り、相手の打突を誘って胴のモーションに入った時、とっさに相手が小手に変化し、それが私の拳に触るとこれが一本となり勝負ありとなりました。試合が終わり、改めて内容を反省しますと、自分の力を出し切れないまま終わってしまい悔い

が残りました。今回は少し慎重になりすぎて、審判には消極的な剣道だととられたように思います。そして、試合の中で一本でも捨てきった打ちを出していれば自分のペー스에持ち込む事ができたのではないかと思いました。

今大会を通じて強く感じた事は、上から相手に乗っていかなければ勝てないという事です。その為には充実した気持ちと、打たれる事を恐れない勇気が大切だと改めて痛感しました。優勝した高鍋選手がインタビューで「年齢的にも高くなっていますが、まだまだ若い選手には負けたくない」と語っていました。私も同年の選手として、自分の体力の続く限り来年の全日本の舞台へ立てるように新たな気持ちで挑戦を続けていきたいと思えます。

第五十四回全日本実業団

剣道大会報告

日亜化学工業剣道部

中尾 幸雄



平成二十三年九月十九日、第五十四回全日本実業団大会が日本武道館で開催されました。

東日本震災の影響もあり、例年より参加数は少なかったものの全国から約三〇〇チームが参加し、今年も熱戦を繰り広げました。平成二十三年十二月で創部十周年を迎える日亜化学剣道部は二年連続六度目の出場であり、ベスト八入りを目標として日々の稽古に励んで来ました。

大会には次の布陣で挑みました。

- 先鋒 中尾 幸雄 (六段)
- 次鋒 長谷川普紀 (四段)
- 中堅 舛田 浩一 (三段)
- 副将 宮武 照 (四段)

○大将 山本 泰史 (七段)
(監督) 園田 慎吾 (六段)
初戦は竹中工務店に勝利した大和証券と対戦しました。

先鋒・中尾(私) 四十一歳、相手は二十五歳差がありました。落ち着いて対応出来る、引き分け。次鋒・長谷川選手は持ち前の長身から攻め続け、後半相手がコテに来るところを合わせて「面一本」。中堅・舛田選手は若さあふれる剣道を展開し、「面一本」。長谷川選手の勝利に続き、チームに良い流れをつくりました。副将・宮武選手は初出場からか、やや緊張気味であったが、後半は持ち前の攻めを生かし、引き分け。大将・山本選手も持ち前の攻めを展開し、引き分け。チームとして二対〇の勝利となり、次の試合につながる内容でありました。相手は全国屈指の実力チームであった為、この初戦突破はうれしく思います。

二回戦の相手は、学生剣道界のスター選手出身を布陣とする、アートコーポレーション(本社)と対戦しました。

先鋒・中尾(私)は後半、一瞬の気を抜いた隙をつかれ一本負け。次鋒・長谷川も気迫ある攻めを展開したが、一瞬の隙を連取されました。後がない中堅戦でありましたが、舛田選手の若さあふれる剣道で二本勝ち！相手は上背も体格もあり、迫力満点でしたが、それを見事に打ち破る素晴らしい勝利でした。副将・宮武選手もこの流れに続き、気迫ある試合を展開し、引き分け。大将戦となり、チームの勝利を「大砲」山本にチーム全員が心を一つに見守りました。気迫も攻めも充分でしたが、引き分けとなり、チームとしては惜敗。

文字通り、もう一步のところで勝利に届きませんでした。勝負の世界は時の運であります。実業団剣士として只、勝つための技術を習得するのではなく、剣道の本質を見誤らないようにし、剣道を通して、仕事の事、私生活の事など相談し合えるアットホームなチームづくりに行きたいと思いません。

そして、日亜化学剣道部の活動が今後は、徳島県剣道連盟の支えとなり、活気ある組織づくりに貢献できますように、今後とも

先生方のご指導、ご支援をよろしくお願
い申し上げます。

なお、本大会出場において園田監督には、
段取り、宿舍の手配等本当にお世話になり
ました。この場をお借りし感謝します。

【試合結果】

第三会場

〈一回戦〉()は本数

日亜化学工業 2 (3) - 0 (0) 大和証券

〈二回戦〉

日亜化学工業 1 (2) - 2 (3)

アートコーポレーション (本社)

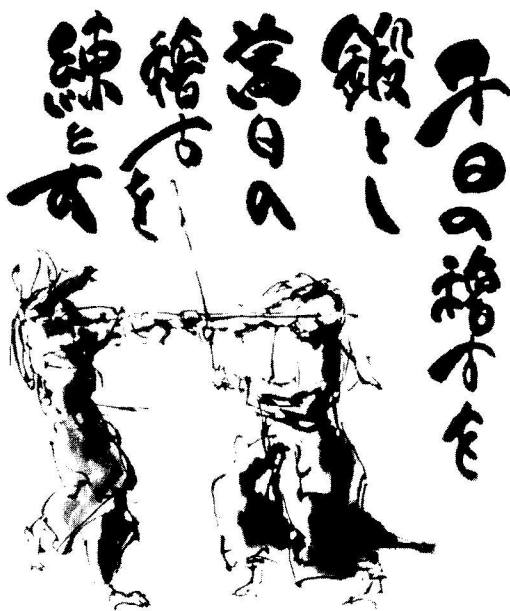
本大会優勝 東洋水産 (本社)

準優勝 日通商事 (本社)

三位 パナソニック電工 (本社)

三位 NTT東日本 (東京)

※対戦相手のアートコーポレーション (本
社) は、ベスト十六。



第十五回全日本実業団女子

高壮年剣道大会結果報告

日亜化学工業剣道部

中尾 幸雄



平成二十四年二月十九日、第十五回全日本実業団女子・高壮剣道大会が日本武道館で開

催されました。

この大会は、毎年九月に開催されている全日本実業団大会（男子）と同じく、女子実業団の大会であります。また、高壮大会は、全日本実業団連盟に登録されている四十歳以上の個人戦であります。（五段以下の部、六・七段の部での男子個人戦）

女子は三人制の団体で、全国各地より九十一チーム、高壮大会は約七百名で総勢約千人が参加し、社名の榮譽をかけた大きな玉ねぎの会場で、白熱した戦いを繰り広げました。

日亜化学剣道部は女子・高壮とも初出場、ベスト八目指して日々の稽古に励んできました。特に女子は大会前、県内高校・大学生と練習試合を実施し、この大会に照準を合わせて調整して来ました。

さて、大会当日の布陣は次のとおりです。

【女子団体】

監督・園田 慎吾（代行・中尾）

先鋒・村田奈津季

次鋒・河野 美幸

大将・近藤 愛

【高壮部門】

○五段以下の部： 樋口 哲也

○六・七段の部： 中尾 幸雄

女子一回戦の相手は、全国屈指で関東実業団大会の王者、日本通運（東京支社）と対戦。特に相手大将の方は、バラエティー番組（炎の体育会TV）で全国放映された、全日本女子実業団ナンバーワン剣士であり、実力・注目度からしても相手に不足なしで、このような実力チームと対戦できる事を光栄に思いました。

日亜女子剣道部三名も、中・高校と全国

大会を何度も経験しており、実力的には申し分なしで、四国代表（四国からは日亜のみ）として挑みました。

先鋒・村田は、対戦相手がスピードのある選手であったが、持ち前のスピード溢れる剣道を展開。一瞬の隙をつかれ面を取られました。その後も、よく攻め込みましたが、胴を取られてしまいました。結果的に敗戦となりましたが、大舞台で気迫の込められた試合内容で次につなげてくれました。

この流れに続き、中堅・河野。昨年末に約四年ぶりに剣道を再開、そのブランクを感じさせない、見事な戦いぶりでありました。一瞬の隙で、面を先取されましたが、後半は返し技が何本も見られ、一本ではないかという場面がありました。時間が切れ、相手は大所帯剣道部で応援人数も圧倒的な多さ、その場面で気持ちを充実させ、あっぱれな戦いでありました。

大将・近藤。相手は、全日本女子実業団個人王者で上段の剣士。序盤、両者攻め合い、気迫充分。途中で一本ではないかという場面もありましたが試合後半に、一瞬手

元が空いたところを、小手と面を取られてしまいました。王者相手に最後まであきらめず、気迫のこもった戦いぶりでありました。

残念ながら、今回は初戦で涙をのむことになりました。初出場ながら、女子実業団剣道の王者によく健闘しました。

高壮部門（五段以下）で樋口さんが出場しました。昨年、約二十五年ぶりに剣道を再開。スピードがあり、持ち前のフットワークを生かした剣道を展開しました。

序盤、一瞬の隙で面を先取されましたが、後半、相手が出てくるところを素晴らしい面を決めました。延長戦にもつれこみ、気迫充分でよく攻め込み、一本ではないかという場面もありましたが、面を取られてしまいました。試合内容は、樋口さんが勝っており、元氣一杯の試合ぶりは素晴らしいものであります。

六・七段の部では、中尾（私）が出場しました。一回戦は、年齢も一つ上で、これも因縁か

女子と同じ、日本通運（七段）の方と対

戦しました。序盤は、気迫を込め相手が小手に来たところをすり上げ面に応じたが、惜しくも旗は上がりません。その後も、自分には攻め込んだつもりですが、フェイントによる小手を先取され、試合時間が三分しかないため、焦って身を捨てて出ようとした所、面に来られました。

相手の方は、日本通運剣道部の監督も定期的に努めている方で、試合運びは一枚も二枚も上でした。

高壮部門においても、今回は初戦で涙をのむことになりました。

徳島県内の一般企業では、六・七段の方は数えるくらいですが、全国実業団界ではこれだけの六・七段猛者が多数在籍され、よく稽古されているなど実感しました。自分自身のレベルの低さに痛感した次第です。

今回は女子・高壮部門とも初出場の結果は残せませんでした。開会式・試合前の稽古また、色々な方の試合内容（見取り稽古）や全国大会の緊張感を体験できました。

大舞台での一戦は、一回の稽古の何倍もの収穫があると私は思います。チームや自

分の力がどんなものなのか把握でき、自信や反省につながれます。今後は、今回の経験を生かし、部員一同で課題を見つけ、今後の稽古に取り組んでいきたいと思っております。

本大会は、剣道部若娘三人と高壮年代二人の計五名の参加でした。前日は全員で、スカイツリーはじめ東京見物をし、夕食は楽しく皆で食べ試合に備えられました。ただ、試合に参加するだけでなく、楽しい学びのある旅でありました。今後も、このチームワークを大切にし良きチームづくり、そして企業人として会社の業務にも貢献していきたいと思っております。

今回参加におきまして、いろいろ段取りして頂いた、園田監督・山本主将にはこの場をおかりし、感謝したいと思います。ありがとうございました。

また、私事ですが、高校剣道部の先輩である、徳島支部の船城先輩・鈴江先輩にチームの応援に来て頂いた事も励みになりました。大会前日に、日本武道館にて全日本剣道大会に参加し、三回戦まで進出されたとのこと。帰りのフライトまで同じで、本当

に嬉しく思いました。ありがとうございます。

今年も、剣道部には数名の新入部員が入部されると聞いております。女子の方も、団体戦に出場できるほどの部に成長してきました。小・中・大学生諸君、将来どうでしょう？仕事に剣道に、一緒にがんばって行きませんか？楽しいイベントも計画しております。日亜剣道魂（三挑戦）で生涯剣道続けていきたいと思えます。

今回、県剣道関係者にこのような素晴らしい大会がある事を御報告したかった次第であります。どんどん積極的に参加及び報告・伝達することが大切であると思いた。

今後は、日亜化学剣道部員が徳島県剣道連盟の支えとなり、活気ある組織づくりに貢献できますように、今後とも先生方のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。ご報告とします。

女子団体 1 回戦 第 6 会場

	先 鋒	中 堅	大 将	結 果	
	村 田	河 野	近 藤	本 数	勝 数
日 亜 化 学 工 業				0	0
日 本 通 運 (東 京 支 社)	メド	メ	コメ	5	3
	佐々木	齊 藤	鹿 又		

※第15回大会優勝はパナソニック電工（東京支社）

高壮部門五段以下 260名参加

1 回戦 第 1 会場

樋口（日亜化学工業）	メ	メメ	楮山（東芝テック）
------------	---	----	-----------

高壮部門六・七段の部 388名参加

1 回戦 第 8 会場

中尾（日亜化学工業）		コメ	野村（日本通運）
------------	--	----	----------



試合後参加者全員で撮影①
(日本武道館)



試合後参加者全員で撮影②
(日本武道館)



試合風景全体 (全試合後は懇親稽古会も実施)



女子一回戦 対戦前挨拶（手前左3人が日垂）



女子一回戦（対日本通運）画像 右は中堅の河野

四国管区警察剣道大会

「大震災に非日常を知る」

徳島県警察剣道監督（警察支部）

平野 誠 司

三月十一日、東日本大震災の発生と同時に次々と映し出される大津波の映像は、誰もが目を疑うほど強烈なものであった。南海地震等に備える機動隊員でさえ、事の重大さをすぐさま受け入れられていなかったが、大津波警報が時間を要せずして日本列島を南下し、徳島県下に発令された瞬間、凝視していた映像から現実の世界へと引き戻されたのであった。

阪神大震災以降、各都道府県警察の機動隊には「広域緊急援助隊」という救助部隊が新設されたが、その部隊が今まきに出動かという緊迫した状況が続いた。実際には、緊急待機から五日後の十六日に四十八名の隊員が第一次派遣部隊として宮城県へ入った。

発災以降、被災地に向けた諸活動は、我々

徳島県の機動隊だけでも合計十一回、延べ一五六日となり、延べ人員は三五〇名を超えている。（平成二十四年一月末日現在）

剣道選手も当然この中に含まれており、しばらくは剣道どころじゃないと先のことを案じるより、この非常事態をどう受け止めるか精一杯であった。

剣道関係の動きは、三月末に行われる予定であった全国高等学校剣道選抜大会が早々に中止されたが、四月以降の全国規模の行事は被災地の欠場は別として、粛々と実施されていった。警察部内の大会においては、七月の四国管区大会（団体戦）は延期となったが、全国規模の大会は九月の個人選手権、十月の団体戦ともに中止が決定した。

日を重ねるうちに、被災地の活動は少しずつ復旧、復興へと色合いを変え始め、それと同時に非日常的な感覚も少しずつ和らいでいった。我々、警察の活動も救出救助・搜索といった活動から、被災地での治安維持活動や被災者のメンタル的な支援活動へと変わっていった。

普段から人間と自然の関わりなどあまり

考えないであろうが、忘れた頃にいつもガツンと思い知らされている。この大自然とともに人間は生かされているという大原理は、誰もが理解するところであるが、実際はこの人間界で人間中心的な興味や関心事に日々浸りきっているのが事実である。

剣道家の修行は自然との関わりの中で、または人間という自然の中で、その精神と肉体を一体化させ、究極の一本を得る（本当の自分と出会える）ところにあると思われるが、個人形成（身体と心）から発し、社会形成（和して同ぜず）へと繋がる剣道観を生涯の大きな目標とできることに、今更ながら感謝せずにはいられない。

大震災のこの年、警察大会は四国管区大会だけとなったが、被災地へ向けた様々な活動が交錯する中、延期後十月十二日に行われた。例年の如く訓練で積み重ねてきたものを競い合うというより、むしろ限られた時間の中で剣道ができるという喜び、感謝、そして情熱等、剣に向けた思い入れの差によって勝負の分かれ目があったように感じられた。

県名	先鋒	次鋒	五将	中堅	三将	副将	大将	合計
高知	濱田	上杉	立石	西山	尾崎	宮地	石川	2
				メコ				1
徳島	一本メ		メメ		一本ド			4
	六條勝	六條洋	宮本	近藤	横手	敦賀	山名	3

県名	先鋒	次鋒	五将	中堅	三将	副将	大将	合計
愛媛	野本	長山	上申	馬越	神野	鎌村	近藤	6
	一本メ		メコ		メ延長	メ一本	メ	4
徳島		一本メ					メ	2
	六條勝	宮本	隅田	六條洋	横手	敦賀	山名	1

県名	先鋒	次鋒	五将	中堅	三将	副将	大将	合計
香川	松本	藤本龍	高本	木下	安部	木村	小川	11
	メコ	コ	ドメ	メ一本	メメ	メコ	ド	5
徳島		ド	コ				コ	3
	宮本	六條勝	横手	六條洋	敦賀	近藤	山名	0

剣道団体試合成績表

	徳島	香川	愛媛	高知	勝数	勝者数	総本数	順位
徳島		3/0	2/1	4/3	1	4	9	3
香川	11/5		1/0	10/6	2	11	22	2
愛媛	6/4	4/3		9/5	3	12	19	1
高知	2/1	1/0	3/1		0	2	6	4

結果は次のとおりであるが、警察官が鎧を削って勝負するということは、単に強い弱いだけに止まらず、武道としての競技(非日常)を方便としながら、その剣行

(非日常)の過程を通して、非常時(非日常)に対応可能となる「正・強・仁」の警察官を作ることが大前提にある。剣道(本当の自分)に出会えたという幸

せを噛みしめながら、自分の心の置き方を工夫し、生涯に渡り剣道を、そして自分を高めることを継続していききたいものだ。

平成二十三年度

徳島県高齢剣友会活動状況

事務局長 笠井 勝



徳島県高齢剣友会は、遠藤一美会長のもと、八十四名の会員（平成二十三年四月末現在）

で活動を進めてきた。

平成二十三年度は、主な行事として次の活動をした。

- （四月）
 - ・第二十六回徳島県高齢者剣道交流大会開催
- （五月）
 - ・第二十三回土佐生涯剣友会交流大会参加
- （六月）
 - ・第三十三回全日本高齢者武道大会参加
- （七月）
 - ・西部地区稽古会開催（吉野川市）

（九月）

- ・第十七回徳島県健康福祉祭剣道交流大会（二〇一一とくしまねりんピック）開催

（十月）

- ・第二十四回全国健康福祉祭くまもと大会（ねりんピック二〇一一剣道交流大会）参加

（十二月）

- ・南部地区稽古会開催（阿南市）（毎月）

原則として、第二、第四土曜日の午後二時から、松茂町第二体育館で、定例の稽古会を開催

以上の行事の内、「第二十三回土佐生涯剣友会交流大会」、「第三十三回全日本高齢者武道大会」、「第二十四回全国健康福祉祭くまもと剣道交流大会」については、直接関係する会員の先生方からご報告いただくことにして、その他の活動について事務局の方から報告することとした。

◎第二十六回徳島県高齢者剣道交流大会

平成二十三年四月十七日（日）午前九時

から県立中央武道館で実施。

開会式の後、日本剣道形が、打太刀・錬士六段後藤徳朝勝先生、仕太刀・錬士六段松田久司先生により行われ、その後、三十四名の参加選手を年代順に二分して、紅白戦を行なった。

試合結果は、紅組五勝（一一本）白組七勝（一二本）で白組の勝利となった。

紅白戦が終了した後、徳島県高齢剣友会総会が開催され、平成二十二年度の事業報告及び会計収支決算報告並びに会計監査報告がなされ、続いて、平成二十三年度事業計画案及び同予算案が審議され了承された。

午後からは、全日本高齢剣友会、（高崎慶男、橋本保治、支倉真人）の三名の先生方、土佐生涯剣友会（篠崎俊雄、友永隆雄、常光彰、戸田七夫、岡本守雄、栗尾博義、門田豊、大久保正生、小松武利）の十名の先生方、愛媛県高齢者剣道同好会（三好耕一、藤田守也、杉本和巳、川村博昭、向井健司、古谷龍夫）の六名の先生方、兵庫阪神剣友会（栗山博行、伊澤章、北二郎、谷川成輝、岡本久雄、前野頼彦、河原田良一）の七名



第26回徳島県高齢者剣道交流大会 H23年 4月17日

の先生方の参加を得て、親善交流試合を実施した。

試合結果

土佐生涯剣友会 対 徳島県高齢剣友会 A

五勝（八本） 二勝（四本）

兵庫阪神剣友会 対 徳島県高齢剣友会 B

五勝（九本） 四勝（六本）

愛媛県高齢者同好会 対 兵庫阪神剣友会

四勝（八本） 三勝（六本）

愛媛県高齢者同好会 対 土佐生涯剣友会

二勝（五本） 三勝（六本）

親善試合後、全参加者による合同稽古を実施して、お互いに良い汗を流した。

本県会員による試合だけでなく、土佐生涯、愛媛県、兵庫県の各先生方との親善試合・合同稽古も行うことが出来、大変爽り

の多い一日となった。
午後六時からの第二道場は、ホテルグランドパレス徳島において懇親会が開催され、全日本、土佐生涯、愛媛県、兵庫県、徳島県の高齢剣士四十名が杯を片手にして剣道談議に花を咲かせた。

◎西部地区稽古会（吉野川市）

平成二十三年七月九日（土）午後二時から美郷ふるさとセンターにおいて、県剣道連盟麻植支部の先生方のお世話で、西部地区稽古会を実施した。

稽古会は、高齢剣友会員及び、地元麻植支部会員の先生方三十名が集い、冷房設備の恩恵を受けて、酷暑の中稽古を実施して心地よい汗を流した。

稽古会の後、有志の先生方は、第二道場である美郷ふれあいセンター温泉において、剣道談議に花を咲かせた。

◎第十七回徳島県健康福祉祭剣道交流大会（二〇一とくしまねりんピック）

平成二十三年九月二十五日（日）午前九時から松茂町第二体育館において実施した。開会式の後、日本剣道形が、打太刀・教士七段藤川和秋先生、仕太刀・五段佐野博志先生により行われた。

準備運動の後、会員選手三十七名による交流試合が、団体戦・個人戦の順に展開された。

団体戦は、十二チームによりトーナメン



第17回徳島県健康福祉祭剣道交流大会（2011とくしまねりんピック） H23年9月25日

ト戦が行われた。

・優勝：麻植A（藤川和秋、出葉成一、三

木毅）

・二位：美馬（藤本文義、日野浦正一、

藤徳朝勝）

・三位：徳島A（東徳美、中村稔裕、東内

勉）

・三位：海部（丸岡偉人、沢井勝之、張

西政晴）

個人戦は、三十七名の選手が年齢別の四グループに別れてトーナメント戦を行った。

〔特組〕優勝（遠藤一美）、二位（有賀秀

敏）、三位（東内勉）

〔A組〕優勝（中尾正輝）、二位（中村稔

裕）、三位（沢井勝之、久次米繁

興）

〔B組〕優勝（美馬勝行）、二位（北條憲

治）、三位（平正明、原田進）

〔C組〕優勝（藤川和秋）、二位（東徳美）、

三位（丸岡偉人、忠津和憲）

◎南部地区稽古会（阿南市）

平成二十三年十二月十一日（土）午後二

時から阿南市スポーツ総合センターサブア



南部地区稽古会（阿南市） H23年12月11日

リーナにおいて、県剣道連盟阿南支部の先
生方のお世話で、南部地区稽古会を実施し
た。

参加者は、高齢剣友会員及び、阿南支部
会員並びに少年・少女剣士合わせて六十一
名が参加し、南北中央に先生が二列となり、
東西から稽古に懸かる状態で、会場一杯に
熱気溢れる稽古会となった。

なお、午後六時からの第二道場は、ホテ
ル志な川において、有志参加の懇親会が行
われ、河田八段先生の全日本選抜八段優勝
大会及び全日本東西対抗大会のビデオを観
戦して勉強するなど、年間の反省、更には
次年に向けての希望など、剣道談議に花が
咲いた。

◎定例の稽古会

定例の稽古会は、毎月第二、第四土曜日
の午後二時から、松茂町第二体育館におい
て実施しており、新しい会員先生の参加も
あり、毎回十数名から二十数名の会員が参
集し、熱心に心技体の向上を目指して稽古
が行われた。

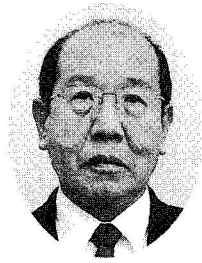


高知生涯剣友

交流会に参加して

徳島県高齢者剣友会

兵頭新平



高知生涯剣友交流会が平成二十三年五月七日（土）、高知県立武道館にて開催されました。

私も、昨年につき参加させていただきました、徳島県高齢剣友会からは十名の先生方が参加、また、愛媛県剣友会からも十二名の先生方の参加者があり、地元高知では二十余名の高齢剣士が集まり午前中「高知生涯剣友会大会」を行っていました。我々一行は各自で準備運動を行い、その後十三時から三県対抗交流試合を行いました。交流試合終了後は、道場いっぱいになり合同稽古でたっぷり汗もかき、非常によい稽古をさせていただきました。

その後、一休みして十八時からは宿泊先

のホテルで楽しみにしていた懇親会。美味しいようなボリュームたっぷりの皿鉢料理で三県の先生方が入り交じり、剣道談議、世間話と、稽古の疲れも時間が経つのも忘れて大いに盛り上がり、楽しい懇親会でありました。

「交剣交酒」

懇親会もお開きになった後、愛媛の先生方と久しぶりですという事で、また意気投合しおひろめ市場へ（いわゆる二次会ですね）、閉店間際まで、また盛り上がりました。高知生涯剣友会の先生方、

大変お世話になりました。また、愛媛の剣友会の先生方には夜遅くまでお付き合ひしていただき、有り難うございました。

翌日は朝食後、高知日曜市に出かけ、また、帰り道では土佐山田刃物、物産センターにも立ち寄りたりしてゆっくりとした

時間を過ごし、徳島に帰ってきました。

最後になりましたが、この交流会への参加者は現地集合ということで、道中、車に同乗させていただいた日野先生、大変お世話になり有り難うございました。

追伸

徳島県の中、高年の剣道の先生方、「徳島県高齢者剣友会」に入会して楽しく剣道をやりませんか。

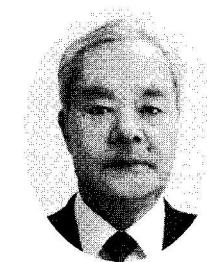


ねんりんピック

熊本大会に参加して

三木 毅

県結団式と九州新幹線



平成二十三年度の「ねんりんピック二〇一一熊本」

は「火の国に燃えろ ねんりん夢・未来」のキャッチフレーズで熊本県挙げての受入があり、スポーツ交流大会、ふれあいスポーツ交流大会、そして文化交流大会に区分され、徳島県参加選手団は二十二種目一七三名の陣容であった。



期間は、十月十四日から十八日の五日間であった。十月十四日午前十一時から徳島県庁

の講堂で結団式兼壮行会が開催され飯泉知事から激励の言葉を頂戴し、バス三台に分乗してJR岡山駅に向かった。

岡山駅からは開通したばかりの九州新幹線で熊本駅を目指した。道中は「県あいランド推進協議会」の近藤次長さんをはじめ職員の方々が添乗され、時宜をみてそれはよくお世話していただいた。約四時間の新幹線の旅は、徳島では味わえない静かで高速感そのものの快適な時間を過ごすことができた。

その夜のこと、選手団全員は「熊本全日空ホテルニュースカイ」での交流会場に移り、同席の他競技選手と和やかな懇談の一時を過ごすことができた。

翌十月十五日の朝、選手団は総合開会式の会場である「熊本県民総合運動公園陸上競技場」に移動した。会場は徳島では見られないとてつもない大きい施設であった。

入場行進までに相当の時間があり各県選手団の点呼があり、この間他県の選手団との笑談に花が咲き互いに健闘の誓いを交わしあった。



総合開会式は、常陸宮ご夫妻をロイヤルボックスにお迎えして所定のスケジュール通り進行し、アトラクションでは華やかな地元民芸などが披露され、同地出身の「水前寺清子歌手」が「三百六十五歩のマーチ」を力の限りの熱演した。

総合開会式を終えた我々一同は剣道会場となる「菊池市」に移動した。

十月十六日の朝、本県五人の選手はたっぷりの朝食をとり、会場に勇んだ。

試合時間は、四分引分けという決戦で第一試合場の第一ブロックに位置し、ブロックチームは鹿児島県・埼玉県・岐阜県・徳島県で、本県は第五試合目で岐阜県と、第九試合目で鹿児島県との対戦であった。

岐阜県との対戦

岐阜県との対戦は、下表の結果となった。

北條先鋒は、慎重かつ果敢に挑み、引き分けとし、先鋒の役割を果たし、美馬次鋒は、得意の小手を取得したが面をとられ、これまた次鋒の役割を果たした。

三木中堅は、早々と面二本を取得し、副

本数	勝数	大将	副将	中堅	次鋒	先鋒	
3	2	日下部	篠原	佐藤	名和	山越	岐阜県
		メ	メ		メ		
2	1			メメ	コ		徳島県
		遠藤	川田	三木	美馬	北條	

将へと繋いだ。副将川田は粘りある剣裁きを展開したが、相手の面一本を取り返せず、遠藤大将の対戦に期待を託した。

遠藤大将は間断なく、素早い足運びとうまい剣裁きを展開したが、相手面一本を取り返せず、惜敗した。

鹿児島県との対戦

鹿児島県との対戦は下表のとおりで、本県選手は一本も取得できなかった。鹿児島県選手は、全員が間断なく攻撃の姿勢であった。鹿児島県選手の果敢な剣風に拍手を送り感謝したい。

本数	勝数	大将	副将	中堅	次鋒	先鋒	
6	4	三窪	塚元	中間	溝口	厚地	鹿児島県
		メ		メ	メコ	メメ	
0	0						徳島県
		遠藤	川田	三木	美馬	北條	

リーグ戦結果と最終結果

本県が位置した第一試合場第一ブロックは、鹿児島県・埼玉県・岐阜県・徳島県でありブロック突破は、埼玉県であった。

交流大会の決勝トーナメントでは、優勝熊本県Aであり、準優勝熊本県B・第三位は京都府・富山県という結果であった。

他県の戦い振りを観察すると、勝負に徹する剣風を身につけているということを感じることができた。

熊本県の名所探訪

大会開催地となった「菊池市」では、七世紀後半に大和朝廷が唐・新羅軍に対する防御の目的で「鞠智城」を築城したという。

晴天下に鞠智城を訪問することができた。この城は当時に高麗から帰化した軍人の指揮のもとに建造されたものとして、現在に姿をとどめている。



宮本武蔵が五輪書を書いた靈巖洞

十月十八日は、菊池市から、JR熊本駅に移動してタクシーで「靈巖洞」を訪問した。

靈巖洞は熊本駅西方の山麓に位置し、靈巖洞に差し掛かると、入場管理所があり、右方は山麓で、左方はみかん畑や民家が点在する。

標高は百メートル程度と思われ、道中には五百羅漢が安置され先に進むと洞窟に至る階段があり、五十段ほどで洞窟に達する。洞窟は岩山の裂け目で全面は格子が設けられ観音堂としての木造建物がある。大きさは十畳程度の広さと思われる。

宮本武蔵はこの場に籠もり、過去を顧みながら、次代に残すべき貴重な事柄について「五輪書」をまとめたと言われる。洞窟の前に立つとどんな過酷な状況であったか、食事はどのようなにしたのか、どういう時間をどのようにに使い後世に残すべき貴重な事柄を練り上げたのかなどについて大いなる思いを深めることができ、武蔵自身が深く



敵しい剣への思いと体験を思い浮かべながら一文字ずつを書き下ろしたことでであろうことを偲ぶことができた。今後において、武蔵の書き下ろした「五輪書」を読み直さなければという気持ちにかられた貴重な探訪であった。

随想

徳島での思い出

高田 亮

この度、木原先生からの御依頼により拙文ではございますが、書かせて頂きます。

大正十一年十一月に藍園（現在の藍住）に生を受け、爾来九十年余りを藍住で過ごしました。藍住を離れてここ屋島に来て早いもので半年近くが過ぎました。西を向いても東を見ても知らぬ土地、知り人としてなく、頼りになるのは長男家族の三人のみ、手探りの日々でした。

施設の皆様の情けある御交誼、職員の方々の温かい御助言・御指導により、楽しい日々を送って居ります。朝一時間余りの海岸を、海洋オゾンを含んだ一杯に吸い込んでの散歩、サイクリングによる足腰の鍛え、素振り、読書、施設のイベント等の参加で心身を癒して日々を過ごして居ります。

私が昭和二十四年十二月足かけ五年のシベリアの捕虜生活から帰還して一年余り、計らずも昭和二十六年一月に徳島刑務所に奉職することが出来ました。昭和二十八年、長安ダムの現場に受刑者と共に居におりました。その折、野口先生から剣道の新人大会があるので参加しませんかとの誘いがあり、剣道を始める様になりました。幸いにも優勝が出来て、それから私の剣道生活が始まりました。以来五十八年、平成二十三年に藍住剣道会を引退する事になるのですが、今振り返って、色々な出来事が思い浮かびます。

私の一番印象深く残っているのは、全国矯正剣道大会で四国代表で日本武道館の特別会場で試合の出来たことです。成績は残念ながらながら惨敗に終わりましたが、忘れられない思い出です。その他、昭和五十三年に藍住剣道スポーツ少年団の創設、五十六年の武道館の設立、徳島女子剣道大会の開設（現在の女子大会）等々。次々に優れた諸先生に恵まれて剣道が出来た事が今更の様に有難く思っています。また、全国剣道交

流大会で東京代々木へ出かけた折の御父兄との楽しかった一時が忘れられません。当時、選手であった小松島の園田慎吾君や那賀川の山崎砂織さんが今も活躍されているのを見聞きし、一入なつかしく思い出されます。

また、山田 仁先生から徳島剣連事業部を受け継いだのですが、初めての事で五里霧中でした。当時の会長の堀江先生、理事長の柏原先生からの御指導、御支援をいただき、本当に助けられました。柏原先生はよい剣友でもありました。私の竹刀を巻き落として道場の端まで竹刀を飛ばして面金の中でニタツと笑っている顔が目に浮かんで来ます。将来徳島の剣道界を背負って行かれると思っていました。若くして夭折されて一筋の光を失ってしまいました。御二人方には公私に亘り御交り頂けたことを感謝して居ります。また、事務局員の佃さんには何から手をつけてよいのか判らない折り、色々を教わり無難に仕事が出来る様になりました。各種大会の組合せ作成等懐かしく思い出されます。佃さんから長谷川

さんに続けて御友援を頂いて本当に有難く、さらに優秀な事業部員の諸先生方と恵まれたスタッフと共に仕事ができ、大過なく責を果たす事が出来ました事を心から感謝をしています。永い私の剣道人生の中では役所時代の剣友も皆故人となり、

野口先輩と二人になってしまいました。残り少ない人生、野口先輩と奥様にはいつまでも幸せにと願っています。長幼序ありとか、次々と諸先生方が故人となられるのを見聞きし、何とも物悲しく淋しい限りです。ここ屋島に来て本当に生まれ育った徳島藍住がこんなに懐かしく思い出されるとは思ってもいませんでした。

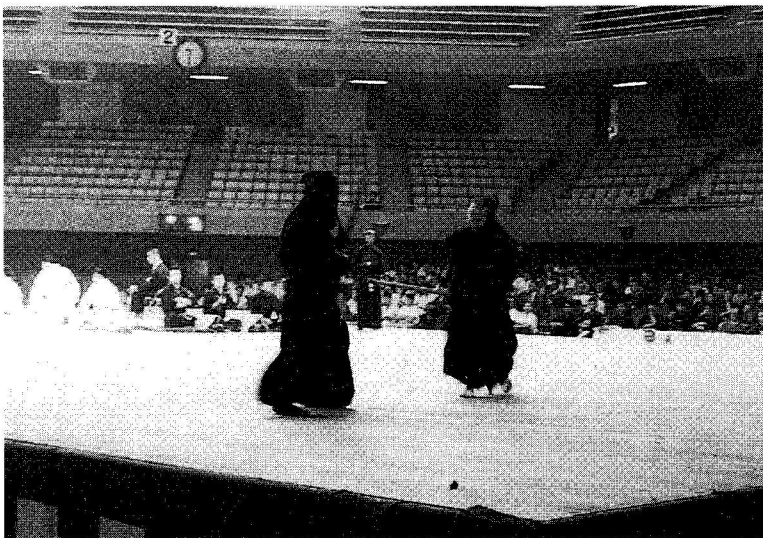
長谷川さんから計らずも「徳島の剣道」を送って頂いて嬉しく飛びついて拝読致しました。年のせいかな、アルバムを開くことが多くなりました。諸先生方の御姿や御顔を拝見しながら昔

日の思い出に浸っています。これからの人生、生悔いの無い様に、故人になられました諸先生方の、御冥福を祈り、これからの徳島の剣道界を背負っていかれます諸先生方の御健勝と御多幸をお祈りします。また、徳島剣連の益々の御発展と御隆盛を祈念しつつ、拙筆を終わらせて頂きます。有難うございました。

合掌



あこがれの日本武道館



桜舞台での試合

師を語る、父を語る

徳島県剣道連盟 副会長

米 倉

滋



一昨年五月、私の良き理解者であり、物心共支援してくれた父が腹膜炎による多臓器不

全病のため享年八十五歳で他界し、深い悲しみに見舞われました。

私は会社員の父と農業を営む母の三兄弟（姉・弟）の長男として阿南市水井町で生まれました。私の育ったところは、阿南市の中心部より約二十キロメートル西に入った那賀川沿いの、四国霊場八十八ヶ所二十番札所鶴林寺と二十一番札所大龍寺との間に位置し、周囲を山で囲まれた風光明媚な田舎町です。

無口で実直、勤勉な父は会社の仕事と母の農業の手伝いに追われ、私の剣道姿を見たことがなかったのですが、昭和六十一年、

私が三十一歳のとき四回目の全日本剣道選手権大会の出場が決定したので、私の剣道姿を両親に見てもらいたいと思い、東京行きの手配を手配し、応援に来てくれるよう話したところ父が応援に来てくれました。試合は二回戦で負けましたが、日本で最も権威ある大会を父は満足したらしく、その後も剣道の話になると当時の話をしていました。しかし、私の剣道姿を見たのはその時が最後となりました。

私は、昭和四十二年四月地元の加茂谷中学校入学と同時に剣道を始めました。当時の加茂谷中学校の男子運動部は、野球部、陸上部、卓球部、それと剣道部の四部しかなく、走ったり球技をしたりすることが苦手だった私は、消去法により剣道部に入部しました。

入部当時、剣道部は約二十名でしたが剣道の経験のない先生が顧問をしていたため、新入部員の指導はもっぱら三年生の先輩で、又、学校備え付けの防具が不足していたため、交代で防具を使い回しながら練習しました。試合場に親が送り迎えをし、自分の

防具を新品で揃える今の小・中学生からすると考えられないようなことですが、当時の田舎の中学校剣道部では当たり前のことだと思っていました。

中学二年生のとき、徳島県剣道連盟阿南支部長をされていた清原先生が、阿南市内で中学校剣道部の指導者がいない学校に月一回程度巡回指導に来て下さり、構え方や面の打ち方等の基本練習を中心とした指導をして下さるようになり、私は初めて剣道の師に巡り会えました。

中学校卒業後、阿南工業高校に入学しましたが、入学当時の身長が一四五センチメートル、体重四十五キログラムという小柄な体型で、加えて片道約二十キロメートルを自転車で一時間かけて通学していたので剣道部に入部することを断念していました。入学式から二週間経った放課後、体育館を覗いてみると、清原先生と鎌田先生が剣道部の指導をなさっていました。清原先生は私の顔を見るなり近づいて来られ、「米倉君、明日から竹刀を持って練習に来なさい。」という言葉をかけて下さいました。

私は一瞬戸惑った後、「は、はい。」と返事し、剣道部に入部することとなりました。

当時の剣道部は清原先生と鎌田先生が二人三脚で指導されており、文武の「文」は鎌田先生が、「武」は清原先生が主に指導され「文武両道」つまり、学習と剣道を両立することを目指し、練習に励んでいました。

鎌田先生は、昭和四十四年四月から剣道部の顧問として部員の学習面、つまり学校での成績や生活態度、礼儀さらに道場での稽古の在り方等について厳しく指導されました。剣道部員は、成績が下がったり生活態度が乱れたりすると職員室に呼ばれ、その理由や今後の在り方等、叱咤激励を受けました。このような鎌田先生の熱心な指導により、剣道部は優秀な成績を残し、現在もこの伝統を守り続けています。

清原先生は、明治四十三年七月二十八日、阿南市下大野町に生まれ、小学校時代に浅井真一教士の手解きで剣道を始め、学校長である父の影響を受け（教育者を志し）徳島師範学校（現・徳島大学）に進学し、近

江佐久郎・藤川一太郎両範士に師事し、卒業後は、昭和七年美馬郡半平小学校に奉職

され、昭和四十四年阿南市吉井小学校校長を最後に退職されました。その間、全国教職員剣道大会等の全国大会に数多く出場されるとともに、昭和三十年五月教士の称号を受けられました。退職後の昭和四十四年五月、顧問の鎌田先生に熱心に勧誘され、阿南工業高校剣道部師範となり、私たちに指導して下さるようになりました。

普段は温和で優しい清原先生ですが、この剣道になると一切の妥協を許さず、「剣道は勝たなければだめだ。」また、「勝つためには基本が最も大切である。」と述べられ、毎日の練習心得として具体的な練習内容を剣道場の全面に掲示し、基本技を繰り返して練習しました。

先生の剣道の特徴は、柔らかい構えから打ち出される鋭い技で、刺すように打つ小手が得意で、私たちにはよく「勝負は小手で決まる。」と話して下さいました。

私は小手打ちが得意ではありませんが、柔らかい構えからの打突は先生譲りである

と自負しています。

また、先生の指導は、全員をひとつの型に入れる画一的なものでなく、「自分の得意技をもて。」と言われ、一人ひとりの個性や特徴を尊重して、長所や得意技をのびしていくというものでした。

中でも、先生が試合等で県外に出向き指導に来られないときは、一人ひとりに「練習場の注意」を記入した手紙を手渡され、「これを見て私が帰るまでによく練習しなさい。」と話されたことが、特に印象に残っています。

先生は、私たちに指導して下さいる一方「師たらんと欲する者はまず学べ。」の信念のもとに、ご自身も昇段審査の受審や各種全国剣道大会に数多く出場され、「俺について来い」という範を示され、八十二歳まで竹刀を振り続けられました。

剣道の修行を通じて人生の厳しさを示され、晩年まで現役の剣道家として歩み続けられたそのお姿は、求道者そのものであり、先生の温和な人柄からは想像もできないものでした。

平成六年六月、清原先生は逝去されました。その三年後の平成九年七月、私は剣道場養武館を開設し、地域における剣道の振興と青少年の健全育成のため、剣道指導を行っています。青少年の剣道指導は大変難しく、改めて清原先生の偉大さを痛感しているところです。

私自身、立派な父の息子であることを誇りに思い、又、良き指導者に巡り会えたことに感謝し、先生の意志を受け継ぎ稽古に励むと共に、次代を担う剣士を育てたいと思っています。



よわい 六五にして思うこと

麻植支部 出葉成一



光陰矢の如して、

私も今春三月末で早くも満六五歳になります。自分の

これまでの人生を振り返ると、何もせずに只歳月を重ねただけであり、本当にこれでいいのだろうかとか深く反省せざるを得ません。

「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」（劉希夷）という漢詩の一節があります。これは自然の人間の姿や摂理とか、人が老いゆく嘆きを謳ったものと受けとめています。誰しも加齢とともに、気力や体力が衰えるのは、如何ともし難いことではないでしょうか。最近、私は頓にこの詩の心境が切実に感じられるようになりました。冷静に考えた時、たった一度しかないこの人生を何もせずに、このまま終わらせてしまうのは、何故か非常に勿体ない気

がしてなりません。私には、遣り残した事や遣らねばならない事が山程ありますが、せめて何か一つだけでもと考えていた時に、ふと頭に浮かんだのは、やはり未熟なりにも自分が大好きな剣道のことでした。

これまで自分がやってきた剣道を振り返ると、何の志も持たず、自己がまとまらずに、ただ当てっこの剣道ばかりやっており、これでは、自己の人間性や人格の向上を図ることはおろか、剣先の攻め合いの中にあると言われる剣道の本当の醍醐味すら味わえないのではないかと深く反省した処であります。

この大いなる反省の上に立って考えた、自分のこれからの剣道をどうすべきかという事について、思いつくまま稚拙な内容ですが、赤面の思いで述べることにします。これはあくまで私個人のことですので、予めお許し願います。

一 剣道に対する今後の

取り組み姿勢等

剣道修練の大目的は、剣の理法の修練による人間形成であることは、論を持たない

ことですが、私はその修練をする者の心構え等で最も大事なことは、剣道を正しく真剣に学ぶということではないかと再認識しました。

道元禅師が正法眼蔵で言われる「仏道を習うというは、自己を習うなり」ということを剣道に置き換えれば、要は自分が剣道とどのように向き合い、普段の稽古にどのような覚悟や気持ちで取り組むのかということであり、これを自分自身が明確にして肝に銘じておくことが大事であると思いました。又自分が目指すべき理想の剣道像とか、剣道観といったものを持って、それらを達成実現する為には、何をしなければいけないのか、何をしてはいけないのかということも、しっかりと自己認識しておくことが必要だと思えます。

二 私の理想とする剣道

私が理想とする剣道は、相手の心と自分の心が真正面向き合い、お互いの優劣が見えてくるまで徹底して攻め合い、その攻め合いに勝って理のある機会を捉えて捨て

て打ち切るといふ剣道です。これは非常にハイレベルな剣道であり、私如きが口にすべきことではなく、又並大抵の稽古や精進ではおぼつかないことは、百も承知しております。

私は、このような剣道を意識して稽古すれば、おのずと一本を大事にし、初太刀を大事にするようになると思っています。又そんな気持ちで打つ一本は、例え少々打突部位がはずれたとしても、きつと相手の心に響くのではなからうかとも思っています。この意識でしっかりと稽古すれば、剣道の内容や質も自然と良くなり、お互いに清々しい気持ちにもなれるのではないかと考えています。

三 現在取り組み中の課題

私には、今後取り組むべき課題が山程ありますが、取り敢えず現在意識してやっていることについて話します。その一点目は「非知りの稽古」ということです。これについては表現は違いますが、打たれて強くなれとか、打って反省、打たれて感謝とい

う教えと同じ意味であると考えています。私は、稽古の中で己の非を知るといふ的を得たこの教えの響が、現在の私の心境や立場にピッタリで気に入っております。この

教えの内容は、稽古や試合で、相手に打たれたら、それは相手が自分の欠点を教えてくれたのだから有り難いと感謝の念を持ち、自分がどういう機会や間合で、どんな気分のところを打たれたのかと素直な気持ちで真剣に反省をして、それを次の稽古に活かしていくということです。要は稽古をやりっぱなしにしないということです。これが、これまで非常に難しいことです。二点目は、初太刀を大事にすることと併せて、相手と対峙した場合に、一足一刀の間のギリギリの処で、どこまで打ち気にはやらずに辛抱できるか、懸待一致の待が居着きにならないようにと、目下懸命に取り組み中です。三点目は相手と縁を切らない稽古ですが、これもまた非常に苦しいことで苦勞しています。打突後、直ぐに気が抜けてしまい、充分な残心がとれなかったり、必要以上に間が遠くなり過ぎて張り詰めていた相手との心の

糸が切れてしまうなど、苦勞しているところでは。

結びに

それにつけても、日々の生活や剣道のことを考えたりしている時に、ふと懐かしく、また有り難く思い出されるのが、恩師の面影と尊い教えであります。故三木只雄先生からは、「暇は自分で見付けて稽古しなければよ」とか、故堀江幸夫先生からは、「習い事は何でも同じで、上達の秘訣は素直な心で行じることであるが、特に剣道では、それが求められる。まずは真剣に行ずることが大事」とか、「竹刀は刀である。そう考えれば失敗は成り立たない。やり直しはきかんのだから、もっと真剣に稽古に取り組まな、あかんぜ」等々、数えれば限がありません。本当に有り難いことです。恩師の教えに一步でも近づけるよう精進したいと思っております。

恩師のご冥福をお祈りしながらペンを置かせて頂きます。

朝稽古

徳島支部 中尾 正輝

午前七時三十分、警察学校剣道場から裂帛の気合いが裏籠の山々に轟く。徳島県警察剣道特別訓練生（以下、特練と称す。）の朝稽古の始まりである。

かつて、朝稽古は助任橋の袂旧武道館（徳島町城内）において、故堀江幸夫範士八段ご指導のもと、特練中心で始まる。一九六五年（昭和四十年）九月二十四日から一九八八年（昭和六十二年）十月まで二十三年間続けられた。この間、近郷近在から剣士が訪れ年々盛大になっていく。しかし、県立中央武道館完成のため解散に至る。

現特練の朝稽古は、一九九九年（平成十一年）十二月から始まり十一年が過ぎる。平成十二年度全国警察剣道大会で第三部に降格、今後の稽古法について、近藤巨監督と相談、朝稽古を実施することになる。

平成十三年度は、四国管区内警察剣道大会優勝、全国警察剣道大会（第三部）優勝

と朝稽古の成果が挙がる。

稽古は、週四回（月、火、水、金）行われる。前半、基本稽古が中心。近藤上席師範、平野監督の両八段も加わり全員で行われる。後半、地稽古、午前九時前打ち込み稽古等で締め括られる。

稽古終了後の黙想、礼、心地良い汗が床に滴る。

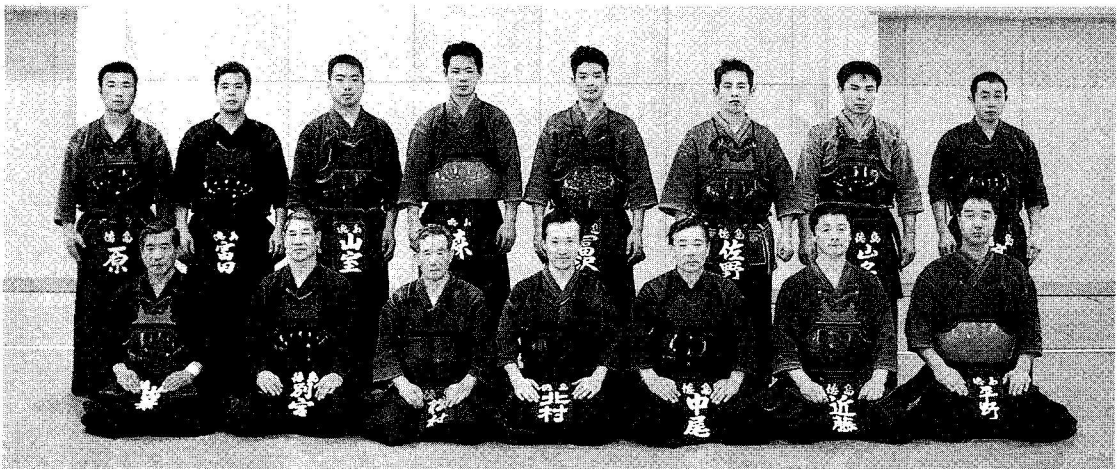
「安岡正篤一日一言」（致知出版社）に、朝・朝こそすべての二言が書かれている。

○ 朝（四月四日）
活きた時間というのは朝だけだ。言い換えれば本当の朝を持たなければ一日ダメだ。

昔から優れた人で早起きできない人はいない。ただ人々が寝静まって、周囲が静かになった夜でなければ仕事ができないという人は別だが、常態では朝が一番大事だ。

これを外したら一日ダラダラと無意味に終わってしまう。

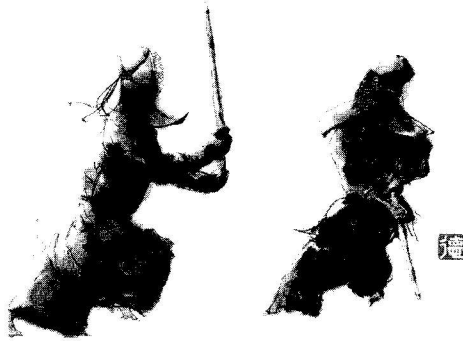
○ 朝こそすべて（七月二日）
英仏の古諺に曰く「朝こそすべて」と。



徳島県警察剣道特練初稽古（2004年〈平成16年〉1月特練の朝稽古を終えて）

一日二十四時間、朝があり昼があり夜があるとするのは死んだ機械の一日にすぎない。活きた時間は朝だけ、言い換えれば本当の朝を持たなければ一日無意義だということだ。朝を活かすことから人生は始まる。

私の心に響く二言である。「ようし、今日もやるぞ」雨垂れ石をうがつ、という故事もある。目標に向かって一日が始まる。



私の剣道人生を振り返って

丹生谷支部 湯城 豊 勝



立派な剣道実績もなく、真面目に剣道に打ち込むこともなかったものの、剣道に携わる

ことによって、剣道に教えられ、剣道に支えられた私の剣道人生を振り返ってみよう。私は剣道の盛んな丹生谷・旧相生町出身である。周囲には剣道をしている先輩が多かったため、何の迷いも疑いもなく延野中学入学と同時に剣道をはじめた。忘れもしないのが一年生での最初の丹生谷大会である。先輩からは、今の力ならそこそこは勝てそうだと言われていたので私も楽しみにして出場した。ところが、その自信は木端微塵に打ち砕かれた。初戦の相手は驚敷中学校の西谷肇一選手。始まった直後、相手のメンに対してコテを打つと相手のメン一本。しからばと思い、メンを打つと相手のコテ

が一閃。わずかに振りで負けたデビューであった。その後、西谷選手は徳島県剣道界の星に、私は……へ。そして二年生になると、丁度統合された相生中学校には旧日野谷中学校から剣道の強い同級生がたくさん来た。おかげで、運動神経が鈍く、闘争心も乏しく、おまけに近視で視力の落ちた私には、三年生最後の那賀郡大会でもレギュラー、ましてや補欠にもなれなかった。

このような弱い私にとって幸いなのが運良く阿南高専に入学したことである。阿南高専には剣道を指導してくれる先生もいなく、学生同士がのんびり練習している状態であった。当時は高体連主催の試合に出ることはできないから四国高専大会が主となる。もちろん低レベルでの試合であるから、このような私でも勝てるようになり、団体戦優勝とか個人戦準優勝を経験させてもらい、全国大会にも出場させてもらった。「鶏口となるも牛後となるなかれ」とはこのことである。二年生頃からひ弱な体もがちりして、手の内がしっかりするようになったことも幸いしたようである。

阿南高専卒業と同時に母校の教員として勤めることになり、必然的に剣道部顧問となった。高校ではないためほとんどの大会の案内が来ないので困ったものであった。

そこで、居合道の練習を阿南工業高校でやっている情報を聞き、山田新六郎先生を師とする神伝流の居合道を教わりつつ、同時に同校の鎌田恵先生から試合情報を聞きながら、主催者に出場をお願いして積極的に試合に出させてもらった。当時は私も若かったので、学生とともに練習し、支部主催とか武道館開館記念大会で高校の部準優勝までこぎつけることもあった。また私自身も弱いながらも一般の部で多少は勝利することができるようになったが、これは清原栄先生を始めとする阿南剣道教室の先生方にたくさん教えていただいたお陰である。

剣道の環境が一変したのが二十六歳のときである。一念発起、開学したばかりの長岡技術科学大学三年生に編入学した。直ちに仲間を集めて剣道部を結成、次年度に北信越大会の団体戦で決勝トーナメントに進出したのは圧巻であった。防具も無い、道

場も無いということで、長岡警察署にお願いして不要の防具と道場を貸してもらった。大学のタイルの上で練習したりしたのも良き思い出である。しかしその後は、工学系の大学ゆえ、実務訓練とか修士論文のため筑波の建設省土木研究所でお世話になったため剣道とは無縁状態になった。

丁度三十歳で再び阿南高専へ、剣道部顧問にも復帰し、丹生谷支部相生支所のお世話もさせてもらいながら現在に至っている。復帰当初しばらくは練習に励んでいた。そして、一般の部の試合では先述の西谷先生と再び試合する機会に恵まれた。団体戦で私のチームの負けは既に決定しての大将戦だったからいわば消化試合である。試合が始まってびっくりしたことは、とにかく相手の竹刀のスピードが速くて見えない、スピード違反だと叫びたくなるほどだった。そして簡単に一本取られたが、その後西谷先生がほとんど打たなくなったので一本取り返した。ここまではどのような技だったか覚えていないが、とにかく竹刀の速さだけは覚えている。しかし不思議なもので、

最後にコテ・メン、すれ違いざまに引きメ
ンで勝たせてもらった嬉しい思い出がある
(私にとっては一番の思い出なので、西谷
先生の承諾を得て掲載させて頂きました)。
その後、練習不足となり一般の部でたまに
は試合に出るものの、三十歳代後半に出た
試合において、全然勝てる気がしなくなり、
それから一切試合に出ていないのは反省す
べき点である。

私の心の中で、すなわち精神的に苦しかったことがある。それは、やはり高専という組織の中で求められているノルマをいかに果たすかである。大学並の研究成果が求められ、さらには高校並の教育を求められ、最近では地域貢献という新しいニーズも加わっている。私もスーパーマンでないからすべてをこなすこともできない。大学の先生から、また剣道界の先生から、さらには剣道部員からも、その足りないところを指摘されるたびに、葛藤と申し訳なきで心を痛めたものである。某大学の先生曰く「高専の先生は元気が無い」。おそらくほとんどの高専教員は両立に苦しめられ、それぞ

れに成果が伴わないことを嘆いている。

最近悩ましく思っているのが剣道人口の減少である。小中学校での剣道人口も少なくなっているが高校でも少ない。阿南高専でも少なく、折角中学校まで剣道を学びながらも高専入学後は別の競技をする、いわゆる「燃え尽き症候群」を見るたびに寂しい思いをする。本校剣道部員は、体育館で別の球技種目と同じ場所で練習しなければならぬ悲しい環境である。ステージに目を転じれば、剣道有段者がストリートダンス同好会員として踊っている姿を見るのも寂しい話である。

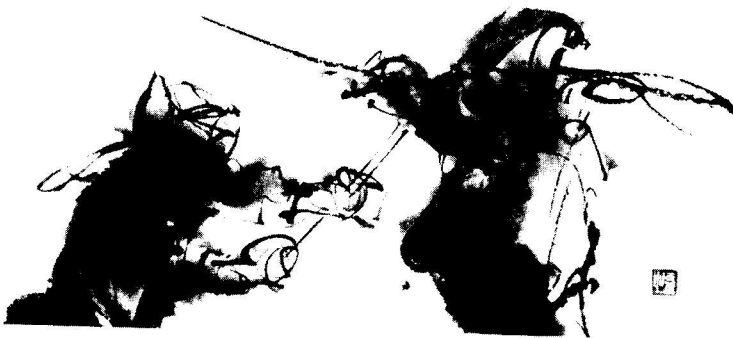
話題を転換するが、私は十年前より学生に携帯メールを配信している。阿南高専での生活の仕方、雑学、人の生き方など何でもござれの内容である。携帯電話が普及して、その功罪が議論されていた頃、文字離れの学生たちに何か刺激を与える方法はないかと考えた挙句の策である。その効果については検証していないため何とも言えないが、総じては好評と受け止めている。現在では一般の人にも配信しているが、とく

に年輩の方に喜んでもらっているケースが多い。肝心の学生はと言うと…？剣道部の学生も…？さて、皆さんも一度インターネットで「豊勝さんの毎日ミニ講義」をご覧ください。私の知人がブログ形式で整理してくれている。学校の先生方にとっても、生徒たちに話すネタも転がっているので読んでみてください。どこかで使ってもらって結構です、私もほとんどは読んだ本からの引用ですから。

さて剣道の話に戻るが、この数年間は元阿南支部長の北條憲治先生にコーチをお願いしている。そのお陰により本校選手の実力も確実にアップしてきた。そして幸いなことに、とくに女子部員に良い選手が集まったことも重なって好成績を残すことができた。全国高専女子剣道大会が開催されるようになり、三位一回とその後三年連続準優勝という栄誉を得ることができた。今後は男子も続かなければと思っている。

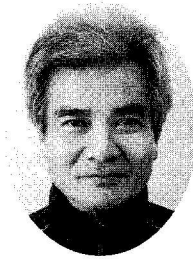
さて縷々書いてきたものの、最後に剣道界でお世話になったすべての先生方に感謝し、「ものづくり教育」を目指す学校で、

剣道で教えてもらった「ひとつづくり教育」を大事にしながら、あと数年の教員生活を全うしたいと思っている。



現在の私があるのは

加藤 哲 裕



私は、一九五五年、旧那賀郡相生町花瀬字神通に生まれました。小学校は日野谷西小学校。

一年入学時、六年生に吉田輝明先生がおおいでた。二年生終了時に廃校となり、三年からは桜谷小学校へ転校を余儀なくされた。片道二キロ余りの登り下りのある通学路を毎日通った。これは基礎体力作りに大いに役立った。一つ先輩の大石正志先生とは、転校後、小学校、中学校・高校と同窓で、大変お世話になった。

私と剣道の出会いは、宮浜中学校へ入学してからである。吉田輝明先生の父上の、故吉田廣則先生に、地域の祭りでお会いした時、「中学校へ行ったら剣道せえよ。」と声をかけていただいたことがきっかけとなった。恩師は谷崎正助先生。大変熱心に指導

してくださった。夏休みには、近隣中学校との合同合宿が竜虎館や振武館を会場として行われ、地域の先生方、吉岡俊治先生、

西村武雄先生、新田茂理男先生などたくさん先生方にご指導いただいた。那賀郡は強豪中学校がひしめいていて、県大会の決勝が郡決勝と同じということもあった。三年の時には県内大会の優勝旗をほぼすべていただいたと記憶している。同じ剣道部には一つ上に大石先生、入江洋行さん、同級生には、中原敏博君、渡守通和君、野田英司君がいた。

富岡西高校へ入学。剣道を続ける気がなかった私は、当時三年生の新野哲朗、富田正両先輩や、大石さんに入部を勧められたが断り続けた。すでに、一年生は男子十七人、女子五人が入部していた。同じクラスにいた久米賢君（現在富岡西高校教諭）の強い誘いに折れて四月末に入部した。強く

記憶に残っているのが、その年の夏の合宿。西谷肇一先生（大学二年生）が来てくださった。我々一年生の指導をされ、一時間ぶっ通しで素振りをしたこと。初めての体験で

竹刀を振るだけでへとへとになって参ったと思った。

その年（昭和四六年）のインタハイ会場が城北高校であったので、強化のための合同練習がよく行われた。記憶にあるのは阿南工（三年に金國、坂本、湯浅、二年に米倉、近藤、入江各先輩）、徳農（三年に樫本、立川各先輩、同級生に森君）協町、新野（インタハイ個人ベスト八の初田先輩）、小松島高校が参加していた。予選で阿南工と富西がインタハイに出場し、熱戦を展開した。この年に国士舘大学へ進学され、剣道を続けたのが樫本、金國、坂本、立川、富田各先輩であった。塩田先生（私より八歳上）、西谷先生（四歳上）に続き、剣道の専門家をめざす人が一気に増えた。そして、私もその後を追うような形となり、現在に至るわけである。

沢山いた一年生男子部員で最後まで続けたのは私一人、女子は全員残り、三年の総体で準優勝したと記憶している。男子も、決勝リーグで阿南工と優勝を争い、私が大将戦で中原君（宮浜で同級生）に敗れて準

優勝に終わった。二年生時には、大石・河

田清実・高野各先輩と一年だった延君のチー

ムでインタハイに出場していたので、試合

が終わった後、恩師松本一城先生に「おま

えが引き分けとったらインタハイだったの

にのう。」と、卒業後に、「おまえがキャプ

テンの時は、よう練習見に行ったのう。見

よらなんだらすぐにサボるけんのう。」の

言葉は忘れられない。剣道部は和気藹々、

先輩方には本当に優しくしていただき、大

変お世話になった。そして、皮肉なことに、

する気のなかった剣道が自分の進路を切り

開いてくれた。

大学は、河田先生と一緒に入学し、厳し

い剣道部の稽古に耐えた。河田先生は積極

的に稽古し、私は何とか続けた。この取り

組む姿勢が現在の大きな差となって現れて

いる。今までにお世話になった方々を思い

返す（すでに書いた人を除く）と、滝下先

生、下村先生、堀江先生、遠藤先生、坂下

先生、中尾先生、県剣道連盟の先生方や警

察の方々と、本当に沢山の方にご指導を受

けて今があります。これからも、感謝を忘

れず、甘えないで剣道に励みたいと思いま
す。



称号・段位合格者

剣道七段審査に合格して

警察支部 山 室 雅 幹

平成二十三年四月三十日に京都での剣道七段審査において合格させて頂きました。これも一重に御指導頂いている上司の皆様方、諸先生方、諸先輩方のお蔭だと感謝しております。本当にありがとうございます。

私は七段初受審でしたので、審査に際し、諸先生方から相手に対し常に気迫では攻めるが、上体には表さず我慢するところは我慢し、技を出すときは思い切って技を出し打ち切ることを御指導して頂きました。しかし、稽古では早く打ちたいということが先走り、このままで審査日を迎えて大丈夫なのかと不安な日々を過ごしていました。この状態を見ていた特練の先生方から、悩んだときや冷静な状態でないときは、

「基本に戻る」ということを再度、御指導して頂きました。基本に戻るということは、初心に戻るということです。したがって審査では、普段稽古で取り組んでいる基本通りの技をおもいきり出そうと決意し、気持ちを切り替え臨むことにしたのです。

審査前日、試合会場へ赴くと六段審査が終わったくらいであり、審査会場は独特の緊張感に包まれていました。私はこの会場を目の当たりにし、かなり気合が入り、気持ちが引き締まったのを覚えています。

審査当日の朝、会場に一番乗りで到着し、受審者が誰一人としない会場で、軽く準備体操や素振りを行い、目を閉じ集中しました。数時間後、審査が開始されました。一分三十秒間という短い時間が二回与えられ、この中で相手に対し、自分の剣道を表現する時がやってきたのです。諸先生方から御指導していただいた「基本に戻る」ということを表現できれば、審査は必ず成功すると自分に言い聞かせ挑みました。その結果、本番では無心となり、自分自身最高の形で審査を受審できたのです。

現在私は地域警察官として、若手警察官とともに汗を流しています。若手警察官の指導・育成にあたり、普段の活動から慣れが見えてきたときには、基本の大切さ、初心の重要性について指導するとともに、自分自身も基本や初心を忘れず、何事にも専念していこうと考えております。そして、これからは、七段をいただいたという重みを充分噛みしめながら、徳島県の剣道発展のため、恩返しできるよう精進していく所存であります。

今後とも、諸先生方、諸先輩方、御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

剣道七段に合格して

阿南支部 二反田 和 則



新緑薫る平成二十三年四月三十日、京都七段審査会に於いて、昇段させていただきますました。

剣道七段の道のりは、私には未知の世界であり、「七段は、剣道の精義に熟達し、技倆秀逸なる者」と言われる様に、色々な事を学びながらの挑戦でした。審査会に申し込み書を提出する度、色々な事が脳裏に走り、いざ本番になると自分の剣道が出来ないまま、当然不合格でした。焦ってばかりで、平常心では無かった事が判りました。色々な先生方、先輩方からの助言をいただき、それを稽古に生かす日々が続きました。でも一つの事を真剣に考えさせていただいた貴重な時間でもありました。時間を見つけては、反省しながら素振り、体力不足解消のストレッチなど自分に足りない

ものを見つけていました。また、審査会では相手の方が合格する度、色々話を聞かせて頂く機会もあり、大変勉強になりました。今回の審査にあたり、「平常心」、「溜め」に重点して稽古しました。平常心とは「心を広く真っすぐ持ち、強く緊張せず、少しの弛緩せず、注意がいずれかに傾かないよう心を真ん中に置き、心を静かに流れさせ、その流れる瞬間瞬間にも、流れが止まらないように充分注意すべき」と言われるように精神面の稽古、溜めとは、「相手の攻めに対応する場合、緊張の中にもゆとりを持たせ、心身を充実させた状態」自分は焦ると無意識のうちに右手に力が入る癖があり、手から出ていたので、左足を使った技術的な稽古に取り組みました。以前剣窓で「人間は何かをやるにも、考える癖があります。剣道は相手と立ち上がって構えたら、もう全ての事を忘れては、自分が鍛えたものが出てこない」とありました。

が終了、息つく暇も無く二人目が始まり、女性でしたが気兼ねも無く、終了間際小手を狙っている気配を感じたので、小手抜き面で勝負を賭けました。今回はこの出来事だけしか覚えていません。竹刀は信じられない感じで手元に確かな手応え……と同時に終了の合図が聞こえ、悔いも無く自分を出しきれた感じでした。結果はどうあれやっとな「無」の意識で終わり面を外して相手に一礼しました。

合格して、段の重さを感じ、人としての生き方、考え方を学ばせて頂き感謝の気持ちで一杯でした。幼年期から剣道を学んできましたが、このような素晴らしい出来事があり、これからも、そのような事に期待したいです。

最後になりましたが、県剣道連盟の先生方、阿南支部の先生方、那賀川少年剣道クラブの先生方、剣士達、皆様のありがたい言葉、ご指導、稽古を頂き今回に至りました。これからも感謝の気持ちをお忘れず、精進していきます。この場をお借りして感謝の気持ちを述べます。ありがとうございました。

剣道七段に

昇段して思うこと

警察支部 富田圭介



平成二十三年、
愛知県名古屋市中
の昇段審査におい
て、七段に合格さ
せて頂きました。

前年、二回の審査に失敗していた私は、その直後、（受かるまで行つたるわ）と、無意識のうちに自分の中で、七段昇段を長期的な展望として位置付けてしまい、失敗に終わった審査の分析も曖昧で、これといったイメージも湧かないまま審査の日は刻一刻と近づいていました。

しかし、審査直前、京都での審査会で同じ警察支部の山室雅幹先生や、小学生のころからの友人である北村仁志先生が見事七段に合格したことを人づてに聞き、仲間の昇段を喜ばしく思うのと同時に、（絶対、今回決めたる）と自分自身の気持ちに変化

し、久しぶりに体の芯から熱くなるのを感じました。

その後、主に勤務先である徳島東警察署の朝稽古や指導させてもらっている北井上剣道教室において、先輩や先生方から適切なアドバイスを頂き、今までになかった（こういうことなかな）というようなイメージが湧くようになってきました。そして、今回の審査には、攻め合いでの辛抱と、そこから攻め入る一步の重要性、この二点だけを心に留めて望みました。

審査当日、私よりも先に立ち会いされている先生方の攻防を拝見し、互いの攻防から攻め入るその一步に「懸」と「待」が共存しているか否かによって、そこから繰り出される技の重みや深みが、まるで異なることを再確認出来たことで、それまでの稽古のイメージに近いかたちで立ち会い出来たように思います。

今振り返ってみれば、六年前に県警の剣道特練員を引退した私は、一線警察署で第二の警察人生を歩むこととなり、異動した当初は、それこそ茶坊主からのスタートで、

最初の二・三年は、剣道のことを考える余裕ありませんでした。正直言って、（こ

のまま剣道出来んようになるんちゃうか）と思った時期もありました。ただ、そのうな中でも、今まで私が剣道を通じてお世話になった恩師先生方、特練の先輩や仲間達から「仕事はすぐに覚えれるけん。」「また、剣道せんかよ。」と事あるごとに温かい声をかけて頂き、自分の中に剣道をつなぎ止めておくことが出来ました。

また、幸いにも息子たちが剣道を志してくれたことが、再び稽古を再開するきっかけとなりました。剣道教室の子供達の一生懸命な姿を見ると、訳もなく涙が出そうになることがあります。また、私自身が木頭の山奥で剣道を始め、毎日べそをかきながら稽古に通った日々が思い出されます。子供達と相對したときに、その真っ直ぐな気持ちを、息を吸うように自分の中に取り入れることで、竹刀を通じて子供達と、そして自分自身と對話が出来る瞬間を感じています。

今、私がこうして剣道が続けられている

のも、剣道を通じて知り合った周りの人たちのおかげであり、また、剣道を通じて学んだことが仕事の面においても少なからず役立っていることは事実です。

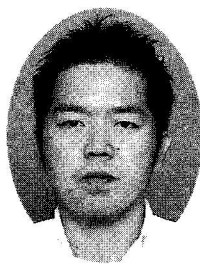
この度、七段に昇段させて頂きましたが、「剣道の修行に終わり無し」、新たな目標に向かって自分自身の修行の道を歩むとともに、私は、この剣道の素晴らしさを子供達にも教えてあげたいと思っています。勝負の厳しさだけでなく、その先にある、信じたことをやり遂げられる勇気だったり、やられてもやられても這い上がれる強さだったり、人のことを思いやれる優しさだったり、仲間の大切さだったり。

今まで自分を支えてくれた先生方の言葉を借りながら、それを自分の中で昇華し、自分の意志として、子供達に分り易く伝えられたらと思っています。



七段に合格して

徳島支部 山本 泰史



八月福岡七段審査において六段審査同様、初挑戦で合格することができました。これも

ひとえに徳島錬心館館長の大澤孝彰先生、副館長の西岡金若先生をはじめとする諸先生方のおかげです。心からお礼申しあげます。

昨年五月、日亜化学工業(株)企画部から人事部に異動したため、八月お盆まで会社行事などで稽古が全くできない状況でした。審査直前で稽古できたのは、五日くらい。こういった状況の中、寒川博文先生、小笠原徹先生が私の勤務都合をご配慮くださり、稽古・形稽古につきあっていただいたこと本当に感謝いたしております。

審査は、一〇一A トップバッター。緊張する暇もなく、審査にのぞきました。審査

内容はあまり覚えていませんが、審査後に受審者数名から、「初太刀の面 最高でしたね」と言ってくれたので、これで不合格なら仕方ないかと。

緊迫した雰囲気で最高の面ができたのも、短時間集中中型の稽古の中で、大澤先生から以下三点の指導を心に刻んで取り組んできたからだと思っております。

・正々堂々と相手をだました打ちはない！

・有効打突にならなくても姿勢を崩さない！

・体調管理をしっかり(健康に気を付けること)！

昇段に甘んじず、自己研鑽に励み、徳島県剣道連盟の発展に貢献できるよう微力ながら尽力していきたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申しあげます。



昇段後 大澤孝彰先生、中尾幸雄先生と徳島錬心館にて

剣道七段に合格して

鳴門支部 平野悦子

平成二十三年十一月十九日、名古屋市で行われました剣道七段審査に図らずも合格することができました。本当に皆様のおかげです、ありがとうございます。

ここ数年、国体の四国ブロック大会に向け稽古をしてきた私の中で、「七段」はまだまだ先のこと、まずは「ブロック突破」を何よりの目標にと考えておりました。そんな時に主人は、「こんなに稽古ができている時に受審資格ができるなんて、ラッキーの他ないよ。迷わず審査に挑戦すべき、主婦はいつ稽古がきんようになるかわからん。」と半ば強制的に申し込みをしてみました。締め切りもギリギリでした。

ここ数年、試合の方に偏っていた私は、女性として年齢を重ねながら稽古を続けていくことに精神的、体力的な負担がとても大きく感じられるようになっていました。しかし、審査の申込みをしてからというも

のは、女性らしく崩れないような稽古をしようと思いつけることによって、意識が一八〇度変わり、肩の力が抜け、今までには感じたことのない「合気」になる大切さ、それにもまして稽古後に感じられる充実感の大きさに気付くようになってきたのです。

「自分勝手な一方通行の技は、仮に審査で打てたとしてもだめ。腕に自信がある人は別にしても、女性が男性と立ち合う場合には、男性と対等になっては駄目で、逆に男性の力を頂いて打ちの強さや刃えを出すことを考えないと男性には力負けするよ。合気を知ってそこから始めないと……。」という主人からのアドバイスを受けながら、試行錯誤は二カ月ほど続きました。

試合をイメージした稽古になると、「いかに出鼻に合わせられないようにするか」または「いかに不意を突くか」等、相手と気を合わせない打ち出しばかりを考えていました。今考えると、それは打たれたくないという機会であり、本当に自分勝手なものであったように思えてなりません。逆に合気になろうとすれば、そこから色々な技

の方向性が見え始め、その創造力がまた楽しくて、稽古が日増しに充実していくように思えてきたのです。この体験こそ、女性が年齢を重ねながら充実を得られる魅力ではないかと直感しました。

審査当日は、「今やっていることを試してみよう」という気楽な気分で行きつけの道場に入りました。開会式では審査委員長の奥島先生が、「今日は最高の稽古をしてください。」という挨拶をしてくださり、私にはもうこれ以上ない言葉でリラックスできたように思います。

しかし、順番が迫ってくるとさすがに緊張は隠せず、身体はガチガチ、心臓はバクバク。いくら誤魔化そうとしてもアップアップでした。頭の中では呪文のように「稽古」「合気」「打ち切り」「諦めない」「集中」……。いざっ勝負。

立ち会いから初太刀までは合気で攻め合いましたが、その後の記憶はもうありません。呪文のように、合気、合気、下がらない、あきらめない、合気、あきらめない、合気……やめえ。

昇段記念

愛 氣

平成三年 霜月
剣道錬士七段
平野悦子

気がつけば二人目の「止め」の合図。集
中ができていたのでしょうか、終えた気分
はもう爽快でした。「次の京都で頑張れそ
うやわ。」と興奮気味に語っている自分が
いました。

しばらくして、合格発表。そこに自分の
番号を見つけると、信じられない嬉しさで
もうパニック状態、天にも舞い上がる思い
を押さえながら剣道形を打ち、全ての審査
がなんとか無事に終了しました。主人の所
へ行くと、心の底から涙が溢れ出してくま
りました。

剣道の弱かった私を、大学まで行かせて
くれた両親に感謝、稽古の裏でいつも支え
てくれた主人の両親（義父は故人）に感謝、
家族に感謝、そしていつもご指導頂いてい
る連盟の先生方、女子部の仲間へ感謝、そ
して剣道ができることに感謝……。

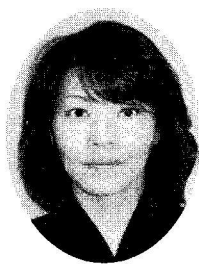
私はたくさんの方々から、いつも温かく
声をかけて頂きながら支えられてここまで
頑張ってきたように思っています。たく
さんの感謝を糧としながら、たくさんの方
間と一緒に、時には厳しく、時には楽しい

剣道に集う絆（和）を大切に広げていきたく
いと思っています。今後とも尚一層のご指
導をよろしくお願いいたします。



剣道六段に合格して

徳島支部 岩 木 淳 子



平成二十三年四月二十九日に行われた京都審査において、奇しくも六段に合格すること

ができました。これもひとえに、日頃から暖かくご指導を頂いた先生方や先輩、早々とお祝いの電話やメールをくださった剣道仲間の支えがあつての結果と、感謝の気持ちでいっぱいです。紙面をお借りしてお礼を申しあげます。

振り返りますと、私は中学校の入学と同時にクラブ活動として竹刀を握りました。当時は放課後の道場で友達と竹刀遊びをしていただけのように思います。その後、川島高校に進学し、故乾寿夫先生（あだ名は「じい」）との出会いから本格的にご指導を受け、私の剣道人生が始まりました。

高校二年生の夏、突然じいから「淳子は

背があるし、器用やけん上段をやってみい。」との一言で当時、女子高校生剣士には珍しい上段剣風で臨んだのです。徳島が誇る上段、憧れのイケメン福多先生にご指導を頂くチャンスがあつた時はすごく嬉しかったことを思い出します。高校時代の三年間は、毎日の朝稽古は当たり前で休日はお弁当を持参して、早朝から夕方まで稽古に明け暮れていました。（休みは大晦日と元旦のみ（泣））

じいの指導は、チャンピオンシップ、いわゆる「勝利至上主義」に基づいた勝ちにこだわる剣道で、チームメイトと共に全国のトップを目指し辛い稽古を耐え抜きました。今思い出しても「よくやった！」と自分を褒めてやりたいくらい毎日を剣道に捧げた青春時代であり、剣道に対する思いは誰にも負けないという自負がありました。高校卒業後は構えを中段に戻したものの、結婚から子育てと十年のブランクもあり、竹刀（腕）の振りや攻めの違い等について苦労した事は否めませんでした。

六段審査では春の京都を一年のまとめと

位置づけ、平成二十一年四月に初挑戦し不合格。自分の未熟さに歯がゆい思いをしながらも、熱心にご指導してくださる先生方のお言葉をありがたく思い稽古に励んできました。そして三度目の挑戦。一、二回目との違いは自分自身の審査に臨む気持ちの在り方でした。

実は、審査の直前であるにもかかわらず納得のいく剣道ができず、このまま受けてもまだだめだろうという気持ちで稽古をしていました。そして、出発前日の稽古で立会いの指導をしてもらっていた主人に「何や、その剣道は！格好ばかり意識して何にも響いてこん。高校時代に培った勝負心を思い出してみろ。試合に臨んでいる気持ちで一本を打ち切れ！」と一喝。この一言が、頭の上にたちこめていた不安や迷いという心の雲が一気に晴れるかのように「すーっ」と体が軽くなり、今まで形にこだわっていた剣道から解放されたように感じました。いよいよ審査当日。会場に向かう車の中で早く審査を受けたい、晴れた気持ちで立会いできるか試したいと、はやる気持ちを

抑えながら会場入りしました。審査では、終始立会いに集中でき一人目、二人目共に先を取った一本が決まり、無心で終えることができました。二階から観戦していた主人が階段を駆け下り「受かったぞ。はよう形の練習せんか。」と焦っている顔を横目に半信半疑で結果発表を待っていました。そして、自分の番号を見つけたときの嬉しさは今思い出しても胸が熱くなります。

現在も主に徳島支部と、毎月第一日曜日の連盟女子部の稽古会を中心に稽古をしています。私も含め学生時代の経験者が仕事や結婚・子育てでなかなか自分の時間が持てず、剣道から遠ざかっている女性がたくさんいると思います。子育てが一段落した方、まずは竹刀を握り少しづつでも体を動かしてみませんか。今、一緒に稽古をしている仲間も仕事や家事の合間のわずかな時間ですが、世代を超え、自分の年齢にあった正しい剣道を学び、汗を流しています。

これからの徳島の女性の剣道発展のため、微力ながら生涯剣道の実践者としてお互いに共導・共習して子供たちの成長を喜び楽

しみながら、剣道ができる環境に感謝の気持ち忘れず、剣道人生の階段を上り続けていきたいと思えます。



感謝

拙友 敏明

平成二十三年四月二十九日、京都で開催されました剣道六段審査で合格することができました。この場をお借りしまして、日頃からご指導いただいております諸先生方に心より御礼申し上げます。これも、ひとえに剣道に出会わせていただいた上八万剣道倶楽部、基本をしっかり教えていただいた岫雲館、そして今も色々と理合いの剣道を教えて下さる滑東剣友会と月曜会の先生をはじめ会員の皆様のおかげです。

私の剣道の経歴は、上八万剣道倶楽部に子供が入部するのを機会に、見ているだけでは楽しくないと思い、軽い気持ちで子供と共に剣道で汗を流せたらいいと思うぐらいで始めました。それから昇段審査二級を受ける事になりました。それが三十六歳の時でした。その頃から私自身もだんだんと剣道が楽しくなり、子供よりはまっぴらに思っています。

そして、初段を取得したのをきっかけに上八万剣道部だけではなく、思い切って藤本辰夫先生の岫雲館で週三回の稽古をする様になり、五段までは順調に昇段する事が出来ました。しかしその後、岫雲館の閉館に伴い、稽古の場を城東中学校の武道場（黎明館）に移り、吉田昌彦先生がご指導なされている滑東剣友会と月曜会に入会をさせていただき、現在に至っております。

初めての六段審査は審査を意識しすぎてしっかりと攻めきれず、打とう打とうとする気持ちが出てしまい、結局打ち急ぎが起り、短時間での良い立合いが出来ずに終わりました。前回の結果を踏まえて、日々の稽古から「初太刀一本」と自分に言い聞かせるようにしました。審査当日は審査であると感じすぎない様に自然体でどんな相手にも初太刀一本だと思おうようにし、気持ちも充実させ、立合うことができました。相手の起こりを感じ、体が自然に反応し、迷いなく面を打つ事ができました。その後相手にも打ち急がず、落ち着いた立合いが出来たと思います。

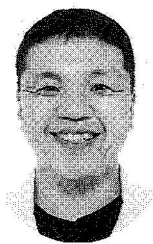
今後の稽古の目標は打とう打とうとする自分中心の気持ちを抑え、理合にあった稽古が出来る様にすることです。まだまだ未熟な私ですが、これからもうっそう新しい気持ちで取り組んでいきたいと思っています。

最後に剣道の修行の場ほど社会人・学生・年齢・性別を超えて幅広く色々な人と出会い、話し合える素晴らしい場合は他にはないと思います。また、これからも素晴らしい色々な人と出会い、段位に恥じない生涯剣道の道を歩んで参りたいと思います。今回無事合格させて頂き、日頃から御指導、応援して下さい諸先生方をはじめ県剣道連盟の皆様には、心から感謝いたします。今後益々の稽古を積んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

私の南国パラダイス

六段昇段物語

徳島支部 中尾 幸雄



平成二十三年八

月二十一日、沖縄

県那覇市での剣道

六段審査会に合格

させていただきま

した。沖縄県での六段審査は八年ぶりと
の事です。

「南国沖縄で六段審査あり！」この情報
を知った私は、ここしかない！と心に決めま
した。沖縄に決定した理由は、過去数回審
査にチャレンジしましたが、夏の受審はな
く、夏は自分の最も好きな季節でもあり、
一年を通して最も身体が動く時期でもある
ためでした。

また、子供達の夏休み中でもあり、家族
旅行を兼ねて行く事も決めました。もし、
不合格でも家族の一生の思い出になると思っ
たからです。同じ時期に石川県、福岡県で

の審査もありましたが、私の心には南国沖
縄のみでありました。沖縄が自分に合っ
ていたのでしよう。

八月二十日（審査前日）いよいよ、六段
昇段物語の旅がはじまりました。高松空港
からの約二時間少しのフライトは楽しいも
ので、空から見える沖縄の海は美しく、翌
日の審査の活力となりました。

那覇空港に着いてから宿泊先のホテルに
行き、少々休んだ後、レンタカーで審査会
場まで家族全員で下見に行きました。さす



審査前日、審査会場（沖縄県立武道館）の下見

が南国独特の素晴らしい建物でありました。
那覇市中心部の奥武山総合運動公園内にあ
り、子供達の遊具や、ベースボールスタジ
アムなどもあります。コンサートも度々あ
り那覇市民の緑豊かな憩いの場にある素晴
らしい会場です。

子供達に「お父さん明日は絶対がんばる
からな」自分に言い聞かせるように力強く
言いました。

その夜は、ホテルのダイナーで沖縄県で
一番人気のある琉球泡盛、菊之露（アルコー
ル四〇度）をロックでぐいっと！一気に飲
み干しました。翌日審査のエネルギータ
ンになりました。



私の合格秘酒
琉球泡盛 菊之露

この泡盛がきいたのか、部屋に帰ってぐっすりと眠れました。今思えばこの菊之露、私の生涯忘れられないお酒となりました。

翌朝、目が覚めるとまず、朝食を家族より一足早く済ませ、ホテル近くの浜辺を約五十分かけて散歩しました。椰子の木がたくさんあり、目の前の海を行き来する船を見て審査前のリラックスをし、心と身体の準備が出来ました。

そしていよいよ出発です。家族とは審査に集中したいので、審査中は別行動となり、家族は、沖繩の観光スポット『国際通り』で観光となりました。

会場に着くと、名古屋や京都のように千人以上の受審者ではなく、百人程度でしたが、会場が一コート分しかなく、審査員席までの距離が近く、会場全体が静まり返り、いい緊張感がただよう中、出番を待つ事が出来ました。本土からも異国沖繩目指して来た方も多く、どの方も気合い充分であったように感じました。

そしていよいよ出番です。作晩の菊之露のおかげか？一人目二人目も、相手の先を

取る事が出来、相手が飛び出してくる機会をしっかりと打ち切る事が出来ました。特に二人目はすり上げ技、返し技、打ち落とし技が会心に決まり気迫も充分であったように思います。これで不合格でも後悔はないほどの満足感でした。実技合格者番号を見た瞬間は本当にうれしくてたまりませんでした。

形審査も合格する事が出来、六段に合格する事が出来ました。

沖繩での形審査は人数の関係で、午前午後での全実技審査が終了して実施するので予定より遅くなっていました。審査終了後は家族が観光中の国際通りまで迎えに行きました。子供達からも祝福の言葉をいただきました。また、予定より遅くなった分「お父さんおかげでたくさん観光できましたよ！」と。

それから、二日目の宿泊先であるホテルへ高速道路で直行しました。海の側にあるプール付きのホテルです。その晩、ホテルのジャグジー風呂に入りながら、東シナ海



夕暮れ時に、白い砂浜で娘と

に沈む夕日を見て感極まりました。夕食では、沖繩のオリオンビールを飲み干し、最高の美酒となりました。夜は興奮したのか眠れず、ホテルのテラスから夜空を見ると星がいっぱいでした。その時、たて続けに流れ星を三つ見ました。オリオンビールの缶には三ツ星マークがありますが、全くそれと同じだったように思います。海は船の灯りが見え、夏の夜風と共に最高の思いに浸りました。「こんな昇段あってよいのか？」と。

三日目、四日目も沖繩本島の各観光名所を旅行し満喫しました。こうして私の家族旅行を兼ねての南国パラダイス昇段物語は

終わりました。

沖縄審査まで私は大学時代を過ごした名古屋を中心に何回審査に行ったか記憶にありません。禁酒したり、ウエイトを落したり、たくさん稽古も自分なりに取り組みました。

不合格の度に反省反省の繰り返しでありました。今回合格したのは『気剣体一致』と、最後まであきらめない心があったからだと思います。



沖縄県の有名踊り（エイサー祭り）に

剣道六段に合格し、改めてこれまでの剣

道人生を振り返ってみると、小学四年生の時に、私の父（中尾正輝氏）に導かれ、高校から社会人となった現在まで徳島錬心館長の大澤孝彰先生より厳しい稽古をご指導いただいたことが目に浮びます。父と大澤先生には、本当にこの場をおかりし、感謝したいです。

最後に、ご指導頂いた徳島県剣道連盟の先生方、日亜化学剣道部の仲間、お励まし頂いた先輩、後輩、徳島支部、徳島錬心館の方々、気長く支援してくれた家族、友人に感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有り難うございました。

今後もしもご指導いただいた大勢の先生方への感謝の心を忘れず、この南国昇段物語を生かし、益々稽古に精進していこうと思っております。徳島県剣道関係者の皆様！数年後、沖縄県で六段審査があれば是非挑戦して下さい。

稽古に精進し努力すれば必ず結果がついて来ると思っています。合格秘酒の「菊之露」もおすすめします。南国昇段は最高でした。今後共よろしくお願ひ致します。

南国での昇段は、あまりにもすご過ぎました。家族旅行兼での、今回の沖縄県での六段昇段において、努力・苦勞したあとに、これだけの素晴らしい事があるのかと。名古屋・京都など大都市とはまた全然違う、素晴らしい記憶に残る出来事でした。写真で少しでも、当時のことを県剣道関係者の方にも分かってもらいたく、まとめました。過去、なかなか沖縄で昇段した方はいらっしゃらないかもしれないので、今後の情報としてもお役に立ちたいです。 (中尾)



南国のコバルトブルーの海をバックに子供たちと

剣道六段に合格して

警察支部 近 藤 正 章



平成二十三年十

一月二十日名古屋

審査会において剣

道六段に合格させ

て頂きました。こ

れまでに御指導頂いた先生方に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

六段審査に挑戦して四度目での合格となりましたが、ここに辿り着くまでには様々な心の葛藤や迷いがあり、不合格になる度、自分の剣道に自信を失い、心が折れそうになると、周囲の方々から励まされ、また奮起して稽古を再開するというような時期がしばらく続きました。失敗していた時期を改めて振り返りますと、受審に対して具体的な取組みの柱を作らず、とにかく勝負に徹した稽古を重ねていました。

今までの審査内容をよく反省し、今回は審査に向けて三つの課題に取り組みました。

一、一分間という時間を体に覚えさせる

この稽古は何度も繰り返し行い、二人連続で行うことを想定し、礼の間も集中力を切らさない事を特に意識して取り組みました。

二、一番気持ちが高まる発声を心掛ける

特に立ち上がりの発声、打突時の発声が重要である事は勿論、声の大きさが非常に大切なポイントとなります。無理に大声を出さず、腹の底から最高の動きが出来る発声を意識し、打突時には「メーン」と発声していたのを「メーン」と発声していたのを「メーン」と強く発声に変える事で打突と体捌きに切れが生れるよう心掛けました。

三、全てプラスに考える

過去の受審の際は、自分の機会で打突を行っても、相手にかわされたり、防御されたりすると気持ちが悪く、打突に急ぐ傾向にありましたが、今回は思考を変えて、その時も「よし、打ち切る事ができた」とプラスに考え、間合いに入る時は打たれる事を恐れず、気持ちは「どうぞ打って下さい。自分も気持ちよく打ち切

りますよ」という腹積もりで攻め入り、い

ざ打ち出すと相手の向こう側まで突き抜けていくつもりで捨てきった打突を体に憶えさせるといふ稽古を徹底して行いました。以上三点が今回自分なりに考えて貫いたスタイルでした。このようにテーマをしつ

かりと持つ事で、審査当日は今までと違い、一切余計なことを考えないで落ち着いて相手と対峙することができました。立ち合いでは、これらの取り組みを体にすりこませてきた甲斐があり、頭で色々考える前に、自然と体が動いて何本か有効打突を出せたと感じました。合格者の発表を見て、自分の番号があった時は夢ではないかと思いつつも、度々確認しました。

この度の合格は、御指導して頂いている先生方をはじめ、家族や同僚に支えられて頂いたものであり、皆様方には本当に感謝の気持ちで一杯です。今後は、向上心を忘れず、また新たな目標に向かって修行に励むとともにお世話になった皆様方に様々な形で恩返しができるよう精一杯精進してまいります。

剣道六段に合格して

刑務所支部 金野卓司

平成二十二年十一月、名古屋での審査において、六段に合格することができました。これも日頃、徳島刑務所道場で共に汗を流し、御指導頂いている先生、先輩、同僚をはじめ、これまで御指導頂いた皆様方のおかげだと感謝しております。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

私にとって今回の審査は、初めての挑戦であったので、諸先生、諸先輩方より審査に対する心構え、審査までの稽古方法など、数多く御指導とアドバイス頂きました。

稽古では、「初太刀の一本」「打ち切る」「気持ちを繋げ相手との縁を切らない」ということを特に心掛けて取組んでいましたが、審査数日前に刑務所道場での稽古で、審査を同要領で立合いの稽古をさせて頂いた時には、それまで稽古で取組んできたことが全く出来ませんでした。「初太刀の一本」このことだけに意識しすぎ、手の内、

上半身に力が入り居着いたり、打ち急いだりと理合も何もなく誰が見ても不合格となる内容でありました。その時、森先生より「一本、特に初太刀の一本が欲しいのは相手も同じ。そのことに囚われて自分の剣道を見失うようではいけない。まずは、自分との勝負である。」とアドバイス頂いたことで、気分的に楽になり審査に臨むことが出来ました。

八月の七段審査では、大学の先輩である鳴川善人先輩の合格、また六段審査前日の七段審査では、平野悦子先輩の合格と続いたの素晴らしい結果を聞くとともに、激励のお言葉を頂き翌日の審査に向けて強い気持ちを持つことが出来ました。

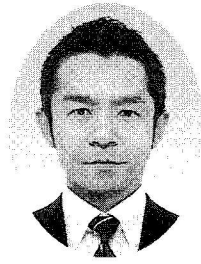
審査当日は、不思議と緊張もなく落ち着いており、立合いに向けて集中力を高めることが出来ました。立会いでは、「打ちたい」「打たれたくない」という心を先行させず、自分の力を出し切ってやる、という気持ちを全面に出すことだけを考えて臨み、二人それぞれに対して冷静に対応することが出来ました。

今回、相手にも恵まれ六段の合格を頂きましたが、私がこうして剣道が出来ているのも家族の理解と協力があってのことだと改めて感じた審査でありました。精神的にも技術的にもまだまだありません。感謝の念、謙虚な気持ちを忘れず、これから精進していきますので、御指導頂きますようお願いいたします。



剣道六段に昇段して

徳島支部 井村 行 宏



平成二十三年十一月二十日、名古屋の審査会において六段に合格させて頂きました。日

頃からご指導頂いている吉田昌彦先生を初め、徳島支部、県連の先生方、渭東少年剣道教室の子供達、並びに父兄の方々、私に関わってくださった全ての方のお陰と感謝し、心からご礼申し上げます

私にとって六段昇段は大きな壁であり、六度の不合格を経験しました。当てるだけの剣道からなかなか脱却できなかった事もあります。一番の原因として、何の準備もしないまま「まあ合格するのでは」と言った甘い考えがあったからだと思えます。不合格後も「試合であれば勝っている。次は合格だ！」と反省も無く日々の稽古をこなしていました。先生方に「攻めが無い、た

めが無い、合気になれ、自分勝手に打つな」と指導して頂いても、それがどう言う事かよく分からず受験していたのですから、今となっては恥ずかしい限りです。

三度目の不合格あたりから「このままで合格は無い！」と危機感を感じ、ようやく自分の剣道を見直していこうと思う様になりました。日々の稽古で先生方から頂いた言葉や自分が感じた事をノートに書き、次の稽古で意識し、少しでも修正していく。剣道に関する書物も読む様になり、気付けば剣道にどっぷりはまっていました。今年に入り週五回の稽古を目標とし、仕事との兼ね合いも大変でしたが、数を掛ける事によって気付く点も多々ありました。

そしてようやく先生方が言ってくださる事が分かりかけた時、合格する事ができました。合格発表の時、徳島から受験に来られていた先生方に「おめでとうございます」と言っさせて頂き、握手を交わした時には涙が出そうになりました。

振り返れば、私はすばらしい先生方に出会えて幸せだと思います。徳島少年剣道教

室で剣道を習い初め、岸先生に基本を仕込んで頂き、徳島市立高校時代には、大澤先生のご指導のもと、仲間にも恵まれ、インターハイにも出場する事ができました。卒業後、十二年間剣道から離れていましたが、友人の吉田茂生君に誘ってもらい剣道を再開する事ができました。吉田君、ありがとう。

そして現在は吉田昌彦先生にご指導頂き、ここまで来る事ができました。

この度、昇段しホッとしましたが、達成感や満足感がありません。これも、全剣連からゲンコツを落とされ、剣道の本質に真剣に向き合える様になったからに他なりません。

どこまでも奥が深く、生涯、理想の剣道にたどり着く事ができないかとは思いますが、私なりに精進していきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

剣道六段に昇段して

三好支部 堀川 修

平成二十三年十一月二十日名古屋の審査会にて剣道六段に合格することができました。これも日頃から熱心に稽古をつけていただいた川崎少年剣道クラブの先生方、三好支部並びに県剣道連盟の先生方の熱心的確なご指導に他ならずこの紙面をお借りし厚く御礼申し上げます。

私の剣道との出会いは、子供が川崎少年剣道クラブに通っていた平成六年の新年会にて誘われたのがきっかけでした。平田照男先生の剣道に対する熱い思いに負け、子供のためにと竹刀を握ったのが最初でした。初めての二級審査では袴を踏んづけ転倒、そして初段の形審査では六本目を何度もやり直しさせられた事が、今でも鮮明に思い起こされます。そんな私ですから指導された先生方も大変だったと思います。四級の審査へ向けての稽古には、三好淳志館へも週に二度伺い、増田和広先生をして当時三

好警察署に赴任されていた藤川和秋先生にはきびしい稽古を体験させていただきました。そのような指導のおかげで何とか五十手前にて四段に合格することができました。

出来れば五段に昇段したいとの思いは強くあったのですが、気剣体の一致には遠く及ばず不合格が続き合格するまでの約一年間は日曜日を除く週に六日を稽古日と決め地元川崎、淳志館、そして山城修練クラブ道場へ伺いご指導をお願いしました。そのかいあってか四度目の挑戦で念願がかない五段に合格することができました。五段に合格したことで何か肩の荷がおりたような気持ちで、もう昇段審査は受けなくても良いのだ、後はポチポチ健康のため続けて行こうと気持ちを切り替えておりました。

ところが同じ川崎少年クラブの先生で、平成二十一年に合田秀實先生が京都で七段、平成二十二年八月に喜多一幸先生が福岡で六段、同じく十一月に藤本常巳先生が名古屋で六段に昇段されました。その年の暮れの忘年会の席で、私に対し六段昇段へのプレッシャーをかけてきました。そして平成

二十三年が明け、還暦を迎えた節目として二つ目標を定めました。一つは今年もフルマラソンに出場し完走すること。そしてもう一つは剣道六段に挑戦することでした。

二月には山下敏雄先生が五段に昇段され、それ以降は私を昇段させるための稽古であったような気がします。その内容は合田先生指導のもと稽古の半分が日本剣道形でした。理合や呼吸法など根気よくご指導いただきました。また面を着けての稽古では基本打突中心、地稽古でも審査を想定しての一分間とし、緊張を保ったまま稽古すること。また「構え・攻め・打ち切り・残心」について厳しく指導を受け喜多、藤本、山下先生には実技面で大変お世話になりました。そして三回目の挑戦で幸運にも剣道六段に昇段することが出来ました。竹刀を握って今年が十九年目、まだまだ未熟ではありますが、この段位に少しでも近づけるよう日々新たな気持ちで精進して参りたいと思います。

剣道を通じてこれまでにご指導いただいた先生方、また子供達そして保護者の皆様



本当にありがとうございました。今後とも
ご指導のほどよろしくお願いいたします。



「錬士」としての決意

徳島支部 谷 本 晃 成

平成二十三年十一月十四日、錬士の称号をいただくことができました。御報告させていただきますと、御指導賜りました先生方へ感謝申し上げます。

昨年度の本誌において、六段昇段を報告させていただいたことがつい先日のことのように思えてなりません。過ぎた歳月の早さに、ただ驚くばかりです。この一年間、私自身がどのように成長したのかと考えてみると、技術面・精神面・指導力などいづれを取っても反省すべき点ばかりが目につき、「一体何をやっていったんだ。」と自問自答するばかりです。

剣道六段の基準は、剣道の精義に錬達し、技倆優秀なる者とされ、「剣道の技術的力量（精神的要素含む）」を示すことに対し、称号は、「これに加える指導力や識見などを備えた剣道人としての完成度」を示すものであるとされています。こうした基準に

ついても、現在の自分の姿を鑑みてみると、恥ずかしくなっています。ここに、今回の審査で出題された課題と私の解答を出させていただくことで、「錬士」としての決意とさせていただきます。

《課題》

平成十九年三月十四日制定の「剣道指導の心構え」の要点を記し、それをふまえたうえであなたの剣道修行について述べなさい。

《解答》

全日本剣道連盟の制定した「剣道指導の心構え」に示された「竹刀の本位」では、「竹刀という剣」は、相手に向ける剣であると同時に自分に向けられた剣でもある。練習や試合等によって、常に真剣に勝負してきた剣ではあるが、竹刀を交えることで自己をも見つめ直すということであろう。次に「礼法」であるが、剣道は勝負の場であっても「礼節を尊ぶ」ことを重視する。これはお互いを敬う「心」と「形」の関係が、最も理解されているからこそである。だからこそ、礼を重んじながら、激しく打ち合うことが可能となり、打ち合えば打ち合うほど、

相互の尊敬の度合いが高まってくるのである。また、「生涯剣道」では、多くのスポーツの中で、剣道ほど老若男女が最も長い期間、身体を動かして学ぶことのできるものはない。「技量」を磨くことで、「体力」の衰えを補い年齢や性別に関係なく、共に稽古することが可能である。まさに世代を超えて時間を共有することができ、互いの考えを理解し経験を学ぶ絶好の機会としてとらえられる。

現在、私は小学生から高校生を対象とした剣道指導者としての立場がある。試合での勝敗で悩むことも、しばしばあったけれども、目先の勝敗に拘るのではなく、剣道を通して礼節を重んじることはもちろん、節度ある折り目正しい日常行動ができる。そして、健康に留意しつつ、正しく、美しく、格調の高い剣道を求めて稽古に励む姿勢を持つ。また、感謝や思いやりの心を教え、素直な気持ちで剣の道を積み重ね、一日一日を大切に前向きに進んでいくことができる人間形成を築くことを目標に、指導者として、また私自身においても剣道修行として、今まで以上に精進したい。

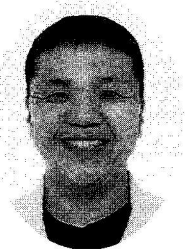
がんばろう徳島

部活だより

実業団剣道部十周年の歩み

日亜化学工業剣道部

中尾 幸雄



今回は、日亜化学剣道部創部十周年を祝し、剣道部の紹介を兼ね、活動報告させていただきます。

日亜化学剣道部は平成十三年に創部され、現在部員二十五名で活動をしています。部員の多くはLED（発光ダイオード）関連の技術、製造、またはリチウムイオン電池の原料を主業務としております。社訓には、一つ、勉強しよう！
一つ、よく考えてよく働こう！

一つ、そして「世界一」の商品をつくろう！をモットーに、日々がんばっております。

平成二十三年十二月十日に創部十周年記念稽古会を実施しました。当日は、日亜化学剣道部師範の遠藤一美先生、河田清美先生はじめ、大塚製薬剣道部、県内各地から多くの学生、先生方に参加していただき、充実した稽古会となりました。十周年を記念して、手拭いを作製しました。内容としては以下になります。

〈三挑戦〉 日亜化学工業師範 遠藤一美

- 一つ、強い者に挑戦！
- 一つ、苦しい事に挑戦！
- 一つ、自分自身に挑戦！

剣道修業ではこの三つの挑戦を目標にしましたが、何よりも剣道を通して業務や各人の人生にも生かす意味があります。社訓にも『世界一の商品をつくろう』とありますが、日亜化学剣道部の活動が、今後二十年、三十年と『世界一』に値するような活動が出来ればと願っております。

毎年、数名の新人部員を迎えており、今年も高校・大学時代に剣道部に所属してい

たという方が入社予定を聞いておりますので、ぜひ入部してもらいたいと思っております。

これまで、チームとして参加する試合は、六月の西日本勤労者大会（高知市）、九月の全日本実業団大会（東京都）、十一月の県下剣道大会などが主でありましたが、この度、平成二十四年二月十九日に日本武道館で開催された、第十五回全日本実業団女子・高壮年剣道大会に初出場しました。

女子は三人制の団体戦で、男子以上の白熱した戦いが繰り広げられた大会でありました。高壮年は全日本実業団に登録されている四十歳以上の剣士で、六・七段の部と五段以下の個人戦に一名ずつ出場しました。毎年九月に開催される全日本実業団大会と同じく、レベルの高い大会でありました。

今回、創部十周年を迎える事が出来たのも、遠藤一美剣道部師範、県剣道連盟の各先生方、各支部の剣友、地元の学生さん達の支えがあっただと思っております。今後とも部目標である「地域貢献」という面でも微力なりにも貢献できるように心掛けていきます。今後ともよろしくお願いいたします。

創部10年目の節目を
迎えた日亜化学剣道部
が第53回全日本実業団
大会（20日・日本武道

館）に出場する。2年
ぶり5度目の出場で、
初のベスト8入りを目
指している。

20日・全日本実業団剣道

日亜化学初の8強狙う



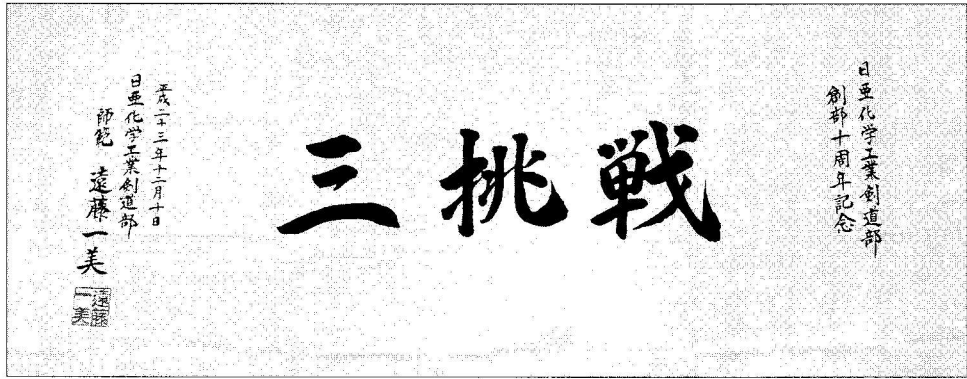
全日本実業団大会に向け
練習に励む日亜化学剣道
部 阿南市武道館

練習は阿南市武道館
で毎週木曜日に午後7
時から約1時間。団体
や全国高校総体などの
出場経験を持つ20〜30
歳代を中心に、男性14
人、女性1人が汗を流
す。中尾幸雄さん(40)
「徳島市新浜本町3、
5段」らが呼び掛けて
2001年に創部し
た。

全日本大会は1チー
ム5人で争う団体戦で
300以上のチームが
参加する。部員全員が
3交代制勤務のため
「練習にみんなが集ま
るのは難しい」と中尾
さん。時間を無駄にせ
ず集中して技を磨いて
いる。

地元の中学生や県連
盟支部の人らとも竹刀
を合わせるなど交流も
図っている。羽ノ浦中
3年の田村隆晟(りゅう
うせい)君と福田篤己
君は「けいこをつけて
くれどんどん強くな
る」と汗を流す。

7年前のベスト16を
上回る成績を残すため
園田慎吾監督(39)「小
松島市和田島町、6段
」は「チームワークで
乗り切りたい」と力を
込める。(斎藤邦彦)



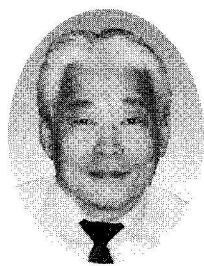
十周年記念稽古会にて

支部だより

警察支部の紹介

警察支部長 乾

清 孝



剣友の皆様には、日ごろ、警察官との稽古はされても、その所属している組織については余

り知る機会が少ないと思います。せっかくの機会を頂きましたので思いつくままに警察支部について御紹介します。

一、支部の位置づけ

警察支部は、剣道をこよなく愛する県警察職員（警察官、一般職員）からなる警察剣道部会員（警察内の任意団体・部会長以下六十九名）で構成されております。

つまり、部会員は、警察部内では警察本部や警察署に所属しながら県内各地で活動をし、体的的には警察支部員としての顔を

持っていることとなります。

そして、県警察を退職した場合には、剣道部会OB会員として在籍しながら、居住地の支部に入会させていただくこととなります。

二、「特錬」の紹介

剣友の皆様は、警察官と稽古した時によく「特錬」という言葉を耳にされていると思いますが、この特錬とは、県警察を代表して全国大会等に出場する剣道特別訓練員（監督・平野誠司先生、以下十一名）のことを言います。

その所属は、警備部機動隊であって、万一の出動に備えて災害やデモ等の警備訓練、爆発物処理訓練、潜水訓練等の厳しい訓練を積み重ね、その傍らで剣道の稽古に励んでおります。

そして、その指導に当たっておられるのが近藤巨先生であり、警務部教養課に所属して、上席師範として特錬員だけでなくすべての警察官の指導に当たっておられます。

これまでの先任の県警察師範には、坂下彦之先生、松村克隆先生、中尾正輝先生が

おられます。

さて、昨年は東日本大震災被災県への応援派遣のため、全国警察剣道大会が中止され、これを目標として稽古を積み重ねてきた特錬員には残念なことではありましたが、被災地での行方不明者の捜索や福島第一原発規制区域の警戒等の災害警備活動では、これまでの訓練で培った技能や体力を遺憾なく発揮する良い機会であったと思われま

す。また、大会は中止されたものの、各出動の合間において、全国大会に向けてひたむきに剣道への精進を重ねる特錬員一人ひとりの努力（取組み姿勢）は、県剣連の発展にも十分に寄与できたものと信じております。

三、警察剣道部会の活動等

次に、剣道部会の活動についてですが、特に稽古会を主宰するという機会が残念ながらありません。

ただ、部会員は、特錬員の稽古予定（毎週水・土曜日 県警察学校体育館）に合わせた稽古や激励のほか、所属における寒稽古、土用稽古さらには所属対抗の県下警

察剣道大会に向けて稽古をしており、その中で署員等に対する指導的な役割を担っております。

また、こうした稽古のほか、高齢者剣友会や各地の道場、少年剣道教室での指導や稽古に励んでおられる諸先生や部会員も多く、加えて異動に伴う転勤によって、支部の枠を超えて各支部の剣友の皆様と交流の機会を持たせていただいておりますことから、警察剣道部会（警察支部）は、各支部間の「絆」を強め「刺激」を与えるカンフル剤的な役割を担っているのだと実感しております。

四、雑感

現職の時には、職務多忙な故に稽古に取り組めなかった諸先輩が、退職された後も剣道に対する情熱を失わず、互いに敬い、親しく笑みを交わしながら、日々の稽古に励まれておられる姿を見聞きするにつけ、心地よい刺激を受けております。

「刺激」という言葉ではありますが、今でも記憶に強く残っているのは、剣道部会の先輩であります故岡本憲三先生が、「人生

は刺激じゃ！」と言われていたことです。なるほど、人の行動の原点は、「刺激」であります。この刺激により、如何に突き動かされ行動に移すかが大切であり、警察剣道部会も正に互いに刺激し合う組織として存在すべきと考えております。



平成二十三年度

称号・段位合格者一覽

― 剣道 ―

【教士】

五月六日

一村昌和

澤井勝之

十一月二十四日

合田秀實

【錬士】

五月六日

古本貢

十一月二十四日

谷本晃成

喜多一幸

笠井勝

【七段】

四月三十日

山室雅幹

北村仁志

二反田和則

五月十四日

富田圭介

八月二十八日

山本泰史

十一月十九日

平野悦子

【六段】

四月二十九日

岩木淳子

鈴木啓三

抽友敏明

住友久夫

八月二十一日

中尾幸雄

十一月二十日

近藤正章

美馬正志

金野卓司

井村行宏

堀川修

【五段】

五月二十二日

山室文江

九月十一日

小池丈夫

近藤夏子

十一月二十日

村上徳恭

庄嶋亮

小笠原徹

松田正稔

井口憲綱

北村環

平成二十四年

二月十九日

梶浩人

西堀和文

福田美知子

【四段】

五月二十二日

池田勝彦

九月十一日

松本凜太郎

松本明真

大原海矢

山本義征

近藤徹

湯村潔喬

平田慎太郎

善家純一

鳴滝朝希

山下達彦

岡内修司

十一月二十日

是枝佑徳

岡崎宗志

佐藤勝哉

山本義裕

岡田裕己
西前清高
久保雄二
生田圭
山下純子
大城幸子

平成二十四年

二月十九日

片山将志

大城健作

川原崇

福井昭浩

樋口せい

【三段】

五月二十二日

濱田 巧
石村 元義
新居 航平
堀 椋一
片山 聖也
関口 真生
山本 直矢
美馬 史絵
川人 わかな
九月十一日
土井池 優樹
佐藤 浩作
竹内 直生
三木 奏人
黒木 景太
西田 純也
森 智裕
藤本 稜
和田 勝彦

十一月二十日

長谷川 雄一
藤本 量太
西岡 昌哉
福井 純
安部 晋太郎
工藤 康祐
福崎 泰樹
小川 翔
喜多 耕平
味間 修一
松原 弘明
久保 公緒
久保 孝緒
藤田 稔貴
谷 優佑
谷口 奨真
上田 勇輝
長井 昭人
受川 東

中川 由美子
片岡 茉莉

平成二十四年
二月十九日

熊橋 史
内山 世璃奈
合田 麻美
佐方 千尋
増田 恭子
谷 美聡
佐藤 涼香
藤井 理央
平成二十四年
二月十九日
和 田 晃真
濱 田 洸太
寺 井 惇
湯 浅 鼓太郎
谷 健太郎
久 保 達也
山 本 慎也
蘆 田 佳郁
南 谷 和希
坂 本 健太
藤 本 哲太
森 口 賢一

高橋 陽介
米崎 信弥
目崎 明宏

【二段】

五月二十二日

永濱 大智
篠原 聡
野村 翔輝
高橋 遼
加賀田 瑞輝
山下 裕生
田上 修平
野口 一武
林 文武
朝 田 大樹
河 野 周作
吉 田 拓
太 田 裕貴
中 西 英樹
木 下 玄久
楠 和馬
岩 佐 岳大
田 中 直人
平 尾 秀典
岩 木 里穂

鎌田 幹大
古屋 海歩
奥 田 紋子
杉 山 拓之
上 田 雄大
井 形 優
馬 見 範子
魁 生 誠
峰 本 勝也
後藤 廉
喜 多 大樹
須 見 雄基
岩 佐 武蔵
川 邊 智樹
助 道 郁海
谷 本 晃佑
田 邊 翔磨
大 城 和哉
納 田 竜希

稲生 美穂
蛇目 朋佳
岩 浅 和輝
中 野 恭平
篠 田 幹大
古 屋 海歩
奥 田 紋子
杉 山 拓之
上 田 雄大
井 形 優
馬 見 範子
魁 生 誠
峰 本 勝也
後藤 廉
喜 多 大樹
須 見 雄基
岩 佐 武蔵
川 邊 智樹
助 道 郁海
谷 本 晃佑
田 邊 翔磨
大 城 和哉
納 田 竜希

橋本 修一
江 川 美郷
小 川 桐花
鳴 川 ちひろ
小 川 美空
天 羽 美夕紀
藤 井 光莉
杉 本 小春
大 岩 史奈
笠 井 理帆
大 嶺 茉莉子
佐 々 木 南波
林 真樹
重 田 真舞
藤 原 佳菜
川 原 真実
樋 富 沙弥
島 村 有輝菜

猪野 翔太
近 藤 大海
三 木 夕路
福 本 正教
橋 本 修一
江 川 美郷
小 川 桐花
鳴 川 ちひろ
小 川 美空
天 羽 美夕紀
藤 井 光莉
杉 本 小春
大 岩 史奈
笠 井 理帆
大 嶺 茉莉子
佐 々 木 南波
林 真樹
重 田 真舞
藤 原 佳菜
川 原 真実
樋 富 沙弥
島 村 有輝菜

上畑克樹	白木伸幸	曾我部和章	木屋野悠平	布川誠	中西溪介	西條翔太	藤坂直道	中川拓弥	島村泰介	連記大聖	下藪竜一	中村溪一郎	加藤泰介	藤本風汰	九月十一日	猪岡稜子	福田茜	山口潮音	柘山愛奈	中井優里花	藤田侑伽	
箭田真成	下藪竜馬	竹内透	十一月二十日	高橋佳奈	藤田みゆき	北村祐貴	上田知恵	林真優	佐藤みなみ	美馬あかり	藤田美生	尾関友衣	野田浩司	新谷高史	西内真一	松本康宏	市原興基	網師本翔太	大北裕介	四宮宏記	井上和希	
		梯拓也	山口優太	平成二十四年 二月十九日		岡奈都紀	岸本弥里	佐野葵	吉川由芳理	岡崎奈緒	松原由季	北林大輔	向椋太郎	向啓太郎	金澤恭助	庄村莉緒	杉本勝弥	福田裕樹	木内啓介	谷匠		
田内紘彬	上原大毅	吳羽尚樹	長船修三	織野将寛	東知勇	檜田柊吾	西岡楓賀	梅本聖也	玉川博文	玉川貴文	松本高史	熊橋和真	田中悠太郎	岩佐老誠	櫻川裕	濱田諒	谷祐作	村崎裕介	斎尚孝	四月二十九日	【初段】	
福田睦	田中皓己	仲野和樹	菅生優輝	鈴江勇汰	石川貴大	黒崎悟斗	住友海斗	立川裕也	藤本滲	庄野智	佐々木遼太	福冨志郎	和田拓真	南谷飛鳥	大島稜平	荒瀬友佑	田村敢太	新田隆一	福田峻斗	木村知寛	要遼太郎	早岡凜太郎
大野祐宜	前畑謙太	増田真路	寺田誠志	吉野竜輝	河野竜輝	江口晃大	井川博喬	藤崎明輝	板東亮佑	和田光	堀江瑛裕	大藤元	山本恭太郎	清水裕次	正木宏明	瀬部和馬	白岩賢	川野稜太	位頭信哉	走川海秀	和田直也	藤本周平
大西真央	小笠理帆	内藤杏	清水真優	木下陽南	住友陽南	野村愛里	下瀧容可	深見桃子	玉田真子	谷美緒	津田実穂	福田和也	若本尊善	森忠之	藤田靖生	東浦洋介	澤口裕史	井上拓	高原有平	中川卓也	島崎真紘	齊藤紀行

中野将汰	森本優希	篠原匠実	種井博紀	吉田翔	高下直哉	河野成巳	本村昂大	六月二十六日	高平和代	國平恵理	岡本佳恋	秋山澄香	藤井杏未	鎌田紗奈	竹内朱理	増金沙織	石村静香	濱田茉莉奈	米田碧	笠井里奈	竹原桃香	
新矢直士	上田直論	中西洸斗	米本将也	八月二十八日	山本果穂	奥村紫穂	矢部加奈子	今津萌	後藤千絢	大西若菜	加島範奈	小田知佳	野崎みなみ	井内博文	前野一樹	目崎潤一	村雲彦太	三好政樹	金平賀仁	岡田隆希	都築佑哉	
藤内涉	高平浩希	多田勇志	桜木時央	井川瑛士	山本和広	小山太雅	本田洋輔	坂東惇平	佐野皓亮	遠藤大輔	坪井貴裕	小川純平	朝比一成	木元大誠	高開祐弥	榎本良輔	酒卷伶央	安丸和来	野上優輔	池森恰史	山岡大雅	
岩本渚	森下優美子	山下みのり	美馬百花	赤井葉月	竹島絃奈	横川千紘	津山美里	岡田悠里亜	笹原優花	山下瑞稀	岩崎弥呼	民采加	林菜緒	コンロングニエル	下込悠介	太田風人	小西貴之	四宮孝時	鈴木敏和	桑村拓実	池本幸司	元木智哉
美馬悠一	森隆一郎	福島理生	和田真志	増田晃平	河野光佑	佐々木凌	岩城大志	助道亮海	村本恵太	迎直樹	秋田修平	平井稜一	喜島涼太	山下英寿	高瀬陽平	岡本圭吾	塚田天空	島田天	十月三十日	七條はるか	山内悠	
浅沼哲雄	山下大輔	高橋史也	福田涼真	久賀宏祐	古川秀也	真田優作	三角拓巳	吉田和晃	森井勇磨	今井将仁	木下裕貴	山本博也	木原奨郷	小園恭誠	瀬野智史	鎌田実徳	富田涼太	目崎良	白川真太郎	武知良祐	平成二十四年 一月二十九日	

熊井涼
 瀧花健太
 近藤一世
 片山陽介
 原拓巳
 和田佑介
 三宅誠一
 上田敬司
 石田貴夕
 行譜巴望
 村上朋可
 福井菜海
 阿部美優
 鈴木沙季
 桑村美月
 山下美奏
 尾上琴葉
 藤川佳香

—居合道—

【教士】

十一月二十四日
 福井勝

【錬士】

十一月二十四日
 一村昌和

【五段】

五月十四日

水野大

小野和敏

武田修典

十一月五日

内海直弥

【三段】

五月十四日

鎌田貴

【二段】

五月十四日

村上裕一

十一月五日

清美咲

【初段】

五月十四日

河野成巳

荒瀬友佑

仲野和樹

十一月五日

上野秋利

西岡憲一



〈女子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	山本悠	田中	湯浅	工藤	大山本千	5	7	
	一本勝 [⊗]	一本勝 [⊗]	一本勝 [⊗]	一本勝 [⊗]	一本勝 [⊗]			
城ノ内	川人	▲佐藤	谷	美馬	丸岡	0	0	

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	中川	片岡	井上	三島	播田	0	0	
				▲				
富岡西	一本勝 [⊗]	延長	延長	延長	一本勝 [⊗]	2	2	
	藤井	那佐	長谷川	佐藤	岡内			

3 位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城ノ内	川人	佐藤	谷	美馬	丸岡	0	0	
	延長	延長		延長				
城北	▲	⊙	⊙	一本勝 [⊙]	播田	3	4	
	中川	片岡	井上	三島				

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	山本悠	田中	湯浅	工藤	大山本千	2	3	
	一本勝 [Ⓛ]	一本勝 [Ⓛ]		延長				
富岡西	藤井	那佐	▲一本勝 [Ⓛ]	佐藤	岡内	2	2	
					一本勝 [Ⓛ]			

〈男子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	福崎	井上稔	谷澤	廣井	大井上幹	4	6	
	一本勝 [Ⓛ]	一本勝 [Ⓛ]	延長	一本勝 [Ⓛ]	一本勝 [Ⓛ]			
徳島文理	▲阿部	金川	高野	久保孝	久保公	0	0	

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南工	小藪	川野	神元	蘆田	大松村	3	5	
	一本勝 [Ⓛ]		一本勝 [Ⓛ]	▲	一本勝 [Ⓛ]			
城北	森	⊗	⊗	一本勝 [Ⓛ]	▲	2	4	
		南谷	小野	齋田	岡田			

3 位決定戦

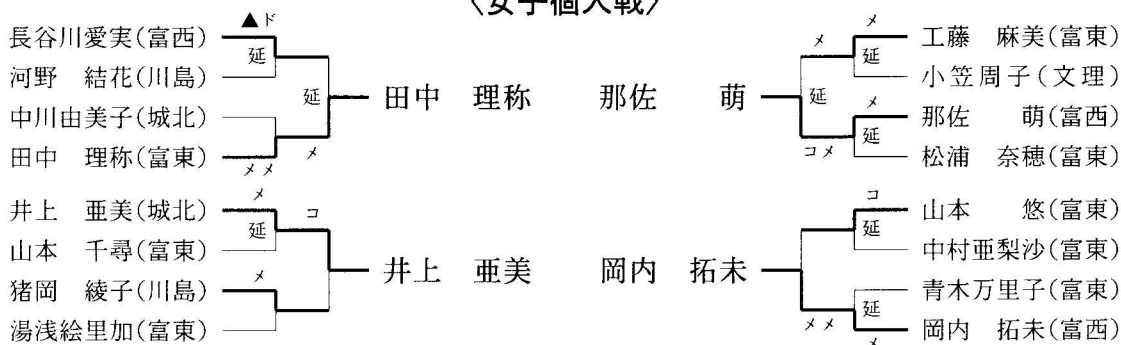
校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	阿部	金川	高野	久保孝	久保公	2	3	
		延長	延長	一本勝 [Ⓛ]	一本勝 [Ⓛ]			
城北	⊗	⊗			⊗	2	4	
	森	南谷	小野	齋田	岡田			

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	福崎	井上稔	安部	廣井	大井上幹	1	2	
			一本勝 [Ⓛ]	延長	▲			
阿南工	⊙	一本勝 [Ⓛ]	⊗	一本勝 [Ⓛ]	松村	3	5	
	小藪	川野	神元	蘆田				

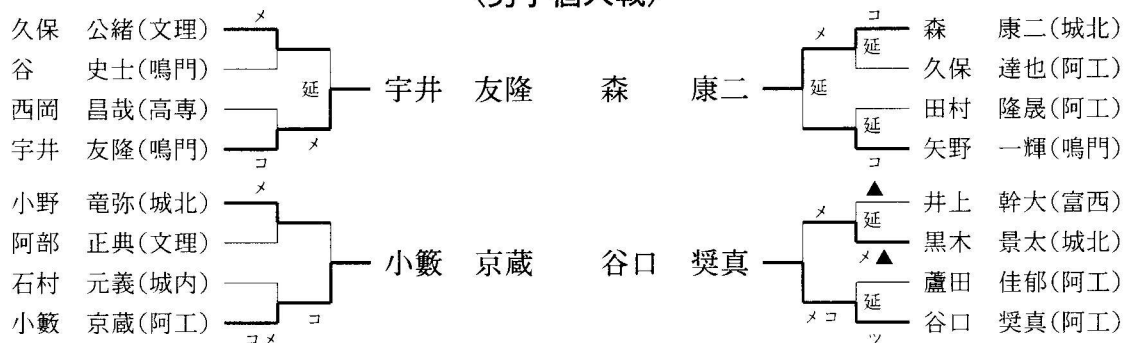
決勝リーグ

〈女子個人戦〉



	田中 (富東)	井上 (城北)	那佐 (富西)	岡内 (富西)	勝数	勝本数	得失差	順位
田中 (富東)		⊗ ⊗	延長 △	△	1	2	-1	3
井上 (城北)	△		△	△	0	0	-5	4
那佐 (富西)	延長 ⊙	一本勝 ⊗		△	2	2	1	2
岡内 (富西)	⊗ ⊗	⊙ ⊙	一本勝 ⊗		3	5	5	1

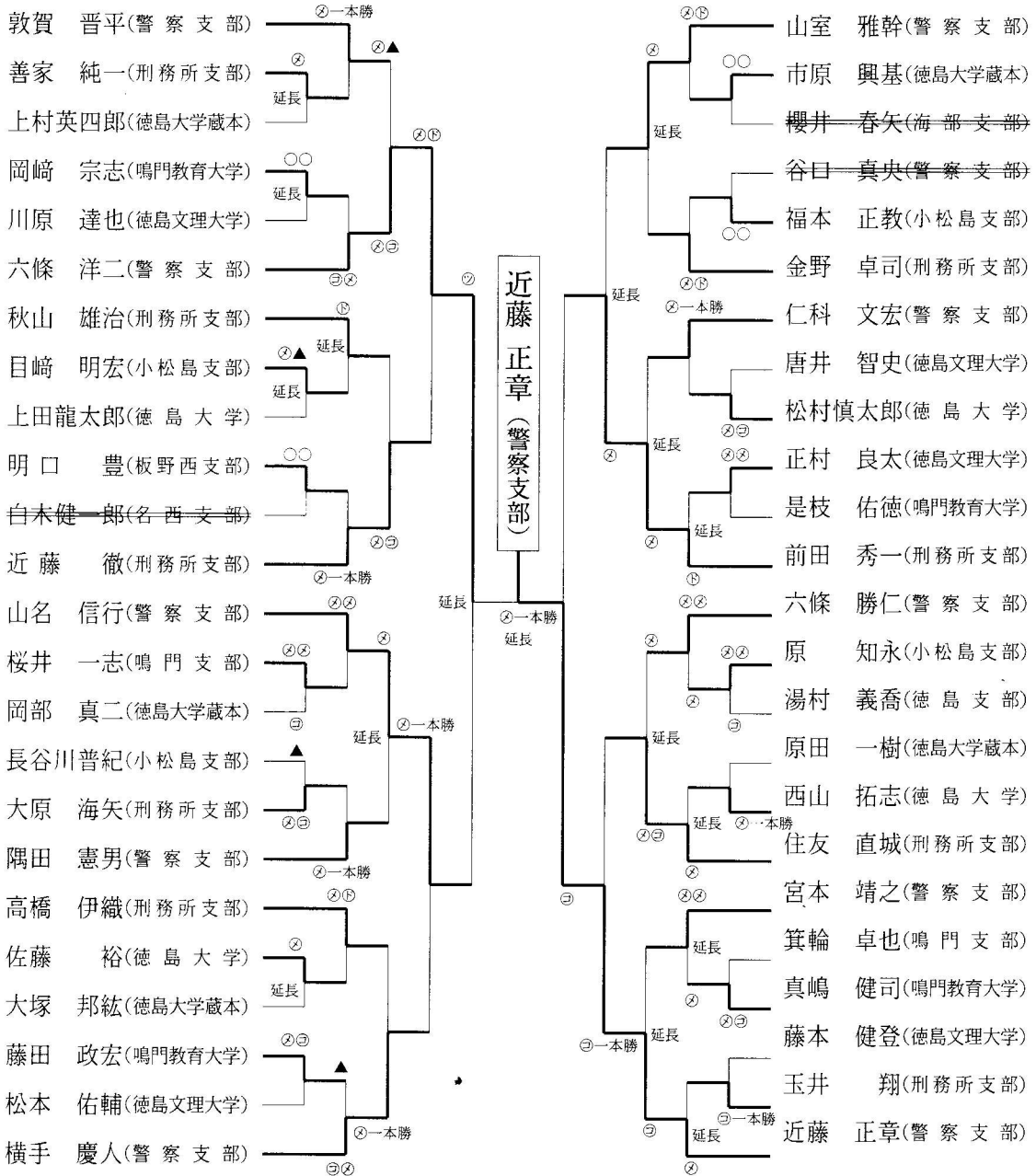
〈男子個人戦〉



	宇井 (鳴門)	小籾 (阿工)	森 (城北)	谷口 (阿工)	勝数	勝本数	得失差	順位
宇井 (鳴門)		△ ⊗	延長 ▲ ⊗	⊗ ⊗	2	3	2	2
小籾 (阿工)	▲ ⊗ ⊗		⊗ ⊗	⊗ ⊙	3	6	5	1
森 (城北)	△	△		⊗ ⊗	1	2	-1	3
谷口 (阿工)	△	△	▲ △		0	0	-6	4

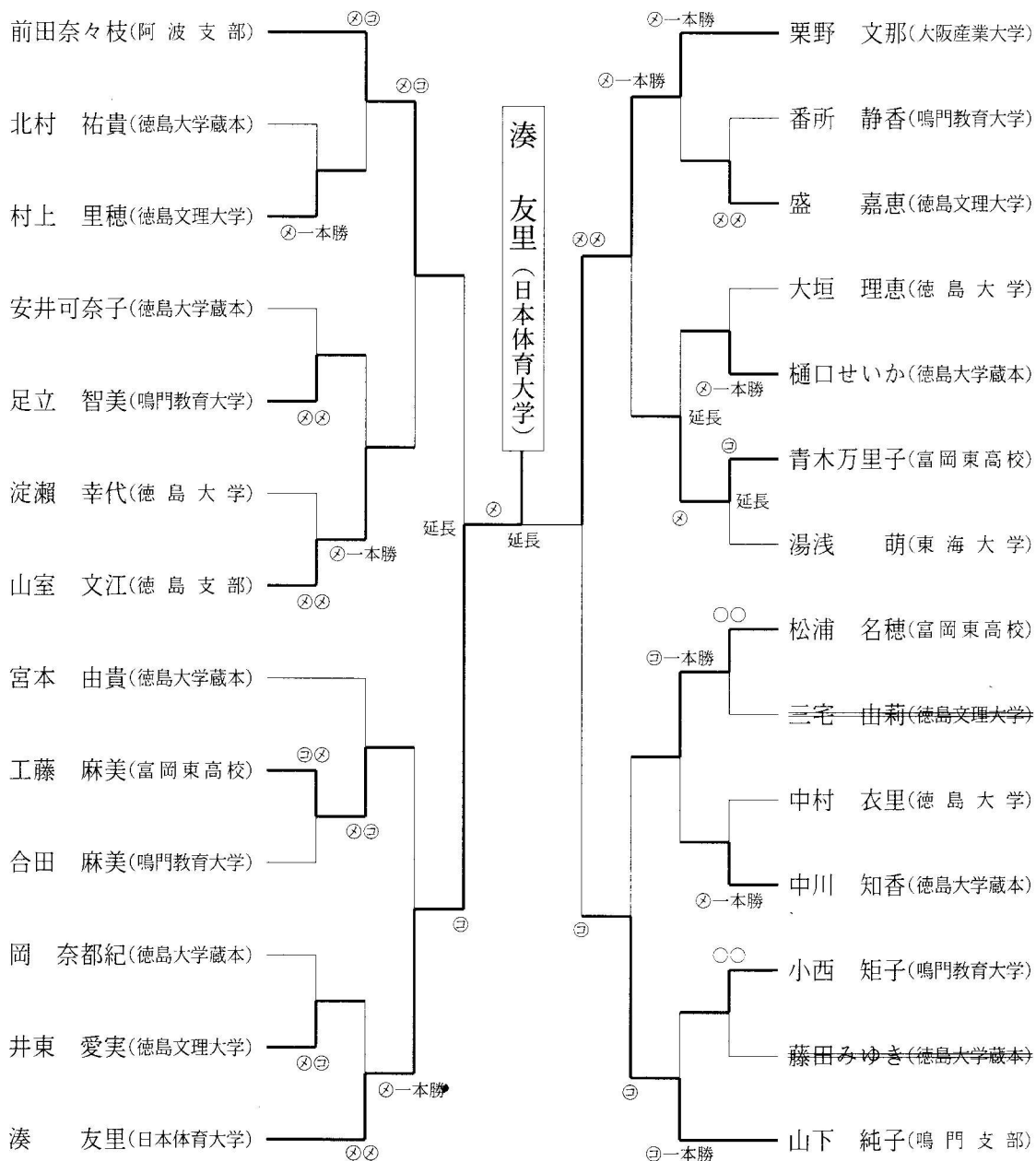
第23回 徳島県剣道選手権大会並びに 第59回 全日本剣道選手権大会県予選会

優勝 近藤 正章 (警察支部) 日時 平成23年7月10日(日) 午前10時開会
 準優勝 六條 洋二 (警察支部) 場所 鳴門ソイジョイ武道館
 第三位 山名 信行 (警察支部)
 第三位 前田 秀一 (刑務所支部)



第14回 徳島県女子剣道選手権大会並びに 第50回 全日本女子選手権大会県予選会

優勝 湊 友里 (日本体育大学) 日時 平成23年7月10日(日) 午前10時開会
 準優勝 栗野 文那 (大阪産業大学) 場所 鳴門ソイジョイ武道館
 第三位 前田 奈々枝 (阿波支部)
 第三位 山下 純子 (鳴門支部)



第65回 徳島県中学校夏季総合体育大会 剣道競技

日時(団体) 平成23年7月17日(日) 午前10時30分

(個人) 平成23年7月18日(月) 午前9時50分

場 所 松 茂 町 総 合 体 育 館

[団 体 戦]

順 位	男 子	女 子
優 勝	那 賀 川 中 学 校	徳 島 文 理 中 学 校
準 優 勝	阿 南 第 一 中 学 校	阿 波 中 学 校
第 3 位	徳 島 中 学 校	那 賀 川 中 学 校
第 3 位	徳 島 文 理 中 学 校	鳴 門 第 一 中 学 校

[男子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代表戦	勝 敗
阿南第一	野 村	田 上	田 邊	金 澤	田 中		1
	⊗ 延長	延長					
那賀川	⊗	⊖	⊖一本勝	⊗一本勝			3
	坪 井	濱 田	松 本	庄 野	藤 坂		

[女子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代表戦	勝 敗
徳島文理	佐々木	水 谷	玉 田	大 嶺	川 原	川 原	代表勝 1
	延長	延長	▲延長	▲延長	⊖⊖	⊗	
阿 波				⊗	⊗		1
	竹 内	岡 田	佐 藤	秋 山	尾 関	尾 関	

[個 人 戦]

順 位	男 子	学校名	順 位	女 子	学校名
優 勝	谷 本 晃 佑	徳島文理	優 勝	川 原 眞 実	徳島文理
準優勝	大 城 和 哉	木 頭	準優勝	深 見 桃 子	鳴門第一
第 3 位	古 屋 海 歩	徳 島	第 3 位	奥 田 紋 子	鷺 敷
第 3 位	田 上 修 平	阿南第一	第 4 位	馬 見 範 子	新 野

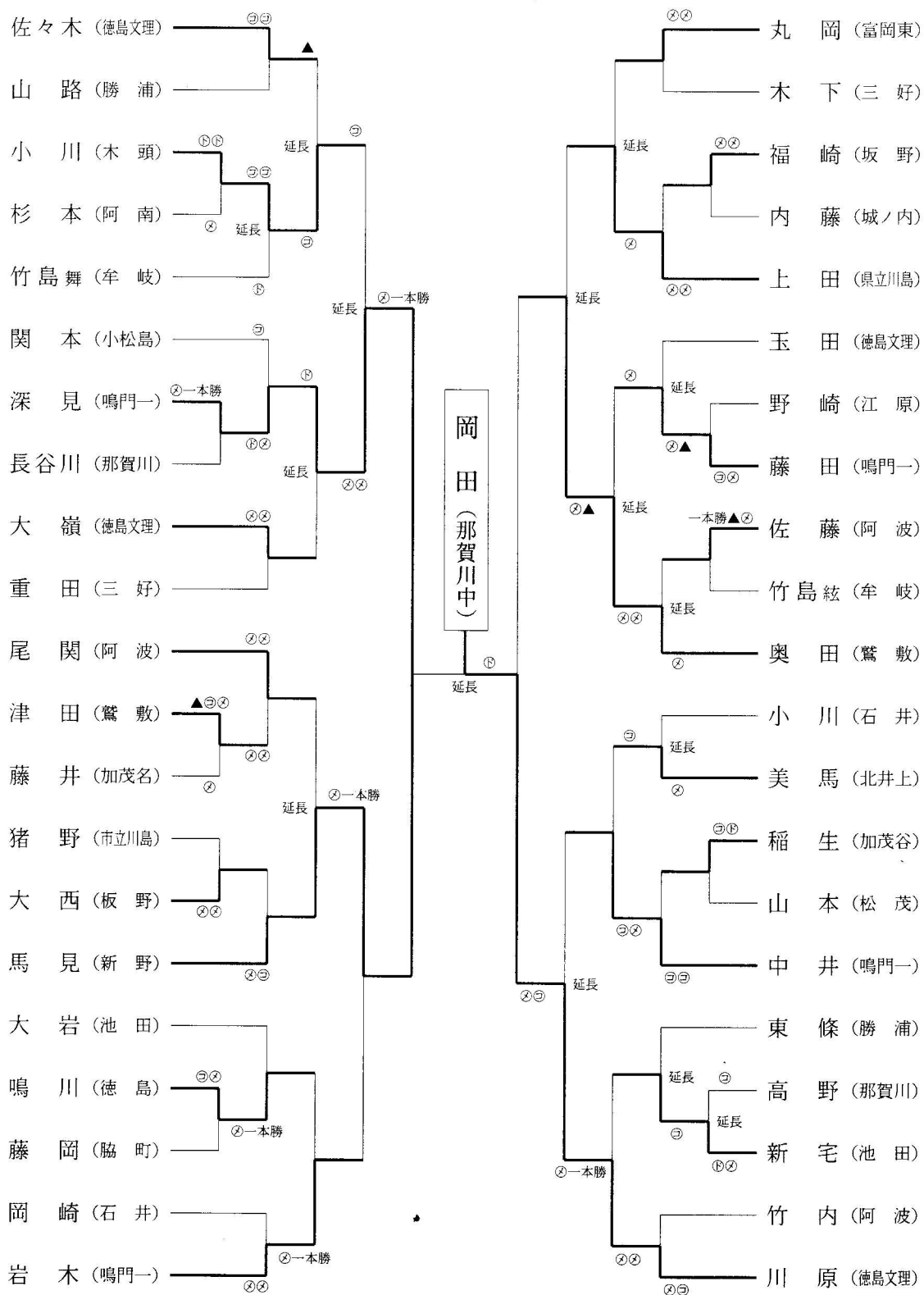
〈男子団体戦〉



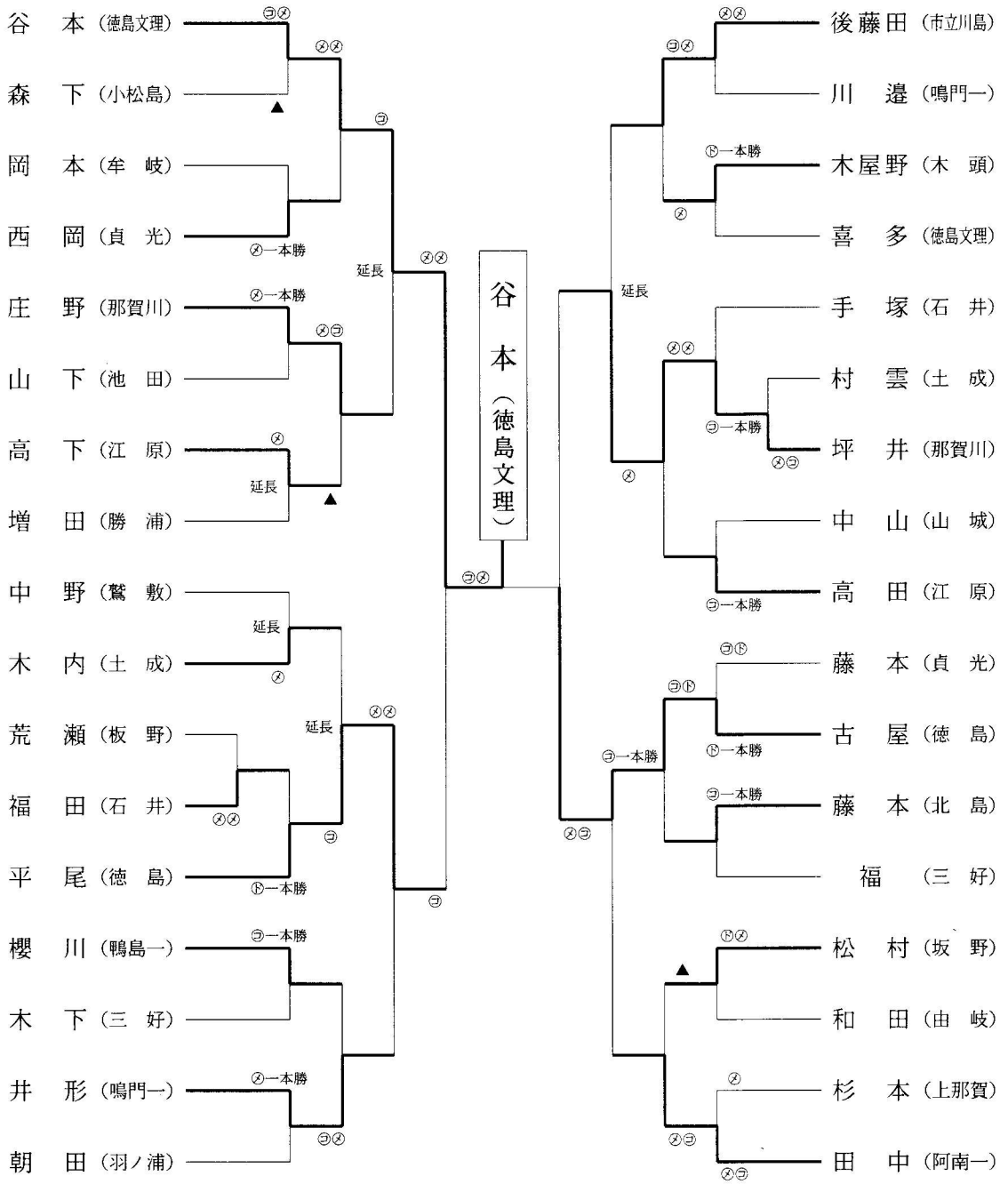
〈女子団体戦〉



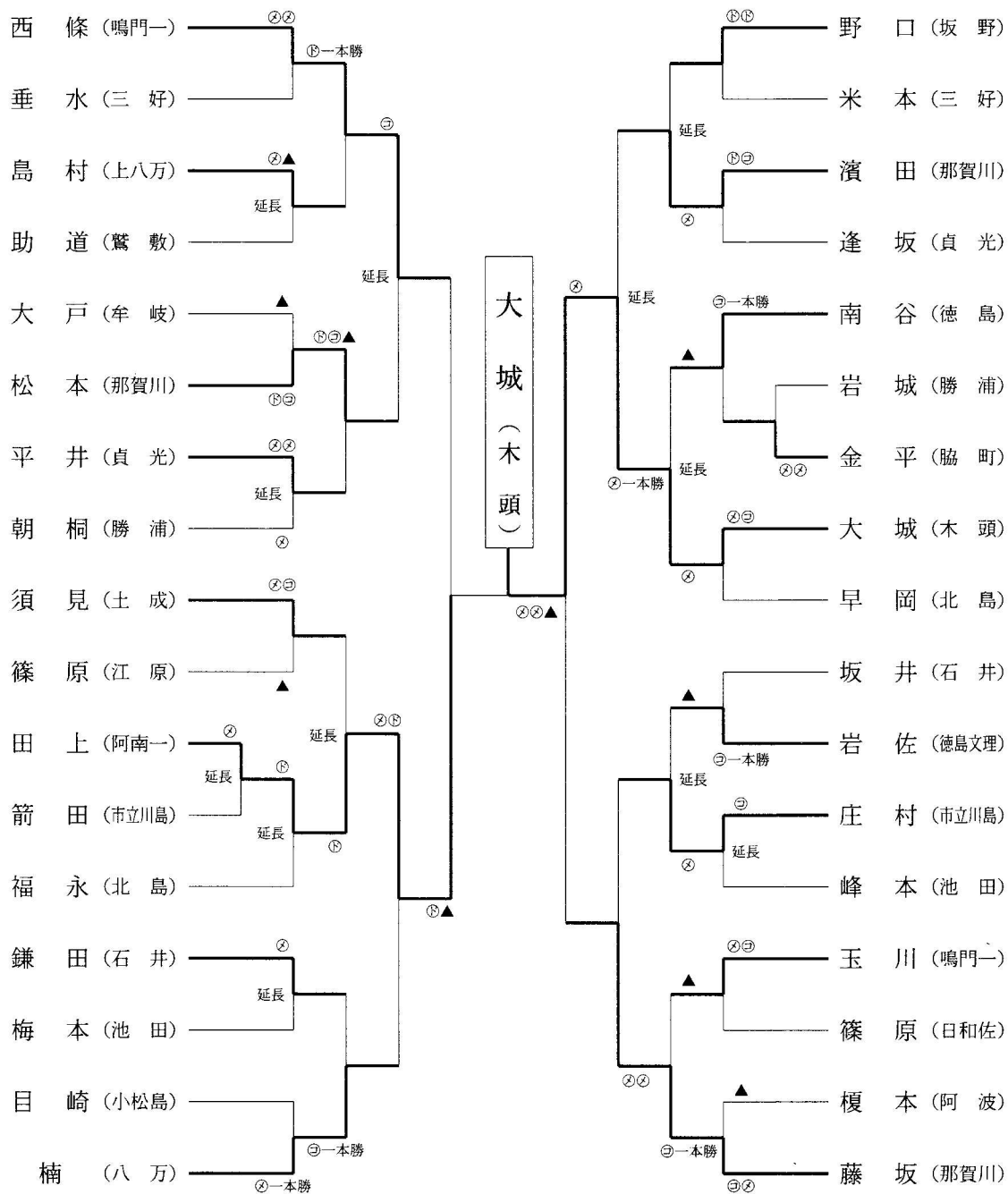
〈女子個人戦〉



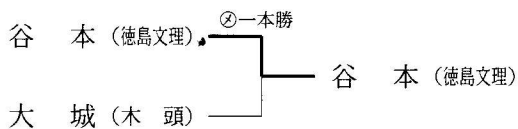
〈男子個人戦〉



〈男子個人戦〉



男子個人決勝



第32回 徳島県女子剣道大会

団体戦 A組

日時 平成23年9月4日(日) 午前9時30分
場所 中央武道館

優勝 教員剣美会
準優勝 花虎倶楽部
第3位 川島高校剣友会 A

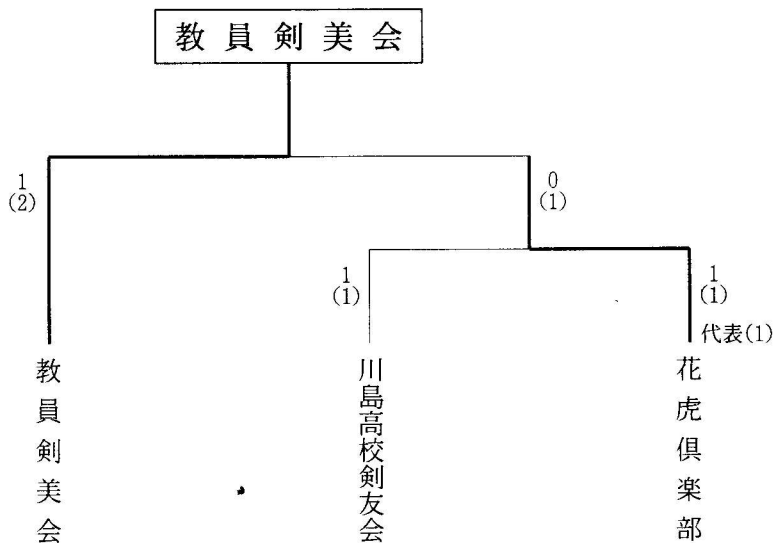
準決勝

	先鋒	中堅	大将	代表戦	勝数	本数
川島 A	熊橋	玉田	岩木	岩木	1	1
	一本勝 [⊖]					
花虎倶楽部		一本勝 [⊖]		⊗	1	1代(1)
	山室	大城	山崎	山崎		

決勝

	先鋒	中堅	大将	代表戦	勝数	本数
教員剣美会	山下	小西	福田		1	2
	⊗ ⊗					
花虎倶楽部	⊖				0	1
	山室	大城	山崎			

決勝トーナメント



団体戦 B組

優勝 徳島文理大学 A

準優勝 鳴門教育大学 A

第3位 川島高校剣友会 B

第3位 徳島大学

準決勝

	先鋒	中堅	大将	代表戦	勝数	本数
川島 B		隅田	大西		0	0
徳島文理 A	〇 〇				1	2
	盛	村上	三宅			

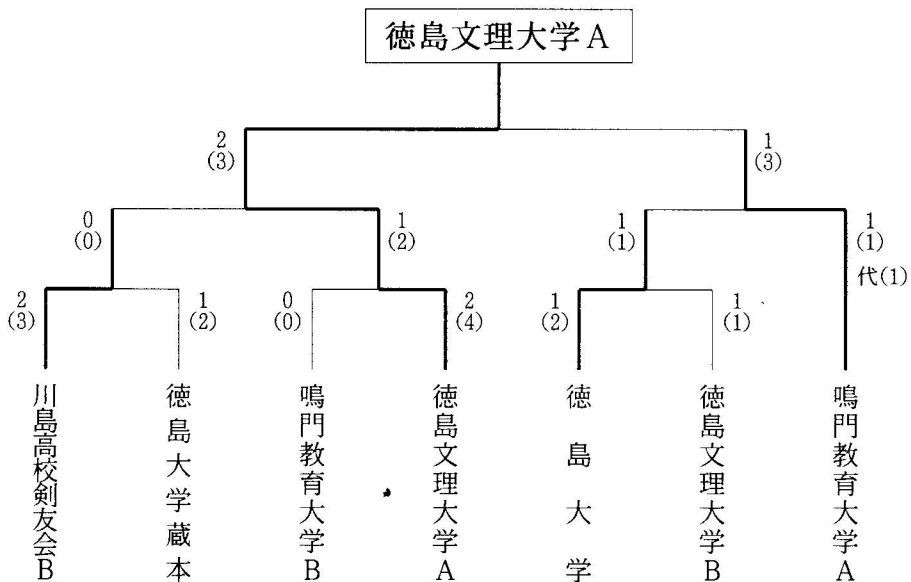
決勝

	先鋒	中堅	大将	代表戦	勝数	本数
徳島文理 A		村上	三宅		2	3
	一本勝 ⊗		⊗			
鳴教大 A		Ⓛ ⊗ Ⓜ ⊗	Ⓜ ⊖		1	3
	大石	長栄	内山			

準決勝

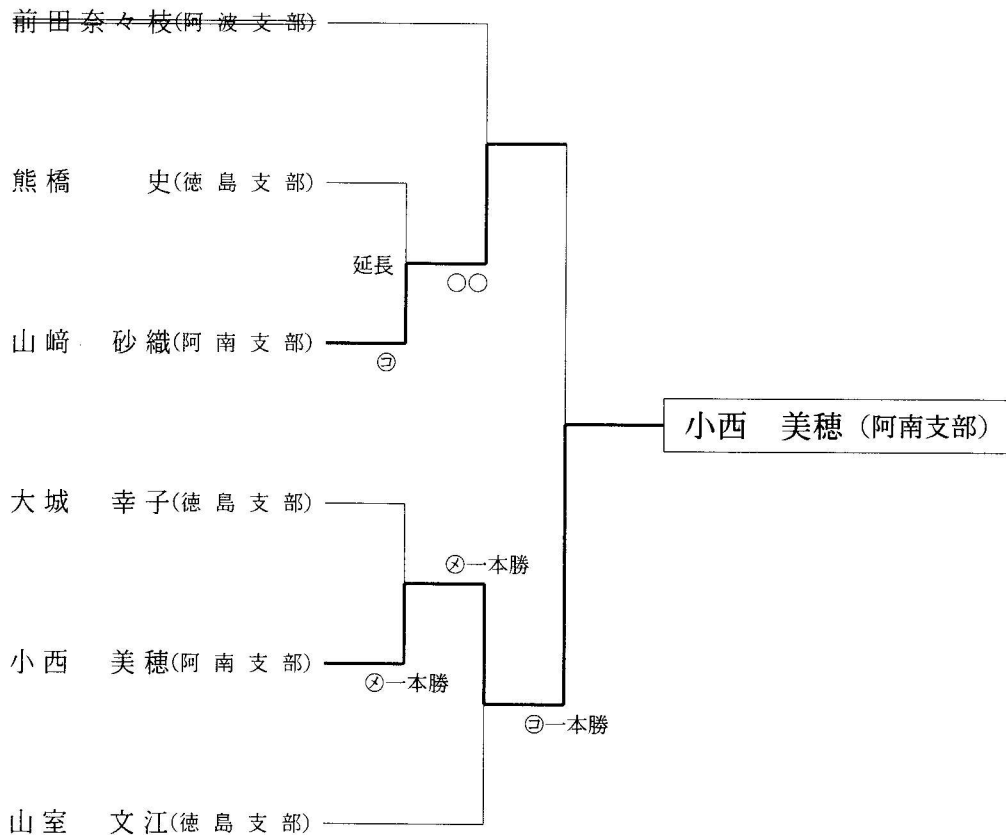
	先鋒	中堅	大将	代表戦	勝数	本数
徳島大学	大垣	淀瀬	中村	中村	1	1
		一本勝 ⊗				
鳴教大 A	一本勝 ⊗ Ⓜ ⊗			Ⓜ ⊗	1	1代(1)
	大石	長栄	内山	内山		

決勝トーナメント



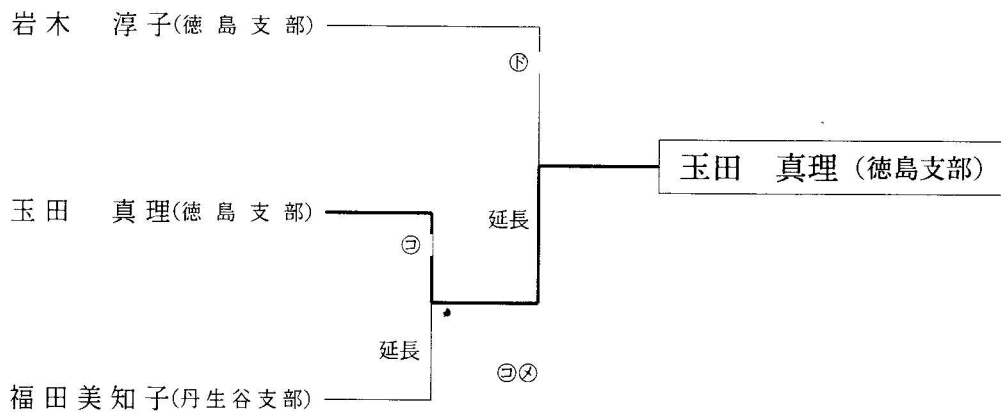
個人戦 <区分2>

優勝 小西 美穂 (阿南支部)
 準優勝 山崎 砂織 (阿南支部)



個人戦 <区分3>

優勝 玉田 真理 (徳島支部)



第40回 徳島県社会人剣道大会

予選リーグ

日時 平成23年11月6日(日) 午前10時
場所 鳴門ソイジョイ武道館

A	小松島 A	蔵本剣道クラブ	麻植支部 C	勝数	勝者数	勝本数	順位
小松島 A		$\triangle \frac{1}{1}$	$\odot \frac{6}{3}$	1	4	7	2
蔵本剣道クラブ	$\odot \frac{2}{2}$		$\odot \frac{7}{3}$	2	5	9	1
麻植支部 C	$\triangle \frac{0}{0}$	$\triangle \frac{1}{0}$		0	0	1	3

B	渭東剣友会	北井上剣道教室	阿波支部(松)	勝数	勝者数	勝本数	順位
渭東剣友会		$\triangle \frac{3}{1}$	$\triangle \frac{0}{0}$	0	1	3	3
北井上剣道教室	$\odot \frac{4}{2}$		$\odot \frac{5}{3}$	2	5	9	1
阿波支部(松)	$\odot \frac{5}{3}$	$\triangle \frac{4}{2}$		1	5	9	2

C	美馬支部 B	阿南支部 B	振武館 A	勝数	勝者数	勝本数	順位
美馬支部 B		$\triangle \frac{0}{0}$	$\triangle \frac{0}{0}$	0	0	0	3
阿南支部 B	$\odot \frac{8}{4}$		$\triangle \frac{0}{0}$	1	4	8	2
振武館 A	$\odot \frac{10}{5}$	$\odot \frac{2}{3}$		2	7	12	1

D	麻植支部 B	大塚製薬	板野東支部 A	勝数	勝者数	勝本数	順位
麻植支部 B		$\triangle \frac{2}{1}$	$\triangle \frac{1}{1}$	0	2	3	3
大塚製薬	$\odot \frac{7}{4}$		$\odot \frac{9}{5}$	2	9	16	1
板野東支部 A	$\odot \frac{4}{2}$	$\triangle \frac{0}{0}$		1	2	4	2

E	板野西支部 A	徳島刑務所 B	小松島少剣クラブ	勝数	勝者数	勝本数	順位
板野西支部 A		$\triangle \frac{3}{2}$	$\triangle \frac{2}{1}$	0	2	3	3
徳島刑務所 B	$\odot \frac{4}{2}$		$\odot \frac{2}{2}$	2	4	6	1
小松島少剣クラブ	$\odot \frac{4}{3}$	$\triangle \frac{0}{0}$		1	3	4	2

F	板野東支部 B	名西支部	振武館 B	勝数	勝者数	勝本数	順位
板野東支部 B		$\triangle \frac{3}{1}$	$\triangle \frac{3}{1}$	0	2	6	3
名西支部	$\odot \frac{5}{2}$		$\odot \frac{4}{2}$	2	4	9	1
振武館 B	$\odot \frac{9}{4}$	$\triangle \frac{2}{2}$		1	6	11	2

予選リーグ

G	徳島錬心館	美馬支部 C	三好支部	勝数	勝者数	勝本数	順位
	徳島錬心館	$\triangle \frac{4}{2}$	$\triangle \frac{3}{1}$	0	3	7	3
美馬支部 C	$\circ \frac{5}{3}$	$\triangle \frac{1}{1}$	1	4	6	2	
三好支部	$\circ \frac{7}{3}$	$\circ \frac{6}{3}$	2	6	13	1	

H	上八万剣道倶楽部	阿波支部(竹)	阿南支部 A	勝数	勝者数	勝本数	順位
	上八万剣道倶楽部	$\triangle \frac{0}{0}$	$\triangle \frac{0}{0}$	0	0	0	3
阿波支部(竹)	$\circ \frac{9}{5}$	$\circ \frac{2}{1}$	2	6	11	1	
阿南支部 A	$\circ \frac{5}{3}$	$\triangle \frac{0}{0}$	1	3	5	2	

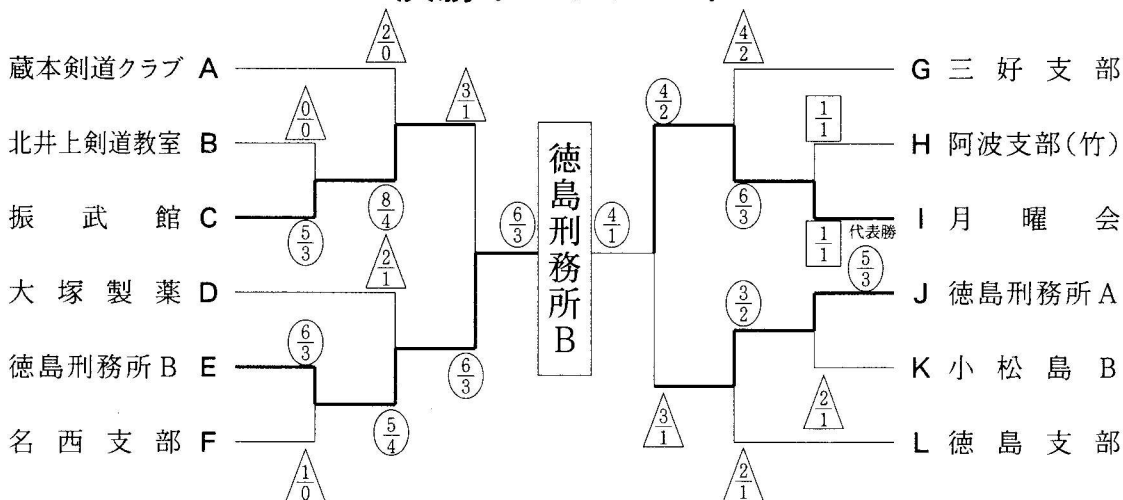
I	徳島県庁	月曜会	鳴門支部	勝数	勝者数	勝本数	順位
	徳島県庁	$\triangle \frac{0}{0}$	$\circ \frac{4}{2}$	1	2	6	2
月曜会	$\circ \frac{5}{2}$	$\circ \frac{3}{2}$	2	4	8	1	
鳴門支部	$\triangle \frac{3}{0}$	$\triangle \frac{1}{1}$	0	3	4	3	

J	板野東支部 C	麻植支部 A	徳島刑務所 A	勝数	勝者数	勝本数	順位
	板野東支部 C	$\triangle \frac{0}{0}$	$\triangle \frac{1}{0}$	0	0	1	3
麻植支部 A	$\circ \frac{6}{3}$	$\triangle \frac{3}{1}$	1	4	9	2	
徳島刑務所 A	$\circ \frac{9}{5}$	$\circ \frac{5}{2}$	2	7	14	1	

K	美馬支部 A	板野西支部 B	小松島 B	勝数	勝者数	勝本数	順位
	美馬支部 A	$\circ \frac{6}{3}$	$\triangle \frac{3}{1}$	1	4	9	2
板野西支部 B	$\triangle \frac{1}{0}$	$\triangle \frac{2}{1}$	0	2	3	3	
小松島 B	$\circ \frac{4}{2}$	$\circ \frac{7}{4}$	2	6	11	1	

L	小松島自衛隊	海部支部	徳島支部	勝数	勝者数	勝本数	順位
	小松島自衛隊	$\triangle \frac{2}{1}$	$\triangle \frac{0}{0}$	0	1	2	3
海部支部	$\circ \frac{8}{4}$	$\triangle \frac{1}{1}$	1	5	9	2	
徳島支部	$\circ \frac{5}{3}$	$\circ \frac{4}{2}$	2	5	9	1	

決勝トーナメント



準決勝戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
振武館 A	元木	松本	蛇目	福多	富田		3/1
		⊗		⊗			
徳島刑務所 B	一本勝 ⊙	⊗	⊙		⊙		6/3
	近藤	高橋	金野	鳴川	片山		

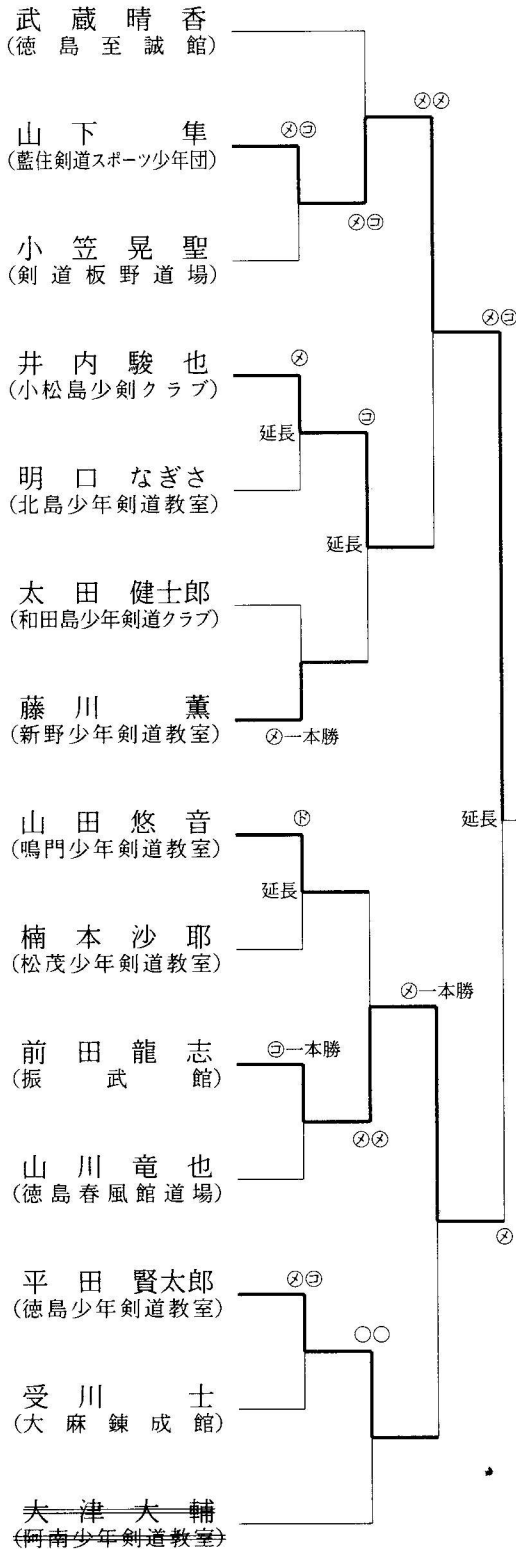
チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
月曜会	岸野	吉岡	福井	井村	吉田		4/2
			⊗	⊗	⊗		
徳島刑務所 A		一本勝 ⊗					3/1
	玉井	住友	前田	森	斎藤		

決勝戦

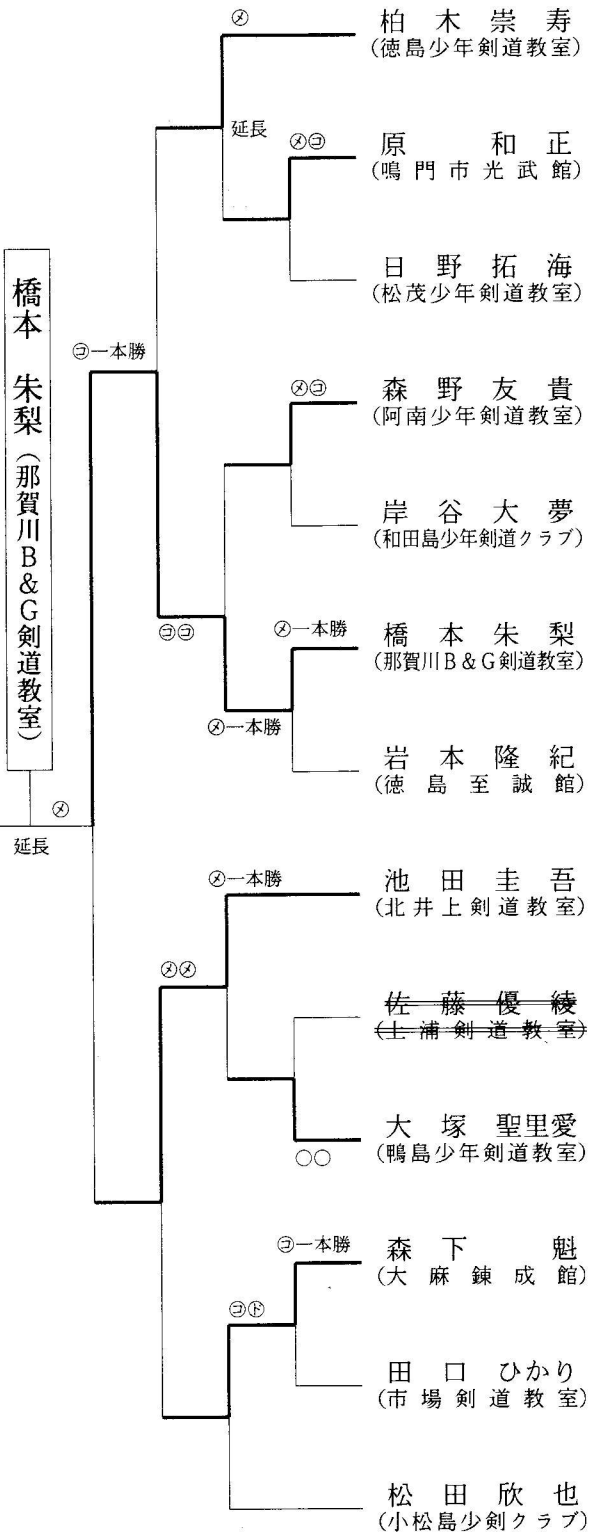
- 優勝 徳島刑務所 B
- 準優勝 月曜会
- 第3位 振武館 A
- 第3位 徳島刑務所 A

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
徳島刑務所 B	近藤	高橋	金野	鳴川	片山		6/3
	⊗	⊙	⊙	⊗			
月曜会		⊗	⊗		⊗		4/1
	岸野	吉岡	福井	井村	吉田		

〈個人戦B組〉



〈個人戦A組〉



準決勝戦 (団体戦)

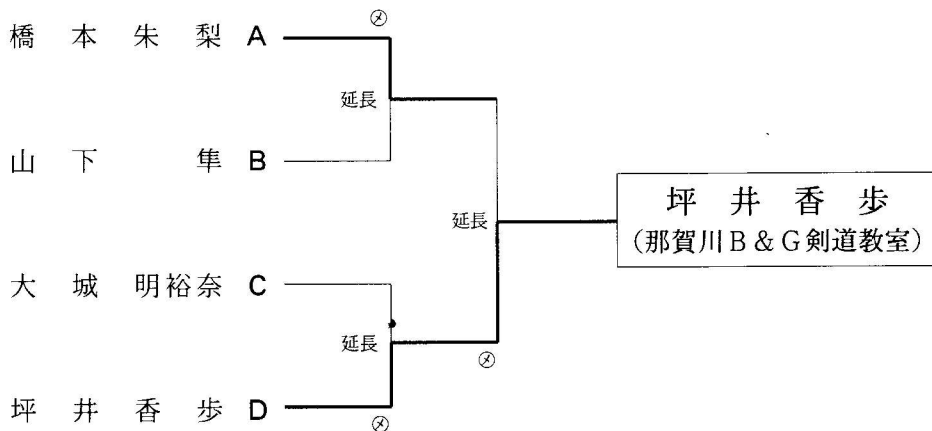
チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将		
阿南少年 剣道教室	西岡	山本	平田	服部	山崎	山崎	2 1
			①一本勝	①		②	
北井上 剣道教室		一本勝②		②			2 1
	鎌田	小島	楠本	岡田	行譜	行譜	

チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将		
徳島少年 剣道教室	熊橋	生田	前田	水谷	熊橋		0 0
徳島至誠館			一本勝②				1 1
	後藤	後藤	西名	飯田	朝田		

決勝戦 (団体戦)

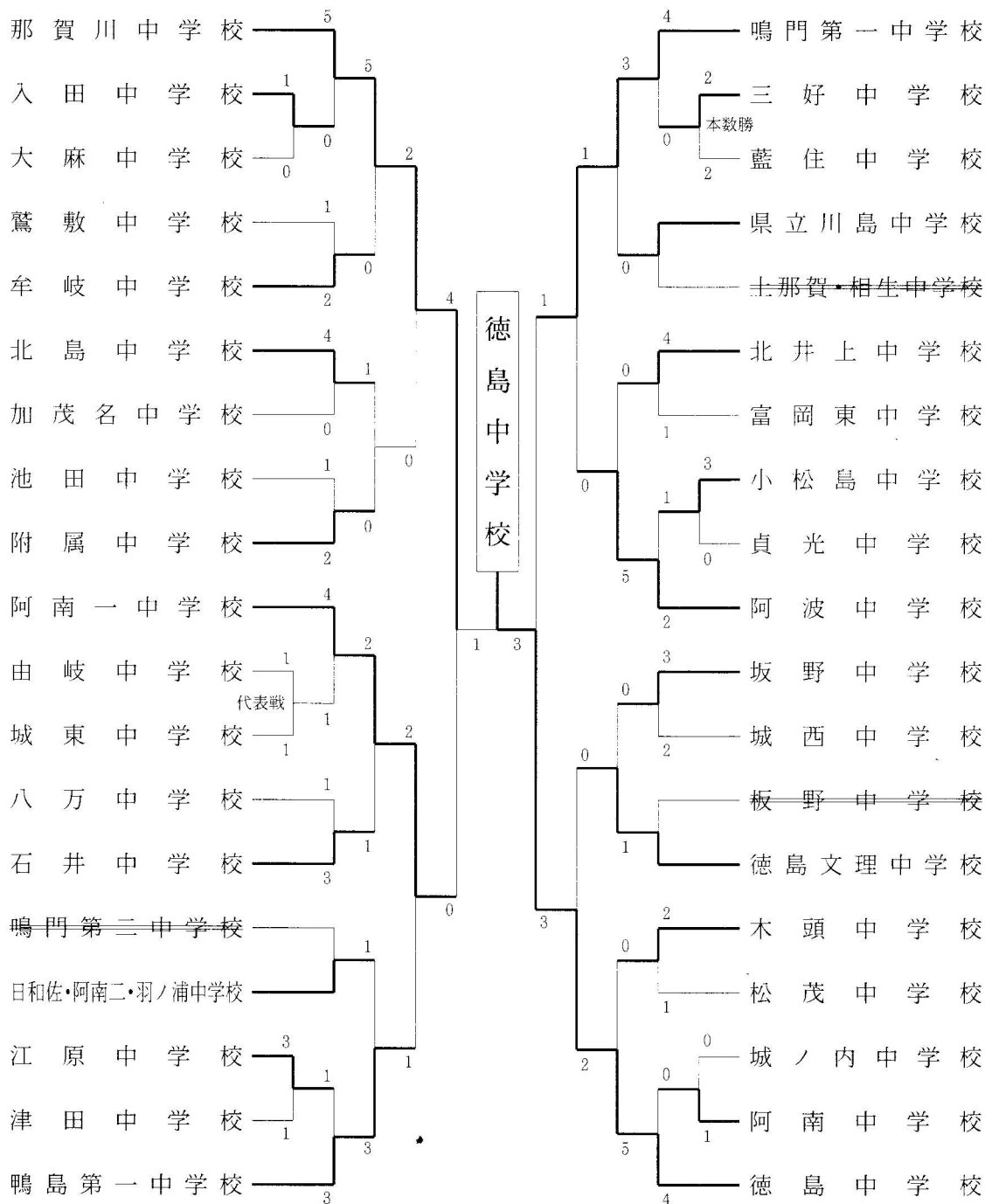
チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将		
阿南少年 剣道教室	西岡	山本	平田	服部	山崎	山崎	1 0
	①						
徳島至誠館	①					②	1 0
	後藤	後藤	西名	飯田	朝田	朝田	

決勝戦 (個人戦)



男子の部

優勝 徳島中学校
 準優勝 那賀川中学校
 第3位 阿南第一中学校
 第3位 鳴門第一中学校



決 勝 戦 (男子の部)

学 校 名	先 鋒	次 員	中 堅	副 将	大 将	
那賀川中学校	坪井	斎	庄野	湯浅	松本	1 (2)
	X		⊗⊗			
徳島中学校		⊗⊗	▲	⓪一本勝	⊖一本勝	3 (4)
	熊橋	美馬	織野	塚田	南谷	

決 勝 戦 (女子の部)

学 校 名	先 鋒	次 員	中 堅	副 将	大 将	
那賀川中学校	清水	高野	長谷川	竹原	野村	2 (3)
	X		⊗⊗			
鳴門第一中学校					⊗一本勝	1 (1)
	太田	東條	堤	田淵	深見	

男子 富岡西 女子 富岡東 V

剣道

県連盟会長杯高校大会
剣道の第36回徳島県連盟会長杯高校大会は17日、鳴門ノインヨイ武道館で団体戦が行われ、男子は富岡西が6年ぶりに優勝、女子は富岡東が7年連続26度目の栄冠を手

にした。

【男子】1回戦 勝野4-1板野、徳島文理5-0阿波西▽2回戦 城北5-10藤、徳島科技4-1川島、徳島北5-0那賀、城北3-0阿南高専、富岡西5-0鳴門、池田(不戦勝)徳島市立、阿南工5-10城東、鳴門3-0徳島文理▽準々決勝 城北4-1徳島科技、徳島北2-1本教勝

ち)2城ノ内、富岡西5-10池田、阿南工1(代表勝ち)1鳴門▽準決勝 城北4-1徳島北、富岡西3-2阿南工▽3位決定戦 阿南工2-10徳島北

▽決勝

富岡西 2-2 城北

福崎 1-X 森

○井上穂 1-X 南谷

谷澤 1-X 小野

○廣井 引き分け 齋田

○井上幹 1-X 岡田

【女子】1回戦 川島4-1勝町▽2回戦 富岡西2-0川島、城北4-0鳴門、城ノ内5-10池田、富岡東4-10徳島文理▽準決勝 富岡西3-10城北、富岡東5-10城ノ内▽3位決定戦、城北2-10城ノ内

▽決勝

富岡東 3-2 富岡西

○山本悠 1-X 藤井

○田中 1-X 佐藤

○山本千 1-X 長谷川

湯浅 1-X 那佐

工藤 1-X 岡内



中学男女とも 徳島文理制す

小学校は徳島教室
第15回勝浦杯を兼ねた第29回徳島城西剣友会少年錬成大会(3月21日・城西高)は小・中学生が団体と個人戦で競い、中学校の団体戦は徳島文理



徳島城西剣友会少年錬成大会で小学校の団体戦を制した徳島教室

がアベック優勝、小学校は徳島教室が3年ぶりに制した。個人戦は小学5年の朝田智輝(徳島至誠館)と6年の長谷川瑞実(小松島少剣ク)がともに5連覇を達成した。

【団体】小学校(徳島教室を小松島少剣ク)▽2年(鳥海空川島)②佐友太(徳島至誠館)③後藤田(川島)④福田優那(徳島至誠館)▽3年(後藤高志)②朝田智輝(同)③鳥海匠(川島)③井上亮(佐古)▽4年(山室和土(徳島教室)②前田龍志(振武館)③鎌田樹季(北井教室)③松葉そら(徳島至誠館)▽5年(朝田智輝(同)②西名(同)③熊橋諒司(徳島教室)③喜多祐輔(小松島少剣ク)▽6年(長谷川瑞実(同)②湯浅晃平(徳島至誠館)③川田将也(同)③美馬州一(北井上教室)▽中学校(小松島少剣ク)佐古之②後藤田(川島)③上田達也(徳島文理)③川上達也(小松島)▽女子(川原真実(徳島文理)②蛇目朋佳(振武館)③上田真奈(鴨島教室)③佐々木南波(徳島文理)

4月25日



阿南一制す

中学男子

第36回山家旗県大会
 (4月24日・薙敷B&G
 海洋センター体育館)は
 中学生45チーム(男26、
 女19)、高校生26チーム
 (男18、女8)が参加し
 て団体戦を行った。中学
 男子の阿南一は3年ぶり
 の優勝、中学女子の徳島
 文理と高校男子の富岡西
 Bはともに2連覇、高校
 女子の富岡東Aは4連覇
 となった。

最高賞となる10人以上勝
 ち抜き賞を受賞した。

【団体】中学男子①阿南一(野
 村翔輝、甲上修平、田崎輝、金
 澤恭助、田嶋己、市川誠)②那
 賀川③徳島文理④女子徳島文理
 (佐々木隆誠、水谷桃子、玉田真
 子、大瀬聖利、川原真実、平島
 かれん)⑤鳴門⑥薙敷・徳島
 二 郎、谷澤慶彦、寺井博、藤本聖
 也、濱田洗太、味間修一、近藤康
 平)⑦鳴門A⑧富岡西⑨女子⑩
 富岡東A(工藤麻美、青木万里
 子、湯浅絵里菜、山本悠、住友裕
 菜、藤本結衣、甘利あかね)⑪富
 岡東B

【勝ち抜き賞】高校①10人 森
 康二(城北)▽9人 山本悠(富
 岡東)▽6人 富浦慎治(鳴門)
 ⑤5人 朝井智豪(徳北) 黒木
 景太(城北) 藤本聖也(富岡西)
 工藤洋平(薙敷) 宇井友隆(鳴
 門) 青木万里(富岡東) 中川由
 美子(城北) 田中理規(富岡東)
 玉田理沙子(徳島文理)

5月6日

徳島至誠館が頂点

小学 低学年の部



第9回東かがわ市武道大会(5月5日・白鳥神



東かがわ市武道大会の低学年の部で頂点に立った徳島至誠館

社境内)の小学生の部は
 低学年の部と高学年の部
 にそれぞれ37チームが参
 加し、熱のこもった攻防
 を繰り広げた。

徳島至誠館は低学年の
 部の決勝で香川の陶錬成
 会を4-1で抑え、栄冠

を手にした。同館の高学
 年チームは3位に入っ
 た。

◇徳島関係の上位
 【小学校低学年】準々決勝 徳
 島至誠館5-0亀A(香川)▽
 準決勝 徳島至誠館1(代表勝
 ち)1至誠館(香川)▽決勝 徳
 島至誠館(先鋒)飯田朝太、次鋒||
 武蔵晴香、大将||朝田智輝)

大友保恭兵、中堅||朝田賢貴、副
 将||斎藤、大将||後藤高志、4
 上||陶錬成会(香川)

【同高学年】準々決勝 徳島至
 誠館1(本教勝ち)1亀A▽準決
 勝 光福館(香川)3-0徳島至
 誠館(先鋒)後藤賢貴、次鋒||松
 本、中堅||西崎輝、副将||

1-2の接戦となったが惜
 しくも本数で敗れた。

◇徳島関係の上位順位
 【女子】③同戦 徳島文理十
 〇沼(福岡)▽4同戦 徳島理
 ③1旭志(熊本)▽5同戦 徳
 島文理3-0大洗 福徳)▽準
 決勝 相知(佐賀) 2(本教勝
 ち)2 徳島文理

▽順位①相知の滝尾(大分)③
 徳島文理(川原真実、佐々木南
 波、大瀬聖利子、玉田真子、平島
 かれん、吉岡真子、水谷桃子)③
 東陽(大分)

徳島文理中3位 女子



山口維新杯剣道錬成大会で3位入賞した徳島文理中・女子

第13回山口維新杯錬成
 大会(5月4日・山口県
 スポーツ文化センター)
 は西日本各地から中学生
 の男子81チーム、女子65

チームが参加、徳島県は
 女子の徳島文理が3位入
 賞する健闘をみせた。徳
 島文理は準決勝で佐賀県
 の相知(優勝)と対戦。2

第51回徳島県高校総合体育大会（県教委、県高体連主催、徳島新聞社など後援）第2日は4日、各地で25競技を行い、8競技で優勝校が決まった。剣道女子は富岡東が20連覇を達成し、男子は阿南工が優勝。テニス男子は城南が9年連続で頂点に立ち、女子は3年ぶりに徳島商が制した。柔道女子は徳島北が4連覇、男子は阿

第51回 県高校総体

第2日

波が2年ぶりの栄冠に輝いた。レスリングは池田が5連覇。少林寺拳法男子は3年ぶりに穴吹、女子は辻が初優勝を果たした。射撃のビームライフル女子は城北が4年ぶり、重量挙げは徳島科技が制した。アーチェリー、ボートは1校だけの出場だった。第3日の5日は水泳、弓道など29競技が行われる。

富岡東女子 20連覇

男子は阿南工頂点



女子団体決勝・富岡東対富岡西 富岡東の次鋒・田中がメスを決める。那賀川スポーツセンター（森江幹也撮影）

男子団体1回戦 徳島1高 阿南工 1-0 徳島2高 阿南工 1-0 徳島3高 阿南工 1-0 徳島4高 阿南工 1-0 徳島5高 阿南工 1-0 徳島6高 阿南工 1-0 徳島7高 阿南工 1-0 徳島8高 阿南工 1-0 徳島9高 阿南工 1-0 徳島10高 阿南工 1-0 徳島11高 阿南工 1-0 徳島12高 阿南工 1-0 徳島13高 阿南工 1-0 徳島14高 阿南工 1-0 徳島15高 阿南工 1-0 徳島16高 阿南工 1-0 徳島17高 阿南工 1-0 徳島18高 阿南工 1-0 徳島19高 阿南工 1-0 徳島20高 阿南工 1-0	女子団体1回戦 徳島1高 阿南工 1-0 徳島2高 阿南工 1-0 徳島3高 阿南工 1-0 徳島4高 阿南工 1-0 徳島5高 阿南工 1-0 徳島6高 阿南工 1-0 徳島7高 阿南工 1-0 徳島8高 阿南工 1-0 徳島9高 阿南工 1-0 徳島10高 阿南工 1-0 徳島11高 阿南工 1-0 徳島12高 阿南工 1-0 徳島13高 阿南工 1-0 徳島14高 阿南工 1-0 徳島15高 阿南工 1-0 徳島16高 阿南工 1-0 徳島17高 阿南工 1-0 徳島18高 阿南工 1-0 徳島19高 阿南工 1-0 徳島20高 阿南工 1-0
---	---

重圧に耐え偉業達成

富岡東 女子

試合終了のアザーが鳴ると感極まった富岡東の選手は頬に大粒の涙がこぼれた。涙されていたのは20連覇の偉業。薄水を踏む勝利ながら、金手塔を打ち立てた入人は「みんなありがた〜と声を掛け合いい、歓喜の輪をつくった。新チーム結成以来、公式戦での富岡西戦は2勝2敗。1月の選抜選手選では宿敵に初優勝を許した。併勝校の牙城が揺らぐ敗戦にも「負けから学ぼう。無意味にしない」と、練習への意を交えて大一番に臨んだ。

「選抜選手選チームに迷惑を掛けたい」と悔しさをねに猛練習した録（あき）の山本悠は、相手のメンに対して、返し下で1本勝ち。次鋒の田中は相手のコテをすり上げメンですす1本。わずか5秒後に攻めをかわして冷静に引き下ろすを決め、決着をつけた。

この日は多くのOGが応援に訪れた。力をもったという工藤主将は「連覇こそが代で止めたくなかった。優勝は多くの人のおかげ」。十数年前の同校優勝メンバー、伊藤新監督は「フレッシュャーの中でよく粘った」と後輩の頑張りをたたえた。（阿部研一）

山本 悠 阿南工
病み上がり奮戦
○阿南工男子は団体
敗初優勝
への流れを二回（いっせん）現手をくぐり、チームになって団体戦では未勝利だった富岡西を振り切り、仲間と全国出場録の小紙の喜びを分かち合った。

写真。今週初めに熱の喜びを分かち合った。

昨日、チームで唯一個人戦を勝ち上がり、全国総体に出た松村。今年もみんなを前に行くことで、大将戦では左腕1本で相手の腕に飛び込み、コテを二回（いっせん）現手をくぐり、チームになって団体戦では未勝利だった富岡西を振り切り、仲間と全国出場録の小紙の喜びを分かち合った。



剣道

中学校の部

徳島文理3位

第31回三浦旗少年大会
(5月8日・愛媛県新居



【上】三浦旗少年剣道大会中学生の部で3位入賞した徳島文理【下】光龍杯少年剣道大会の小学校低学年の部で準優勝した徳島至誠館

浜市民体育館)は四国4県をはじめ全国各地から小・中学生約300チームが参加して攻防を展開。徳島県は13チームが出場した中学校の部で徳島文理が3位入賞を果たし、102チームで争った小学校高学年の部では徳島至誠館が8強入りした。

◇徳島関係の上位
【小学校】高学年々決勝 愛媛県選抜A2-1徳島至誠館 先大将 川谷嘉祐

鋒 後藤雄吉、次鋒 大城明裕、中堅 西名陽輝、副将 武蔵晴香、大将 朝田福輝

【中学校】準々決勝 徳島文理 3-0徳島成武館 準決勝 光龍館(音川) 4-1徳島文理(先鋒 岩尾史、次鋒 川田将也、中堅 夏大樹、副将 吉雄大、大将 空嘉祐)

6月12日



小学校低学年の部

徳島至誠館2位

第7回光龍杯少年大会(5月7日・香川県坂出市立体育館)の小学校低学年の部は西日本を中心に72チームが参加して行われ、徳島至誠館は決勝で和歌山砂山剣友会に敗れたものの、準優勝と大健闘した。

◇徳島関係の上位

【小学校】低学年々決勝 徳島至誠館3-1和歌山武道館 準決勝 徳島至誠館4-1昇龍館 福福場(岡山) 7-0和歌山砂山剣友会 4-0徳島至誠館 先鋒 飯田翔太、次鋒 大久保英兵、中堅 朝田顕香、副将 斎嘉祐、大将 後藤高志

小学校低学年 炭



剣道

制覇

富田 瑠

小学校高学年

6月19日



鳴門市戦没者追悼少年剣道大会で入賞した剣士

第39回鳴門市戦没者追悼少年大会(5月15日・鳴門市剣道場)は市内の小中学生80人が参加して行われ、小学校は鳴門市光武館の炭元裕が低学年を、富田瑠が高学年を制した。中学校は男子が西條翔太、女子は中井優里花の鳴門一勢が1位になった。

【小学校】低学年の炭元裕(鳴門市光武館)の分節羽乃(同)③北林翔(同)③愛川樹(大麻練成館) ③川邊智樹(鳴門市) ③井形優(同) ③山邊智樹(増設) ③増設

6月20日

城北男子が準優勝

剣道

【男子】団体選リーグA組
 高知小津2-1阿南工、丹原2-1阿南工、B組 新田3-1徳島文理、徳島文理3-1土佐、C組 高岡西2-1松山北、高岡西3-1土庄、D組 城北3-0尽誠学園、帝京五2-1城北

【女子】団体選リーグA組
 帝京五3-0城北、高松高3-0城北、B組 高岡西1-0英明、新田2-1高岡西、C組 高岡東1-0高知、高岡東3-2高松中央、D組 琴平2(本数勝)2城ノ内、城ノ内2-1高知高

▽個人準々決勝 工藤(富岡) 東コト一宮(帝京五)、岡内(富岡西)メコト一岡(高松商)▽準決勝 岡内メ一工藤▽決勝

木浦メ一 岡内 帝京五メ一



【男子】団体選リーグA組
 阿南工3-2高松商、B組 徳島文理2-1高松商、勝1敗0組 小津

文理2(本数勝)2琴平、C組 高岡西3-1明徳義塾、D組 城北3-0高知高専

▽順位 A組(阿南工)勝2敗0組 小津

▽決勝トナメント準決勝 新田4-1高岡西、城北1-0高知

▽決勝 トナメント決勝 帝京五3-0高岡東、高岡東1-0高知

▽決勝 トナメント決勝 帝京五3-0高岡東、高岡東1-0高知

城北男子が県総体3位の悔しさを、四国の舞台で晴らした。予選リーグは2勝1敗で帝京五(愛媛)と並んだが、勝者数で1人上回り際どく決勝トナメントへ進出。高知小津との準決勝は4人が引き分けた後、雌雄を決する大将戦で岡田がメンで1本勝ちを収めた。

決勝の相手は前評判通り男子団体決勝・城北对新田 果敢に攻める城北の大将・岡田

||鳴門ソシヨイ武道館(森丘幹也撮影)

県3位の悔しさを晴らす

りの強さで勝ち上がったきた新田(愛媛)。次鋒(じほ)の南谷がコチを決めるなど健闘したものの、力及ばなかった。勝敗が決した中でも、岡田は果敢に攻めて場内を沸かせ、終了間際に飛び込みメンを決めて意地を見せた。

県総体での敗戦後、高校最後となる四国選手権に全てを懸けて臨んだ3年生部員。森主将は「5人はきょうで引退。優勝できなかったのは残念だが、満足できる終わり方だったと、静かに竹刀を置いた。」

(岩村純志)

城西山メ一 森田 花田メ一 岡田

新田は13年ぶり12度目の優勝。

【女子】団体選リーグA組 城北1-1土佐、B組 高岡西3-0明徳義塾、C組 高岡東1-1落美、D組 松山北2-0城ノ内

▽順位 A組(城北)6人分の敗

▽B組(高岡西)2勝1敗、C組(高岡東)2勝1敗、D組(城ノ内)1勝2敗

▽決勝 トナメント決勝 帝京五3-1松山北

帝京五は2年連続4度目の優勝。

富岡東・工藤主将(予選リーグ敗退に)「積極的にいけなかった。これを教訓として全国総体に向けて練習し、粘りのある剣道をしたい」



第21回北島ライオンズクラブ少年大会(サンフワードーム北島)は小・中学生が団体と個人戦で競い、団体の小学生は藍住が2年ぶり、中学男子は北島中が4年連続で優勝した。個人戦は小学5年の森本直希(藍住)



藍住が制覇 小学生団体

7月11日

が3連覇、3年以下の松本喜起(同)が2連覇した。
【団体】小学生は北島中が3連覇、3年以下の松本喜起(同)が2連覇した。
【個人】小学5年以下の松本喜起(藍住)②松本輝灯(同)③吉田麗美(松茂)④川好誠(誠武館)▽4年⑤早岡太郎(北島)⑥伊賀繁菜(同)⑦佐竹渉(同)⑧田岡正義(同)▽5年①森直希(藍住)②山下隼(同)③吉本麻丸(同)④河野亮(土成)▽6年①矢代宗一郎(藍住)②西角春那(同)③坂野弘弘(北島)③三宅康(藍住)
▽中学男子①永濱大樹(福野)②富岡謙太郎(北島)③荒瀬佑(坂野)④梶雄基(土成)▽女子①山本あり(松茂)②西貴央(坂野)③小笠原帆(同)④後藤千穂(土成)

第24回県防犯少年大会の子選を兼ねた大会が県内各地で行われ、上位入賞した小学生4人と中学生3人がそれぞれ代表に選ばれた。7人は地区代



県大会地区代表決まる



板野郡防犯少年剣道大会で地区代表に選ばれた剣士

表としてチームを組み、県大会(7月23日・鳴門ノイシヨイ武道館)に出場する。
◇第18回板野郡防犯少年会(6月19日・板野体育センター)
【小学生】①矢代宗一郎(藍住)②三宅康(藍住)③西角春那(藍住)④長田和樹(藍住)
北 川新(松茂)は、それぞれ代表に選ばれた。7人は地区代

7月17日

【中学生】①森本直希(山野)②荒瀬佑(坂野)③仲野和樹(同)
◇第8回鳴門防犯少年大会(2日・鳴門武道館)
【小学生】①吉田翔和(富田礼明)②矢野郁(木村豪)③伊藤教室(いずれも鳴門中央武館)
【中学生】①三川博(三川貴文)②藤原桃子(東知勇)所属はいずれも鳴門一中
小学生の上位4人と中学の玉川博、玉川貴、深見が県大会出場
◇第5回栗馬政管内剣道大会(3日・脇町小体育館)
【小学生】1年①藤本実(香風館)▽2年①藤岡運(脇町武館)②山岡(脇町武館)▽3年①山岡(脇町武館)②高田(脇町武館)③好美子(同)④高田(脇町武館)⑤正木彩加(同)⑥山岡(同)▽4年①尾藤紀中(同)②尾藤紀中(同)③尾藤紀中(同)④尾藤紀中(同)⑤尾藤紀中(同)⑥尾藤紀中(同)
【中学生】1年①自岡伸人(貞光)②西岡成(同)③萩原昇平(同)④松浦輝輝(同)▽2年①藤岡運(同)②高田(同)③高田(同)④高田(同)⑤高田(同)⑥高田(同)
【小学生】1年①自岡伸人(貞光)②西岡成(同)③萩原昇平(同)④松浦輝輝(同)▽2年①藤岡運(同)②高田(同)③高田(同)④高田(同)⑤高田(同)⑥高田(同)
【中学生】1年①自岡伸人(貞光)②西岡成(同)③萩原昇平(同)④松浦輝輝(同)▽2年①藤岡運(同)②高田(同)③高田(同)④高田(同)⑤高田(同)⑥高田(同)

徳島8強入り逃す

7月17日

徳島8強入り逃す
都道府県対抗女子大会
剣道の第3回全日本都道府県対抗女子優勝大会は16日、東京・日本武道館で行われ、決勝で佐賀が岐阜を2-0で下し、初優勝した。3位は大阪と長野。前回優勝の福岡は準々決勝で敗れた。
徳島(長谷川、湊、山下、北村、竹内)は沖繩、福島を破り、3回戦で長野と対戦。1-3で敗れ、8強入りを逃した。徳島の湊友里は同大会の優秀選手(7人)に選ばれた。
佐賀は3回戦で2年連続優勝の岡山を2-1で破って勢いに乗った。決勝は先鋒(せんぽう)、

Table showing match results for the All-Japan Prefectural Women's Judo Tournament. Columns include prefecture names (徳島, 長谷川, 沖繩, etc.) and match outcomes (e.g., 4-0, 2-0, 1-3).

那賀川 男子 徳島文理 女子 V

剣道

(松茂町総合体育館)
 【男子】団体1回戦 江原5-0
 ○山川 八三-2小松島、貞光
 3-2板野、阿波4-0勝浦、石井4-1山城、徳島文理5-0日
 和佐、鴨門3-2齋敷、木頭4
 1坂野、鴨島1-4-0三好、徳島
 那賀川3-1阿南1
 1油田、土成3-1上八万、坂
 野4-0脇町、三好2(代表勝
 ち)2鴨門、鴨島3-2北島
 万3-0貞光、石井3-1阿波、
 文理、那賀川2(代表勝ち)2徳
 島文理2(本数勝ち)2鴨門
 島
 5-0由岐▽準々決勝 阿南3
 1八万、徳島文理4-0石井
 那賀川4-0土成、徳島5-0鴨
 門▽準決勝 阿南3-0徳島
 文理、那賀川2(代表勝ち)2徳
 島



女子団体決勝 大将戦で果敢に攻める徳島文理・川原(左) —松茂町総合体育館(河野聡一撮影)

決勝にふさわしい手に汗握る戦いを紙一重でものにし、徳島文理が栄冠に輝いた。
 相手は6月の県選手権決勝の雪辱に燃える阿波。阿波の気力に押され、3人続けて引き分けた後、阿波の副将・秋山が延長で勝利した。
 引き分けも許されない厳しい局面で、文理の大将・川原が登場。ドウでまず1本を取ったが、メ

徳島 大将が接戦に終止符

決勝にふさわしい手に汗握る戦いを紙一重でものにし、徳島文理が栄冠に輝いた。
 相手は6月の県選手権決勝の雪辱に燃える阿波。阿波の気力に押され、3人続けて引き分けた後、阿波の副将・秋山が延長で勝利した。
 引き分けも許されない厳しい局面で、文理の大将・川原が登場。ドウでまず1本を取ったが、メ

4-1八万、阿波4-0三好▽準々決勝 徳島文理5-0齋敷、那賀川3-0市立川島、鴨門4-0新野、阿波4-1石井▽準決勝 徳島文理3-0那賀川、阿波3-1鴨門
 1鴨門
 △決勝
 徳島文理 1-1 阿波
 (代表勝ち)
 佐々木 竹内
 水谷 岡田
 玉田 佐藤
 大嶺 秋山
 ○川原 ドロー 尾関
 △代表戦
 ○川原 メー 尾関
 予選の雪辱果たす
 ○：阿南勢の争いとなつた注目の男子決勝は、



6月の県選手権で優勝した那賀川だが、県総体の阿南市予選では阿南一に敗れた。この日の決勝で再戦が決まると、選手たちは気合十分。
 合十分。
 次鋒(じ 田中、中堅 坂野、濱田、副将・庄野が勝利を取め、大将戦を待たずして勝利を決めた。大将の藤坂主将「写真」は「気合を入れ直してリベンジできた」としてやっつかりの表情。「全国大会では日本一を狙う」と高い目標を掲げた。

汗を拭いた。
 部訓は「文武不岐」。学業で得た知力は剣道にも生き、剣道で鍛えた精神力は学業にも役立つの意味だ。稽古は毎日約1時間半。短時間で高密度の濃い内容で集中力を高めているという。
 猛暑の中、試合結果よりも価値のある密度の濃い稽古を積み、2年連続となる全国大会に臨む。(右村純志)

剣道

(松茂町総合体育館)
 【男子】個人準々決勝 谷本(鴨門)メーコ 小川(木頭)馬尾(新野)メー 岩木(鴨門)、奥田(齋敷)メー 上田(県立川島)、川原(徳島文理)メー 中井(鴨門)▽準決勝 登本 コーメ 吉屋、大城メー 甲上
 △決勝
 谷本 メー 大城
 【女子】個人準々決勝 深見(鴨門)メーコ 小川(木頭)馬尾(新野)メー 岩木(鴨門)、奥田(齋敷)メー 上田(県立川島)、川原(徳島文理)メー 中井(鴨門)▽準決勝 登本 コーメ 吉屋、大城メー 甲上
 △決勝
 川原 ドー 深見



徳島文理女子V2

第28回白虎旗錬成大会
 (6月19日・兵庫県相生
 市民体育館)の中学の部
 は近畿や中・四国などか
 ら男子42チーム、女子35
 チームが参加して日ごろ

の練習の成
 果を試し
 た。徳島文
 理は女子が
 2連覇を果
 たし、男子
 は3位入賞
 となった。
 さらに徳島
 文理は戦績
 以外の態度
 でも最高
 評価を受
 け、2年連
 続で最優秀
 白虎旗剣道
 錬成大会で
 女子は2連
 覇、男子は
 3位入賞し
 た徳島文理
 中

7月24日

賞を受賞した。
 ◇徳島関係の上位
 【中学男子】準々決勝 徳島文
 理3-2山直(天阪)▽準決勝
 久世(岡山)0-5徳島文理(先
 鋒)岩佐浩大、次鋒川田将也、
 中堅喜多木大樹、副将上田雄
 大、大将谷本拓哉
 【中学女子】準々決勝 徳島文
 理5-0大成(兵庫)▽準決勝
 徳島文理4-1四天王寺羽曳丘
 (天阪)▽決勝 徳島文理(先鋒
 川佐々木南波、次鋒水谷桃子、
 中堅玉田真子、副将大瀬茉莉
 子、大将川原真美)5-0大蔵
 剣友会(兵庫)
 【表彰】最優秀賞 徳島文理中

第49回

四国中学総体

8月8日

最終日

剣道

(愛媛県武道館)
 【男子】団体連リーグA組
 高知3勝の龍雲(香川)1勝2敗
 ③松山北(愛媛)1勝2敗④新賀
 川(徳島)1勝2敗②位は勝者
 数、3・4位は本数による▽B組
 ①明徳義塾(高知)3勝の東予東
 (愛媛)2勝1敗③清瀬(香川)
 1勝2敗④阿南(徳島)2敗
 各組1・2位が決勝トナメ
 ントへ。
 △決勝トナメント1回戦 高
 知3-1東予東、龍雲3-1明徳
 義塾▽決勝 高知2(代表勝者)
 2龍雲
 高知は10年ぶりの8度目の優勝。
 △個人準々決勝 谷本(徳島)文
 理、メー 中井(愛媛)・一本松
 △準決勝 杉野(香東)×メー
 谷本▽決勝 母下(愛媛)内徳
 ×メード 杉野
 【女子】団体連リーグA組
 徳島文理3勝の大柵(高知)1勝
 1敗1分け③東予西(愛媛)1勝
 2敗④龍雲(香川)2敗1分け▽
 B組①城辺(愛媛)3勝の左野
 (高知)2勝②大川(香川)
 1勝2敗④阿波(徳島)3敗
 各組1・2位が決勝トナメ
 ントへ。
 △決勝トナメント1回戦 徳
 島文理4-1土佐町、城辺4-1
 大柵
 △決勝
 城 辺3-1 徳島文理
 藤田 引き分け、佐々木
 立花 ×メー 水谷
 久徳 ×メー 玉田
 中井 ー× 大瀬
 松田 コー 川原
 城辺は初優勝。
 △個人準々決勝 川原(徳島)文
 理、メー 芝(愛媛)・松山南▽
 準決勝 市川(高知)×市川原
 △決勝 市川、メー 久徳(城
 辺)

8月13日

全国高校総体

熱戦再来北東北

第16日

全国高校総体（インターハイ）第16日は12日、秋田県などで競技を行った。徳島県勢は、ボクシング・ライトフライ級の川浦龍生（徳島市立）が3回戦で敗れた。剣道女子では、西柚衣（那賀川中出）が中堅を務める守谷（茨城）が団体で全国制覇。西は個人でも8強入りした。柔道の女子個人57kg級では、竹盛沙希（徳島北）が1回戦を突破したが2回戦で敗れた。前回大会準優勝の片岡志乃（東大阪大敬愛、藍住中出）がベスト16に入った。卓球シングルスでは、女子の濱田美優、楠川陽子（以上城南）が2回戦に進んだ。

西（那賀川）団体V貢献 女子

剣道

（青森県武道館）

【男子】団体決勝

福岡大慶 2-2 小山

福岡 本数勝 栃木

福岡大慶は16年ぶり3度目の優勝。

▽個人決勝

高倉寛矢③ コー

（茨城・水戸）

尾野大成② （北海道・東海大四）

【女子】団体決勝

守谷 3-1 和歌山東

（和歌山）

守谷は4年ぶり3度目の優勝。

▽個人決勝

高橋萌子のメー

阿部美流③ （神奈川・桐蔭学園）

（茨城・守谷）

2度目の日本一

○：那賀川中2年時に全国中学総体の女子団体

を制し、この夏も団体で日本一になった西



写真11 は「達成感でいっぱい」。中学3年の総体は県予選で敗れ、「もう一度、日本一になりたい」と茨城の守谷に進学しただけに喜びは大きかった。

高校では持ち前のスピードとパワーに加え「技の幅が広がった」。団体決勝は、1-1で迎えた中堅戦で引きドウト抜きメンを決め2本勝ち。個人戦でも自己最高のベスト8入りした。西は「これまでお世話になった人に感謝したい」と語った。

8月25日

全国中学校 体育大会

第8日

全国中学校体育大会第8日は24日、大阪市、兵庫県などで行われた。徳島県勢は、バドミントン女子ダブルスで森隆子・山下華奈組(徳島)が8強入りした。柔道の女子個人では、48kg級・田北明日香(藍住)52kg級・松長真子(板野)70kg級・高岡美久(小松島)がベスト16になった。体操男子団体の南部は藤井太陽が日本一に貢献した。剣道団体は男子的那賀川、女子の徳島文理がともに予選リーグで敗退した。

全国中学校体育大会最終日は25日、和歌山市などで3競技が行われ、徳島県勢は柔道の男子個人に8人が出場。60kg級の大島拓海(阿波)が延長の末、成田俊(青森・青森山田)を破り優勝した。剣道の男子団体は大分・杵築が優勝し、同個人も中根悠也(大分・杵築)が制した。バドミントンのシングルスは男子が古賀穂、女子は大塚彩の福島・猪苗代勢が優勝した。

全国中学校 体育大会

最終日

剣道

(加古川市立体育館)

【男子】団体決勝

杵築 2-1 香芝
天分 2-0 奈良
中根悠 1-0 山田
大分 1-0 北海道
杵築 1-0 鳥取

▽個人決勝

新 3-2 中
新 3-2 静
新 3-2 静
新 3-2 静

▽個人決勝

久徳
久徳
久徳
久徳

▽70kg級2回戦

成田 優勢 江原

▽決勝

成田 優勢 江原

▽70kg級1回戦

成田 優勢 江原

▽2回戦

成田 優勢 江原

▽3回戦

成田 優勢 江原

▽4回戦

成田 優勢 江原

▽5回戦

成田 優勢 江原

▽6回戦

成田 優勢 江原

▽7回戦

成田 優勢 江原

▽8回戦

成田 優勢 江原

▽9回戦

成田 優勢 江原

▽10回戦

成田 優勢 江原

▽11回戦

成田 優勢 江原

▽12回戦

成田 優勢 江原

▽13回戦

成田 優勢 江原

▽14回戦

成田 優勢 江原

▽15回戦

成田 優勢 江原

▽16回戦

成田 優勢 江原

▽17回戦

成田 優勢 江原

▽18回戦

成田 優勢 江原

▽19回戦

【男子】団体予選リーグA組

東長崎 3-2 那賀川
長崎 1-0 徳島
藤和 1-0 坪井
岡 1-0 湯浅
牧島 1-0 湯浅
藤川航 1-0 湯浅
池田 1-0 湯浅
那賀川 1-0 湯浅

▽個人1回戦

飯野 1-0 深見
飯野 1-0 深見
飯野 1-0 深見
飯野 1-0 深見

▽個人2回戦

飯野 1-0 深見
飯野 1-0 深見
飯野 1-0 深見
飯野 1-0 深見

▽個人3回戦

【女子】団体予選リーグB組

徳島文理 2-0 佐々木
徳島文理 2-0 佐々木
徳島文理 2-0 佐々木
徳島文理 2-0 佐々木

▽個人1回戦

徳島文理 2-0 佐々木
徳島文理 2-0 佐々木
徳島文理 2-0 佐々木
徳島文理 2-0 佐々木

▽個人2回戦

徳島文理 2-0 佐々木
徳島文理 2-0 佐々木
徳島文理 2-0 佐々木
徳島文理 2-0 佐々木

▽個人3回戦

【女子】団体予選リーグC組

米谷 1-0 徳島文理
米谷 1-0 徳島文理
米谷 1-0 徳島文理
米谷 1-0 徳島文理

▽個人1回戦

米谷 1-0 徳島文理
米谷 1-0 徳島文理
米谷 1-0 徳島文理
米谷 1-0 徳島文理

▽個人2回戦

米谷 1-0 徳島文理
米谷 1-0 徳島文理
米谷 1-0 徳島文理
米谷 1-0 徳島文理

▽個人3回戦

【女子】団体予選リーグD組

香芝 2-0 徳島文理
香芝 2-0 徳島文理
香芝 2-0 徳島文理
香芝 2-0 徳島文理

▽個人1回戦

香芝 2-0 徳島文理
香芝 2-0 徳島文理
香芝 2-0 徳島文理
香芝 2-0 徳島文理

▽個人2回戦

香芝 2-0 徳島文理
香芝 2-0 徳島文理
香芝 2-0 徳島文理
香芝 2-0 徳島文理

▽個人3回戦

9月5日

教員剣美会 制す

個人3区分 長栄・小西・玉田栄冠

剣道

県女子大会

剣道の第32回徳島県女子大会は4日、中央武道館で団体10チーム、個人28人が参加して行われた。団体はA(3人の合計年齢が90歳以上)が教員剣美会、B(同90歳未満)は徳島文理大Aが優勝。個人は区分1(25歳未満)が長栄知佳(鳴教大)、区分2(25歳以上40歳未満)は小西美穂(阿南支部)、区分3(40歳以上)は玉田真理(徳島支部)が制した。(阿部研一・写真も)

【団体】A向敵 花虎倶楽部 1(代表勝ち) 1川島高剣友会

▽決勝 教員剣美会 1-0 花虎倶楽部

○山下 メーコ 山室

小西 一 山城

福田 一 山崎

▽B1向敵 川島高剣友会B2

1 徳島大蔵本 徳島文理大A2

1 鳴教大B、徳島大1(本数勝ち)

1 徳島文理大B 準決勝 徳島文理大A1 0川島高剣友会

B、鳴教大A1(代表勝ち) 1徳島大

▽決勝 徳島文理大A 2-1 鳴教大A



団体A決勝 先鋒戦でメンを決める教員剣美会の山下(右)中央武道館

○盛 メー 大石

村上 トメ 長栄

○三宅 メーコ 内山

【個人】区分1準々決勝 長栄

(鳴教)メー 村上(徳島文理)

大三宅(徳島文理)コ 盛

(徳島文理)メ 窪田(阿波支)

部)ド 内山(鳴教) 大石

(鳴教)メー 山下(鳴教支)

部)▽準決勝 長栄 メー 三

宅 窪田 メー 大石

▽決勝 長栄 コー 隅 田

▽区分準決勝 山崎(阿南支)

部)不戦勝 前田(阿波支)

れた相手に出足鋭くメンを2本決めた。

中堅・小西と大将・福田も「攻めていくことだけを考えて」と、気合を込めた竹刀さばきで引き分けた。

3人は県内の中学で剣道部の監督を務めながら、腕を磨いている。主将の福田は「欲を言えば動きが少し硬かった。常に百パーセントの力が出せるようにしたい」と日々の鍛錬を誓った。

最後まで諦めず

○：団体B決勝の大將戦。引き分けなら本数差で敗れる徳島文理大Aだったが、残り10秒で三宅

写真IIが「最後まで諦めず思い切り戦った」とメンを一閃(いつ

せん)。優勝の立役者は「うれしい一言」と、とびきりの笑顔を見せた。

チームは代わりわけて1週間足らずで部員は1、2年生の5人。決勝は二つ以上上の鳴教大Aの選手に憶することなく挑んだ。先鋒戦の開始5秒でメンを決めた1年の盛は「気持ちだけは負けなかった」と、チャレンジ精神で奪った1本に満足していた。

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

たかかった」と、体勢が崩

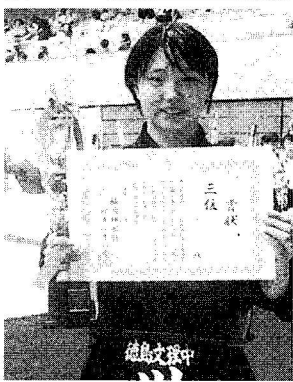
たかかった」と、体勢が崩

9月11日

川原(徳島中) 3位入賞 女子



第32回神武館旗少年個人選手権(8月13日・北九州市立総合体育館)の中学生部門は西日本全域や関東などから男子660人、女子261人が参加して攻防を展開。徳島の川原真実(予選ハイトで1位となり、県勢



神武館旗少年剣道個人選手権で女子3位入賞の川原

でただ一人決勝トーナメントに進んだ。準決勝の中原(福岡・今宿)にメド1回戦、川原真実(徳島文理)にメド1回戦、砂留(福岡)にメド1回戦、山田(山口)にメド1回戦、川原真実(予選ハイトで1位となり、県勢

徳島関係の中学生上位
【女子】中学生決勝トーナメント1回戦 川原真実(徳島文理)メド1回戦 砂留(福岡)メド1回戦 山田(山口)メド1回戦 川原真実(予選ハイトで1位となり、県勢)

9月14日



熱戦を繰り広げる警察官ら—鳴門市撫養町の鳴門ソイジョイ武道館

県警察剣道大会 門

240人が熱戦展開 鳴門
徳島県警の柔道剣道大会が、鳴門市の鳴門ソイジョイ武道館であった。15署と県警本部、警察

学校から計約240人が参加。団体戦は署の規模によりA、Bの2組で競い、柔道Aは警察学校A、剣道Aは徳島東署がそれぞれ優勝した。女性警察官26人による剣道特

【紙面編集】佐藤亮

別試合もあった。

(萬木竜一郎)

成績は次の通り。

【柔道】A組①警察学校A②徳島東署▽B組①

阿波署②三好署

【剣道】A組①徳島東署②県警本部▽B組①吉

野川署②板野署

【女性警察官剣道特別試合】①酒巻志穂②井上

彩(以上警察学校)

【全勝賞】▽柔道 佐藤友哉、福田龍二、中岡

大志(以上警察学校A)

高橋浩二(徳島東署)井

下大助、新居昌樹、西條

公志(以上阿波署)篠原

康二(三好署)▽剣道

星野宜哉(徳島東署)新

谷高史(吉野川署)

9月17日

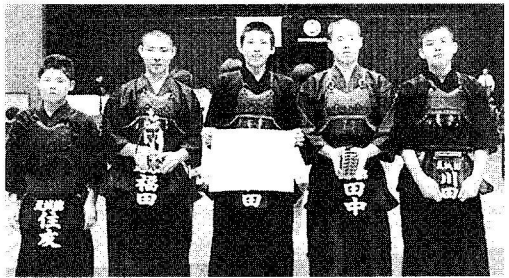


第43回植田平太郎範士杯少年大会(8月14日・



小学校低学年 中学生

徳島至誠館 3位



植田平太郎範士杯少年剣道大会で3位入賞した徳島至誠館の【上】中学生チーム【下】小学校低学年チーム



【小学生】団体準々決勝 木頭

高松市総合体育館)は中・四国および和歌山などから小・中学生が参加して団体戦を行った。徳島至誠館は70チームが出場した小学校低学年の部と、62チームで争った中学生の部でいずれも準決勝へ進出。低学年は代表戦、中学生は0-1で惜敗したが、それぞれ3位入賞を果たした。

【小学校低学年】準々決勝 徳一(代表勝)1徳島至誠館(先鋒)飯田翔太、次鋒)久保恭兵、中堅)朝田勇貴、副将)齋手佑、大将)後藤高志

小学5・6年 田上(錬武)制覇

第39回阿土少年錬成大(8月17日・那賀町木頭体育館)は徳島、高知両県の小・中学生202

人が参加して団体および個人戦で熱戦を繰り広げた。徳島県は個人の小学5・6年の部が田上雄大(錬武館教室)、中学生は1年の松本和暉(木頭)と2年の濱田諒(那賀川)がそれぞれ優勝し

- 錬心館1(代表勝)1徳坂道場(高知)野市少剣(高知)3徳島至誠館、高知至誠館2-10羽ノ浦教室準決勝 野市少剣2-10木頭錬心館、阿南教室1高知至誠館 決勝 野市少剣2-10阿南教室
- 【同個】1.在準決勝 河野菜々子、那賀川B&C教室わかあゆ会、米田吉(相生龍虎館)、松本(野市少剣)2.高永涼介(鴨島教室)決勝 松本、河野
- ▽3・4年準決勝 石川(高知至誠館)1 福田那(徳島至誠館)、村岡(高知至誠館)2 朝田勇貴(徳島至誠館)1 石川(反則勝)1 村岡
- ▽5・6年準決勝 田上雄大(錬武館教室)1 松葉そら
- (徳島至誠館)、大城明裕奈(同)下1有岡(安田)1 決勝 田上、河野
- 【中学校団体】準々決勝 那賀川3-0鏡野(高知)、野市中(同)3-0香北中(同)、坂野中1(代表勝)0那賀川中、鏡野中3-0阿南準決勝 野市中(代表勝)0那賀川中、鏡野中3-0坂野中 決勝 野市中2-0鏡野中
- 【同個】1.在準決勝 川田航大、那賀川2、湯澤菜美(相生)、松本和暉(木頭)2.湯澤菜美、那賀川1 決勝 松本、川田
- ▽2年準決勝 門脇(徳坂道場)1 福田輝斗(羽ノ浦)、濱田諒(那賀川)1 津田美穂(籠敷)1 決勝 濱田、門脇

10月22日

全日本剣道選手権に出場する近藤さん（徳島市論田町）



県警・近藤さん

11月3日の「第59回全日本剣道選手権大会」（東京都）に2年ぶりに出場する徳島県警機動隊の近藤正章警部補（34）が本番に向け、練習に励んでいる。昨年の県予選は準決勝で敗退するなどスランプに陥っていたところ、東日本大震災の救援活動で被災者の前向きな姿勢に接し、奮い立たされたという。

被災者の姿励みに

近藤さんは、広域緊急援助隊警備部隊隊長などとして宮城、岩手の両県で9月末までに計4回、行方不明者の捜索など救援活動をした。

被災地では、苦境から復興に向けて一歩一歩進もうとする人々の姿にハッパをももらった。岩手県のある漁港近くで、漁に使う網を編んでいた漁師組合長は「何もかも流されたけど自分が漁業を引っ張らんと。信じてやらな前に進まん」と漁の再開を語ったという。

年齢とともに体力が落ち、剣道に対し自信を失いかけていた

「力もらった」 救援活動通じ

近藤さん、救援活動を通して、「自分には暮らす家も練習ができる環境もある。何を甘えていたんだ」と気持ちが吹っ切れて、7月に鳴門市で開かれた県選手権で優勝し、全日本剣道選手権の出場を決めた。

過去3回の同選手権の最高成績は1回戦突破。今回は3位入賞を狙う。「剣道に打ち込めるありがたさと、県代表の重みを感じながら大事に戦いたい。漁師組合長のように、自分の力を信じてみようと思う」と力を込めた。

（大野真味）

10月23日

高校男子 城北が3連覇

中学男子 徳島は2年ぶり栄冠



第39回阿北地区大会（9月18日・石井中体育館）は51チーム238人の中・高校生が参加。団体戦を行い、中学男子は徳島A、女子は徳島文理、高校は男子が城北A、女子は城ノ内が制した。徳島Aは予選から決勝まで1本も奪われることなく2年ぶりの優勝を飾り、城北男子は3連覇となった。

【中学】男子①徳島A（先鋒① 藤原真、次鋒② 美州一、中堅③ 藤野将真、副将④ 坂田吉大、大将⑤ 〃）



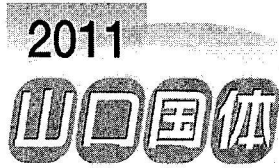
阿北地区剣道大会で優勝した【上】中学男子・徳島A（右側）と女子・徳島文理（左側）【下】高校男子・城北A（右側）と女子・城ノ内（左側）



阿北地区の優勝③阿波③ かんれ、次鋒④ 青葉玲奈、中堅⑤ 石井A、副将⑥ 高岡豊、大将⑦ 徳島文理（先鋒① 平島一、二玉田男子）② 真立崇阿波③ わかち④ 城ノ内

【高校】男子①城北A（先鋒① 西田俊介、次鋒② 山根大、中堅③ 竹内厚生、副将④ 藤原大、大将⑤ 黒木謙太）② 城ノ内③ 川島 陽

▽女子①城ノ内（先鋒① 廣史、次鋒② 佐藤真央、中堅③ 大野真味、副将④ 佐藤真央、大将⑤ 川島 陽）



10月5日

<p>【成年男子】決勝 山口は初優勝。</p> <p>山 口 2-0 岡 山</p> <p>【成年女子】決勝 山口は初優勝。</p> <p>山 口 2-0 岡 山</p> <p>【少年男子】決勝 山口は初優勝。</p> <p>山 口 4-1 熊 本</p> <p>【少年女子】決勝 山口は初優勝。</p> <p>長 崎 3-2 山 口</p> <p>長崎は初優勝。</p> <p>▽皇后杯得点①山口69②長崎50 ③神奈川40</p>	<p>大 阪 3-2 徳 島</p> <p>○後 藤 ④ × 福 川 ③</p> <p>○大 石 ⑤ × 六 条 ⑥</p> <p>○寺 本 ⑥ × 山 名 ⑥</p> <p>新 屋 ⑧ 一 平 野 ⑧</p> <p>花 沢 ⑧ 一 × 近 藤 ⑧</p>
---	--

10月5日

◆剣道 第8回徳島県中学校1年生大会
(2日・鳴門ソイヨイ武道館)
【男子】団体1回戦 鳴門1-1 (本数勝ち) 1鳴門大付A、石井B2-1鳴門大付B、2回戦 徳島A2-1鳴門大付A、池田A1-0藍住、鳴門1-3鳴門大付A、阿波A2-1鳴門大付A、徳島A2-1上八万、八万1(代表勝ち) 1鳴門一、牟岐3-1鳴門大付A、北井上3-1鳴門大付A、那賀川2-1城東、城西A2-1鳴門大付A、北井上1-1石井B、鳴門1-2鳴門大付A、徳島B2-1鳴門大付A、加茂名1-0大塚、阿南1-2津田、徳島文

理3-0池田B、3回戦 徳島A2-0池田A、阿波A3-0鳴門1-B、北島A2-1八万、北井上3-0牟岐、那賀川3-0城西A、鳴門1-A3-0北島B、徳島B2-0加茂名、徳島文理2-0阿南、鳴門1-A、阿波A、北井上2-0北島A、那賀川3-0鳴門1-A、徳島文理2-1徳島B、準決勝 徳島A2-1北井上、那賀川1-0徳島文理、決勝 徳島A3-0那賀川

○美 馬 × × 坂 田
○鳴 川 × × 川 田
○塚 田 × × 湯 浅
▽個人準々決勝 美馬(徳島)
コ 村 本 (石 井)、湯 浅 (那 賀 川) × × 鎌 田 (北 井 上)、川 田 (徳 島 文 理)、ド × 迎 (鳴 門)、小 園 (城 東) × × 福 良 (坂 野) ▽準決勝 美馬 × × 湯 浅、川 田 × × 小 園

▽決勝
美 馬 × × 川 田
【女子】団体1回戦 石井B1 (本数勝ち) 1加茂名、阿南1-A2-0阿波、2回戦 鳴門1-3土成A、阿南1-B1-0市場、坂野2-1石井B、那賀川2-1坂野、城東3-0大塚、阿南1-A1-0石井A、土成B2-0津田、徳島文理1-0牟岐、準決勝 鳴門1-3阿南1-B、那賀川1-0坂野、阿南1-A2-1城東、徳島文理1-0土成B、準決勝 鳴門1-2那賀川、阿南1-A1 (本数勝ち) 1徳島文理

▽決勝
鳴門1-2阿南1-A
○田 刈 × × 中 西
○堤 × × 佐 藤
太 田 石 田
▽個人準々決勝 丸岡(富岡東) × × 福嶋(坂野)、水谷(徳島文理) × × 田刈(鳴門一)、行譜(北井上) × × 太田(鳴門一)、長谷川(那賀川) × × 猪野(市立川島) ▽準決勝 丸岡 × × 水谷、長谷川 × × 行譜

▽決勝
長谷川 1-0 丸 岡

高鍋V2 史上2人目

近藤(徳島県警)は1回戦敗退

剣道

全日本選手権

剣道日本一を決める第59回全日本選手権は3日、東京の日本武道館で64人によるトーナメント

◇上位と徳島関係

▽1回戦

井上 近藤
富士原 徳島県警

▽準々決勝

東 水6×反 大石6
(埼玉県警) (大阪府)
岩 下6×コ 中野6
(千葉県警) (京都府)
内 村6×メ 正代6
(警視庁) (神奈川県)

高 鍋6×コ 米屋6
(神奈川県) (埼玉県)

▽準決勝

高 鍋メ 岩下
東 水メ 内村
▽決勝
高 鍋ツ 東水

戦で争われ、決勝は35歳の高鍋進6段(神奈川県警)が34歳の東水幸浩6段(埼玉県警)から突きを奪って勝ち、2年連続2度目の優勝を果たした。2連覇は、1990、91年と98、99年に2

度達成した宮崎正裕以来史上2人目の快挙となった。

高鍋は準々決勝で米屋勇一6段(埼玉県警)を破り、準決勝は岩下智久6段(千葉県警)を下し勝を狙った内村良一6段(警視庁)は、東水に準決勝で敗れた。徳島県警の近藤正章は1回戦で敗れた。



11月4日

県勢3チーム3位入賞



寺西杯近県選抜少年剣道大会で3位入賞した【上】徳島文理中の男子【下】女子・鳴門一中A



剣道

第14回寺西杯近県選抜少年大会(10月10日・鳴門アミノバリエューホール)は12府県から小・中学生51チーム1150人が参加して気迫のこもった攻防を繰り広げ

11月6日

た。徳島県は徳島文理中の男女と鳴門一中・女子のいずれもAチームが3位入賞と健闘。優勝は小学校高学年で2連覇した京都太秦Aなどいずれも県外勢だった。

【小学校】低学年の砂山剣友会(和歌山)②河(香川)③流心道場A(愛知)④京都太秦A敢闘賞、鳴門市武館A、小松松少年剣友会A、和歌山武道館錬成、洗心道場B

▼高学年①郡太秦A②砂山剣友会A③和歌山武道館錬成④六甲会(大阪)▽敢闘賞、徳島聖堂A、阿南教室、甲賀教室(滋賀)

自衛剣修会(兵庫)【中学】男子①岡山②光龍館(香川)③徳島文理中A(先鋒)佐原大、次鋒川谷本真宏、中堅川喜多本、副将川上雄大、大将川谷本真④六甲会▽敢闘賞、鳴門一中A、坂野中、那賀川中、砂山剣友会

▼女子①光龍館②新宮剣志館(兵庫)③鳴門一中A(先鋒)岩本里穂、中堅藤田有伽、大将中井優希④徳島理中A(先鋒)佐々木南波、中堅玉田真子、大将川原真実▽敢闘賞、白帯道場(愛知)住吉川剣友会(大阪)京都太秦A、大川中(香川)

11月6日

男子5度目 那賀川アベック優勝 女子12度目

剣道

県中学新人大会

剣道の第36回徳島県中学校新人大会は5日、鳴門ソイヨイ武道館で男子37校、女子26校が参加し団体戦を行い、那賀川がアベック優勝を果たした。男子は13年ぶり5度目、女子は3年ぶり12度目。

【男子】1回戦 鳴教大付2-1富岡東、徳島文理3-2池田、北島4-0石井、貞光2-本教勝ち、2城之内、北井上4-0藍住、2回戦 那賀川4-0由岐、八万5-0大麻、鳴教大付4-0城東、鳴門3-1松茂、阿南1-3、2板野、徳島文理3-0江原、北島5-0入田、鳴門4-1加茂名、坂野5-0脇町、城西4-1三好、国府2(代表勝ち)2貞光、鳴島4-0小松島、阿波5-0鷲敷、北井上2(本教勝ち)2木頭、津田2(本教勝ち)2阿南、徳島5-0牟岐、3回戦 那賀川4-1八万、鳴教大付4-0、鳴門2、阿南1-0徳島文理、鳴門1(代表勝ち)1北島、坂野4-0城西、鳴島5-0国府、阿波2(本教勝ち)2北井上、徳島5-0津田、準々決勝 那賀川5-0鳴教大付、鳴門1-2阿南、鳴島2-1坂野、徳島4-0阿波、準決勝 那賀川3-0鳴門1、徳島3-0鳴島1

△決勝

那賀川 2-1 徳島
○坪井 ×× 熊橋
濱田 ー 美馬
松本 ××× 織野
湯浅 ×× 塚野
○庄野 ×× 南谷
【女子】1回戦 池田2-0江原、加茂名2-1山城、阿南2-1県立川島、坂野2-1阿南、石井4-0大麻、牟岐4-0市場、鳴島3-0北井上、瀬戸1(代表勝ち)1八万、土成3-0津田、松茂2-1城西、2回戦 鳴門4-0池田、城東4-0加茂名、坂野1-0阿南、石井1-0三好、徳島文理3-1牟岐、瀬戸1(本教勝ち)1鳴島、阿波2-0土成、那賀川4-0松茂、準々決勝 鳴門4-1城東、石井3-0坂野、徳島文理4-0瀬戸、那賀川4-1阿波、準決勝 鳴門3-2石井、那賀川2-1徳島文理
△決勝
那賀川 3-1 鳴門 ー
清水 ー 太田
○高野 コー 東條
○長谷川 × 田淵
○竹原 × 堤
野村 ー 深見 ○

11月7日

徳島刑務所Bが 36チームの頂点

県社会人剣道
剣道の第40回徳島県社会人大会は6日、鳴門ソイヨイ武道館に36チームが参加して行われた。決勝は徳島刑務所Bが3-1で月曜会を下し、優勝した。

△決勝
徳島刑務所B 3-1 月曜会
近藤 ×コー 岸野
高橋 コー× 吉岡
○金野 ドー× 福井
○鳴川 × 井村
片山 ー×× 吉田 ○

△決勝
徳島刑務所B 3-1 月曜会
近藤 ×コー 岸野
高橋 コー× 吉岡
○金野 ドー× 福井
○鳴川 × 井村
片山 ー×× 吉田 ○

11月16日

男子 宇井
女子 山本 V
県高校剣道選手権
剣道の第45回徳島県高校選手権は13日、鳴門ソイヨイ武道館に男子112人、女子47人が参加して個人戦が行われ、男子は宇井友隆(鳴門)、女子は山本悠(富岡東)が優勝した。
【男子】準々決勝 宇井(鳴門)久保(徳島文理)、谷澤(富岡西)ドー× 飯田(阿南工)、平野(鳴門)× 田村(阿南工)、湯浅(阿南工)ドー× 吉田(富岡西)△準決勝 宇井 × 谷澤、平野 × 湯浅、3位決定戦 谷澤 × 湯浅
△決勝
宇井 井×コー 平野
【女子】準々決勝 山口(川島)コー 藤井(富岡西)、湯浅(富岡東)× 美馬(城之内)、松本(富岡東)コー 猪岡(川島)、山本(富岡東)× 下住友(富岡東)△準決勝 湯浅(反則勝ち)山口、山本、下松本、3位決定戦 松本、山口
△決勝
山本 × 湯浅

11月22日

◆剣道 第30回徳島県学生選手権

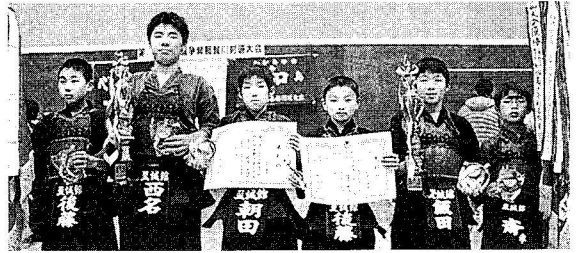
(9日・徳島文理大体育館)
【男子】準決勝 藤本(徳島大蔵本)コー 真嶋(鳴教)、正村(徳島文理大)×コー 岡崎(鳴教大)
△決勝
藤本 本コー 正村
【女子】準決勝 三宅(徳島文理大)× 村上(徳島文理大)、大石(鳴教大)× 荻瀬(徳島大蔵本)
△決勝
三宅 宅コー 大石

小学生 徳島至誠館 中学生 那賀川



第39回B&G杯徳部旗那賀川大会(11月23日・那賀川スポーツセンター)は小学生から高校生まで103チーム(小学校43、中学42、高校18)571人が参加して行われた。団体の小学校は低学年、高学年ともに徳島至誠館、中学は男女ともに那賀川がチャンピオン

高校 徳島文理と富岡東



徳部旗那賀川剣道大会の小学校団体戦で栄冠を手にした徳島至誠館

になった。高校は男子が徳島文理、女子は富岡東が制した。
 【団体】小学校低学年①徳至誠館②小松島少剣③川島④鳴門中光武館⑤高学年①徳島至誠館②徳島教養③鴨島教養④鳴門中武館
 【個人】小学校男子①那賀川の徳至誠館②徳島文理③女子①那賀川の鳴門②坂野・小松島・富岡東③徳島文理
 ④高校男子①徳島文理②富岡東③阿南工④鳴門⑤女子①富岡東②城③内④城北
 【個人】小学1年①松山若樹(小松島少剣)②桂大(塚同)③若葉夢(和由島)④添太陽



徳島市中学校新人剣道大会で3連覇した【上】男子・徳島【下】女子・徳島文理

2011年度徳島市中学校新人大会(11月19日・城東中体育館)は男子12、女子7チームが参加して団体と個人戦が行われた。団体は男子・徳島と女子・徳島文理が1名40府、城内(不戦勝)

徳島男子 徳島文理 女子 V3
 個人は南谷・玉田が連覇

仁(徳島教養)▽2年①向野菜々子那賀川教養わかあゆ会②和泉渉(同)③田方(那賀川少剣)④富永涼介(鴨島教養)⑤3年①柏木太斗(小松島少剣)②福田優那(徳島教養)③吉崎桃花(新野教養)④上井千夏(海部川教養)▽4年①久保恭平(徳島至誠館)②高橋和也(養武館)③青木風香(那賀川教養わかあゆ会)④林正隆(養武館)▽5年①北井上②猪野明日香(市年)③城明裕奈(徳島至誠館)④立川昂⑤内藤杏(城内)

富永康生(鴨島教養)③前田龍志(振武館)④松葉そら(徳島至誠館)▽6年①山崎輪(阿南教養)②中上雄大(鎌武館教養)③西岡彩芽(阿南教養)④岡部章太郎(本環剣心館)
 ⑤中学男子①福田燈斗(羽)②福田睦(相)③鳴川大(徳島)④宮本豊(鳴門)▽女子①上田真奈(立川島)②行譜あゆみ③林正隆(養武館)▽5年①北井上②猪野明日香(市年)③城明裕奈(徳島至誠館)④立川昂⑤内藤杏(城内)

入田②回戦(徳島)③城西、北井上④鳴教大⑤八万⑥上加茂名、徳島文理④城⑤準決勝(徳島)⑥北井上、徳島文理①(本教勝ち)②八万③決勝(徳島)④徳島文理
 ⑤個人1年①川田将也(徳島文理)②美馬州一(徳島)③谷本真宏(徳島文理)④松山和樹(同)▽2年①南谷飛鳥(徳島)②鹿橋和真(同)③新田隆(城西)④藤本周平(鳴教大付)
 【女子】団体①回戦 城東④加茂名、八万⑤城西、北井上③津田準決勝(徳島文理)②城東、八万②①北井上③決勝(徳島文理)④八万
 ⑤個人1年①水谷純子(徳島文理)②行譜望(北井上)③村上朋可(鳴教大付)④井上東南(徳島文理)▽2年①玉田真子(同)②平島かれん(同)③横川千紘(八万)④内藤杏(城内)

12月15日



徳島至誠館 団体戦V6

第42回徳島県少年錬成大会(11月27日・鳴門イジョイ武道館)は県内の小学生剣士が参加し、団体と個人戦で鍛錬の成果を披露した。31チームで争った団体戦決勝は、徳島至誠館が代表戦の末に阿南教室を下し、6連覇を達成。個人戦は那賀川B&G教室勢が決勝で争い、坪井香歩が橋本朱梨を延長戦のメンドで退け、初の頂点に立った。

【団体準々決勝 阿南教室1
〇慶住、北井上教孝2(代表勝利)
錬成会、徳島教室2(代表勝利)
2小松島少剣、徳島至誠館2-1
1在古▽準決勝 阿南教室1
(代表勝利) 1北井上教孝、徳島
至誠館1〇徳島教室▽決勝(徳
島至誠館〇)後藤雄喜、ドード
西岡彩芽、後藤尚志、引き分け
山本寛大、西名晴輝、引き分け
平田智也、飯田翔太、引き分け
服部比加領、朝田輝輝、引き分け
山崎舞)〇阿南教室▽代表戦 朝

12月21日



県少年剣道錬成大会で6年連続の優勝を果たした徳島至誠館

田メー 山崎
【個人準々決勝 橋本朱梨
(那賀川B&G教室) コー 池田
善(北井上教孝)、山本(藍
住)メコーメ 前田龍志(振武
館)、大城明裕奈(徳島至誠館)
コー 走川秀司(阿南教室)、坪
井香歩(那賀川B&G教室) コー
木内輝人(阿南教室)▽準決勝
橋本メー 山下、坪井メー
大城▽決勝 坪井メー 橋本

12月21日

元張れ スポーツ少年団

- ▼次回掲載
- ▼麻植FC
- ▼森山FC

牟岐剣道クラブ

- ◆1982年発足、牟岐町
- ◆谷口順二監督、選手11人(男5人、女6人、小2、5、6年)

剣道

- ◆出身校 牟岐、河内
- ◆練習 週3回
- ◆古戸ちなみキャプテンのチーム自慢 みんな仲が良く、試合や練習で声を掛け合って励まし合えるチーム。
- ◆目標 団結力を高め、一つでも多く勝つこと。





男子副将の部で優勝した北村(右)＝鳴門ソイ
ジョイ武道館

男子6人 女子4人 全国切符

12月26日

剣道

都道府県対抗選手権
剣道の全日本都道府県
対抗優勝大会の徳島県予
選が25日、鳴門ソイ
武道館であり、男子6
部、女子4部の県代
表が決まった。

男子代表は次鋒(じほ
ろ)が白木恒 郎(国士
大)、5将は山本義征
(鳴門支部)、中堅に林
義真(美馬支部)、3将
が六條勝仁(警察支部)、
副将が北村志(阿波支
部)、大将は福多雅英
(徳島支部)。

女子は次鋒が栗野文那
(大庄大)、中堅は平野
千尋(鳴門支部)が制
し、副将は近藤夏子(名
西支部)、大将は竹内佳
代子(鳴門支部)に決ま
った。

【男子次鋒(全生)の部】
先鋒(高校生)は男子
六 條 一 郎 近 藤
△副将(35歳以上)の部は勝
北村(阿波支部)ト 即田(刑
務支部)、金野(刑務所支部)
メ 佐々木(徳島支部)

【女子次鋒(全生)の部】
先鋒(高校生)は女子
栗 野 一 郎 細 川
△中堅(18歳以上)の部は勝
山本(鳴門支部)メ 河田(徳
島支部)、平野(鳴門支部)コ
即田(阿波支部)

【男子次鋒(全生)の部】
先鋒(高校生)は男子
六 條 一 郎 近 藤
△副将(35歳以上)の部は勝
北村(阿波支部)ト 即田(刑
務支部)、金野(刑務所支部)
メ 佐々木(徳島支部)

【女子次鋒(全生)の部】
先鋒(高校生)は女子
栗 野 一 郎 細 川
△中堅(18歳以上)の部は勝
山本(鳴門支部)メ 河田(徳
島支部)、平野(鳴門支部)コ
即田(阿波支部)

男子副将・福多(上段)の構えか
らコテを決め、2年連続の代表

女子副将・近藤(飛び込み)で決勝を制し初の代表入り

手は高校時代から有名な選手なので、思い切った攻めた。苦しい試合を勝ててほっとした

「この人の言うことを聞けば強くなれる」と、監督に全幅の信頼を寄せている。

だが、警察の大会や世界選手権団体で優勝実績を残しながら、小さいころからあこがれていた全日本選手権の頂点は遠かった。32歳川原の先輩で監督でもある宮崎正裕さん以來12年ぶり。「ブレッシャーはあったが、目の前の試合に集中することを心掛けた」と淡々と話す。

先に始めた兄の背中を追い、小学3年生で剣道を習い始めた。中学生で出場した全国大会ではあっけなく敗退。「1つ1つ性格。負けなまま終われない」と、高校は親元を離れて大阪の強豪、PL学園に進んだ。

筑波大時代、練習試合の会場で、神奈川県警で活躍していた宮崎さんに出会う。宮崎さんが「一面の大会からの帰り道、車中では既のスピードにぶつたまけた」と素直にほれ込み、同県警入りを勧め

た。「この人の言うことを聞けば強くなれる」と、監督に全幅の信頼を寄せている。

だが、警察の大会や世界選手権団体で優勝実績を残しながら、小さいころからあこがれていた全日本選手権の頂点は遠かった。32歳川原の先輩で監督でもある宮崎正裕さん以來12年ぶり。「ブレッシャーはあったが、目の前の試合に集中することを心掛けた」と淡々と話す。

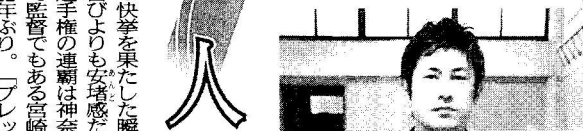
先に始めた兄の背中を追い、小学3年生で剣道を習い始めた。中学生で出場した全国大会ではあっけなく敗退。「1つ1つ性格。負けなまま終われない」と、高校は親元を離れて大阪の強豪、PL学園に進んだ。

筑波大時代、練習試合の会場で、神奈川県警で活躍していた宮崎さんに出会う。宮崎さんが「一面の大会からの帰り道、車中では既のスピードにぶつたまけた」と素直にほれ込み、同県警入りを勧め

た。「この人の言うことを聞けば強くなれる」と、監督に全幅の信頼を寄せている。

だが、警察の大会や世界選手権団体で優勝実績を残しながら、小さいころからあこがれていた全日本選手権の頂点は遠かった。32歳川原の先輩で監督でもある宮崎正裕さん以來12年ぶり。「ブレッシャーはあったが、目の前の試合に集中することを心掛けた」と淡々と話す。

全日本剣道選手権大会で史上2人目の連覇
たかなへ すすむ 高鍋 進さん



史无前例の快挙を果たした瞬間の思いは、喜びよりも安堵感だった。全日本選手権の連覇は神奈川県警の先輩で監督でもある宮崎正裕さん以來12年ぶり。「ブレッシャーはあったが、目の前の試合に集中することを心掛けた」と淡々と話す。

先に始めた兄の背中を追い、小学3年生で剣道を習い始めた。中学生で出場した全国大会ではあっけなく敗退。「1つ1つ性格。負けなまま終われない」と、高校は親元を離れて大阪の強豪、PL学園に進んだ。

筑波大時代、練習試合の会場で、神奈川県警で活躍していた宮崎さんに出会う。宮崎さんが「一面の大会からの帰り道、車中では既のスピードにぶつたまけた」と素直にほれ込み、同県警入りを勧め

た。「この人の言うことを聞けば強くなれる」と、監督に全幅の信頼を寄せている。

だが、警察の大会や世界選手権団体で優勝実績を残しながら、小さいころからあこがれていた全日本選手権の頂点は遠かった。32歳川原の先輩で監督でもある宮崎正裕さん以來12年ぶり。「ブレッシャーはあったが、目の前の試合に集中することを心掛けた」と淡々と話す。

12月22日

阿南工男子 4年ぶりV

女子・富岡東25度目

剣道

全国高校選抜選手選 阿南工が4年ぶり10度目、女子は富岡東が2年ぶり25度目の優勝を果たし、男女優勝校は全国選抜大会(3月27、28日)に出場、上位4校は四国大会(2月12日・愛媛県新居浜西高)に進む。



男子団体決勝・阿南工対城北 阿南工の先鋒・久保がメンを決める=鳴門ソイジョイ武道館(河野聡一撮影)

徳島2・0 藤田、徳島文理4・1 阿南工、城北3・0 池田、鳴門4・0 小松島、川島4・1 阿波西、高岡5・0 阿波南々、阿南工5・0 鳴門工、徳島文理3・0 徳島北、城北2・0 鳴門川

阿南工3・0 城北 北

久保メー 佐賀

田村 西田

藤田 メー 黒木

小川 山田

湯浅メー 竹内

【女子】団体同戦 徳島文理 準決勝、決勝ともに快勝。

2・1 池田、城北内3・0 鳴門、城北2(代表勝ち)2川島準決勝 勝 高岡東5・0 徳島文理、城北1(代表勝ち)1城北内3(決) 定戦、城北内3・1 徳島文理

▽決勝

高岡東 4・0 城北

山本メー 松浦

湯浅メー 美馬

藤本メー 中島

田中メー 三島

片岡

1人1人が集中

○：女子で王座を2年ぶりに奪還した富岡東。前回大会では連覇が18で止まっただけに喜びもひとしおで、主将で中堅の湯浅||写真卷||は「先鋒からいい流れで大将までつなぐ自分たちの剣道ができた」と、うすすら涙を浮かべた。

トを尽くせた」と笑顔。過去に3位が3度ある全国選抜大会へ向け湯浅は「みんなで一つになって戦い、予選リーグを突破したい」と意気込んだ。



勝。「1人1人が持ち時間の5分間、集中を切らさないことを心がけた」と湯浅が語った。同じく前回の悔しさを知る2年生の先鋒・山本||同巻||、大将・田中||同巻||も「ベース

勝ち名乗りを受け、待っていた谷コチから祝福の言葉を掛けられると阿南工男子メンバーの引き締まった表情がまよやく緩んだ。主将の藤田(あした)は「新チームで初の栄冠。気持ちがいい」と振り返った。

決勝は3連覇を狙う城北との対戦。先鋒(せんぼう)の久保がメン2本でチームを勢いづけると、中堅の藤田も足を使って攻め、メン1本。副将の小川が引き分けてつないで優勝を決め、成長株の大将・湯浅が1-1からメンで締めくくった。1回戦からの4試合で失った本数は3。決勝では2年生の3人がきっちり勝利を収め安定感を見せつけ

基本の徹底奏功 阿南工

た。

モットーは「剣道即生活」。普段の生活態度が勝負どころでの攻防に直結するという教えに素直に取り組み選手が見せた試合運びに、佐々木監督は「きょうも信頼してみたい」とうなずく。さらに、体の中心を崩さず足腰から攻め込んで打ち切るという基本の徹底が奏功した。

「強豪と対戦しても、相手にのまれない戦いをしたい」と全国への抱負を語る藤田主将。昨夏のインターハイ出場は先輩たちの力。全国選抜切符も4年ぶり。自力で勝ち抜いた県大会同様、原動力は「挑戦者」の気持ちだ。

(柳澤良和)

道場案内：居合道

日本古来の伝統武道である居合道。時代を超えて受け継がれてきた居合道をより多くの人に体験していただきたいと願っております。是非お問い合わせ下さい。

道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時
徹心道場	代表 範士八段・平尾 勝美 連絡先 教士七段・吉岡 修一 0883-24-5341	鴨島第一中学校武道場	月曜日 19:30～21:30 (少年) 水曜日 19:30～21:30 金曜日 19:30～21:30
大和錬心館	範士八段・原田 勝 自宅 0884-68-2239 携帯 090-7141-8996	前、那賀高校 木頭分校体育館	月曜日～金曜日 17:30～19:30 (祭日を除く)
阿波洗心館	代表 教士七段・高橋 憲司 連絡先 三段・村井 恒治 090-3789-7846	松茂町第二体育館	火曜日 20:00～22:00 (月曜祝日の週は休み)
		セント歯科体育館	土曜日 19:00～21:00
居合道錬成会	教士七段・前田 健志 自宅 088-622-8559	徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
阿波居合道伝習会	教士七段・坂本 憲一 自宅 0883-36-3008 携帯 090-1576-4773	阿波市立八幡小学校体育館	火曜日 19:00～22:00
		徳島市農業環境改善センター	水曜日 19:00～21:00
		徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
大湊道場 (全日本剣道連盟)	錬士七段・福井 勝 携帯 090-5143-3596	阿南市武道館	日曜日 10:00～12:00 (行事日を除く)
鳴門洗心館	錬士六段・青山 善雄 自宅 088-687-2802	鳴門ソイジョイ武道館 サブ道場	水曜日 18:00～20:00
徳島春風館道場	錬士六段・青木 茂生 自宅 0883-53-7118 携帯 090-8693-4935	徳島春風館道場 (穴吹町三島)	水曜日 19:30～21:00
居合北島道場	五段・伊賀 雅人 自宅 088-698-4528	居合北島道場 (北島町北村)	水曜日 19:00～20:30 土曜日 19:00～20:30
剣道・板野道場	五段・岡田 良人 自宅・FAX 088-672-2436 携帯 090-4787-1998	南公民館	水曜日 19:30～21:30
		板野町体育センター	日曜日 11:00～12:00

編集後記

今年も編集担当者が体調を崩し、大幅な発刊遅れとなり、誠に申し訳ありません。「言い訳から始まる人生はわびしい。」と、誰の言葉だったか、失念しましたが、最近の編集後記は発刊遅れの言い訳から始まっているようです。編集担当者の力量がなく、交代時期が来ているようにも思えます。

また、私の好きな言葉に「直心是道場」じきしんこれどうじょうというものがあります。純真なところをもってすれば、いたるところが道場であるとの意味です。道場というのは場所が問題ではなく、その人の心のあり方にあると言えます。その意味からすると、編集作業の場を道場ととらえ、直心をもって作業すれば、言い訳からはじまる編集後記になるはずがありません。要は、私自身に直心を忘れていることを大いに反省すべきではないかと痛感している次第です。

次代の編集担当者の登場を待ちつつも、私自身、直心をもって、様々な仕事に対処していきたいと心に強く思っています。今後とも、『徳島の剣道』へのご指導・ご鞭撻をよろしくお願いたします。

『徳島の剣道』第二十八号

編集委員会

木原資裕	三木毅	藤本雅史	手塚十三子	中村稔裕	美馬和義	影山美雄	伊賀雅人	柴田宗忠	松永貴史	上月宏司	笠井陽市	別宮憲治
------	-----	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

『徳島の剣道』第28号

平成24年8月20日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 坂下彦之

☎770-0861 徳島市住吉三丁目9-6
栗本マンション106号室

TEL 088-652-2337

FAX 088-652-2360

表紙題字
さし絵

堀江幸夫
村嶋恒徳